2020

研究紀要

第35号

SENDAI IKUEI GAKUEN

秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校

巻　頭　言

秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校
校長　加藤雄彦

2019年5月1日に新天皇が即位され、「令和」の新元号となりました。

令和という新しい時代を迎え、本学園の生徒諸君はこれまでと同様に、あるいはこれまで以上の活躍をみせてくれました。全国高等学校駅伝競走大会において男女ともに優勝、全国高校甲子園大会と全国高校サッカー選手権大会ではベスト8の成績を収めました。さらに、ラグビーでも全国大会出場を果たしました。このように活躍できたのは生徒たちの日々の努力の賜物ではありますが、言うまでもなく、保護者や同窓会など多くの方々のご支援を得て達成できたものです。この場をお借りして、改めまして御礼申し上げます。今後も、「宝所近在」をモットーに普段からお付き合いをしているネットワークを大切にして学園の教育を充実させていく所存です。

そのような中、中国の武漢市に端を発したとされる新型コロナウィルス感染症は、パンデミックと呼ばれる世界的な流行となり様々な影響をもたらしています。日本においても感染拡大を踏まえ、政府の要請に基づきほとんどの小中高校で休校措置がとられ、また、大勢が集まる多くのイベントも中止せざるを得なくなりました。高体連の各種全国選抜大会が中止され、甲子園の春の大会である第92回選抜高校野球大会が中止と決まりました。このことは大きな試練ですが、『ここまで準備してきたことを踏まえて、夏に向けてチームを立て直したい』と選手達が前を向いてくれたことを誇りに思います。

さて、本校職員の研究・研修内容を形にしてまとめた研究紀要は、1987年以来、今回で34年目を迎えます。これまでの紀要に掲載した研究・研修については、本書の最後の頁で紹介しているところですが、様々な分野にわたり様々な研究・研修が行われてきたことがわかります。

新しい時代の教育について言及しますと、平成30年に告示された新学習指導要領は高校では令和4年度より学年移行で順次導入されていきます。新学習指導要領では、観点別評価を導入し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と創意工夫を生かした特色ある教育活動が求められています。そのため本学園では、今年度特に新しい時代に求められているカリキュラム開発やICT教育の推進を重点目標に掲げ研究・研修をすすめているところです。

また、IB国際バカロレア・ディプロマプログラムは、学習をグローバルな文脈の中に応用し、学習の幅を広げることにこれまで大いに役立ってきましたが、学校全体のカリキュラム・マネジメントや評価方法の向上についても職員が研究する機会となっており、本校教育活動全体の改善に大いに貢献してきたところです。

さらに、この紀要では生徒の研修旅行の様子も伝えています。各コースがそれぞれの特色を生かした様々な研修となっています。生徒が異文化を経験したり、自然に触れ見聞を広めるのはもちろんのこと、研修のしおり作成を含め事前研修を充実させ、研修旅行の目的・目標設定するなど様々な形で生徒が自主的に取り組むことでより意義のあるものになっています。今年度も充実した研修旅行を経験し、生徒は一段と成長することができた内容になっています。

本学園の教育活動が新しい時代をリードしていけるよう、今後一層研究・研修を充実させ外に向かって発信していく所存です。

研究紀要35号

巻　頭　言 …… 加藤　雄彦

トピック

eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望について
…… 情報科学コース　村上　淳　…… 1
日野　彰

Ⅰ　研究報告

（1）SDGsを意識した授業づくり …… 秀光コース　菊地恵美子　…… 6
（2）新学習指導要領に向けた英語4技能の指導について
…… 特別進学コース　新谷　仁　…… 14
伊藤　需
安部　宏紀
（3）英進進学コースにおける英語課外学習 …… 英進進学コース　木村　汐里　…… 21
（4）IB授業実践例 …… 外国語コース　小湊　陽　…… 23
（5）「せんだいまなびや」の導入 …… 技能開発コース　宮浦　靖次　…… 33
（6）教科BU研修会について …… 教科教育センター長　板垣　徳昭　…… 52

Ⅱ　令和元年度　研修報告

（1）秀光中等教育学校・秀光コース（高校）
カナダ研修報告　“Canada Study Abroad Trip” …… Kerry Winter　…… 83
京都研修報告 …… 加藤　隆寛　…… 92
横山　佳絵
（2）特別進学コース
関西校外研修報告 …… 庵原　直樹　…… 97
（3）情報科学コース
沖縄研修報告 …… 村　貴之　…… 102
（4）フレックス・技能開発コース
九州研修報告 …… 西山　大樹　…… 107
九州（長崎）研修報告 …… 寺澤　信枝　…… 110
（5）英進進学コース
台湾研修報告 …… 五十嵐春祐　…… 116
（6）外国語コース
ハワイ研修報告 …… 川村くるみ　…… 120
（7）教職員研修会報告（講演会）
（「学習障害・発達障害について」） …… フレックスコース　村岡　信章　…… 126

Ⅲ　その他

ILC青森における本年度の活動状況報告 …… ILC青森教頭　丸山　裕治　…… 132

総目録（第1～34号）

編　集　後　記

トピック

eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望について

情報科学コース　村上　淳
日野　彰

1. はじめに

情報科学コースにおいて常に時代の最先端を目指すことは大きなテーマであり、ICT機器を用い生徒にいかに楽しく充実した授業を展開できるかコース一丸となって取り組んでおります。近年盛り上がりを見せているeスポーツは、「オリンピック種目になる」とも言われ、世界中で開催されている大会では高額賞金もあり、プロ選手も活躍してきております。日本でも全国各地で様々なゲームが競技タイトルとして認知され、多くの大会が開催されるようになってきました。

情報科学コースでは、設立から10年間「コミュニケーションツールとして自在に活用できるコンピュータ技術の習得」を目的としており、「1人1台のタブレットPC『Surface』による普通教科授業」、そして「デスクトップパソコン実習室でのMOS資格・情報処理検定資格・アプリ作成・AIプログラミング授業」と力を入れてきました。昨年度より取り組み始めたeスポーツ部、そして本コースでのeスポーツ講座導入の背景や授業の様子、今後の課題や展望について、以下の通り述べていきたいと思います。

（写真 1）第 1 回全国高校 e スポーツ選手権大会（本大会）

2. eスポーツ部発足・導入の経緯

eスポーツとは、エレクトニック スポーツの略称で、コンピュータゲームで行われる競技のことです。eスポーツは今後発展していく文化だと考えられており、昨年12月に初開催された全国高校eスポーツ選手権大会出場を機に9月にeスポーツ（当初パソコン部）は発足しました。情報科学コース在籍の生徒が多数ですが、他コースの生徒も入部してきており、留学生も一緒に取り組んでいるので、国際文化としてチームワークを大事にして戦略を練って、目標をもって取り組んでいます。大会種目としてLeague of LegendとRocket Leagueの2種目が発表されましたが、本校では基本プレイが無料であること、PCの要求スペックを考慮してLeague of Legend部門で出場しております。140種を超えるチャンピオンと呼ばれるキャラクターから1つを選んで5人1チームの形式で行われる対戦はMOBAと呼ばれるゲームジャンルの中でも人気知名度共に高く、世界中で様々な大会が開かれ、多くのeスポーツファンを獲得しているゲームでもあります。

新しい取り組みを行うことは、大会に参加しない生徒にも良い刺激になっており、生徒の興味・関心を喚起でき、意欲的に取り組んでおります。PCは株式会社サードウェーブが行っているeスポーツ発足支援プログラムを利用し、2018年度に5台、2019年度に5台の計10台をレンタルしています。

第1回全国高校eスポーツ選手権が2018年12月25日（水）、26日（木）に開催され、全国より93チーム出

場のリーグ・オブ・レジェンド部門オンライン予選に、情報科学コースパソコン部より４チーム出場しました。１チーム５人で参加できる種目で、ベスト４以上が３月23日（土）、24日（日）千葉幕張メッセで開催される本大会に出場できます。４チーム参加の内、１チームがベスト８まで勝ち上がり、その模様がTVやマスコミでも報道されました。

（写真２）大会ポスター

（写真３）大会トーナメント結果

試合結果　・パソコン部１（Aブロック）　ベスト８
　１回戦シード、３回戦勝利　対 成立学園高（東京）
　３回戦勝利　対 芝浦工業大柏高（千葉）
　４回戦勝利　対 早大本庄高（埼玉）
　準々決勝敗退　対 横浜市立南高（神奈川）

（写真４）ｅスポーツ部集合写真

（写真５）ゲーミング PC で練習

2019年度には新たにSTAGE:0 eSPORTS High-School Championshipが初開催され、本校eスポーツ部より１チーム６名がエントリーし、６月29日（土）仙台GIGSにて行われた東北ブロック代表決定戦にて準優勝の成果を収めております。

試合結果　チーム名：ずんだ命　東北ブロック代表決定戦　準優勝
　オンライン予選：シード
　オフライン予選：
　　１回戦勝利　対 国際アート＆デザイン高（福島）
　　決勝戦敗退　対 仙台城南高（宮城）

この大会では大会種目にLeague of Legendの他、Fortniteが採用され、１年生含め、２チームがエントリーしましたが予選敗退という結果になっています。このゲームはいわゆるTPS（サードパーソンシューティング）と呼ばれるジャンルのゲームで、最大100人が同時に１つのマップで最後の１人または１チームになるまで戦い続けるというバトルロワイアル要素を兼ね備え、全世界で２億人以上のプレイヤー数を誇るゲームです。今年の７月に開催された世界大会ではｅスポーツ史上最高額となる3000万ドルの賞金が注目を集めました。多少の自信

を持ってエントリーした生徒たちでしたが、曰く「全然勝てなかった。」「上手すぎて勝てる気がしない。」「なんで当たるんだ。」等、全国の壁の厚さを実感した次第です。

11月23日（土）、24日（日）には第2回全国高校eスポーツ選手権オンライン予選が実施予定となっており、2チームがエントリーしています。本稿執筆の時点ではまだ実施されていませんが、昨年度以上の成績を目標に日々活動に励む様子は真剣そのもので、チャンピオンの選択肢を増やすため、新しいキャラクターに挑戦したり、部活動後自宅でチームメンバーが集まって練習をしたり、他校の生徒と連絡を取り合ってオンライン上で練習試合を重ねる等、eスポーツの特徴を生かした活動も見られ、積極性や自主性、コミュニケーション能力等がeスポーツを取り入れて大きく成長した様子が見られるようにもなってきました。成長した彼らが、昨年度以上の成績を収めることを期待しています。

また、今年10月からは株式会社テクノブラッドが主催するLeague of Legend Techno Blood CUPが地元仙台の専門学校、SCA仙台デザイン＆テクノロジー専門学校を会場として毎月実施されることが決定しており、部としても積極的に参加し全国規模の経験を積める場としたいと考えています。

今年1年を振り返ってみると、新たな全国規模の高校生eスポーツ大会、STAGE:0が初開催され、茨城国体では文化プログラムとして全国都道府県対抗eスポーツ選手権が実施されました。他にも全国高等学校eスポーツ連盟の発足や宮城県においても仙台eスポーツ協会の発足といったeスポーツを取り巻く環境が目覚ましく整備された年だったとの実感があります。令和元年は日本におけるeスポーツシーンにおいて、エポックメイキングな年として記憶に残る年となるのではないでしょうか。

3. 学校設定科目「eスポーツ講座」について

今年5月より情報科学コースで学校設定科目として希望者によるeスポーツ講座を開設しました。eスポーツを実体験し、スキルアップを図るとともにeスポーツを取り巻く様々な経済活動や文化活動に理解を深めることを目的に27名が参加しており、情報分野において国内の最先端を進んでいる日本電子専門学校講師・学生とWEBオンラインでeスポーツのオンラインによる対戦指導を受けています。授業中は熱気にあふれた雰囲気の中で取り組んでいます。オンラインでの指導ではそれぞれの役割毎に的確なアドバイスをもらい、できたこと、できなかったこと、できるようになりたいことを明確化し、実践の中で課題に取り組んでいます。1度の試合の中に多くの学びがあり、ランクでは遥か上位の講師陣に対しても臆することなく挑戦し、貴重な機会から学ぼうという姿勢がよく表れています。

また、7月には日本電子専門学校より講師、学生に来校していただき2日間実地指導してもらいました。講座では「eスポーツ講座」についてご講義頂きました。講義の中では、ゲーム障害やプロの未来についての話もありました。また、専門学生による3講義と、マンツーマンの対戦指導もしてもらいました。直接顔を合わせての対戦を実施し、緊張感ある対戦時間もありました。専門学生の内、中国、韓国、台湾からの留学生もおり、国際的な交流もできたと思います。

実施内容

1. 学校選択科目：「eスポーツ講座」（1単位）
2. 対 象 生 徒：第2学年希望者（30名）
3. 実 施 内 容：日本電子専門学校（東京都新宿区）とWEBオンラインでeスポーツの指導を受ける。eスポーツとは、エレクトニック スポーツの略称で、コンピュータゲームで行われる競技のことです。
4. 講 座 実 施 日：令和元年5月17日（金）・24日（金）、6月7日（金）、7月5日（金）・19日（金）、9月13日（金）、10月18日（金）・25日（金）、11月15日（金）・11月22日（金）、12月13日（金）・20日（金）
   令和2年1月24日（金）、3月6日（金）・13日（金）
   15：00～17：00
   ※年15回（2時間） 計30時間実施予定
   ※全実施日への出席できることが原則となります
5. 実 施 場 所：WIN1・2教室

（写真 6）e スポーツ用ヘッドホン活用

（写真 7）WEB オンライン対戦

現地指導内容

1. 日時・内容：令和元年7月24日（水）13:00～17:00
講義（30分）・マンツーマン対戦指導

7月25日（木）　9:00～12:00
講義（30分）×2コマ・マンツーマン対戦指導
13:00～16:00
講義（60分）・マンツーマン対戦指導

2. 場　　所：WIN2教室
3. 対 象 生 徒：情報科学コース2年生（27名）「eスポーツ講座受講者」
4. 講　　師：日本電子専門学校（東京都新宿区）　ゲーム制作科　小柳　圭司　先生
専門学生10名

（写真 8）専門学生による講義

（写真 9）専門学生による操作指導

4. 生徒の感想

・楽しく、参考になるプレーも多く学べ、充実した講座で多くの学びがあったと感じます。
・自分のプレイを評価していただき、改善点なども教えてもらうことができ有意義な充実した講座となりました。
・想像以上に本格的なプレイに圧倒され、クラスメイトとの対戦プレイは白熱したもので良い経験となりました。
・初心者だったので最初は難しいと思いましたが、少しずつeスポーツの楽しさがわかり、チームワークの大切さも学びました。

5. eスポーツ講座今後の展望や課題

eスポーツ用PCの環境を整えて頂いたことで次の次元へ発展していくための準備が整い、更に進展していければと考えます。現在、情報科学コースでは3DCG授業でVRを用いた内容を展開しておりますが、今後5Gなど

の通信環境の発展、コンテンツなどの進展によりVRを用いたeスポーツが普及していくことと思われます。eスポーツ講座でもVRを用いた内容を展開していきたいと考えております。また、eスポーツ部の活動もインターネットを通じて国・世代を超えた交流もできると思われます。高齢化社会において趣味の分野が高じて人生の目標にもなり得るかもしれません。反面、世界保健機関（WHO）が定めた新たな病としてゲーム依存症が定義化されました。ゲームをする時間や頻度を自ら制御できなかったり、日常生活や他の関心事よりゲームを最優先したり、人間関係や健康状態に問題が起きているのにゲームを辞められないといった症状です。情報モラル同様、eスポーツ活動と並行してメンタル面も指導していかねばならないと思います。eスポーツは、勉学とバランス良く取り組んでいくことが大事だと思います。

（写真 10）VR を用いた e スポーツ

6. おわりに

現代、スマートフォン普及により一人一人が小型PCを持ち歩き、私たちはいつでもインターネットにつながる情報化社会の中を生活しております。今後、IoT、ロボット、AI（人工知能）、ビッグデータ等の先進技術を活用することで、新たな価値を創出し、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することのできる情報化社会の次にある新たな時代、society 5.0（ソサエティ ゴーテンゼロ）を迎えようとしています。eスポーツも同様で進化していくものと考えられます。新しいモノを柔軟に取り入れ、また変化を受け入れ昇華し、その内容を教育に活かし、生徒の学習意欲、興味関心、創造性、発想力を高められることが大事であると思われます。そして生徒一人一人のポテンシャルを引き出せるよう努めることが大切であると考えます。そこで目指しているビジョンとしては、時代と生徒に沿った最先端の教育環境を推進し、スピーディーにICT活用とスキル向上を図り、society 5.0をたくましく生き抜き、将来社会で活躍する生徒を育成できる教育活動ができればと考えております。そして、ICT教育の中で、生徒自身の今後に活きる「自ら考え、解決し、新しいことを生みだす力」を育てていきたいです。

7. 謝辞

恵まれた教育環境を整えて頂き、多大なる御指導、御配慮を賜りました理事長 加藤雄彦校長先生に心から感謝申し上げます。また、常務理事 加藤聖一先生はじめ阿部文男教頭先生方、株式会社エクシオン様にも常日頃たくさんのご支援を頂き感謝を申し上げ、結びとさせて頂きます。

Ⅰ　研究報告

（1）SDGsを意識した授業づくり

秀光コース　　菊地恵美子

1　はじめに

新学習指導要領「社会に開かれた教育課程」（文科省 2017）の正式実施が目前に迫った現在、学校教育においては地球規模で起きている諸問題や地域社会の課題についての知識面はもちろん、それらを解決していくためにはどのようなアプローチが必要かといった課題解決に向けた学びを教育課程に学びのプロセスとして組み込んでいくことが急務となっている。また、本校の秀光コースにおいてはIB（国際バカロレア教育）を主軸として「高度な学力・豊かな感性・生涯学習者としての自覚を持ち、持続可能な社会の構築に至誠によって貢献するグローバリストの育成」（加藤　2019）が教育目標として掲げられており、地球規模で起きている諸課題について当事者意識を持ち、それぞれが諸問題の背景の因果関係を知り、分析し、行動しながら学ぶことについて奨励されているところである。本稿では、2019年度秀光コース２学年を対象として実践したSDGsを意識した「総合的な学習」と「英語表現Ⅱ」の授業実践について述べていくこととする。

2　SDGs（持続可能な開発目標）とは

世界の国々が協働で解決するべき目標として2015年、国連総会にてSDGs「Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）が採択された。気候変動による異常気象、マイクロプラスチックによる海洋汚染、自然破壊による生態系の危機、貧富の差がますます進んでいく格差社会、これまでには出現しなかった新たな感染症の広がり、発展途上国に根強く残る飢餓の現実等、地球規模で解決しなければならない課題項目を2030年までに達成するべき目標ごとに17分野169項目で構成した指針である。SDGsが策定される前の2001年から15年間、国連はMDGs（ミレニアム開発目標）を掲げて貧困、HIVなどの感染症、男女間の不平等、教育の機会など主に途上国が抱える８項目（MDGs白書　2015）を先進国が協力して解決していこうという枠組みで取り組んで来た。しかしながら2015年以降実際に格差や健康、不平等など先進国にも様々な諸課題があることが明らかになった。途上国も先進国も共に「～No one will be left behind～　誰も置き去りにしない」をモットーに行政、企業、学校、個人を問わず一人一人が主役となり、あらゆる立場の人々が地球規模的課題について知り、考え、行動を起こすことでより良い未来をつくる枠組みとして、SDGsが具体的な指針を持って示されるに至った。

Sustainable Development（持続可能な開発）の言葉の定義

「環境と開発に関する世界委員会」において当時の委員長であったブルントラント・ノルウェー首相が1987年に公表した報告書「Our Common Future」の中心的な考え方として取り上げた概念で、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のこと（外務省 2019）を言う。この概念は、環境と開発を互いに反するものではなく共存し得るものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考えに立つものである。なお、ESDはEducation for Sustainable Development の略称である。

3　授業実践

3-1.1　総合的な学習での実践の概要

	秀光コース第２学年　総合的な学習	実施月
目的	○**「持続可能開発目標」SDGsの課題解決学習を通し、地球規模で起きているグローバルな課題について解決できる思考力、判断力、行動力の育成** ＊SDGs（持続可能な開発目標）について自ら何ができるか課題意識を持つ ＊自分の選んだ項目について現実の社会の状況を分析する ＊選択した課題について課題解決のための行動実践をし、振り返る	LHRにて 共有５月
導入	**①地球規模的課題としてのSDGsの存在を知り、課題意識を持つ** ＊学年教員によるオリエンテーション	６月～７月
実践	**②SDGs課題解決項目から選択し、現実の社会の状況について分析する。** ＜企業、行政、NPOの取り組み実践の分析をTOKの手法で分析＞ ＊京都研修においての自主研修事前計画においてSDGsに関連した探究の問いをたて、行動予定表を作成し、学年教員にアドバイスをもらう ＊京都研修事前グループ作業 ＊京都研修（自主研修およびSDGs達成率No.1の京都市副市長講話） ＊京都研修にて分析した京都での取り組みについてのふりかえりをする ＊自分の身近な地域においての実践例を調査、分析 **③課題に対して自分のアクションプラン（行動計画）を立てる** **④これまで各自で行ったSDGsについての学びをポスターセッションにおいてわかりやすく他者に伝える** ＊１人２分でSDGs課題の概要、背景、現実の社会の状況、自分のアクションプランについてプレゼンテーション（学年内プレゼンテーション相互評価） ＊秀光祭での学年の発表としてポスターセッションを実施、来場者の方々から質疑応答、コメントをいただく **④高校生として課題解決に向けて何ができるか考え、実践計画を立て、実践する** ＊学年内発表や秀光祭でポスターセッションを実施した時のアドバイスを元にアクションプランを修正し、実践 ＊頂いたアドバイスをもとに実践活動と振り返りを行う。 ＊土日、冬休みに実践活動をする際は計画表を提出する	７月～８月 ８月～９月 ９月 ９月 京都研修 10月 10月～11月 11月 秀光祭 11月 11月～12月 冬休み
まとめ	**④課題解決のための実践をし、振り返り、レポートにして提出**	１月末日

対象：秀光コース第２学年生徒　27名（IBDP履修生徒５名を含む）
期間：2019年度　６月～１月　（LHR、総合的な学習）
担当：第２学年主任 菊地恵美子、2M１担任 横山佳絵、2M２担任　加藤隆寛、副担任　佐藤久樹
　　京都研修　（９月24日～27日）　秀光祭　11月15日（土曜日）

<u>プログラム実施においての特徴</u>

1. SDGs課題を選び、その課題を設定した背景、動機について他者と共有する時間を持たせた。
   （テーマ選択構想時にグループディスカッション、ワールドカフェの実施）
2. 現実の社会の状況分析にTOK（知の理論）の分析方法を用いた。
3. 学年研修旅行先の京都研修においてSDGsの視点を持った研修を組み入れた。
4. 調査→分析→実践→振り返り　といったサイクルで活動を振り返る思考力、実践の効果の判断、資料の読み解きなど課題解決に対しての探究のサイクルを持たせた。
5. ポスターセッションでは１人２分以内で学年発表会を実施し、ピアラーニングを取り入れた。
6. 現実の社会の状況の切り口に必ず地域社会での取り組み事例を入れさせることによって、身近な地域での企業やNPOの取り組みについて知る機会とし、実践の足がかりとした。
7. 秀光祭当日は生徒全員が来場者に向けてポスターセッションを実施しコメントをいただいた。
8. 最後のまとめのレポートは実践のふりかえりまで入れてClassiにてデータで提出させた。

3-1.2　SDGsレポート振り返りから

課題解決学習の中に、学校行事である京都研修や秀光祭を活用しての学びの実践は長期にわたり、時に時間が足りなく感じる面もあったが、生徒たちの実践レポートの振り返りにおいては下記のような意見が様々記載されていた。最終レポートの構成としては、課題設定の背景、その課題を選択した動機、現実の社会の状況の分析（京都研修で発見したこと、身近な地域での現状、世界の現状）、アクションプラン、アクションプラン振り返り（実践を通して効果的だと思ったこと、限界を感じたこと）今後の展望、といった構成となっていた。

○京都研修では「食べ歩き禁止」「食べ残しをなくす」など具体的な取り組みを肌で感じることができて大変参考になった。飢餓で苦しんでいる国がある中で食べ残しをして食料廃棄を続けている日本のような国もある。地域では食品ロスを減らすキャンペーンを実施している団体も身近にあり一緒に活動できたことが収穫だった。今後も参加することで解決の一助としたい。

○「気候変動に具体的な対策を」をテーマとした。具体的なデータを調べてみると京都市と仙台市のCO2削減の取り組みに基準値の差があることを知った。また東北地方のCO2排出の原因には暖房器具などの電化製品が多くを占めると思っていたが実は自動車であったことを発見して驚いた。データを丁寧に調べる意義は大いにあったし、仙台でもCO2削減に努力している「ストップ温暖化センターみやぎ」などのNPO団体があり活動内容も世界につながるものだった。秀光祭でのポスターセッションではポスターのデータ表が見やすかったという嬉しいコメントをいただき、伝えたいことが伝わったことが嬉しかった。

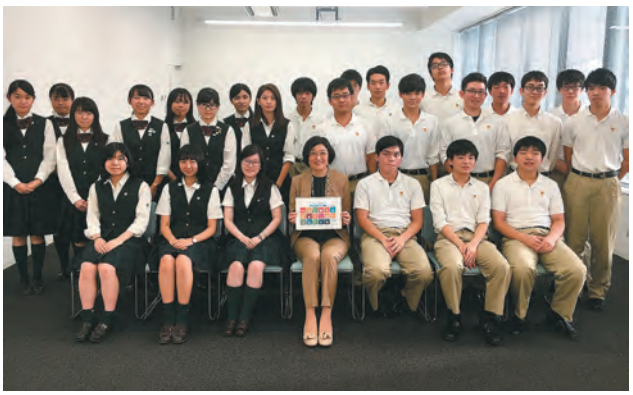
○今回のレポートでの振り返りは、自分でテーマを考え、問いを立てることで自分が何を一番知りたいのか、その知ったことについて何を考えどう向き合っていくべきなのか。向き合っていく中で何をしなければいけないのかを、ちゃんと考えられたのではないかと思います。自分が調べた自然についての問いは人間自身が自然を壊しつつあることが分かり、調べている最中にとても心苦しい気持ちにもなりました。それでも、もっと深く調べていくことにより人類は自然を破壊することだけではなくその重大さをちゃんと受け止め、考え、取り戻そうと活動していることが分かりとても嬉しくも感じました。実家の医院に募金箱を置くといったアクションは小さいものですが、テーマについて行動するきっかけとなりました。

3-1.3　実践を通しての成果と課題

京都研修では表敬訪問だけではなく、特別に講演会を実施していただき副市長である村上圭子氏が京都市が地域住民と協働でSDGsに取り組んだ現状の冊子を参加生徒全員配布していただき、京都市での取り組みについてお話いただいた。特に「貧困」について子ども食堂などでの取り組みについて熱く語ってくださった。貧困や格差の問題はもはや途上国だけのものではなく、子どもが１人で食事をしている、誰も話す相手がいない、心を開ける相手がいない、など先進国にも貧困があり、特に「心の貧困」について地域のNPOと行政が協働して気を配っているというお話が印象的だった。SDGsの解決項目は決して遠い途上国だけの問題ではなく、生徒達が自分を取り巻く地域社会においてどんなことが課題となっているのかに目を向けるきっかけのお話となった。

京都研修終了後、研修のふりかえり、自分の学びのプレゼンテーション、秀光祭の準備、秀光祭での実践、冬期休暇を利用しての実践、そしてレポート提出はかなりハードなスケジュールではあったが、生徒たち一人一人が自分なりに問いを立て、分析し、その課題に向けてのアクションプランを伝え、実践し振り返るといった学びのサイクルを実現させたことは大きな成果と言える。また、秀光祭前に学年内でポスターセッションを実施し、プレゼンテーションについて良かった点、改善点などについてコメント表を記入し、それぞれに相互評価として途中のアドバイスとして活用したことは、秀光祭の本番にて一般の来場者に伝える時の大きな励みとなっていた。さらに、来場者の方々からは質疑応答を始め、コメントシートに丁寧に生徒の発表への感想をいただいたことで、まさに「社会に開かれた教育課程」のプロセスを一部ではあるが「学びを広く社会に還元し、発信すること」として実現できたのではないかと思う。

一方、課題としては総合的な学習時間での実施にあたり学年全員での目的共有時間の確保が挙げられる。多忙な中でも学びを継続させるファシリテーター的役割を学年教員全員が協働して実施するシステムが不可欠であったが、学校行事や様々な業務準備と重なることも多く、生徒も教員も多忙感は否めなかった。また、最終レポート提出課題でデータの出典や参考文献の記載などが不足しており提出し直しとなる生徒も少なくなかった。動機や実践は十分説明されているものの、次に繋げる実践の評価や分析が弱いという特徴も多くあった。それでも、地球規模の課題解決にむけて個人の力は小さくないのだという実践を通した認識は、それぞれの生徒が学び得た財産と言えよう。今後も教科横断的な学び、社会と自分とのつながりを意識できる学びを継続させていきたい。



3-2　英語表現Ⅱでの実践概要

教科名	English Expression Ⅱ 使用教材：Keynote 2～National Geographic Learning～ by CENGAGE Learning CEFR レベル A2～B1					
目的	○地球規模で起きている課題について知り、話題に応じた語彙力と表現力を習得する。 ○TED TALKSを何度も視聴し、ListeningおよびPresentation Skillを高める。 ○対象課題を分析し、自分の立場を明らかにしたWriting能力を身につける。 ○題材についてのディスカッションを通して、SDGs課題について自分の意見を持つ。					
単元名	Vocabulary	Speaking	Reading	TED TALK	Writing	実施
Unit 1 Protectors	Types of Animals	Protecting Species	Vultures in danger	Why I love Vultures	Writing about an endangered species	4月 5月
Unit 2 Family Connections	Extended Family	My family	Genealogy	Family Tree	Writing an invitation	6月
Unit 3 Global Stories	Interview with an author	Can you guess?	Top picks	My Year Reading a book from every country	Writing a book review	7月 8月
Unit 7 Ethical Choices	Ethical food choices	Predicting future habits	Leather from a lab	Leather and Meat without killing animals	Writing about future of food	9月
Special Unit Eco Movements	Climate Change	How dare you!	An Article about Greta Thurnberg	Greta Thurnberg's Speech at UN, Sep. 25, 2019	Your opinion to Greta's speech at U.N.	10月
Unit 8 Better Cities	Features of a city	Talking about best places	Connecting citizens	It's our city. Let's fix it.	Writing about a change for better.	11月 12月
まとめ	Presentation Listening Skill Test　Essay Work					1月 2月

*表は使用教科書の目次から抜粋して掲載

授業実施においての特徴

1. 生態系、多文化、遺伝子学、エシカル消費、市民参加の街づくりなど持続可能な開発をテーマとした教材を選定することで英語を学ぶのではなく、グローバルな課題を英語で学ぶ授業とした。
2. TED TALKsプレゼンテーションが各Unitについているので何度も視聴することを奨励し、英語字幕をつけながら自分のレベルに応じて音声のスピードを変えて聞く方法を提示した。
3. TED TALKsのテーマが終了するごとに、Presentationの概要と重要表現のノート提出を実施。

4. Unitごとの読解課題は必ず事前に宿題とし、英語で考え英語で表現する英問英答形式を徹底した。
5. テーマごとにディスカッションの時間を設け、根拠を持って自分の意見を表現する習慣づけを実施。
6. 授業の開始時にはBBCやABCのNewsを動画で２分ほど流し、どんなニュースが出たのか簡単にペアで相手に伝えるタスクを設け、テーマに対する意欲、関心の評価とした。
7. Unitの終了ごとに、課題の解説と自分の意見を英作文400 words～600 wordsで書きClassiのコンテンツボックスに提出とし、表現する力の評価とした。

3-2.1　英語表現Ⅱ授業内のディスカッション

秀光コース２学年生徒22名を対象（IBDP選択をした生徒５名以外）としたこの授業は、IBDPと同じく採択した教材がALL English書かれていることから、4月当初は授業内でもなるべく発言をALL Englishで実践する予定であった。しかしながら簡単な会話のやり取りや短い応答文はなんとか可能なものの、生徒が自分の意見を述べたり、細かい部分について疑問点を出すなどの場面では英語での発言に相当苦戦することが明らかとなり、英語で表現できる生徒はそのまま英語で、できない生徒は日本語でもOKというルールで授業を進めることとした。対象学年にはインドネシア出身の１名、中国出身２名の合計３名の留学生と英検準１級レベルを取得している日本人生徒４名が高い英語力を維持できており、時に英語で表現するリーダー役や戸惑っている日本人生徒に英語表現でのフォローする役割を担ってくれた。この授業では、英語の文法や語彙を覚えることが主体ではなく、そのテーマについてどのように思うのか自分の意見を持つことに重要性を持たせるため、まずは自分の意見について根拠を持って述べるということを重要視することを伝え、ペアワークを多く取り入れた。

ディスカッションが白熱した授業の事例として、10月に実施した17歳のスェーデンの環境活動家であるグレタ・トゥンベリーさんのスピーチ分析を紹介したい。学年の研修旅行である京都研修の１泊目の夜に多くの生徒が国連本部の気候変動委員会において行った感情的とも言える彼女のスピーチをNewsで視聴していた。総合的な学習でSDGsをテーマに研修をすすめていた時期でもあり、ちょうど気候変動についても考える良い時期と捉え、早速、京都研修から帰った直後の英語表現Ⅱの授業では「17歳の環境活動家」のテーマで彼女のスピーチ分析を通して自分の意見文を書く、という授業を実施した。1時間目はスピーチを動画で全編視聴した後で全体のスピーチの英文を渡し、グループで和訳作業を行った。和訳の留意点はこのスピーチが行われた経緯を頭に入れること、スピーチの聞き手は誰か、スピーチの目的は何か、スピーチの中のWeとは誰か、Youとは誰か、を意識させた上での和訳とした。2時間目は彼女の感情的な表情や“How dare you!”の連発に至ったPresentationをどう評価するかについてグループ内で議論した。2時間目終了後の課題としてグレタさんの生い立ちと気候変動サミットでのスピーチの特徴を紹介した上で、そのスピーチに対する自分の意見を400 words～600 wordsでまとめる英作文を最終課題とし、Classiのコンテンツボックスに提出とした。

You have stolen my dreams and my childhood with your empty words. And yet I'm one of the lucky ones.
People are suffering. People are dying. Entire ecosystems are collapsing. We are in the beginning of a mass extinction, and all you can talk about is money and fairy tales of eternal economic growth. How dare you!

（国連本部気候変動委員会 2019.9.25 Greta Thurnbergスピーチより一部抜粋）

“fairy tales of eternal economic growth”「永遠の経済成長というおとぎ話」の比喩表現をあえて各国の大臣が集まるところで痛烈な皮肉として持ち出したこと、“How dare you!”はどんな時に使用可能な表現で、なぜあえてそのフレーズを多用したのかについても議論は白熱した。高校２年生というほぼ同じ歳の彼女がアスベルガーという物事に敏感に反応する性質を持っており、15歳からは学校を休学し環境活動家として座り込みを始めたことなどについてグループ内で共有しつつ、なぜそこまでするのか、気候変動の影響は楽観視している大人とその影響を大きな負の遺産として未来に引き継ぐ若者の世代では全く捉え方が違うのではないかといった意見も出た。

このテーマでの最終課題である英作文及び振り返りレポートでは下記のようなコメントが記載された。

○彼女の感情的で攻撃的な表情はスピーチにとってマイナス要素になってしまった。もう少し冷静であればよかったと思う。データについても立場によって捉え方が違い議論が分かれていることを知った。
○ネットでは誹謗中傷があふれているが、アジアでは批判され西洋の国では評価が高いという構図があった。

大人に操られていると思うアジアと10代でも行動できると考える西洋との思考の違いを感じた。

○感情的に話しているようできちんとデータを出したスピーチで説得力があった。また、彼女は自身のアスベルガーはSuper Powerと名付けることもでき、違った側面から物事を見ることができるということだ。私もSDGsの気候変動をテーマとしている。発表においては数字の根拠を明らかにし、フラットではないパッションのあるPresentationをしてみたい。

3-2.2　実践を通しての成果と課題

英語表現Ⅱの授業では、Unitごとの課題としてPresentation動画であるTED TALKを視聴する必要があり、授業内でその画面を投影させつつ自分のレベルに合わせて速度を調整できること、字幕についても英語字幕、日本語字幕も可能なことを伝えできる限り自宅で何度も視聴するよう指示した。視聴は得意でも課題として提出するノートの和訳は自力で訳したものというよりは、TED TALKの和訳例にあるものを丸写しして提出していると思われるノートが少なくなかったことは残念なことであった。しかしながらPresentationの分析においては1つのTED TALKは大体8分～15分であり、導入での話題の提示の仕方、聴衆への質問の投げかけ方、声のトーン、目線、具体的な事象を盛り込み当事者意識を持たせる、効果的な終わり方をする、といった大切なスキルについては生徒たちはよく理解し、何をどう伝えるか、といったことに後期には注意を払えるようになった。「絶滅危惧種」についてのpresentationではNative English SpeakerであるMr. Bryan氏にも評価に加わって頂き、質疑応答を含めて全員が相互評価としてコメントを記入しそれぞれの良い点、改善点を返却した。

Unitごとにタスクとした英作文については、「根拠を持って自分の意見を書く」ということを徹底した。

最初は英検2級程度の80 words ～ 100wordsの長さの課題としたが、最初に自分の立場を明らかにしてその後具体的な根拠の例を書き、最後にまとめの文を書くというパラグラフライティングの基礎がほぼ浸透したが、字数の長い課題を出すとパラグラフライティングができなくなってしまう傾向が見られた。また、上位の生徒がしっかりとした英文が書けるのに対して中位層以下の生徒は語彙力と文法力が不足しているため十分な長さの英文が書けない傾向にあり、それら一つ一つに対しての添削ができる時間の余裕がなかったことが課題として残った。

ディスカッションでは、グループワーク、ペアワーク共に熱心に前向きに議論する姿が多く見られ、その使用言語が日本語だったとしても十分に現実の社会で起きている出来事を自分事として捉え、根拠を持って自らの意見を発信するということが積極的にできていた。また、意見の違う相手にもWhy?の質問を投げかけ、どのような立場からその意見になったのかを聴く姿勢ができたこともまた喜ばしいことであった。自分の意見を伝え、聴き、そしてさらに議論を深めていくプロセスは現実の社会で起きている事象と自分とのつながりを認識しつつ、その問題に向き合うことを意味しており、「主体的に地球規模的な課題に取り組む学習者」の土台作りができたのではないかと思われる。今後は立場や見方によって議論が変わってくること、時に反論が来ることを想定しながら意見を述べることも必要であるといった認識さらに深め、適切な語彙を駆使した英語で表現できるよう足場がけを行うことが必要であるといえよう。

4　おわりに

2019年度の秀光コース2年生を対象とした総合的な学習、英語表現Ⅱの2つの実践をもとにSDGsを意識した授業づくりとして報告させていただいた。この学年においてはIBDPを宮城野校舎で履修している5名と一般の授業を履修するその他22名からなるIBコラボ生といった2つの異なるタイプの学び方が混在している学年であったが、IB履修をする生徒もしない生徒も共通して「どのように世界と社会に関わり、より良い未来づくりができるか」といった課題に向き合うことで、それぞれの学びを深めることができたのは大きな成果であった。

今後の課題としては教科横断的な学習、次年度学年への継続性、身につけさせたい資質形成の教員間でのビジョンの共有などが挙げられる。

折しも2019年度は大学入試新共通テストの英語4技能試験導入や記述式の中止、気候変動による台風などの災害の増加、新型コロナウィルス感染拡大など、変動の多い年であり、それぞれが責任を持って行動することが求められる変化の多い年であった。SDGsには企業、行政、NPOなど様々な行動主体が存在するが、学校においては教員も生徒も共に学び合う姿勢を大切に課題解決に取り組む実践を継続させていきたい。

参考文献

国際連合広報センター（2019）Sustainable Development Goals （2020年1月2日取得）
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
国際連合広報センター（2000）ミレニアム開発目標 （2020年1月2日取得）

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/social_development/mdgs/
文部科学省（2017）平成29.30年度改定学習指導要領「社会に開かれた教育課程」（2020年１月２日取得）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm
加藤聖一（2020）「特色ある私学をめざして」私学経営No.541

（2）新学習指導要領に向けた英語4技能の指導について

特別進学コース　　新谷　　仁・伊藤　　需
安部　宏紀

1. 英語教育を取り巻く環境

当初研究紀要依頼を受けた９月初旬の考えは「2021年度入試に向けた英語授業のあり方」であった。11月初旬の文科省の５年後に延期の発表により、日本の英語教育の在り方に社会全体の注目が集まっている。英語４技能を伸ばすことについてはグローバル化の観点から間違いのない事実であり、その手法において十分な議論がなされず、高校現場の意向を組み入れないまま踏み切ろうとした点に今回の失態が生じたものと考えられる。

本稿では、当初予定されていた2018年度入学生（現高校２年生）を対象とした４技能を伸ばす授業改善を志向してきた試みを、特別進学コースを対象として昨年度の研究授業の基礎となったTANABU Modelをベースとして３年間の指導過程を領域別、学年別に述べてみたい。（2019 研究紀要：pp47-52 / pp.29-33）

2. TANABU Modelとは？（アウトプットの時間を生み出す高校英語授業）

青森県立田名部高校は下北半島むつ市にある全校生徒約600名、平成30年度卒業生188名のうち国公立大学75名（北大、弘前大、千葉大、横国、金沢）その他当然のことながら、専門学校や、就職する生徒もいるごく普通の国際化とは無縁の地方の公立高校である。その学校が文科省からの「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する授業改善の取り組み」をきっかけとして英語力アップ全国２位を達成した「奇跡」の英語授業モデルと言われるようになった。私立英語研究会の中でも話題になり、仙台市内でもその手法を取り入れる試みがみられるようになった。

「レッスンごとに教科書の扱いを変えるTANABU Modelとは」（アルク選書）

3. TANABU Modelに基づいた指導展開例

①　持続可能な英語の授業

従来の英語教師は「唯我独尊」的な面が多く、自分の授業が最高であり、その手法を同僚に見せるとか、目線合わせをして授業に臨むことはなかった。本校は私立高校であるので、異動が少なく、そうした面を考えるとコース間の異動があってもどの先生が教えてもある程度の共通課題を持って授業をしていくことが可能である。また年８回のBrush Upを通じて他のコースの授業も見ることができる。

田名部高校は高校入学時点の学力差がとても大きいそうであるが、本校でも英語や数学において基礎学力が定着しないで入学してくる生徒も多い。クラス編成や習熟度別指導で対応しているが、最も大切なのは「英語の嫌いな生徒を作らない」ことである。そのためには「教科書中心の授業」であり、「教科書を最大限に生かす」授業が望ましい。そのためには各単元の特徴を年度初めに把握して、４技能を指導する領域を事前に把握しておくことが肝要となる。Reading / Writing / Listening / Speakingの４技能をどのlessonにおいて伸ばしていくのかでアクセントをつけた授業展開が可能になる。（あっさりコース、こってりコース）

②　演繹的な文法指導とweblio lessonとのつながりを利用する

中学校２年生で学習する現在完了、分詞の後置修飾あたりから生徒は英語の文法の仕組みに混乱をきたすようになる。学習塾ではほとんど、事前に法則を教えそれを暗記させて使えるようにする。上位の生徒はそれで対応できるが英語嫌いの生徒は難解な文法用語に目を奪われ徐々に英語から離れていく。

筆者が長年愛用している“English Grammar in Use”（CAMBRIDGE）においては初めに状況を提示してそれに対する表現方法を示してから現在完了と過去形の違い、仮定法の用例も説明している。

weblio lessonにおいても実際に運用する場面から入るので、Evaluation Sheetで何度も関係代名詞や後置修飾の例を訂正していくと自然に表現できるようになり、英文読解でもスラッシュを入れる場所を理解できるようになる。

例えばweblioにおいて“What is your least favorite food ?”の表現が出てくるが、“What is your most favorite food?”との対比と具体例があれば、little-less-leastを暗記していなくても自然と習得できる。

③　教師中心の指導から、生徒中心の授業への発想の転換

Active learningの発想からペアワークやグループワークをできるだけ織り込むことによって来年度からの50分授業への対応もしやすくなる。そのためには生徒一人一人との人間関係を構築していくことが前提となる。ここで問題となるのは生徒の予習とノートの取り方である。デジタル教科書を利用することにより、板書が減り、発音、音読は非常に良くなっている。その反面各lesson全体を読んで未知の単語を調べ下訳をつけるという予習は徐々に消えている。授業の中ではできるだけ多くの活動をするために、サイトトランスレーションを利用するのが一般的傾向になっている。しかし各lessonのTopic Sentenceを把握させそれについて自分の意見を持つことはとても有益である。流される授業ではなくその課の主張をきちんと生徒に伝える「心の授業」を心がけたい。

Ex.　…… Little My's words encouraged and saved her. Her words can help real people who have lost confidence and are anxious about their own identity.

これはムーミンに出てくるLittle Myの言葉が自信を失ってしまい、実態をなくしてしまった少女に対するアドバイスであるが、それを生徒一人一人に問いかけていくのは重要な教師からのメッセージとなる。（Les 8 資料 handout No.2）

Welcome to the World of Tove Jansson　part 3　2019/1/9（Thursday）

A Happy New year. How did you spend winter vacation? This year, we will hold Tokyo Olympics and the most important thing is that you have to take entrance examinations of the University next January. In this lesson, we have to pay attention what war is like. What messages did Little May and Snufkin in the Moominvally tell us about the war?

< Summary of the part 3 >　Try to find the topic sentence in each paragraph

Little My tells a girl that she needs to fight to get her face back. Snufkin tells Sniff that too much desire robs a person of his or her freedom. Those words can change the reader's view of the world.

< Part 3>　Fill in the blanks with suitable words and phrases.

When people start reading these books,	人々がこれらの本を読み始めるとき，
they（　）（　）to the（　　）of Moominvalley,	彼らはムーミン谷の住人たちに惹かれるようになる
who have a deep（　　）into life.	人生に対する深い洞察力を持つ。
Their words can sometimes change the reader's	彼らの言葉は，時には読者の世界観を
（　）of the world.	変えることもある。
In the valley,	谷で，
we find Little My.	私たちは小さなミイを見つける。
She gives advice to a girl,	彼女は１人の女の子にアドバイスする，
who has turned（　　）	その子は透明になっている
because of her aunt's repeated（　　）.	彼女の叔母の度重なる皮肉によって。
Thanks to Moominmamma's kindness and warm care,	ムーミンママの優しさと温かい世話のおかげで，
the girl's body gradually becomes visible.	その女の子の体は次第に見えるようになる。
Little My tells the girl	小さなミイはその女の子に言う
that she needs to fight	彼女は戦う必要がある
in order to get her face back.	戦うことを覚えるまで。
Finally	とうとう
she gets her face back	その女の子は自分の顔を取り戻す
when she（　）her anger.	彼女の怒りをあらわにしたとき。
Little My's words encouraged and saved her.	小さなミイの言葉が彼女を励まし，救った。
My's words can help real people who have lost confidence and are anxious about their own identity.	【日本語訳】
< Read the passage of My's words and what she wants to say in your own words >	【Your own idea 】

From Tales from Moominvalley: Little My and the invisible child Ninny

4. Communication I , II, IIIの授業について

本校に入学してくる生徒はWi-Fiの環境、デジタル黒板、デジタル教科書を利用したLesson毎の動画、Flash Cards、音読シート、マスキングテープなど英語学習に最適な環境であることにまず驚くと思う。出身中学校が100以上ありその指導に様々なバラつきがあるのも事実である。昨年度坂井コンサルタントから指摘があったように「デジタル化」によるところの弊害（ノートを取らないで眺めている授業）を十分認識しながら生徒一人一人と対話をしながら授業を進めている。

音読の効用については多くの識者が述べているが、サイトトランスレーションを利用すると、pair-workも活発になり、聞き取れない単語、読みないフレーズもはっきりする。反訳練習（back translation）やRead & Look upは効果がある。（All Englishの英語授業：山本崇雄：学陽書房）サマリーの作成については各課のComprehensionを利用しながら最初は空所補充を行いながら、少しずつ取り組ませるのが良いと思う。

英語の語義はできるだけ英語で与えて英英辞典が使用できるようにするのが望ましい。また熟語は単に意味や例文を与えるだけでなくそれを使って例文を作らせる授業は楽しい。私はMake Your Own Sentence（MYOS）と呼んでいるがweblioではすぐにConstruct the sentenceというExerciseが出てくる。よく英会話は「瞬間英作文」と言われるが身近な出来事を新出の文法や語句を利用して表現できるようになると自信にもつながり、定期考査にも身近な出来事を英文で表すように出題している。

Communication IIIについては、語数が800～1000語程度に急に増えるため共通テストを意識した指導を心がける。パラグラフリーデイングをしながらトピックセンテンスを指摘して、T or Fそして要約につなげる。ここからまとまりのある英文をもう一度聞かせリスニング対策に結び付けたいものである。

リスニング100点対策には各校とも頭を悩ます所だと思う。ただはっきり言えるのは現在市販されているような副教材レベルでは対応できないと思われる。語彙力、読解力がない生徒がリスニングだけ得意ということはあり得ない。ただし視点を変えると映画を利用したリスニング指導（2019年度　私立英語夏期研修会）やデクテーションの強化は効果的だと思う。今年度はALL EARS 3（美誠社：山岡憲史著）を利用したが、単なる答えのチェックではなく、各自スマホを利用してQRコードを読み取り徹底したデクテーションと和文英訳、聞き取りのポイントがあり良かったと思う。

5. 英語表現の指導について

英語表現I, IIの教科書は非常によくできている。特進コースでは*English ExpressionI, II Advanced be*（IIZUNA SHITEN）を使用しているが Small Talk → Sound Check → Grammar & Expression → Exercise → Practic→ Read &Write と流れるように配列されており、指導用のpower point も利用できる。

副教材で使用しているPortfolioには自由作文の課題も準備されており、巻末にはBasic / Intermediate / Advanced用の解答例もある。生徒には毎回課題にchallengeさせ提出を求め、定期考査にも出題している。GTECや英検の自由作文対策にもなるので有効である。次の課題は自由作文のpair / group内での相互添削とpresentationである。Group内で統一のテーマについてdiscussionをしてからそれぞれの役割を決めて発表に持ち込むことを考えている。

外国人教師による授業は英語表現IIで平均２週に１回行っている。以下の例に示すように、初めに教科書から指導する単元を秀光所属のミゲル先生がテキストを参考にしてオリジナルハンドアウトを作成してくれ、初めに仮定法や分詞構文のアウトラインを説明し、次にペアワーク、グループワークに移っていく。昨年はミゲル先生との打ち合わせなく授業が進行したため、生徒側も真剣さが欠如していたがOne Lessonの英語の授業を集中して聞くようになり、理解しにくい部分と最後のまとめは日本人教師が行うようにしている。大学の教養レベルの授業を展開していると思う。

< Example ⑤ > 仮定法の導入　　（by Miguel）

A：If I were the Prime Minister of Japan, I would help mothers go back to work after having a child. If they had more working opportunities, they would help the shortage in labor in our country, and that would help the country's economy. If they could do that, maybe more families would have more kids.

B：Really? In that case, I'd rather bring more foreigners. If we had more foreigners working in Japan, then it would be easier to practice English.....

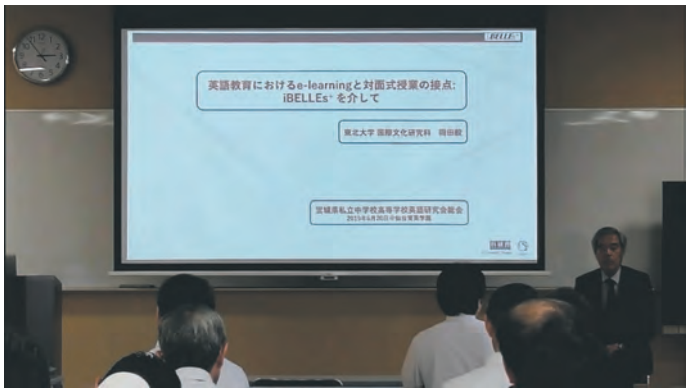
2022年度から導入される新学習指導要領では「英語表現」から「論理・表現」という科目に変更となり、スピーチ、ディスカッション・プレゼンテーション・ディベートが活動の中心となっていく。2019年度東北大学２次試験第３問ではDebateが出題されており“Communication technology has left us more isolated.”のpropositionに対しTeam Redはサポートする理論を述べているので、Team Redとして反対意見を述べよという出題があった。英語教育はどんどん先に進まないとグローバル化に追いついて行けないことを痛感している。

6. 宮城県私立中学・高校英語研究会（私英研）報告

今年度は私英研事務局校となり県内私立17校の参加を得て、6月の講演会（育英学園）8月の夏季研修会（ガーデンパレス）および3回の幹事校会議を行った。6月20日の総会では東北大学の岡田毅教授の「英語教育におけるe-learningと対面式授業の接点」という演題で講演があった。iBELLEsというソフトの開発とその発想の原点にある「生徒と教員の間のすれ違いをみつけ、学習者に読解用・聴解用の教材に対してアクティブに取り組む姿勢を育てる」という観点からの最先端の英語教育の話を聞く機会を得た。夏季研修会では50名以上の参加者を得て宮城大学のMatthew Wilson教授の「映画で楽しむ英語表現と効果的リスニング指導について」の演題で講演があった。午前はすべて英語の講演で午後は各参加校の先生方のグループ討議を行い和気あいあいととても楽しい会となった。

講演終了後は宮城野校舎、多賀城校舎の英語科の先生方が講師を囲んでの懇親会も行われ、今年度の事務局の役割が育英学園の英語教員全員の情報交換会ともなり大変有益であったと思う。

（新谷　仁）



講演会　仙台育英学園会議室　2019/6/20
「英語教育と対面式授業の接点」 東北大学　岡田毅教授

夏期研修会　仙台ガーデンパレス　2019/8/1
「映画で楽しむ英語表現とリスニング指導」 宮城大学　Matthew Wilson 教授

7. スピーチの指導について

伊藤　需

これまで長年にわたって「英語表現」の時間などに、生徒にスピーチをやらせてきた。スピーチは、口頭発表力の向上、自己表現の喜びの実感、英語の音声への習熟のみならず、outputのためのinputを意識させることで授業や英語学習への積極的な参加が期待できる。また、スピーチの中で使われた表現や構文を使い、既習事項を復習する機会も得られる。副次的効果として、それぞれの生徒が考えていること・感じていることを皆に話すことで、生徒同士の理解が深まり、教室内の人間関係・雰囲気が非常によくなり、教えやすくなる。さらに、後述するMCが進行するスピーチ方式で実施すれば、4技能全般にわたるアクティブ・ラーニング的な言語活動も可能となる。時間的には、毎時間7～8分ほどの時間を取られることになるが、英語学習へのモチベーション効果、クラスのラポート形成のプラス効果を考えるとそれを補って余りあると確信している。

今年度は、3年生の文系クラスで、Weblio英会話のレッスンがない時間に、スピーチを実施したが、感動的なスピーチがいくつかあった。その中でも、1年生の時から場面緘黙ということで、学校ではほとんどしゃべらな

い女子生徒が、自分の番が回ってきた時、皆の前で英語で数分間スピーチをしたことが最も印象に残っている。原稿は作ってきたが、おそらく発表は無理だと思い、いつでも彼女に代わって私が発表してやろうと待機していたのだが、なんと、最後まで自分でやり切った。彼女にとっては、この3年間で（あるいは、これまでの人生のなかで）初めての「聴衆を前にしてのパフォーマンス」だったのではないかと思う。（彼女はこれに自信を得たのか、一般入試でなく、面接がある推薦入試を選び、私大の推薦入試に見事合格した。）

次ページのハンドアウトが生徒に年度初めに渡していたものである。一つ目がスピーチをする者（たいていは出席番号の早いものから順番で実施）への注意、もう一つが、MC（たいていは出席番号の遅いものから実施）のセリフ・注意である。Questioners（質問者）は、自発的に出ればいいのだが、最低は2個は必ず出るように、発表者の次の生徒二人がすることと決めていた。（リスニングに自信がないものは、予め原稿を見せてもらうことも可とした。）内容に関する質問は、MCがアトランダムに当てて答えさせていたのだが、3人が連続して、答えが間違っていた、あるいはわからないと答えた場合、3人目が直接、発表者に聞くという形にした。（大抵は、ここまで行かないうちに答えが出ることが多かった。）MCも、だんだんに慣れて来て、ほとんど原稿に頼らずにやれる生徒も出てきた。そうなると、まさに本物に近いinteractionが生徒間で展開されることになる。最後に書かせた評価表・コメント（下記参照）も生徒の意欲喚起に非常に有益であった。

Evaluation Sheet（評価表）

Speaker		Title	

No	Viewpoints of evaluation	1	2	3	4	5	Comment
1	Eye Contact						
2	Volume						
3	English Pronunciation						
4	Contents (Message)						

NO. (　) Name (　　)

英語表現　　＊**スピーチ発表者に関する注意**

① テーマは自由であるが，**既習事項から３つ以上の構文あるいは慣用表現**等を応用したものを入れること。
② 英文原稿の分量の目安としては，英文を一行おきに書いたレポート用紙半ページ程度とし、**３日前までには先生にチェック**してもらうこと。（**内容に関する質問も２つ用意**し，**ＭＣ**（司会者）に渡すこと。）
③ 発表者は，聞いている人に理解してもらえるように，（十分に練習した後で）**顔を上げて**，**はっきりと**，**わかりやすく**発表すること。
④ スピーチの前に（休み時間のうちに）黒板にタイトル，難しい語や表現の説明を板書しておくこと。
⑤ 始まりは自由であるが，最後は原則として“That's all. Thank you for listening”で終わるものとする。
⑤　終了後，内容に関する質問をされるので，心の準備をしておくこと。
（絵，写真，本などの小物を見せながら発表してもよい。）

⑥ テーマは自由であるが，**既習事項から３つ以上の構文あるいは慣用表現**等を応用したものを入れること。
⑦ 英文原稿の分量の目安としては，英文を一行おきに書いたレポート用紙半ページ程度とし、**３日前までには先生にチェック**してもらうこと。（**内容に関する質問も２つ用意**し，**ＭＣ**（司会者）に渡すこと。）
⑧ 発表者は，聞いている人に理解してもらえるように，（十分に練習した後で）**顔を上げて**，**はっきりと**，**わかりやすく**発表すること。
⑨ スピーチの前に（休み時間のうちに）黒板にタイトル，難しい語や表現の説明を板書しておくこと。

＊ＭＣ(master of ceremonies)（司会）に関する注意

ＭＣ（司会）は次の要領で司会進行を行なう。

① **Hello, friends! I'm today's MC,** ○○○. （自分の名前）
② **Let's begin today's speech time now.**
③ **Let me introduce today's speaker to you. Today's speaker is Mr. (or Ms.)** A. （発表者の名前）
④ **His/Her title is** ○○○. **Mr. (or Ms.)** A**, please.**
<<A**'s speech**>>
⑤ （Speaker に対して）**Thank you.**
（Listeners に対して）**Do you have any questions about his/her speech?**
*Questioners はこの場面で Speaker に質問をする。
⑥ **Mr. (or Ms.)** A**, please answer.**
⑦ (If there is no more questions, to the listeners) **Then I'm going to ask you two questions about his/her speech.**
⑧ **Question 1.** (Ask and pick up a student at random and have him/her answer.) **Mr. (or Ms.)** B**, please answer.**

- (If B's answer is correct) **That's right.**
- (If B's answer is wrong) **I'm sorry, that's not correct.**
- (If B says, "I'm sorry, I don't know.")
  (Pick up C and have him/her answer.)
  (If three of them answer wrong or don't know the answer, have the third one ask the speaker directly.)
  Mr./Ms D**, please ask the speaker.** → (A **answers.**)

⑨ **Next, Question 2.** (Repeat the same steps.)
⑩ **Then, please fill in the evaluation sheet.**
⑪ **Speech time is over. Thank you for your kind cooperation.**
（前もって，speaker と打ち合わせしておくこと）

8. Retellingの効果と指導方法について

安部　宏紀

1. Retellingの概要

Retellingとは生徒自身が既習事項である本文を理解した上で、本文の暗記ではなく自らの言葉で内容をまとめて相手に伝える自己学習、自己理解型の学習方法であり、自らの意見や感想を述べることによって精読も共に行う必要がある。英語の四技能が求められる現場において、一番指導に時間を裂くのがspeakingである。生徒が英語を学習していて、一番に身に付けたいと考えているskillも同様にspeakingである。Retellingは生徒の英語学習のやる気を引き出し、持続力を保たせるのに効果的である。また、生徒自身でコミュニケーションをとる必要があるため、生徒間の関係も良好になる。

2. 指導方法

生徒が話しやすく、理解しやすい「物語」文の教材が好ましい。内容を理解すると共に、意味のまとまりを音でも理解できるように何度も音読を行う。Oral Introductionは生徒へmodelを提示する良い機会である。

3. 留意点

・本文の暗記ではないことを生徒によく理解させる。
・生徒に適度な負荷をかける。無理やりではなく「自発」的に物事を考えさせることができるように、最小限のヒントを与える。
・音読させるときには、様々なパターンを用いることで飽きさせない工夫が求められる。
・話をして終わりにならないように帯活動にも工夫をする。
・4パートに分かれているため、それぞれのパート毎に行うと時間がかかる。そのため2パート毎のまとめとして行う

4. 指導例

［題材］Lesson 2“Come and Visit the Park in the Sky!”Prominence II

Ⅰ. Oral Introduction　（5分）
Ⅱ. 音声確認　（10分）
　① 新出単語の確認
　② 本文の音声確認
Ⅲ. 音読活動　（10分）
　① Chunk Reading（意味のまとまりを理解させる）
　　1. normal
　　2. 後ろ向きで一回、前向きで一回
　② 虫食いreading
　③ shadowing
Ⅳ. 本文内容指導　（25分）
　① 指示代名詞の確認
　② 重要文法項目の確認
　③ イディオム等は英英辞典を用い、語彙数を増やすように誘導
Ⅴ. 音読活動　（15分）
　① Chunk Reading（意味のまとまりを理解させる）
　　1. normal
　　2. 通訳読み（ペア活動　日本語→英語）
　② closed reading drill
　③ 反転読み
　④ エンドロールreading（ペア活動）
Ⅵ. Questions making　（35分）
　① Questions making（ペア活動）
　　・ペア間の相談を可とし、本文中の内容から問題を3つ作らせる。
　　・文法等の間違いも想定されるため、生徒自身に作った問題の回答も準備させる。
　② Collecting questions
　　・制限時間を設ける。（5～10分）
　　・生徒自身が教室内を自由に歩き回り、級友に対して質問をし合う。
　　・ユニークで良い質問は生徒にチェックさせておく。
　　・4人1組を作り、作った、または集めたquestionsの中からbest questionを決め、全員で共有し、各グループから出たquestionを板書させる。
　　・それぞれのquestionを全体で考え、答え合わせをする。
Ⅶ. Retelling活動　（20分）
　　・生徒にヒントとなるプリントを配り、1人で5分練習させる。
　　・Retelling終了後に必ず今回のパートについてそれぞれのコメントを付け加えさせる。
　　・一回だけの発表では自信や訂正が効かないため、ペアを変えて最低2回行う。
Ⅷ. 後半の2パートも同様に、行う。
Ⅸ. 帯活動
　・4人1組となり、グループで本科のSummaryを作成させる。
　・教科書の文をそのまま引用するのではなく、新聞形式で簡潔にまとめさせ、絵や写真を引用することも可とする。
　・ 全体で発表

5. 効果と成果

ペア・グループ活動を多くすることで生徒たちは主体的に学習へ取り組むように仕向けることができる。生徒は自分で伝えたいことを英語で表すために辞書や参考書で適切な表現を探すようになる。帯活動も同様に、自発的にどのように見せれば見やすいのかを考えさせる。生徒の英文に文法上の誤りがあったとしても、その誤りを注視するのではなく、英語を使うことに挑戦させることによって、楽しみながら英語を学習することで意欲的な学習習慣を形成することができるようになる。

（3）英進進学コースにおける英語課外学習

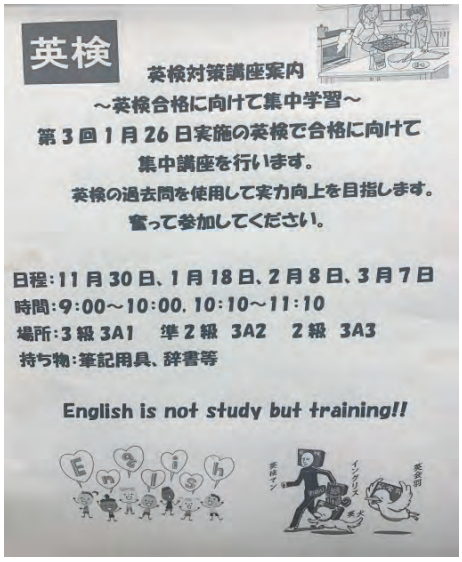
英進進学コース　　木村　汐里

1. はじめに

英進進学コースでは大学受験に向けた英語の外部試験の取得に近年力を入れてきた。その中でも英検講習を土曜日に３級、準２級、２級と各級１クラスで実施しており、今年度で２年目を迎えた。英検準２級以上の取得にむけて４技能を分けて様々な視点から講習で指導するよう心掛けている。

2. 講習概要

今年度は昨年度に比べて講習の回数を増やすとともに参加者の募集をポスター、各担任の先生からの声掛けそして英語の授業での告知で行った。講習は土曜日に60分の２コマで行い、主に過去問テキストで行った。また講習中に英検の勉強において活用しやすい単語帳やテキスト等の紹介をすることもあった。日にちによって担当教員が異なるため技能別に講習を行うように心掛けていた。特にライティングの講習等にはプリントを用いて型を身につけられるよう指導した。



3. 講習内容

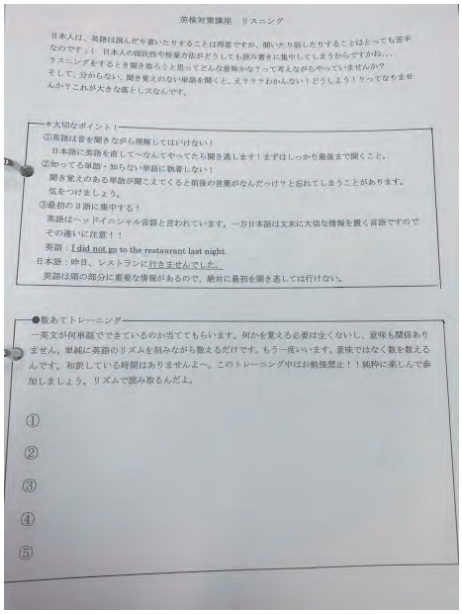
４技能の中でも１次試験の対象となるリーディング、リスニング、ライティングに重点を置いて講習を行った。リーディングでは過去の英検の問題から出題されたものを中心的に行った。

①リーディング

過去問を中心に行い、解答解説を行う。その際に選択肢の単語の意味も同様に確認する。また講習最後に最初に行った問題を再度繰り返し行うことで学習の定着を図る。長文読解の際には、はじめに問題文を読むのではなく設問から目を通して問題文の情報を得たり、パラグラフリーディングを行うといった限られた時間の中で効率よく問題を解く方法等を指導した。課題としては単語やイディオムを理解する力の不足が挙げられた。

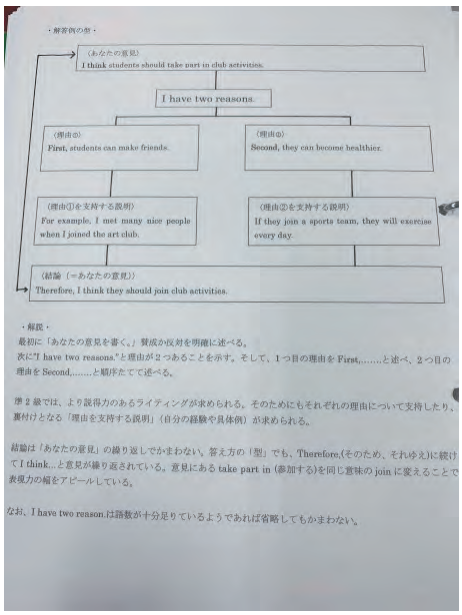
②リスニング

過去問を中心に行う。英検のリスニングは１回のみの放送、また問題間も10秒と短い時間で瞬時に解かなければならない。そこでまずはリスニングに慣れることから始まった。数ある中でもまずは一文を放送で流し、その文がどのくらいの語数で構成されているのか聞き取る。それからディクテーションを行い、どのような意味なのか考える。それを繰り返し行い、英語に慣れさせる。



③ライティング

級に応じて英作文の型を用意し、その型を慣れさせるところから始まった。導入・本文（根拠と理由）・結論をいかに自分の知っている単語で書くことができるかどうかを指導し、手本をみせて真似することを繰り返し行った。課題としては接続詞や助動詞を有効に使用することができない点であった。どの場面で使用すると文章として成り立つのかを指導した。また、日本語で書きたいことを英語では書くことができないということも課題に挙げられる。日本語を英語に書きやすいよう意味変換することも行った。


・解答例の型・

〈あなたの意見〉
I think students should take part in club activities.

I have two reasons.

〈理由①〉
First, students can make friends.

〈理由②〉
Second, they can become healthier.

〈理由①を支持する説明〉
For example, I met many nice people when I joined the art club.

〈理由②を支持する説明〉
If they join a sports team, they will exercise every day.

〈結論（＝あなたの意見）〉
Therefore, I think they should join club activities.

・解説・

最初に「あなたの意見を書く。」賛成か反対を明確に述べる。
次に"I have two reasons"と理由が２つあることを示す。そして、１つ目の理由を First,……と述べ、２つ目の理由を Second,……と順序だてて述べる。

準２級では、より説得力のあるライティングが求められる。そのためにもそれぞれの理由について支持したり、裏付けとなる「理由を支持する説明」（自分の経験や具体例）が求められる。

結論は「あなたの意見」の繰り返しでかまわない。答え方の「型」でも、Therefore,(そのため、それゆえ)に続けて I think...と意見が繰り返されている。意見にある take part in (参加する)を同じ意味の join に変えることで表現力の幅をアピールしている。

なお、I have two reason.は語数が十分足りているようであれば省略してもかまわない。

④スピーキング

英検１次試験合格者に向けて実施した。２次試験の流れを説明し、実践形式で行った。一通り行った後に解説を行い再度類題で実施した。実戦形式で行う前に面接官が当日言うであろう英文をプリント等で渡し、どのようなことにも対応できるよう指導した。また、２次試験冒頭の音読では細かい発音部分や相手が聞き取りやすい音読をするよう指導した。課題としては、音読の際の読めない単語の対応や問題後半にある質問に対して自分の意見を瞬時に言うことを生徒たちは苦手としていた。対策としては音読に関しては、区切りで読むことや日頃の授業での音読に力を入れることを指示した。また知らない単語が当日に出てしまった場合は止まることなく自然に読むよう声掛けをした。自分の意見をスピーキングで言う際はライティングで指導した型の流れに沿って言うことを指導した。スピーキングは相手との会話をメインとしているためコミュニケーションをとろうとする態度等も評価の対象になっている。たとえ完璧な英語を言えなくてもジェスチャーやアイコンタクト等で伝われば点数につながってくることも指導した。

4. 今年度の英進進学コースにおける英検合格者（第１回、第２回英語技能検定合格者）

級	合格者数	内訳
２級	３名	３年生…４名
準２級	10名	３年生…１名、２年生…５名、１年生…４名
３級	20名	３年生…２名、２年生…７名、１年生…10名

5. 来年度に向けて

今年度から英進進学コースは英検だけではなくGTECも実施されるようになった。大学共通入試での英語外部試験の導入は延期されたが、推薦入試等で大学入学を希望している生徒は積極的に取得してほしいと考えている。出願条件に英語外部試験の級や点数を条件としている大学が数多くなっている今、日ごろから将来を見据えて計画的に勉学に励んでほしい。また、英進進学コースでは４技能をバランスよく育てるためタブレットを用いた授業を来年度計画している。

（4）IB授業実践例

外国語コース　　小湊　　陽

テクストの概念化を意識した授業実践
―IB新ガイド「グローバルイシュー」と文部科学省「ESD」を視野に入れた授業実践―

緒言

この度は『仙台育英学園高等学校　2020年　研究紀要　第35号』における「IB授業実践例」の執筆者の推薦と執筆機会をいただきました。執筆詳細は、授業担当しているDP（Diploma Programme）「Japanese A HL（言語A：文学）」の授業実践例を国際バカロレア教育の多角的な視点とともに、文部科学省「ESD」の視点の加味、また2021年に改定される新ガイド（言語A：文学）の大きな変更点を想定した授業課題を主眼に及び、著していく。

教師として未熟者、そして国際バカロレア教育の経験が浅い私が本稿を執筆し、また卑見を申し上げることをお許し下さい。

Ⅰ.「概念」について

先だって、国際バカロレア教育の説明をしなければならないが、昨年度の『仙台育英学園高等学校　2019年研究紀要　第34号』に国際バカロレア教育についての詳細が記述されている紀要があるため、ここではその説明を割愛させていただくことにする。国際バカロレア教育の全容については、そちらを参照していただきたい。

国際バカロレア教育の中で大切にされているものに「探究」と「概念（的理解）」がある。国際バカロレア教育の中では、この2つを通じて「IBの使命」を達成し、生徒をIBの「学習者像」に近づけるための方法が体系化されている。「探究（探求）」は、文部科学省『新学習指導要領』の改定においても掲げられている言葉のため、今後の教育現場の中に浸透し、重要な役割を果たす言葉であると推測される。また「概念」については普段、教育現場の中では聞きなれない言葉である。しかし、昨今のOECD（経済開発協力機構）加盟国に行うPISA（国際生徒評価のためのプログラム）では、「思考プロセスの習得」「概念の理解」が調査の対象と明示されている。ここで「概念」という言葉が明確化されていることから、「概念」は今後の世界規模の教育に欠かせないキーワードになることが期待される。またIBにおいても、2011年に施行される新ガイドは、現ガイドに比べ、大きく「概念」という言葉が強調されている。IBにおいても、「概念」は重要なキーワードとして扱われている。その詳細について述べていきたい。

「概念」とは、「つながり」「変化」「論理」のような、様々な状況で用いることのできる抽象的なキーワードのことである。Erickson（2008）は、「概念」を次の基準を満たすものと定義している。

- 時間、場所、空間を横断して意味をもち重んじられる。
- 抽象的である。
- 簡潔である。（1，2語、あるいは短いフレーズで表現されている）
- 特定の例に共通する属性を表す。

また、『「言語と文学」指導の手引き』の中では、

- 概念とは、教科内と教科間に両方において関連性をもつ、幅広く、有力で、体系化を可能にする考えです。概念の探究は、生徒が複雑な考えに取り組む能力を構築するのに役立ち、トピックの背後にある「大きな概念」について議論することで、生徒は、特定の単元や選択項目を学んでいる理由の核心に迫ることができます。また、概念を通じた指導と、生徒を高次の思考へと導くことの間には、強い関連性があります。例えば、生徒は具体的な思考から抽象的な思考へと移行し、学習を新しい文脈に適用することができるようになります。
- 概念とは「重要な観念（big idea）」です。これは永続性を持つ原則または観念で、その重要性は特定の起源、対象、または時間を超越するものです。

とされている。この定義に従えば、「概念」は教科の垣根を越えて、教科横断的に用いることが可能なキーワードであると言える。

2021年に施行する新ガイドにおいては、MYP（Middle　Years　Programme）での、「重要概念」「関連概念」「グローバルな文脈」をふまえた概念的理解を継続的、積極的に取り入れた探究の推奨が明記されている。新ガイドで明記されている概念は以下の通りである。

・アイデンティティー	・文化	・創造性	・コミュニケーション	・観点	・変換	・表現

これらの概念を、今まで以上に積極的に授業に用いていかなければならない。

Ⅱ．IBのグローバルな問題（グローバルイシュー）と文部科学省の「ESD」との共通点

「概念」の概要を理解した上で、授業の教材において「何を概念とするのか」「また何が概念となりえるのか」が授業者として試行錯誤するところである。

概念的理解を促すのに必ず必要となるのが「グローバルな問題（グローバルイシュー）」である。これは2021年施行の新ガイドから初めて記載された言葉であり、最終試験「内部評価―個人口述」の際も非常に重要になるトピックである。MYPにおいては、「グローバルな文脈」として位置づけをされていたが、新ガイドの移行に伴い、DPにおいても、概念的理解を強調するために取り入れられたと考えるべきであろう。

「グローバルな問題（グローバルイシュー）」の特徴として以下の3つが挙げられる。

・広範な規模で重要性をもつ
・国境をこえて存在する
・地域の日々の生活に影響を及ぼす

また、「グローバルな問題（グローバルイシュー）」のトピックの例として、以下のものを挙げている。

・文化、アイデンティティー、コミュニティー
・信念、価値観、教育
・政治、権力、正義
・芸術、創造性、想像力
・科学、テクノロジー、環境　　※各トピックの説明は省略

上記のものを、各教材・単元内容から見出し授業を行うことが肝要となるだろう。

「グローバルな問題（グローバルイシュー）」を主眼に述べてきたが、文部科学省「ESD」についてもふれておきたい。「ESD」とは、次のようなことである。

（以降、文部科学省のHPより）

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

とある。また、以下に「ESD」の目標や概念図などを列挙する。

【目標】

・全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
・持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
・環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

図 1．ESD の概念図

【育みたい力】

- 持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
- 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
- 代替案の思考力（批判力）
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

【学び方・教え方】

- 「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること
- 単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとること
- 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

上記を参照すれば分るように、IBにおけるMYPの「グローバルな文脈」、DPの「グローバルな問題（グローバルイシュー）」と共通する点が多く存在する。また、文部科学省の教育の中で「概念」というキーワードが出てきたこともIBが求めるところの「概念的理解」の重要性を顕著にした一例としてもよいのではないだろうか。いずれにしても、文部科学省も次世代を見据えた学習体系や概念的理解を意識した学習の意向を示しているように捉えられる。だからこそ、これからの授業には概念的理解が必須であることを考えるべきである。

Ⅲ．Japanese A HL（言語A：文学）の目的

ここまで、IBの授業における重要となるキーワードについて述べてきたが、ここでは私が実際に指導をしている「Japanese A HL（言語A：文学）」について述べていく。

IBでは「Japanese A HL（言語A：文学）」について、次のように述べている。

「言語A：文学」では、文学を私たちが世界についてもっている概念や解釈、そして経験に関わるものとして捉えています。したがって、文学の学習は、人類が日々生きている上で出合う複雑な営みや不安、喜び、恐怖などを象徴的に表す方法を探究するものであると考えています。文学は、人類の創造的活動の中でも、長い歴史をもつ分野の1つです。「言語A：文学」では、文学の探究を通じて、自立的に考え、独自性に富んだ、批判的かつ明晰な思考の発達を促します。また、文学作品の理解と解釈では、想像力への敬意を育み、

知覚的アプローチに取り組みます。
「言語Ａ：文学」は、幅広い文学の学習を通じて、生徒が文学の芸術性を味わい、各自の見解について批判的に振り返りをする能力を身につけることを奨励しています。また、個々の文章や段落についての綿密な学習や、さまざまな批評のアプローチの検討を通じて、文学作品を文学的文脈と文化的文脈に位置づけて文学作品を学びます。IBの国際性と多様な文化の理解への取り組みを反映し、「言語Ａ：文学」コースでは、1つの文化、あるいは複数の文化に根ざした1つの言語で書かれた文学作品だけではなく、幅広い文学を学びます。翻訳作品の学習は、文学作品を通じて異なる文化の視点を導入する上で特に重要です。文学の学習は、口述および記述でのコミュニケーションを通じて行うため、生徒は、言語運用能力を高め、洗練させることができます。

IBが示す文学の定義は幅広く、物語作品や歌詞、新聞広告、ポスターに書かれている言語テクストをはじめ、映画やCMのような非言語テクストも文学の一部としている。2016年、アメリカのミュージシャンであるボブ・ディラン氏の楽曲で使用した歌詞が評価を受けノーベル文学賞に選出された。このことを背景に世界的にも文学の定義や考え方が再考されてきているように感じられる。また、今後の文学の可能性を教員自身も考えていかなければならない。

上記で述べられているように、「探究」「概念」「批判」に併せて「振り返り」は、IBにおいて根幹となるトピックであることを忘れてはいけない。また、「口述および記述でのコミュニケーション」とあるように、従来からの日本の講義型の知識基盤授業ではなく、生徒が主体的かつ自主的に学べる環境も教員は作らなくてはならない。IBにおける教員の役割については、後ほど詳しく述べることにする。IBの生徒主体の学習態度については、今後、2020年から2030年にかけて施行が予定されている文部科学省『新学習指導要領』の中でも重視されており、多くの教育現場で展開されることが予想されている「アクティブラーニング」と類似する点が多く存在する。「アクティブラーニング」とは、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」と定義されている。「学ぶ内容」に言及した概念ではなく、「学び方」に着眼した概念である。これらは、基本的な知識の習得を前提とした上で、具体的な課題の発見・解決を通じて思考力・判断力・表現力を磨くことが目的とされている。そうすることで、既存の知識や技能が新しい形で体系化され、自己の中で再構築されて定着していくことも期待されている。

今後の日本の教育では、学習内容や学習課題はもちろん、学び方についても、学校内で共有を図り、積極的な実践を行わなければならない。

Ⅳ. 授業実践例－夏目漱石『こころ』で描かれる自殺と現代社会の自殺の比較―
～ MYP関連概念「テクスト間の相互関係」を意識して～

私が実際の授業で使用した作品は、夏目漱石『こころ』である。言わずと知れた名著である。日本に文学史上、一番読まれた文学作品とされ、文部科学省の検定教科書においては、どの出版社においても教材として扱われている。この作品における主題（テーマ）については2つ考えることができる。1つは「恋」であり、2つ目は「死（自殺）」である。前者については、登場人物をめぐる「恋」が作品内に描かれていることから容易に想定することができる。後者についても、登場人物が「自殺」をするという描写から想定することができる。

では、実際の授業実践においてはどのような授業を行い、IBが目的とする探究と概念（的理解）を促していくのかを確認していくとともに、先に述べた「グローバルイシュー」や「ESD」も視野に置き、確認をしていきたい。

私の授業では、基本的に新しい単元（ユニット）の初回の授業でパワーポイントを活用したスライド資料を用いての講義を行う。スライド資料の詳細は、著者や作品の知識、作品成立時の時代背景を含めた、作品の周辺知識を講義型授業で展開する。その後、作品を学習する上での共通理解しておくべき、最低限のあらすじを含めた知識や情報を提供する。

2時限目以降の授業については、生徒たちが主体的となって行う授業及び活動となっている。授業内容については、作品内でのテクスト（描写、文法的技法、表現技法）に着眼させながら精読し、「そのテクストが存在することで、物語の展開にどのような効果や影響を与えたか」「登場人物の設定は、物語の展開にどのような効果や影響を与えているか」など、作品の主題（テーマ）、核心に少しずつ迫る問い（プロンプト）を提供していく。その過程で教員の役割として肝要となるのが、問い（プロンプト）の提供の仕方である。IBにおける教員の役割はファシリテーターとされている。ファシリテーターの役割は、ある一定の知識や見識を提供するのではなく、中立的な立場から生徒の活動内における課題には強く及ばない活動の支援を行うことである。私が授業内で行っている役割は、様々な問いを投げかけることや生徒が課題やディスカッションに行き詰った際に、視点を変えさせる助言や活動に対する肯定的な声掛けである。注意しなければいけないことは、課題に言及したアドバイスを行わないことである。生徒は作品から多くの概念を抽出し、探究しなければならない。そのため、作品のテーマ（主題）や概念を教員が先走って明示することは避けなければならない。また、問い（プロンプト）においても、

あまり具体的な一問一答のような知識に結びつく問いかけではなく、MYPで掲げている「探究の問い」(「事実的な問い」「概念的な問い」「議論的な問い」)を織り交ぜながら生徒の支援を行うことが大切である。MYPにおける「探究の問い」の説明は以下のものである。

事実的な問い	概念的な問い	議論的な問い
・知識・事実に基づいている ・内容主導である ・スキルに関連している ・証拠によって裏づけられている ・探究テーマの用語を検証するために用いることができる ・しばしば時事問題的である ・回想や読解を促す	・事実とトピックをつなぐような大きな考え方の探究を可能にする ・比較・対比させる機会を強調する ・矛盾を探究する ・教科内の、そして学際的な内容についてのより深い理解に導く ・なじみのある、あるいはあまりなじみのない状況、課題、アイデア、文脈への移行を促す ・分析と応用を促す	・ある立場で議論するために事実や概念の使用を可能にする ・議論を推進する ・重要な観念や問題を多角的なものの見方で探究する ・競い合うことができる ・緊張感がある ・故意に挑発的になりうる ・統合と評価を促す

これら3種の問いを効果的に用いることにより、自発的な活動とともに、概念を探究する上でのよりよい支援になると考えている。また、生徒においては、生徒たち各々が、この3種の問いを作成させ、自身で探究させることも持続的な概念への探究に結びつくと考えている。

先にも述べたように、授業では上記に示した3種の問いを活用しながら、概念の探求していくことを論及したが、概念の探究とともに批判的思考(クリティカルシンキング)も身につけていかなければならない。批判的思考(クリティカルシンキング)と聞くと、日本の教育界では鋭利に聞こえるかもしれないが、2020年に施行予定の文部科学省『新学習指導要領』の改定において、「新しい学力観」の一つのキーワードに「批判的思考(クリティカルシンキング)」も含んでいるため、今後の日本の教育界にも積極的な推奨が行われるべきであろう。また、3種の問いを活用しながら、生徒自身で問いを立てさせ、自身で文脈を探究し、問いに対する自分の考えをエビデンス(根拠)を示す作業、いわば仮説と検証を繰り返すことにより概念的理解を含んだ深い学びに結び付けられると考えている。

Japanese A HL(言語A:文学)には、『「指導の方法」と「学習の方法」』として次のようにある。

> 生徒の有意義で体系的な探究と、批判的思考(クリティカルシンキング)や創造的思考を促すため、教師がファシリテーターとしてより効果的なストラテジーを立てられるよう支援する。

また、『「言語A」の学習』では、

> 文学を私たちが世界についてもっている概念や解釈、そして経験に関わるものとして捉えています。したがって、文学の学習は、人類が日々生きている上で出合う複雑な営みや不安、喜び、恐怖などを象徴的に表す方法を探究するものであると考えています。文学は、人類の創造的活動の中でも、長い歴史をもつ分野の1つです。「言語A:文学」では、文学の探究を通じて、自立的に考え、独自性に富んだ、批判的かつ明晰な思考の発達を促します。また、文学作品の理解と解釈では、想像力への敬意を育み、知覚的アプローチに取り組みます。
>
> 「言語A:文学」は、幅広い文学の学習を通じて、生徒が文学の芸術性を味わい、各自の見解について批判的に振り返りをする能力を身につけることを奨励しています。また、個々の文章や段落についての綿密な学習や、さまざまな批評のアプローチの検討を通じて、文学作品を文学的文脈と文化的文脈に位置づけて文学作品を学びます。

とある。学習の中では、問いをはじめ生徒自身が疑問に感じたことをアウトプットさせ、生徒同士で質問等を繰り返すというサイクルを習慣化することで、批判的思考とともに概念への探究の継続化を可能とする。

Japanese A HL(言語A:文学)という教科の性質上、あらすじや内容に即した読解等の探究が肝要となるところだが、IBでは学際的な学習にも発展させなければならない。学際的とは、教科横断的学習のことである。教科内の探究にとどまらず、他教科との連携を図り、相互に関連付け学習を発展してさせていくというものである。これらが先にも述べた、「グローバルイシュー」や「ESD」に掲げられている課題や概念に大きく関わるところである。次世代の課題や起こりえる問題はもちろんだが、いかに自分の身のまわりの環境や周辺の出来事、事象に意識を向け、関連づけられるかが大きなポイントと言えるだろう。

『こころ』の場合、探究の中で一つの主題(テーマ)となりえるのが、「死(自殺)」である。物語で起こった

出来事（自殺）を、我々が生きる現代社会の事象（自殺）と照らし合わせ、比較し、共通する概念を考える。「物語の中の登場人物が自殺した理由は何か」といった、文脈における探究を行い、その後、他教科へ発展できるようなテクスト資料を提供する。実際の授業で使用したテクスト資料は、NHK総合テレビで2018年9月18日（火）に放送された『クローズアップ現代―「縁切り死」なぜ愛する人が突然…』である。実際の授業で使用したものについては、放送された番組の内容をテクスト（文章）化したものである。「縁切り死」とは、近年、どこの誰とも分からない身元不明の遺体が年々増加し、なかでも、家族・知人の前から突然いなくなり、縁もゆかりもない場所に行って身元がわかるものを一切捨て去り自ら命を絶つことを番組の中では“縁切り死”と呼んでいる。その「縁切り死」について、番組内で作家や心理カウンセラーが独自の見解を示し、考察している。授業では、その各業界人の見解や考察を活用し、探究を行う。まず探究の問いとして、「『こころ』の登場人物の自殺は、物語の展開にどのような影響を与えたか」「『こころ』の登場人物が自殺した理由は何か」「『こころ』が舞台である明治時代と現代社会における「自殺」に相違はあるか」といった抽象的な問いを提供する。その際は、生徒の発言を否定的に受け入れるのではなく、肯定的な姿勢で全員での共有を図る。それにより、様々な考えが生まれ、発言しやすい環境が整う。問いに対して、生徒が自身の考えがまとまった段階で資料を提供する。テクスト資料は現代社会の出来事であるため、必然と『こころ』で描かれている「自殺」との比較になる。またテクスト資料には、各業界人の複数の自殺に対する視点の見解や考察が記述されているため、多くの刺激を受けることができる。そこで、生徒自身の自殺に対する考えとテクスト資料の見解や考察を比較して、「テクスト資料のどの意見が自身の考えと近いか、また共通しているか」を探究させる。そして、「なぜこういう考え（自殺の動機など）が現代社会でも存在するか」を考えさせることにより、時代や時間軸、TOK（知の理論）などの教科を横断した深い概念理解を促すことが可能となる。実際のところ、「自殺」というのは最終的な死の至り方であるため、動機までは描かれていない。その描かれていない部分を、どのように作品知識や現代社会の周辺知識と結び付け、エビデンス（根拠）を示し、考察させるかが肝要な点である。また、「死」という抽象的な概念を扱うことで、他教科への転移を常に考えながら授業を進めていかなくてはならない。この授業の場合、IBのコア科目（必修科目）であるTOKや『こころ』以外のテクスト資料への転移やアプローチができる。

授業におけるまとめとしては、リフレクション（振り返り）のエッセイを書かせることで、どの程度、概念的理解や自分の考えを発展させることができたかを確認することができる。

Ⅴ．おわりに

今後は、文部科学省『学習指導要領』の改定により、日本の教育が大きな転換期を迎えることが予測される。私見であるが、改定の大きな意図としては、文部科学省の提唱する「新しい学力観」における「アクティブラーニング」や「ICTの活用」というものは、学習の内容に強く触れたものではなく、「学ぶ姿勢」や「学ぶ手段」に言及していることが主であると捉えている。今後はあらゆる事態を想定したことを教育の現場で対応していかなければならないが、IB教育においては、すでに「新しい学力観」を超越した内容がカリキュラムに盛り込まれていると考えている。国際的全人教育と言われている「国際バカロレア」は、今後の世界を担う教育に発展すると堅く信じている。

また本稿を執筆するにあたり、多くの研修への参加機会を認めていただいた加藤雄彦理事長校長先生をはじめする、日々、ご指導とご批正をくださる本学園の職員の皆様に感謝を申し上げ結びといたします。

・半田淳子［編著］『国語教師のための国際バカロレア入門　授業づくりの視点と実践報告』大修館書店　2017年
・中村純子・関康平［編著］『「探究」と「概念」で学びが変わる！　中学校国語科　国際バカロレアの授業づくり』 明治図書　2019年
・斎藤孝『新しい学力』 岩波新書　2016年
・中村純子『IB教育における国語科授業とアクティブラーニング（AL）に関する総合的研究』 東京学芸大学IB＆AL研究会　2017年
・中村純子『国際バカロレアにみる国語科教育の方向性－PYP・MYP・DP「言語A」カリキュラム分析―（東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅰ　第70集）』 東京学芸大学　2019年
・国際バカロレア機構『MYP：原則から実践へ』 2014年
・国際バカロレア機構『「言語A：文学」指導の手引き』 2015年
・国際バカロレア機構『「言語A：文学」教師用参考資料』 2015年
・国際バカロレア機構『「言語A：文学」指導の手引き』 2021年第1回試験
・国際バカロレア機構『「言語A：文学」教師用参考資料』 2021年第1回試験
・文部科学省　日本ユネスコ国内委員会「ESD」 http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm
・新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 東洋経済新報社　2018年

International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

DP単元指導案1

教師名	小湊　陽	教科および科目	言語と文学		
シラバスのセクションおよびトピック	Part3　ジャンル別学習 『こころ』 夏目漱石	レベル（SLまたはHL）と学年	HL ２年生	日付	2019年 8月28日（水）～
単元の説明および使用する教材等		本単元のためのDPの評価			
『こころ』 夏目漱石　新潮文庫		個人口述によるプレゼンテーション（10分～15分）・振り返りのエッセイ			

探究：単元の目標を設定する

転移（transfer）の目標

本単元の全体を通して重要となる長期目標を1～3つ挙げてください。転移の目標とは、生徒が単元の学習で身につけた知識、スキル、もしくは概念を、教師によるスキャフォールディング（足場づくり）なしで新しい環境や異なる状況に転移させ、応用できるようになることを掲げる重要な目標です。

・文学を精読することで身につけた考察する力や推測する力を作品中の文章や表現に着眼し、論理的に根拠をあげて説明できるようになる。

・作中の出来事、登場人物が置かれている立場、環境（ジェンダー・アイデンティティ、ジェネレーション、カルチャー等）は現代と通ずるものはあるか。また、それらのことが生まれる環境にはどのような背景が考えられるか。

・物語の出来事や概念を、現代社会の時事等に結びつけ、概念を共有する。

International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

行動：探究型の「指導」と「学習」

理解すべき重要な内容、スキル、概念	学習のプロセス 単元の指導方法に当てはまるものをチェックしてください（複数選択可）。学習を手助けするさまざまな方法を探ります。
生徒は以下の内容を学びます ・作者について理解をする。 ・作品成立時の社会背景などを理解する。 ・作品の登場人物について理解する。 ・特定の時間や空間の中で登場人物がどのような変化をしていったかを理解する。 生徒は以下のスキルを身につけます ・学習した作品が教科を横断して、知識を広げ、結びつけることができる。 ・学習した作品について、自分なりの意見や推測を示すことができる。 ・口述プレゼンテーションにおいて、一貫した論理性を保つことができる。 ・口述プレゼンテーションにおいて、聴衆の関心を引く話術や表現をすることができる。 ・作品内の主題や概念を自分なりに見出し、文脈的根拠を示すことができる。	学習経験および自立学習に向けた方法と計画： ☐講義 ☐ソクラテス式セミナー ☐少人数のグループもしくは2人1組での学習 ☑パワーポイントを用いた講義もしくは説明 ☐個人発表 ☑グループ発表 ☐生徒による講義または進行 ☑学際的な学習 詳細： ☐その他： **形成的評価：** ・作品に対する解説文・メモ（「振り返りのエッセイ」の活用） ・口述プレゼンテーション

生徒は以下の概念を理解します ・作品のテーマは何か。 ・「恋」「自殺」は人間関係を形成する上で、どのよう影響を及ぼすことが考えられるか。 ・人間のエゴイズムは、どのようにあらわれるか。また、それは現代社会と通ずるものはあるか。 ・「恋」や「自殺」などの出来事は、人の人格形成にどのような影響を与えるか。 ・テーマを表現するために、用いられた工夫（構成、登場人物の設定、言語表現、イメージ、シンボル、モチーフ）はどのようなものか。	
	総括的評価: ・IB試験：筆記試験（Paper2）－小論文
	差別化（ディファレンシエーション）した指導： ☑アイデンティティーの肯定――自尊心を育む ☐すでにもっている知識を尊重する ☐スキャフォールディング（足場づくり）で学習を促す ☑学習を広げる 詳細: ・個人の心情により、理解（読み方、解釈）が異なる単元のため、個人で行う活動を賛成し、考えや意見をできるだけ肯定した活動に重きを置く。 ・物語で描かれているような出来事は、現代社会にも存在するかを調査する。また、意見の共有を行う。

International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

学習の方法 本単元における「学習の方法」へのつながりについて当てはまるものをチェックしてください。「学習の方法」の詳細についてはこちらをご覧ください（複数選択可）。
☑思考スキル ☐社会性スキル ☑コミュニケーションスキル ☐自己管理スキル ☐リサーチスキル 詳細: **【思考スキル】** 〇批判的思考スキル ・問題を認識するために注意深い観察を実践する。 ・議論を形成するために関連する情報を集め、整理する。 〇創造的思考スキル ・推測し、「もし～だったら」という問いかけをし、検証 可能な仮説を立てる。 〇転移スキル ・異なるものの見方を身につけるために、異なる文脈を 探究する。 ・多数の教科や学問分野を横断して概念的理解を比較 する。 ・複数の教科や学問分野を関連づける。 ・さまざまなものの見方を身につけるために探究におけ る文脈を変更する。 **【コミュニケーションスキル】** 〇コミュニケーションスキル ・コミュニケーションを解釈する際に多様な文化の理解 を用いる。 ・他の生徒や教師と考えや知識について話し合う。 ・批判的に、そして理解するために読む。 ・授業において効果的なメモをとる。

・要約やエッセイ、レポートにおいて情報を構築する。

「言語と学習」へのつながり	「知の理論」（TOK）へのつながり	「創造性・活動・奉仕」（CAS）へのつながり
本単元における「言語と学習」へのつながりについて当てはまるものをチェックしてください（複数選択可）。IBの言語と学習の方法についてはこちらをご覧ください。	本単元における TOK へのつながりについて当てはまるものをチェックしてください（複数選択可）。	CAS へのつながりについて当てはまるものをチェックしてください（複数選択可）。いずれを選択した場合にも、「詳細」欄に、生徒が単元の中でどのように CAS に取り組んだかを簡単に説明してください。
☑背景知識を活性化する ☑新たな学習のためのスキャフォールディング（足場づくり）を行う ☐実践を通して新たな学びを得る ☐能力を発揮する 詳細: ・他の参考文献を活用する。 ・他教科の資料を活用する。	☑個人の知識と共有された知識 ☑知るための方法 ☑知識の領域 ☐知識の枠組み 詳細: **【知るための方法】** ・感情　・理性　・論理 **【知識の領域】** ・ヒューマンサイエンス　・倫理 ※上記に結び付け、物語に存在しえる概念を模索し、現代社会にも通ずる概念があるかを探求する。	☑創造性 ☐活動 ☐奉仕 詳細:
資料 本単元で使用する資料がある場合には、ここに記入したうえで、資料を添付してください。		

・NHK 総合『クローズアップ現代』 2018 年 9 月 18 日（火）放送回 【「縁切り死」なぜ愛する人が突然…】資料

・吉本隆明 『夏目漱石を読む』

・吉本隆明 「講演会記録」

振り返り：計画、プロセス、探究についての考察

うまくいった点	うまくいかなかった点	備考・変更点・提案
本単元において成功した部分（内容、評価、計画）を挙げてください。	本単元において期待通りにいかなかった部分（内容、評価、計画）を挙げてください。	本単元の今後の指導について、コメント、提案、検討事項があれば挙げてください。
・多数の資料を用いることで、概念的理解を探求することができたことに加え、教科横断型の探求を展開することができた。 ・実際の筆記試験（Paper2）を想定した設問や比較探求、課題をこなすことで、筆記試験に対する意識させる時間をつくることができた。	・学園が繁忙期ということもあり、授業と行事等の重なりから計画的な進行ができなかったことが多々あった。 ・多数の資料を用いたが、その資料を活用した探求まで及ぶことができなかった。	**【ディスカッションの議題】** ・先生が奥さんに秘密にする理由は何か（下－56） ・「自分以外のある力」とは何か（下－52） ・「明治の精神」に寄せて自殺する理由は何か ・先生の善悪とは何か ・「自殺」する意味は何だろうか ・「自殺」が与える影響はどのようなものが考えられるか ・『こころ』の中で描かれている「自殺」は展開にどのような影響を与えただろうか ・『こころ』の中の「自殺」と現代社会における「自殺」に共通する概念はあるだろうか ・『キッチン』と『こころ』を比較して、共通する概念は存在するか

NHK総合『クローズアップ現代』　2018年9月18日（火）放送回　一部抜粋
【「縁切り死」なぜ愛する人が突然…】

どこの誰とも分からない、身元不明の遺体。その数は年々増加し、全国でおよそ2万体にのぼる。なかでも、家族・知人の前から突然いなくなり、縁もゆかりもない場所に行って身元がわかるものを一切捨て去り自ら命を絶つ、いわば“縁切り死”とでもいうべき死を選ぶ人が目立っている。その背景には何があるのか。番組では、縁切り死を選んだ人の身元を特定し、家族・知人のもとに返す警視庁の「身元不明相談室」を今回はじめて密着取材。一人ひとりの足跡を追うとともに専門家たちの「読み解き」を交え、現代社会の知られざる一断面に迫る。

○NPOライフリンク　代表　清水康之さん

「残される人たちのことをまったく考えないのであれば、わざわざ追跡できないよう形で亡くなる、自殺するということはないのではないか。負担をかけるぐらいであれば、自らその状況を回避するために、自ら死にたい、でも自殺で亡くなると知られると、残される人たちに過度な負担をかけかねないという中で、知られずにそっと姿を消すということを考えた可能性はある。」

○精神科医　香山リカさん

「自分のことは無価値な人間だとか、迷惑をかけているとか、いなくなっても誰も困らないから、せめて消える時はひっそり消えたい。自分はそんなに大したことないとか、死んでみんなに惜しまれるような人間じゃないと思った場合、今日だってたくさんの人が消えたって、世の中、普通に動いているんじゃないと思って、だとしたらそれで良いんじゃないかなと思ってしまうことがある。」

○作家　平野啓一郎さん

「その人がどんなに多様で複雑な人生を生きてきたとしても、自殺をしてしまうと、自殺をした人っていうふうに見られてしまう。それまでの彼の言動とかが、すべて自殺の予兆のように結びつけられてアイデンティティを整理されてしまうところがあって。最期は自殺した人として記憶に残るのではなくて、良かった関係のまま、その人の心の中に残りたいっていう気持ちもあるのではないか。」

「本当の人間関係っていうのは、何もかも打ち明けて、お互いに理解してという、ある理想を抱いてしまっているために、すごくプレッシャーになっている。言いたくないことを言わないとか、好きだからこそ黙ったままでいるとか、非常に複雑な感情があるのが、本当の人間関係だと思う。そういう人間の複雑さに対して、繊細な感受性を持って、優しく見守るというような態度をもっと身につけるべきではないか。」

(5)「せんだいまなびや」の導入

技能開発コース　　宮浦　靖次

1. はじめに　せんだいまなびやとは、ねらい・目的

「せんだいまなびや」は仙台育英学園高等学校「技能開発コース」の高校生が運営するオンラインショッピングモールの名称です。この学習モデルは、2001年、静岡市の城南静岡高等学校（以下、城南静岡高とします。）でスタートしました。Web上にモールを立ち上げ、生徒自身が営業活動をして、地域の企業の製品を展示・販売し、あるいは企業のバナー広告を掲載し、情報ネットワーク社会を生きるための主体性や協調性を育てる21世紀型の総合的・実践的な学習活動です。生徒たちが主体となって、出店企業との打ち合わせや取材に出向き、商品の撮影、画像加工、デザインチェック、ページ制作やプレゼンテーションなどを行います。現在は九州地方を中心に全国で20弱の高校がそれぞれの「まなびや」を運営しています。

導入に至る経緯は、加藤聖一常務理事にご尽力いただいて、2018年6月に、開発の中心となった城南静岡高の久保教頭先生、管理業務全般の委託先㈱まなびやの永嶋社長、システムの保守点検を担当する㈱テルヤの橋本部長にご来校いたき、7月初めに本校教務部長と多賀教頭先生で、城南静岡高の「まなびや出店説明会」を視察しました。40名余りの生徒スタッフが生き生きと活動し、優れた実践的な、アクティブラーニングの典型と認識しました。

7月中旬に、加藤雄彦校長先生ご臨席の下で視察報告を行い、「まなびや」の導入を決め、翌月には、㈱まなびやと管理委託契約を締結しました。さらに、加藤常務理事のご助言をいただきながら、学校設定科目「せんだいまなびや講座」の検討を本格化しました。

2. 2018年「せんだいまなびや」の取組みがスタート！

2018年、東北初の実施校として、高校生が運営するオンラインショッピングモール「まなびや」がスタートします！仙台育英学園高等学校　技能開発コースでは、生徒の将来の目標に合わせて数多くの学校設定科目を設置しています。「せんだいまなびや」は2019年4月から、科目の1つとして取り入れることになりました。

ひとあし先に、「同好会 せんだいまなびや」が始動！

授業に先駆けるかたちで、2018年9月に「同好会 せんだいまなびや」を創設。メンバーは技能開発コースの1・2年生計14名。サイト開設や企業訪問に向けた準備を進めながら、活動をスタートさせました。

3.「まなびや」の具体的な内容について、城南静岡高等学校の活動報告書より紹介します。

3.1　内容

高校生による本格的なeコマース・Webサイトの研究として、城南静岡高等学校「まなびや」2001年12月15日オープン、企業からのアドバイスをいただきながら、産学共同で研究しながら授業としています。2016年度の売上高は3,156,070円、アクセス数は612,946件（2017年12月調査）。

まなびやでは、会長・社長・専務・課長などの役職を設け、会社組織として運営。毎月、幹部スタッフと教員から構成される「まなびや運営委員会」を開き、目標を定め、イベントなどを企画・運営しています。スタッフ（生徒）が授業中に出店企業との打ち合わせや取材に出向き、商品の撮影・画像加工・デザインチェック・ページ制作を行います。企業出店説明会では、パワーポイントを利用したプレゼンテーションや個々の説明から契約まで、すべて高校生が行っています。このほか、報告会やプロモーション、報道機関へのニュースリリースなども企画・運営しています。

3.2　特徴

これまで学校主導型のホームページで商品が販売されたことはありましたが、ほとんどが期間限定や学校間の仮想取引でした。しかし、「まなびや」は24時間365日オープンのモールで、オンライン環境に慣れていることを目的として、その運営は生徒の手に委ねました。現在、生徒の手により3万ページ以上が制作され、その中には「静岡の観光名所」や「グルメ特集」などもあり、アクセス数を増やすためのコンテンツの制作にも励んでいます。

また、「まなびや」は全国の高校生に学べるように、城南静岡高等学校をはじめ、全国の学校にもコンテンツを提供しています。

3.3　経過・成果

この実践型に参加した生徒たちは、ビジネスマナーから高度なホームページ制作技術を学び、ビジネスに対する自主性を確実に育んできました。企業との打合せや営業を通し、社会人と接することで、進路に対しての意識が高まりました。教室の中の授業だけでなく、企業に直接出向いて担当者と掲載商品について検討するアクティブラーニングは、生徒に大きな自信と創造力をもたらしています。

進学については推薦進学で「まなびや」の活動が評価され、早稲田大学や立命館大学に毎年進学できるようになりました。大学の進学者も9名（2004年度）から120名（2009年度）を超える状況になりました。また、就職では企業から直接求人をいただくなど、企業からの反響も大きなものがあります。

まなびや　オンラインショッピングモールのイメージ図

まなびやの概要

1. 企画　企業と共同でオンラインショッピングモールを運営する
   日本初の21世紀型授業（産学一体型研究開発）
2. 目的　次世代を担う人材の育成・企業の新分野開拓
3. 協力企業　出店協力企業500社（目標）
4. 協力形態　出店の協力・Webサイト共同制作・商品の共同開発・市場調査・
   通信セキュリティ費の協力　販売利益は全額企業へ
5. 出店品目　10品目程度（要相談）または毎月のニュースの掲載

3.4　まなびや研究（または課題研究）　学習指導案　　（静岡城南高等学校）

【1】まなびや研究の目標

1. インターネットの基礎知識を学び、ウェブサイトの構築ならびに電子商取引の仕組みを学ぶ。
2. 実際のネットショップにおける可能性や問題点を研究する。
3. 企業担当者と商談・打ち合わせに必要なビジネスマナーを身につける。

4. 実際の企業の商材を「まなびやプログラム」に掲載し、オンラインショッピングモールまなびやの構築を行う。
5. オンラインショッピングモールまなびやを創り運営することによる効果や問題点を検証する。

【2】指導計画

1. 1回2時間（50分間×2）が好ましい（企業に取材に出向くため）。
2. 毎日の活動を記録する（業務日報）を提出、評価の対象とする。
3. 企業出店説明会や企業報告会を行い、生徒・企業担当者ともにオンラインショッピングモールまなびやの検証をさせる。
4. 企業の依頼に応えるため、または企業に積極的に提案できるような新商品の開発を通じて、生徒および企業の可能性を高める工夫も必要である。
5. オンラインショッピングモール構築を通して、地域社会に貢献しようとする態度を身につけることが大切である。

【3】準備する環境

1. パソコン（Windows7,8,10）
2. ホームページビルダー、Adobe Photoshop、Ms-Office
3. インターネットに接続できる環境（メール環境を含む）
4. デジタルカメラ
5. 企業出店説明会や報告会のために、プロジェクタの利用が望ましい。

【4】教員配置その他

1. 企業に訪問することがあるので、2名以上のティームティーチングが好ましい。
2. フリーソフトで構わないので、生徒に名刺を持たせたい。
3. 本格的オンラインショッピングモールのため、名称・ロゴを用意したい。
4. 取材先でのトラブルに対し、高校生総合保険などに加入することが好ましい。

【5】各単元について（各学校の状況に応じて作成してください）

1. インターネットの基礎知識（2時間×1）
   - ・インターネットの仕組みと個人情報、セキュリティ
     http://www.disney.co.jp/netiquette/
     http://www.ntt-east.co.jp/kids/anzen/index.html
   - ・サーバーとクライアントの関係（まなびやサーバーと学校の関係）
   - ・ネットショップ（楽天やアマゾン・ヤフーなどの研究）
   - ・正しいメールの書き方 http://itp.ne.jp/contents/business/kihon/email.html
     ※まなびやの企業のIDやお客様の個人情報を絶対にもらさないこと。
2. 電子商取引（2時間×2）
   - ・電子商取引の実態（売上等）
   - ・初めてのまなびや（P.P.または動画による説明）
     まなびやマニュアル　まなびや企業出店説明会スライド（パワーポイント）参照
   - ・まなびやの歴史・コンテンツの理解　　・まなびやの売上とアクセス数
   - ・消費者の信用と企業への信頼
   - ・まなびや出店企業と商品　　まなびやマニュアル（まなびや検定過去問）
   - ・業務日報の書き方　　まなびやマニュアル（業務日報の書き方）
     ※誰に聞かれても、全員が「まなびや」を説明できるようにすることが大切
3. ビジネスマナー（2時間×2）
   - ・訪問のマナー　　http://itp.ne.jp/contents/business/kihon/kihon.html
   - ・来客応対のマナー　・名刺の交換　・電話のマナー　・メールのマナー
   - ・出店説明会のマナー
     まなびやマニュアル（「訪問マニュアル（受付で）」）（飛び込み営業マニュアル）
     ※ビジネスマナーは、使わないと忘れてしまうので、ときどき復習することが望ましいが、企業に出向くことが一番効果を上げる。
4. まなびやの制作（2時間×10）
   - ・買い物の仕方　　・ログインの仕方　　・写真撮影、Photoshopによる写真加工
   - ・基本情報、特定商取引関連情報、商品情報、配送関連情報、決済関連情報、アクセスログ
   - ・ショップのTOPページの作成（ホームページビルダー）
   - ・ボタンやロゴのつくり方、リンクの設定　　・オリジナルページの作成　　・商品のフリーページ作成

   ※単元5の「企業との連絡」を並行して行うことが好ましい
   ※ロゴには「まなびや」特有の名前をつけてあることに注意！

5. 企業との連絡（2時間×20）
・企業へのアポイント（準備するものの確認）　　電話対応マニュアル
・企業訪問と取材（1ヶ月に1度が好ましい：必ず報告書提出）
・企業出店説明会（年に各1度以上、スタート時は複数回がよい）
※企業出店説明会書類参照
・報告会の開催（年に各1度以上、企業との連携が深まる）
※報告会参照
・新商品の開発（生徒の意欲が上がるだけでなく、地域貢献の一環となる）
・後輩への引き継ぎ（単元の2～3を引き継ぐことが望ましい）

4. 2019年度　仙台育英学園高等学校　「せんだいまなびや」　学習指導計画案

2019年度　第1学年・第2学年学校設定科目C学設2単位履修「せんだいまなびや」　開講

学期	月	日	曜	時間	学習内容	評価の観点				評価規準・評価方法
						関	思	技	知	
1	4	12	金	1	1・2・3学年C学校設定科目　受講生 教科について説明のオリエンテーションを行う	●				学習報告書
		19	金	2	インターネットの基礎知識　個人情報・セキュリティの知識を得る			●		学習報告書
				3	電子商取引の基礎知識 「まなびや」・Amazon・楽天市場の商取引方法を調べる			●		学習報告書
		26	金	4	7月企業出店説明会に向けて出店企業の依頼調査① （学園周辺多賀城市の企業を検索）	●				学習報告書
				5	7月企業出店説明会に向けて出店企業の依頼調査② （仙台育英学園高OB・OG関連企業を検索）	●				学習報告書
	5	17	金	6	テストサイトによるまなびやの構築 ◆店舗基本情報　◆デザイン管理　◆コンテンツ管理①			●		学習報告書
				7	同上　◆コンテンツ管理②　規格管理（サイズ・色規格） 商品登録と修正・編集（商品探索）			●		学習報告書
		24	金	8	社会人講話①：多賀城市観光協会・多賀城市市民経済部商工観光課等へ講師の依頼し、協力を得る	●				地元の良さ発見レポ
				9	同上の方々から、「まなびや」への業務方法についてのアドバイス支援を受ける		●			学習報告書
		31	金	10	ビジネスマナー①（訪問・来客対応）				●	ワークB
				11	ビジネスマナー②（名刺作成・名刺の交換）				●	ワークB
	6	7	金	12	出店説明会のマナー（マニュアル確認）				●	ワークB
				13	出店説明会の準備（5～8社に依頼する）		●			学習報告書
		14	金	14	ビジネスマナー③（電話・メールのマナー）				●	ワークB
				15	ビジネスマナー④（面接練習）				●	ワークB
		21	金	16	ビジネスマナー⑤（筆記問題練習1）				●	ワークB
				17	ビジネスマナー⑥（筆記問題練習2）				●	ワークB
備考	◆「まなびや」推進実行委員会（案）の設置　年2回程度開催予定 ◆公益財団法人　全国商業高等学校協会主催　ビジネスコミュニケーション検定試験 受験料　1,300円　令和元年7月14日受験　申込（4月16日～5月17日） 問題集（ワークB）　定価594円（本体550円）実教出版									

学期	月	日	曜	時間	学習内容	評価の観点				評価規準・評価方法
						関	思	技	知	
2	7	5	金	18	出店説明会リハーサル ・オンラインショッピングモール「まなびや」の働き				●	学習報告書
				19	出店説明会リハーサル ・出店するまでの工程について				●	学習報告書
		12	金	20	ビジネスコミュニケーション検定事前対策①			●		ワークB
				21	ビジネスコミュニケーション検定事前対策②			●		ワークB
		19	金	22	出店説明会① 運営会議・出店企業との打ち合わせ・商品撮影				●	学習報告書
				23	出店説明会② デザインチェック・プロモーション報告会				●	学習報告書
	8	30	金	24	まなびやの制作① ・買い物の仕方　・ログインの仕方			●		学習報告書
				25	まなびやの制作② ・基本情報、特定商取引関連情報、商品情報、配送関連情報、決済関連情報、アクセスログ			●		学習報告書
	9	5	金	26	まなびやの制作③ ・写真撮影、Photoshopによる写真加工			●		学習報告書
				27	まなびやの制作④ ・ショップのTopページの作成			●		学習報告書
		13	金	28	まなびやの制作⑤ ・ボタンやロゴのつくり方、リンクの設定			●		学習報告書
				29	まなびやの制作⑥ ・オリジナルページの作成			●		学習報告書
		20	金	30	まなびやの制作⑦ ・商品のフリーページ作成			●		学習報告書
				31	まなびやの制作⑧ ・ページの評価　最終チェック			●		学習報告書
備考	◆「企業との連絡」を並行して行うことが好ましい ◆ロゴには「まなびや」特有の名前をつけてあることに注意 ◆新商品も開発可能・・・・・　宮城の食材を利用する →商品開発で,他の学校設定科目とのコラボも良いのでは……!									

学期	月	日	曜	時間	学習内容	評価の観点				評価規準・評価方法
						関	思	技	知	
3	10	4	金	32	「せんだい　まなびや」運用		●			HPの評価
				33	「せんだい　まなびや」運用		●			学習報告書
		11	金	34	「せんだい　まなびや」運用（予備）		●			学習報告書
				35	「せんだい　まなびや」運用（予備）		●			学習報告書
		25	金	36	企業との連絡	●				企業との
				37	企業との連絡	●				連携
	11	8	金	38	企業訪問と取材	●				レポ1
				39	企業訪問と取材	●				レポ1
		15	金	40	企業訪問と取材	●				レポ2
				41	企業訪問と取材	●				レポ2
		22	金	42	企業訪問と取材	●				レポ3
				43	企業訪問と取材	●				レポ3
	12	13	金	44	次期企業出店説明会の準備（新たな開拓）				●	新たな
				45	次期企業出店説明会の準備（新たな開拓）				●	企業を
		20	金	46	次期企業出店説明会の準備（新たな開拓）				●	模索
				47	次期企業出店説明会の準備（新たな開拓）				●	リサーチ
4	1	10	金	48	企業出店説明会				●	リサーチ
				49	企業出店説明会				●	リサーチ
		17	金	50	報告会の開催		●			リサーチ
				51	報告会の開催		●			リサーチ
		24	金	52	新商品開発→伊藤忠食品株式会社 「商業高校フードコンテスト」へ出品			●		新商品開発する
				53	新商品開発			●		レシピ1
	2	14	金	54	新商品開発			●		レシピ2
				55	新商品開発			●		レシピ3
	3	6	金	56	次年度へ引き継ぎ		●			次年度
				57	次年度へ引き継ぎ		●			「まなびや」
		13	金	58	次年度へ引き継ぎ		●			報告書1
				59	次年度へ引き継ぎ		●			報告書2
備考	◆「まなびや」学習成果発表会（エスパル店頭）（案） ◆「まなびや」推進実行委員会（案）の開催 ◆受講生の評価と今回活動の反省と次年度以降への引き継ぎ ワークB・・ワークブック　レポ・・レポート									

5. 学習報告書（業務日誌）

日　時		平成（令和）　年　月　日（　）　時間目	累計　計　　時間目	
今回の学習の目標・ねらい				
次回の学習の目標・ねらい				
感想・反省	分かったこと 分からなかったこと			
	頑張ったこと 工夫したこと			
	感じたこと 考えたこと			
学習の自己評価	学習に積極的に取り組めたか	とてもそう思う　ややそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　まったくそう思わない A　B　C　D　E		
	学習内容が理解できたか	A　B　C　D　E		
	学習に満足できたか	A　B　C　D　E		
	自分の意見・考えを持てたか	A　B　C　D　E		
	次回の目標がみえたか	A　B　C　D　E		
学習の自己評価においてＤまたはＥをつけた項目について,その理由を書きなさい。				
先生からのコメント			検　印	

6. 商品開発力育成プログラム講座実施要項【せんだいまなびや支援授業】

令和元年７月５日（金）午後２時より、株式会社松島蒲鉾本舗（場所：宮城県多賀城市八幡字一本柳）において、工場見学及び課題報告会の商品開発育成プログラムを開催しました。

この商品開発育成プログラムの目的は、以下の通りです。

（1）地域経済の発展、活性化に寄与する人材の育成を目指す
（2）社会人基礎力を培うため職業観、勤労観の育成を図る
（3）復興を担う人材として必要なコミュニケーション能力の育成を図る
（4）商品開発を通して自ら課題を解決する能力の育成を図る
（5）株式会社松島蒲鉾本舗の工場見学と課題報告会を通して、「せんだいまなびや」の商品開発にむけて研修を行う

株式会社松島蒲鉾本舗多賀城工場取締役工場長　狩野　章様より、新商品開発にあたり、「せんだいまなびや」に課題（ミッション）が提案されており、

〔課題（ミッション）〕

課題①	若い世代が、練り物製品に興味を抱き、数多く購入できる手立てを考えてください。
課題②	多賀城の特色を生かしたお土産（蒲鉾等含め）がないので、インパクトある商品を開発してほしい。

その課題（ミッション）を考案する６つのグループに分かれて、問題解決を行い、グループそれぞれの提案を報告しました。

工場見学

課題解決報告会

学校設定科目　「せんだいまなびや」 学習指導案

技能開発コース教頭　多賀　努　教諭（副参与）宮浦靖次　教諭　齋藤　海宥

1　学　年　　1学年　2学年（在籍数：40名）
2　教　材　　商品コンセプト企画書
3　単元名　　商品コンセプトの立案と商品企画書の作成
4　単元目標
　商品コンセプトの立案について関心を持ち、意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けているか。
5　単元指導計画
　1　市場調査と商品企画書の作成（2時間）
　2　商品コンセプトの立案（2時間：本時）

6　単元の評価計画（評価規準）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
●商品企画書の作成について関心を持ち、意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けているか。	●立案した商品コンセプトおよび作成した商品企画書が、外部の理解を得られるように表現できていたか。また、それらのプレゼンテーションを適切に行うことができているか。	●ブレーンストーミング・アイデアマップ・KJ法・水平思考を活用しながら商品コンセプトを立案する技能を身に付けているか。	●商品コンセプトの立案および商品企画書の作成についての基礎的・基本的な知識を身に付けているか。

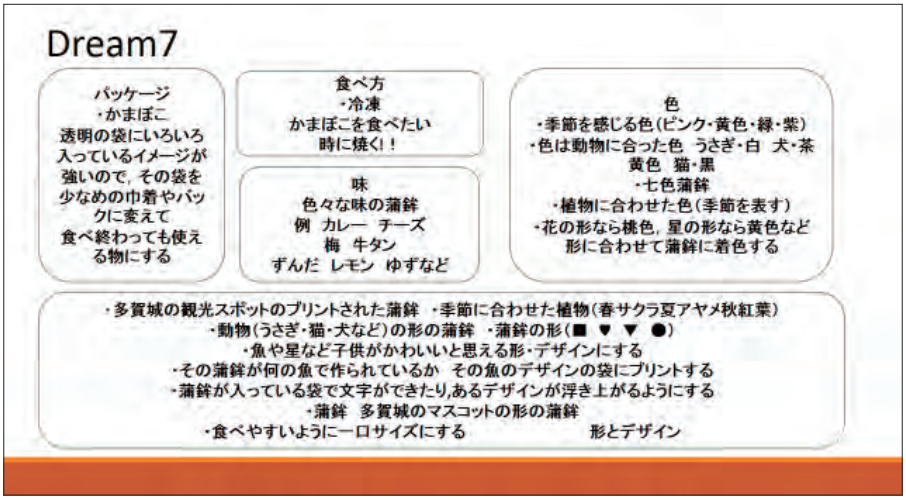
7　本時の目標

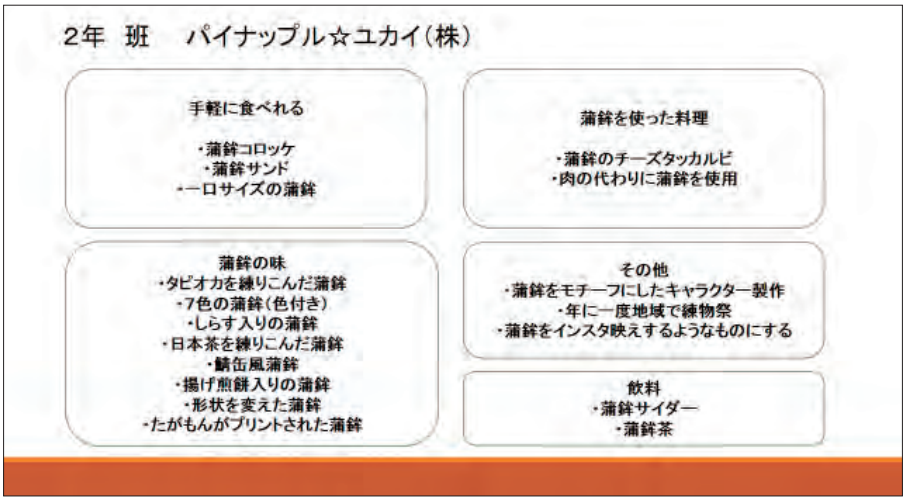
●商品コンセプトを考案することの重要性、および商品企画書作成の意義について理解しているか。

8　本時の学習展開（50分×2時間）

段階（配当時間）	学習内容・学習活動	学習活動の支援 指導上の留意点	観点別評価			
			関	思	技	知
導入（10分）	本時の目標を理解する。 報告会実施内容の確認。	出欠の確認・できるだけ本時の目標を簡潔に伝える。	●			
展開（80分） グループでの発表学習	グループで、課題（ミッション）について報告する。	グループで問題を解きあった成果を発表する。		●	●	
繰り返りと学習内容の確認（10分）	講評をいただき、更なる改善点を探る。	本時のまとめと今回問題提議された内容について再確認する。				●

9　その他





【プレゼンテーション紹介】

【講評】株式会社松島蒲鉾本舗多賀城工場取締役工場長　狩野　章様より、今回の6つのグループの提案に対して、講評として、それぞれのグループに対して的確なアドバイスを頂きました。

特に、2年生が提案した内容について、「新商品が生まれるチャンスがある」とお聞きして、更なる研究をすべきと宿題を提案されました。初めての発表会でしたが、堂々とした態度でしたと併せて感想をいただきました。

7.「震災復興応援プロジェクト」説明会を開催

生徒が運営する「せんだいまなびや」が各企業の方を招待し、生徒たちが主体となったプロジェクト説明会を開催！

オンラインショッピングモール「せんだいまなびや」として各企業の方を多賀城校舎に招待し、技能開発コース せんだいまなびや「震災復興応援プロジェクト」の説明会を開催しました。当日は生徒たちがプロジェクトを説明し、受付や司会進行なども責任を持って担当しました。

説明会では、“せんだいまなびや２代目社長”として挨拶を行いました。

「せんだいまなびや」社長挨拶【一部抜粋】

校長先生がくださったヒントから今回のプロジェクトにたどり着きました。

せんだいまなびやの活動は「高校生が地域の課題を主体的に解決することをめざす」という目標があり、解決すべき地域の課題を何にしようか迷っていました。そんなときに加藤雄彦校長先生から、東日本大震災からの復興をめざす企業を特集したTV番組のことを教えていただいたのです。番組を全員で見て、「震災復興応援プロジェクト」にたどり着きました。

石巻の企業の方を自分たちが応援できるかもしれないと思うと、不思議な気持ちがしました。授業でやることが世の中に影響を与える、こんなことが初めてだったからだと思います。自分たちがいくらかでも石巻の被災企業の方々の役に立てるかもしれないと考えるとワクワクしました。失礼なところや至らないところがたくさんあるかと思いますが、これも勉強だと許していただきまして、私たちの試みに耳を傾けていただければ幸いです。

また、広報部長が「せんだいまなびや」が始動した経緯と、これからの活動について話してくれました。

「せんだいまなびや」広報部長による説明【一部抜粋】

商品開発、ビジネスマナーや商品販売を経験しながら21世紀を生きる力を身につけていきたいです

2019年春、40台のパソコンを準備していただき1人1台のパソコンを使った授業としての「せんだいまなびや」がはじまりました。ホームページビルダー、Photoshopなどの編集ソフトや、名刺交換をはじめとしたビジネスマナーも学んでいます。2年生はビジネスマナー検定にも挑戦・合格しました。せんだいまなびやの活動で、“21世紀を生きる力”を具体的に行動することで身につけていくことが重要です。例えば企業訪問の電話をしたときにも、コミュニケーション能力、発想力などが必要なのだと実感しました。

ほかにも松島蒲鉾本舗 多賀城工場様のご協力をいただき、商品開発の勉強もしています。若者に受けいれられるかまぼこや多賀城市の魅力を発信するおみやげをテーマに考え、実際にプレゼンテーションをしました。

今回のプロジェクトで様々な方と出会うことができました。石巻うまいもの株式会社様の商品販売、ビヨンド様のキャラクター「イシノマキマン」のグッズ販売、石巻の高校生が多く参加するボランティア団体「かぎかっこPROJECT」の皆さんに高校生百貨店について勉強させていただいたり…他にもネットワークがどんどん広がっています。仙台育英学園は石巻学習センターがあるので、校用バスでいつでも打ち合わせをすることができます。

活動を通して、震災の復興はまだまだこれからなのだと感じました。ささやかなことしかできないかもしれませんが、このプロジェクトを通していろいろなことを学んでいきたいと思います。石巻の被災企業には出店料は半年間無償で宣伝・販売をさせていただくこと、朝のホームルームでも唱和している生活信条七箇条をせんだいまなびやの社訓として使用していくことなども発表されました。

当日、緊張した表情ながらも生徒たちは1人1人しっかりと対応していました。まなびやとしての活動は、今後さらに新しい展開を見せてくれそうです。説明会に参加いただいた企業の皆さま、ありがとうございました。

【「せんだいまなびや」が新聞で紹介されました。【河北新報2019年11月13日朝刊掲載】【本校HPにも掲載】

8.「せんだいまなびや」ショッピングモールの開店準備

宮城県石巻市にある「ビヨンド」「石巻うまいもの株式会社」の2社とショッピングモール販売の契約を結びました。さらに、花壇自動車大学校・仙台幼児保育専門学校・菅原学園・荒木編集事務所の4社とバナー契約を結びました。現在,「まなびや」・「テルヤ」・「城南静岡高」と連携を図り、「せんだいまなびや」のショッピングモールの開店に向けて、HPの準備を進めています。

9. 仙台育英学園×山崎泰央ゼミナール「復興ボランティア学 ワークショップ」

令和元年10月25日（金）、石巻専修大学5号館にて仙台育英学園高校「せんだいまなびや」の授業が行われ、生徒19名が経営学部経営学科の山崎泰央ゼミ生と一緒に「復興ボランティア学 ワークショップ」に取り組みました。

▲ワークショップに取り組んだ仙台育英学園高校せんだいまなびやと山崎ゼミの皆さん

石巻専修大学は、被災地に立地する唯一の大学として、2013年より「知ること」からはじまる復興支援をテーマに「復興ボランティア学」を開講しています。ワークショップは、山崎ゼミ生のリードでグループワークを行い震災復興の現状や課題についての理解を深めました。

「復興ボランティア学ワークショップ」は、その8年間にわたる講座の講演録を活用した防災啓発活動で、「震災を風化させないこと」を目的に山崎泰央教授が主宰しています。生徒からは、「震災の時小学1年生だったので覚えていないことが多く、今回詳しく知ることができて良かった」「短時間で読んだことをまとめて伝えるのが難しかったけど勉強になった」「大学生と交流できて、楽しく学ぶことができた」などの感想が聞かれました。

こうした「せんだいまなびや」の活動で、幅広い経験を積むことができました。

▲グループに分かれてワークショップ

▲概要説明

▲ファシリテーターから高校生への提案

▲高校生から楽しかったと好評でした

▲ファシリテーターを務めたゼミ学生みなさん

【山崎ゼミ生のコメント】

今回、ファシリテーターを務めました。これまで「復興ボランティア学ワークショップ」のファシリテーターを5回経験しましたが、高校生相手は初めてで緊張しました。皆さんが真剣に取り組んでくれたのでとても嬉しかったです。このワークショップで使用した資料には、ニュースなどで伝えられていない震災の記録が書かれています。

多くの人に本学の復興ボランティア学を知ってもらい、多くの方にボランティアに興味を持ってもらいたいので、今回知ったことを他の人にも伝えてほしいと思います。

【石巻専修大学HPより掲載しています。】

10. ビジネスプランコンテンストへの挑戦

10.1　第５回石巻市創業ビジネスグランプリ　【学生部門】

10.1.1　趣旨

石巻市の地域資源を活かし、地域の発展に資するようなビジネスプランを全国から募集し、市内での創業を促します。また次世代を担う学生から地域活性化につながるビジネスプランアイデアを募り、起業家意識を持った人材を発掘します。

10.1.2　ビジネアイデアの提案

・ビジネスプラン題名	『イシノマキマン』と学ぶ防災＆SDGs「まなびや」かるた
・ビジネスプラン概要	石巻を元気にするゆるキャラクター『イシノマキマン』とともに防災＆SDGs「まなびや」かるたを製作・販売するビジネスプランを提案します。

10.1.2.1　ビジネスプランの目的

・ビジネスプランの思いやきっかけ	東日本大震災から９年目を迎えようとしています。今なお、震災の傷跡が残っています。今年は、数多くの大型台風が日本に上陸し、甚大な被害を宮城県でも受けました。これからも、想定外の災害がいつ起こるかわかりません。 そこで、私たちは、2015年９月１日（ビヨンド　代表：斉野浩一氏）に誕生した石巻非公式ゆるキャラクター「イシノマキマン」とコラボして、家庭・学校などで誰でもが、防災とSDGsを意識できるような「防災かるた」と「SDGsかるた」を製作したいと考えます。 SDGsは、Sustainable Development Goalsの略で、日本語で「持続可能な開発目標」といいます。地球を守るために解決しなければならない課題を17分野に分け、2030年までに達成を目指しています。 【ビジネスプラン】 ①防災かるた 〔表〕 〔裏〕 ②SDGsかるた 〔表〕 〔裏〕 【読み札】 〔防災かるた〕（表） 〔SDGsかるた〕（裏）

10.1.2.2　地域資源の選択について

・石巻の資源	石巻非公式ゆるキャラクター「イシノマキマン」とコラボして、石巻の地域資源の良さも紹介する。

10.1.2.3　ビジネスプランの顧客、広報について

・想定している顧客や周知方法	防災教育の教材としても活用できる内容として、児童・生徒向けのカードゲーム「防災かるた」を製作・販売する。避難所のグッズとしても活用してほしい。 SDGs教育の教材としても活用できる内容として、児童・生徒向けのカードゲーム「SDGsかるた」を製作・販売する。

10.1.2.4　ビジネスプランの商品・サービスについて

・商品・サービスの内容やセールスポイント	石巻非公式ゆるキャラクター「イシノマキマン」とコラボして、分かりやすい図柄や内容に絞って、防災活動やSDGs活動の一助になれば良いと考えます。絵札の裏には、防災で必要な品目やSDGsの目標を掲載します。

10.1.2.5　実現するにおいての課題について

・実現に向けて考えられる課題	近年の災害は、これまでの予想をはるかに超える想定外が起こります。そうした災害予防にも、活用できるように、内容を改善し、バージョンアップの更新も考える。 SDGsは地球と人類が繁栄し続けるための世界共通の目標です。17目標と、具体的内容を示した169のターゲットがあります。そこでその目標や具体的な内容に、活用できようにに、内容を改善し、バージョンアップの更新も考える。

10.1.2.6　収支計画について

		1年目目標	3年目目標	計算方法
(a) 売上高		120千円	190千円	※販売価格を、かるた1組1,000円（税別）として、算出しました。
(b) 売上原価		60千円	60千円	
経費	人件費	15千円	15千円	
	賃貸費	千円	千円	
	広告宣伝費	5千円	5千円	
	その他	千円	千円	
	(c) 経費合計	30千円	30千円	
(d) 利益（a－b－c）		30千円	100千円	

※本校のビジネスプランが、一次審査を通過し、二次審査に進みました。

10.1.3　表彰式

令和2年1月26日、石巻市かわまち交流センター（かわべい）市民交流ホールにおいて、第5回石巻市創業ビジネスグランプリの表彰式が行われました。本校は、当日の学生部門の審査会に出場し、プレゼンテーションでの発表で、優秀賞に輝きました。審査会に、ご出席されている石巻市長　亀山紘様より、「石巻の資源を有効に活用したビジネスプランです。今後も継続したプランを続けてほしい。」と好評いただきました。

10.2　第１回仙台市交流人口ビジネス表彰　【アイデア部門】

10.2.1　趣旨

仙台市では、平成31年３月に策定した「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略」に基づく新たな取り組みとして、交流人口ビジネスの活性化に寄与する優れた取り組みやアイデアを表彰する「仙台市交流人口ビジネス表彰」制度を創設されました。この制度は、観光関連事業者の新たな取り組みや、事業者の交流人口ビジネスへの新規参入を促し、地域経済の活性化および交流人口ビジネスの担い手の発掘・育成を図ることを目的として実施するものです。

10.2.1.1　対象事業

仙台市の交流人口ビジネス活性化に寄与すると認められる事業およびアイデア

10.2.1.2　応募事業　【本校の提案する事業名】 現場に行ってわかる目指せ『センダイキング』

■事業概要　（本校が提案するビジネスプランを紹介します。）

仙台市役所（区役所含む）及び仙台駅を起点（the starting point）として、仙台市の史跡・名勝・店舗・施設等６コースがあり、ルート毎にあるチェクポイント（Beacon）を巡り、課題（ミッション）をクリアしてポイントを獲得する体感的なRPGゲーム型のウォークラリーを行うアプリを開発する。さらに、仙台市の行事イベントにも参加し、ボーナスポイントも獲得して『センダイキング』を目指すビジネスプランを構築する。

■商品（サービス）の内容・販売（サービス提供）方法・価格など

最初に、起点でゲームに参加する「市民ポイント」のカードを300円で購入し、300ポイント（仙台市公共交通機関の運賃料金無料２回分付きクーポン）を獲得する。次に、６コースの中から好きな順序に一つ一つコースを選択して、ウォークラリーを行い、チェックポイントにある課題（ミッション）についてアプリを利用してクリアしポイントを獲得する。『センダイキング』を目指すには、６コース全部を走破することと仙台市行事イベント（イベントに参加できない場合、秋保あるいは作並温泉日帰り・宿泊のポイントを利用する）にも参加し、加算したポイントが13000以上を獲得することが条件である。『センダイキング』になると、仙台市から○○な特典が得られる、とても楽しみなビジネスプランである。

【コース名】

・結弦おすすめⅠ（ポイント1500）
　観光情報センター－国際センター駅－五色沼－大崎八幡宮―定禅寺通り－七北田公園－アイスリンク仙台
・結弦おすすめⅡ（結弦おすすめⅠ＋
　①か②を選ぶ（ポイント1500＋日帰り入浴1500あるいは宿泊3000）
　①秋保（秋保里センター－秋保神社－海馬ガラス工房―秋保温泉＜日帰り入浴・宿泊＞）
　②作並（定義如来西方寺－作並温泉＜日帰り入浴・宿泊＞）
・スポーツ（ポイント1500）
　カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）－楽天パークみやぎ－勾当台公園－ユアテックスタジアム仙台
・教養（ポイント1500）
　仙台市科学館－仙台文学館－カメイ美術館－戦災復興記念館－宮城県美術館－八木山動物公園－青葉山植物園－理学部自然史標本館－三居沢水力発電所
・食通（ポイント1500）
　仙台市中央卸売市場－仙台朝市商店街－名掛丁商店街－クロスロード商店街－一番町商店街－文化横丁－壱弐参横丁
・伊達（ポイント1500）
　陸前国分寺薬師堂－瑞鳳殿－仙台市博物館－仙台城跡（青葉城跡）

【仙台市行事イベント】（各イベントのポイント1000）

・仙台青葉まつり…すずめ踊りの参加５チームの写真を撮るイベント
・仙台七夕まつり…七夕の飾りに「QRコード」をつけて、探索ミステリーイベント
・定禅寺ストリート…参加演奏者５団体の写真を撮るイベント
・光のSENDAIページェント…点灯式、ベストショット５枚の写真を撮るイベント
　各コースやイベントで獲得したポイントは、仙台市の施設利用料や公共交通機関の運賃料金の無料割引特典（クーポン）としても使用が可能となる。

■広報手段
　仙台市のHPでPR、SNSを利用して情報発信する。

■顧客やマーケット（具体的なターゲットや市場のニーズと規模等をわかる範囲で記載ください）
　仙台市民及び仙台市を訪れる観光客を対象に、参加者を募る。参加者は、それぞれのコースで課題（ミッション）をクリアしてポイントを獲得する。参加者は誰でもが参加できるため、ポイントを数多く増やすことで、仙台市の特典（クーポン）が得られる。

■優位性及びビジネスモデル（商品等の優位性やセールスポイント、ビジネスモデルを記載ください）
　ゲーム性があり、コースの課題（ミッション）を数多く解くことで、仙台市についてより深く知識を得ることが可能になる。

■背景や課題、ニーズ（商品等サービスを提供するに至った背景や課題、顧客のニーズを記載ください。）
　コースの課題（ミッション）やイベントの内容がマンネリならないように、参加者の意見も取り入れて、バージョンアップを図る。さらに、仙台市の観光再発見できるようなコースも設定したいと考える。

■事業やサービスの開始時期（事業の開始時期について記載ください）
「センダイキング」のアプリやチェクポイント（Beacon）の環境整備が完了した時点で、最終チェックを行い、「OK」が出てから始動したいと考える。

■実施体制など（事業を実施する体制や他の事業者との連携、協業などを記載ください）
　高校生がNPO法人を立ち上げて、仙台市の協力と提案するビジネスプランに賛同いただける業者との、産学官連携が可能になれば良いと思う。

以下の３点について、アピールポイントなどについて記載ください。

③独創性・新規性　※ビジネス部門は独創性、アイデア部門は新規性を記載してください

他社との比較優位性や新しい視点や技術などを活用した独創性、または、新規性について記載ください。
　実際の街を使って、体感的なRPGゲーム型のウォークラリーは、pokemoneGOとは違った場面設定（仙台市の歴史・地域の情報・脳トレ等）が得られ、とても面白いと思う。ルート毎にあるチェクポイント（Beacon）は、GPSの位置利用と違って仙台市を知る上でとても重要な機能である。

④継続性・実現性　※ビジネス部門は継続性、アイデア部門は実現性を記載してください

中長期的な視点での市場分析や事業の展望などの継続性、または、実施体制や適切なマイルストーンの設定といった実現性について記載ください。
　地域おこしのゲームビジネスプランとして、成長してほしい。「センダイキング」が多く登録されれば、さらにキングのキングを選ぶ、「キング・オブ・チャンピオン」の大会開催も、将来考えたい。

⑤本市の交流人口ビジネス活性化への寄与

当該事業やアイデアによる本市の交流人口ビジネス分野における波及効果や期待される影響について記載ください。
　チェクポイント（Beacon）の信号は半径数十メートル範囲に発信する発信機なので、必ずその場所でないと受信できない利点を利用すれば、参加者はその場所に動かざるを得ないと考える。このビジネスプランに興味をもつ人々が多くなれば、おのずと交流人口が増加すると期待される。その際に、各コースのチェクポイントに、最低限30分程度止める課題（ミッション）の工夫、何かの購買活動も促す手立てを考案する。経済効果も考えられる。

【引用資料】　・「仙台巡り」仙台市観光ブック

10.2.2　審査結果　※本校のビジネスプランが、一次審査を通過し、二次審査に進みます。

11. 最後に、「未来への挑戦」

タイトル：「未来の懸け橋『せんだいまなびや』に学ぶ」

技能開発コース　1年　I. D

大人へ近づいた今、将来自分は何をしたいのかどのような職業に就きたいのか未来の姿をまだ想像することができません。私は現在、在学している仙台育英学園高等学校で、ビジネスマナーや礼儀作法を身に付け就職等に活かすことができるよう「せんだいまなびや」という学習活動に参加し、学んでいます。

本校では、6つのコースに分かれていて、「せんだいまなびや」の活動を行っているのは、そのうちの技能開発コースです。「せんだいまなびや」とは、楽天やアマゾンのようなオンラインショッピングモールで高校生が運営しています。この活動は、2001年城南静岡高校からスタートした「まなびや」が始まりで、高校生の未来をむすぶEコマース・サイトです。佐賀・奈良・埼玉・熊本・福岡・三重の高校が導入し、営業エリアも全国ネットに拡大し、本校も2018年参加校となり、開店はまだですがその活動に参加しています。

私は、現在「せんだいまなびや」で「若い世代が練り物製品に興味に抱き数多く購入できる手立てを考える」という課題に取り組んでいます。この課題は地元の松島蒲鉾本舗㈱さんから提案されました。その課題解決として、KJ法を利用してプレゼンテーションを学びました。その内容は、味付けや形状、包装や見た目、そして値段の五種類に分類し、実際に商品化できるような、子どもから大人まで楽しめるような練り物製品を考えました。その他にも実際に商品として販売されている蒲鉾の試食を体験し、会社の経営などについて説明を受けました。さらに、東日本大震災により津波の被害を大きく受けたのにもかかわらず、お客様のことを第一に考え行動し、復興に向け努力されていたという事を知り、とても感心しました。

その後、商品開発に関する知識を学ぶために、「石巻うまいものマルシェ」の企業に訪問させていただきました。この企業は、東日本大震災の被害を受けた会社が集まり、震災復興に向けて、設立された会社です。私はこの会社の企業理念である「地域を元気にしたい。また前のような活気のある町になってほしい」という思いに感動し、「自分もこのような地域に貢献できる人材として、地域のためになる商品を販売したい」と思いました。

そのための一歩として、コミュニケーション能力を高めるために常に自分の思いが相手に伝わっているかどうかを意識しながら行動をしたり、人前に出て話すということを習慣化したりすることが必要だと思いました。その教えは、本校にある生活信条7箇条の一つである「切磋－.われらはお互いに磨き合い　真の学力を身につける」をモットーとし行動しています。

そこで、私の願いは、これまで先輩方が築き上げてきた「せんだいまなびや」を東北で初めて正式に店を

開くことです。全く未知数ですが、協力してくださる企業の方々に、「せんだいまなびや」にしてよかったと思っていただけるよう一生懸命取り組むつもりです。そして何年後、何十年後、その先への繋がられるよう沢山の人に認知してもらい、他のネットショッピング以上に利用される存在になればと思います。

私の家は東日本大震災の津波により全壊となってしまいました。その影響で今も援助を受けながら、学校

生活を送っています。そして親の負担を少しでも減らせるよう学費の一部はアルバイトで補っています。高校を卒業して、就職をし、両親を楽にさせてあげられるよう精一杯努力します。けれども、私はまだ将来何をしたいのか具体的には決まっていません。

「未来の懸け橋」でもある「せんだいまなびや」は実践的体験的な勉強して活動を行っているので、この活動を通してビジネスマナーやプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を学び、自分がこれからしたいことや就きたい職業についての基礎としてしっかり考えて決めていきたいです。その上で自分の目指す将来の未来に向かって歩んでいきたいと思います。

（6）令和元年度Brush Up研修会報告

教科教育センター長　　板垣　徳昭
教科コンダクター　　齋藤　順子（国語）　高橋　郁夫（英語）
　　阿部　文男（数学）　野田　良彦（理科）
　　小松　　敦（社会）
情報Brush Up研修会担当　日野　　彰　　板垣　徳昭

1. 初めに

Brush Up研修会は、コンサルタントの模範授業や教員の公開研究授業をとおして、個々の教員の授業力向上を図るとともに、生徒への講話・集中講義をとおして生徒の教科への意欲、興味・関心、学力を醸成し、さらには大学受験に対応できる実力を養成することを目的とする。

研修会は、国語、英語、数学、理科、社会（今年度から参加）、情報の各教科で年間２～10回実施し、研修の内容を、研修Ⅰ（公開授業）、研修Ⅱ（モデル授業、講話）、研修Ⅲ（教員研修）の３本立てとしている。（最終章「8　令和元年度Brush Up研修会実施一覧」参照）

昨年度立ち上げた「授業力向上小委員会」における取組については、検討会議を２回、公開授業を英、数、国、理、社で各３回（うち１回は秀光中を対象とする）実施した。公開授業はBU年間予定のうち、各教育顧問が従事しない日３日を当て、大学教授等に依頼し、指導助言をいただいた。

なお､「授業力向上小委員会」の目的は以下のとおりとする。

「平成33年度大学入学共通テスト」（国語・数学の記述、英語の４技能など）に向けて、アクティブラーニング（生徒が主体となった課題解決型学習）、ICTの活用などの授業方法の実践研究を行い、研究協議や大学教授等の派遣講師の指導により、各教科担当教員の「授業改善」と「授業力向上」を図る。

以下、各教科Brush Up研修会１年間の実践の中から、主に「授業力向上委員会」の公開授業を中心に、それぞれ報告したい。

該当教科のみならず、多くの先生方の授業の改善に資することができれば幸いである。

2. 国語Brush Up実践報告

報告者　齋藤　順子

平成元年度国語科授業検討会

【概要】

本年度の授業検討会は、昨年度に引き続き宮城教育大学・児玉忠教授を助言者に迎え下記の通り３回実施した。

○第１回　令和元年５月28日（火）
- 研究授業
  - 授業者：秀光中等教育学校前期課程　蓬田香織先生
  - 対象クラス：秀光中等教育学校３年２組
  - 科目：国語　　教材：「落語の秘密」
- 研究協議（参観者によるグループ協議）
  - 助言者：宮城教育大学　児玉忠教授
- 講義
  - 宮城教育大学　児玉忠教授
  - 「『主体的・対話的で深い学び』をめざした国語科授業の改善」

○第２回　令和元年７月24日（水）
- 研究授業
  - 授業者：特別進学コース　渡邊麻梨香先生
  - 対象クラス：特別進学コース１年４組
  - 科目：国語総合　　教材：「少女たちの『ひろしま』」
- 研究協議（参観者によるグループ協議）
  - 助言者：宮城教育大学　児玉忠教授

・講義
宮城教育大学　児玉忠教授
「国語科における記述式問題の課題」
○第３回　令和元年11月21日（木）
・研究授業
授業者：技能開発コース　平間満里花先生
対象クラス：技能開発コース１年４組
科目：国語総合　　教材：「羅生門」
・研究協議（参観者によるグループ協議）
助言者：宮城教育大学　児玉忠教授
・講義
宮城教育大学　児玉忠教授
「小論文入試に向けた指導と評価のために」

各回とも、研究授業、参観者による研究協議と助言者からの指導助言、そして助言者による講義という形式は共通であったが、研究授業を実施したコースは、秀光中等教育学校（前期課程）、高校の宮城野校舎（特別進学コーズ）、多賀城校舎（フレックス・技能開発コース）と各回で異なり、それぞれのコースの生徒の実態や日頃の学習スタイルの特徴が浮き彫りになるとともに、各回の授業者となった若手教員の苦労と工夫、今後の授業改善に向けた課題が見えた。指導計画、教材研究、指導案作成等々、事前準備に腐心したにも関わらず、当日の授業は生徒の反応が予想とは違い予定どおりの展開にはならなかったり、参観者から辛口の意見・感想が出たりして、授業者としては必ずしも100％の達成感とはいかなかった面もあったと思われるが、この経験が今後の成長に大きく資することを期待したい。また、研究授業を見てグループ協議をすることは、参観者側にとっても、授業を観る視点を獲得し、自分の授業を振り返る機会になったものと思う。国語教員を目指す宮城教育大学の学生が授業を参観し協議にも参加してくれたが、それも新鮮で良い刺激となった。

助言者の児玉教授からは、発問をどう変えれば生徒に分かりやすいものとなるか、どうすれば生徒の思考を深めさせられるか等、授業者が今よりももう一段階ステップアップするための改善ポイントをきめ細かくお話しいただいた上に、もし自分が本時の授業を行うとするならばこう考えるという授業プランもご提示いただき、大変参考となった。さらに毎回、国語科教育の旬の話題・課題について、ご自身の高校国語科教師としての経験を踏まえて現場の教員感覚に寄り添いながら分かりやすく講義をしていただいた。いずれも参加者が大学入試改革や学習指導要領改訂の背景やねらいへの理解を深め、新たな時代のニーズに応える国語力の養成に向けた授業改善や小論文指導について自らの指導の現状を振り返り今後どうすべきか考える機会となった。ただ残念ながら、各回の参加者はどうしても該当する校舎・コースの所属者に偏りがちであった。校舎・コースを越えた授業互見、相互研鑽の場となれば、一層効果的であろうと考える。

【実践授業例】（第１回　令和元年５月28日（火）　秀光中等教育学校前期課程　蓬田香織先生）
授業

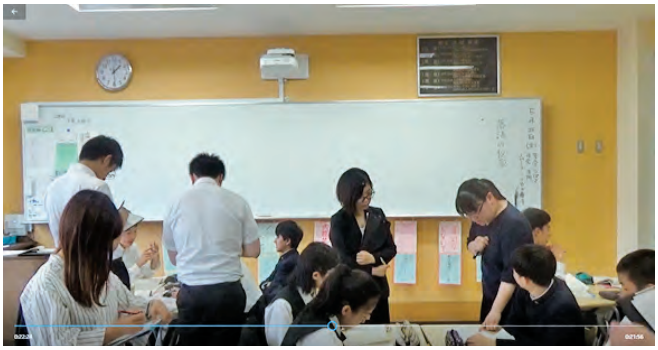
教科書単元の教材「落語の秘密」を、国語科の教科学習としてだけではなく、「伝統文化は日本の伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要か」という探究テーマでIBカリキュラムに位置付けたIBの授業である。

本時は、全体で15、６名程度の生徒が４グループに分かれ、日本人の価値観を考える２つの問いについて話し合い活動を行った後に、各グループの考えを発表するというグループ活動を中心とした展開であったが、教師側も生徒側も、こうした授業形態に日ごろから馴れ親しんでいるのであろう。話し合いによって日本人の価値観に対する考えがどこまで深まったかという点については、課題設定に工夫・改善の余地があったものの、グループでの話し合い活動自体はしっかり成立していた。誰もが自分の考えを述べたり疑問を提示したりし、発言をしない生徒がいないこと、そして他の発言によく耳を傾け考えようとしていることに感心させられた。また、生徒主体の学習活動を教師が適切にファシリテートをしていく際には、状況を見とるのにちょうどいい人数規模であることも大事だと感じた。

IB教育として実践してきているこうした学習形態は、新学習指導要領が提示する「主体的・対話的で深い学び」に繋がるものとして、大いに参考となろう。評価のためのルーブリックがあらかじめ作成されており、ルーブリックに基づく評価を行っているという点も、高校における観点別評価の本格導入に向けて、これから何をなさねばならないか道筋を示してくれるものである。授業力向上や評価の改善に向けて

IBから学べることは多い。

研究協議・指導助言



研究協議では、本時以前の教材文の読み取り状況、話芸としての落語に対する生徒の理解度（実際に噺を聞いたか、技術が分かっているか）、ワークシートの項目等、授業者への質問が様々出た後に、グループごとに研究授業に対する感想・意見の交換を行った。その後、児玉教授から詳しい授業分析と助言をいただいた。教材文を情報テクストとして扱い学習者中心の探求的な学習活動を行うという新たな授業スタイルであったが故に、課題の指摘も多々いただいたが、これからの国語科が目指すべき学習者中心の授業を行う際のポイントは何かが確認できた。

児玉教授による分析と助言は以下のとおり。

- 本時は教材文（落語の解説＋落語の書き写し）から日本人の価値観が読み取れるか、4班で話し合う授業。従来の教師の講義・発問中心の授業からこのような学習者の学習活動中心の授業へと転換するに伴って、授業研究の在り方自体も変わらなければならず、班による話し合い活動は各班の様子を手分けして定点観測すべきである。
- テクストから読み取れるものを一般化しようとした教師の努力は窺える。ただし、テクストから読み取れるものと現代に通じる日本人の価値観というテーマには距離感があり、生徒はなかなかピンと来ていなかった。
- 今回の授業は、教材文を落語テクスト（文学テクスト）ではなく情報テクスト（文化テクスト）として読んでいる新しいタイプの授業であるため、教材研究のハードルがより高くなる。教師が登場人物と金銭感覚という二つの視点を枠組みとして提示したが、金銭感覚という視点は抽象度が高く、生徒たちがそれにうまく追いつけていなかった。それに対して生徒たちの戸惑いを察知し教師が「日本人という条件を考えた？」と介入したものの、比較材料がないままでは難しく、戸惑いを解消させるに至らなかった。これが、学習者に言語活動をさせることの難しさである。
- 「江戸の情報という捉え方をせよ（→虚構ではなく「事実」として読めという指示）」と「落語の技術に注目せよ（→落語という「虚構」であるという指示）という指示の二重構造が生じてしまっていたことも、生徒が戸惑う一因になった。
- オープンエンドの授業は聞き手指導（→自分の考えと同じか違うか、新たな発見につながったか否か考え、自分の考えを深める）が大事である。最後のグループごとの発表では、聞き手の常識が揺さぶられたか否かを見極め、話し合う観点の有効性の検証を行うことが必要となる。

【講義】

第１回「『主体的・対話的で深い学び』をめざした国語科授業の改善」

国語教育とIBを比較しながら、これからの国語教育の方向性と課題について分かりやすくお話しいただいた。

新学習指導要領「国語」は「言葉による見方・考え方」がキーワードであり、「付けたい力」からスタートしている。「付けたい力」が先にあると教材分析がおろそかになりやすいが、本当に付けたい力を付ける授業とするためには、教材分析における学習者シミュレーションが重要となる。新学習指導要領は、言語活動により資質・能力を育成する、いわば「和製IB」ともいうべきものだが、IBがシステマチックであり言語と文学をトップに据えているのに対して、日本ではシステムの構築がなされておらず教師任せに留まっているのが現状である。また、また文学を離れ実用文へと傾斜しようとしている。日本の文学教育はこれまで読者の感動性を重視するあまり、他の作品を読むときも役立つ読みの手法を育ててこなかった。他の文学作品にも応用できる読みの力をどう育てるかが課題であり、読みのための客観的分析の方法をIBから学ぶべきである。そこで、教材分析、教材研究が一層重要となる。しかし、日本の教師は教科指導以外の様々な業務を抱え多忙に陥っている。教材研究時間の確保のために、新学習指導要領のねらいの実現のためには、教師が多様な役割を担わなければならない現状を改善することが必要だと考える。

第２回「国語科における記述式問題の課題」

大学入試改革の背景、先行する学力状況調査のこと、共通テストにおける記述式問題のねらい、そこで測定する学力等の概要解説の後、実際の共通テスト問題作成の方向性、施行問題の趣旨、問題と採点方式、施行結果分

析等を文科省・大学入試センター資料を基に解説いただいた。さらに、宮教大学生が施行問題を解き自己採点した結果とその感想、記述式問題に対応する力の育成を意識した授業改善の方向性についてもお話いただいた。

思考力・表現力・判断力を問うならば自由記述式が本来であるが、それでは、50万人にのぼる受験人数や採点者、採点処理期間等の制約からみて選抜の公平性・客観性・序列性が担保できない。検討の結果、妥協して、テクストの精査・解釈に基づく考えの形成を条件式記述により問うという形式になったものが、共通テストの記述式問題。昨年度実施された施行問題を分析すると、問題を解くには、二つの文章、そして資料、課題解決のための設定となっている設問文という計4つの文脈を読み取る力、いくつもの記述の条件付けを理解する力、さらに自己採点の力も必要となることが分かる。共通テストへの記述式問題導入で、自分の自己採点が合っているかどうか見てほしいという生徒が国語科に殺到することになるのは明らか。生徒自身の自己採点力の育成が喫緊の課題だ。

また、宮教大学生に施行問題を解かせ自己採点させたところ、結果は二極化した。何も準備しなくてもできる子はできる。その一方、準備しなくてはできない子供たちが存在している。準備が必要な子供たちへの対策をどうするかがこれからの指導の鍵となろう。また、学生達にこれまで自分が受けた授業について自由に感想を書かせたところ、高校の読解授業は先生の主観による解釈の暗記に過ぎない、他の文章を読むスキルが身につくのか疑問である等、耳の痛い指摘が多く出た。求められているのは、汎用的な読みのスキルを育てる国語の授業である。大学入試改革による記述式問題導入に対応するためにも読みのスキルを育てる授業への転換が必要となっている。

例えば定番の評論教材「水の東西」について教科書の学習の手引きにある問いは、思考力・表現力・判断力をみるために是非定期考査でも問いたい内容である。しかし、そのままストレートに生徒に問いを投げかけても、生徒は指導書が示すような解答例にはたどり着けない。そこで、本文を根拠にして生徒に考えさせるためには、どのような条件を付ければよいのかを検討する。そのような教材分析の試みを普段から行ってみてはどうか。

第3回「小論文入試に向けた指導と評価のために」

大学入試に小論文が課される事情、実際の採点の状況の裏話も交えながら、小論文入試第一次小論文入試ブームの時代に私立の女子高に国語教師として勤務し小論文指導に奮闘したご自身の体験を基に編み出した児玉流小論文指導法についてお話しいただいた。指導法の総論だけでなく、評価観点や実際に高校生が書いた小論文の添削例も含めた各論まで、国語科以外の出席者も思わずうなずくような非常に具体的で分かりやすい内容であった。

新しい時代に即応した学力育成を目指し、より思考力・表現力・判断力を問う入試にシフトしようとしている大学入試改革に伴い、第二の小論文ブームが来ると思われる。小論文で評価される学力は、決して国語科の学力ではない。テキスト（データ）から重要な箇所を正しくとらえる力、捉えた重要な箇所かを課題の意図に応じて相互に関連付ける力、テキストに示された事例や主張などに対して自分の考えをもつ力、それらを小論文の書き方を守って自分の考えを論理的に分かりやすく書く力である。それらは国語科に限らず必要な力であり、全員で教えるべきものである。しかし、高校における小論文指導は教科指導と乖離し、指導責任・主導主体がはっきりしないまま進路指導部、3学年、国語科の間でババ抜きゲームのババのように扱われてしまっている。国語科でなくても小論文指導向きの教員は多数存在し、逆に国語科であっても小論文指導に向かない教員がいる。学級日誌の赤ペン記入が気にならない教員、生徒と対話することが好きな人は、教科に関わりなく小論文指導向きと言えよう。一方、大学側から見た場合、小論文の祭典に当たるのは国語の専門家ではない教員であり、高校までの国語科の視点は不在である。さらに、独創的な意見よりも論理的で分かりやすい文章の方が高い評価を受けやすい。高校生に自分なりの意見や独創性を求めるのには無理があり、一見独創的にみえるものは論理的に破綻していることが多いからだ。分かりやすく論理的に書けるからかどうかが肝要であり、そういう文章の方が平均点以上になる。したがって、表現は国語科、内容は国語科以外という区分けはやめた方がよい。内容の専門性で頑張るよりも、述べ方の論理性や本論の説得力を高めることに力を注いだ方が成果は上がる。そして、述べ方自体は教科に関わりなく全員が指導に取り組めるものである。

これまでの経験等を踏まえ、小論文の指導法の例を示す。指導は全教科の教員であたる体制とし、まず国語科による一斉指導から始め、次は全教科の教員で個別指導をする。国語科の一斉指導では、課題の理解（問いが求めている答えの条件は何か、条件はいくつあるか等）、文章の構成、小論文らしい表現という小論文の必要な生徒全員に関わるフレーミングの指導をする。まず、問いのリード文を徹底的に分解、分析させる。問いが求めている条件を無視して自分の考えをだらだら書き、結局問に何ら答えていない文章で書いてしまうという致命的なミスを犯す生徒が多いからである。次に序論・本論（800字で2つ、1200字なら3つ）・結論という柱建て、頭括型、尾括型等の構成法を教える。小論文らしい表現の指導は、個別の赤ペン指導をすればするほど生徒の表現が劣化したという苦い経験を経て、生徒たちが実際に書いた文章をすべて示しその中から良いところ指摘し褒めるという形態をとるに至った。個別の赤ペン指導に時間を費やすよりも、優れた小論文の例を示したり相互評価させた方が効果的である。

その後の個別指導は、預かって読んで赤ペン指導をして返却するというスタイルが破綻した経験から、その場で一緒に読み、面接かカウンセリングのように生徒の気持ち、学びに寄り添いながら行うのがよいと考えるに

至った。小論文は、生徒が自らの思いをさらけ出して書いているものである。言葉足らずでうまく論述できていない生徒に対して、単なるダメ出しではなく、こういうことが言いたいのならこういうふうにすればいいのだと、生徒の気持ちに寄り添いその生徒が分かる言葉で生徒ができるように伝えることができるか、指導力が問われるところ。また。個別指導では、一斉指導で行った問いの理解や文章の書き方に加えて、前回提出分との差異に注目する。最初は書き直しをさせ2、3回丁寧に指導し、その後新課題を与え一人に付き7、8回、書ける生徒なら4回程度で十分。生徒にはそれまで書いたすべての小論文をファイリングさせ、前の課題との差異を見、段落構成や字の丁寧さ、文末表現など、小さな改善点を褒める。励まし、褒め、次の課題の指示をそれぞれ2ぐらいの割合で、その場で20分程度（読み5分＋やり取り15分）の指導を目安にするのがいいであろう。その際の次の課題は、その生徒が実現できる簡単な課題から始め、出来たことを褒め、だんだん褒めを増やしていくようにする。指導の目標は、その生徒なりのベスト小論文イメージを持たせることであり、理想的小論文が書けるようになることではない。その生徒の鉄板を見つけ伸びしろを最大限伸ばしてやり、自信をもって試験に臨めるようにしてやることである。

【資料】

第1学年　国語科学習指導案

令和元年5月28日（火）5校時
秀光中等教育学校　3年S2組
指導者　蓬田　香織
場　所　3年S2組　教室

1　単元（題材）名（出版社名「教科書名」）
『落語の秘密』（東京書籍「新編　新しい国語1」）

2　探究テーマ
「伝統文化は日本の伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要か」

3　生徒観
1年生からIBのプログラムに沿って学習してきたため、発表にはとても慣れている学年である。一人一人、様々な意見を持ってはいるが、積極的に発言する生徒は固定化している。昨年度までの話し合い活動では、一人の意見に偏ってしまうことが多く話し合いではなく代表を選ぶ活動になってしまうことがあった。今年度は、発表のあとになぜ、どうしてそう考えたのかを答えさせる時間を多くとるようにしている。

4　指導計画（8時間扱い　本時4時間目）

時間	主な学習活動	指導上の留意点
一～三	・『落語の秘密』を通読し内容を捉える。 ・「落語」とはどのようなものかまとめる。 「落語にはどのような特徴があるか。」 「落語にはどのような表現技法があるか。」	・ownPCの使用 ・落語には台本がないこと、枕、本文、落ちがあること、見立てや視線（上手・下手）などの表現技法があることを理解させる。
四～六（本時）	・日本人の生活様式について自分の考えを持ち、班で話し合う。（本時） 「落語の噺や表現技法から見える日本人の生活様式はどのようなもので、どのように現代に通じているか。」 ・班ごとに話し合う。 「伝統文化は日本の伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要か」	・現代まで続いてきた生活様式を挙げさせる。 ・ワークシートを使用し、自分の考えや班で話し合った内容をまとめさせる。 ・なぜそう考えたのか、根拠も発表させる。 ・ownPCの使用
七～八	・1人1人、プレゼンテーションを行う。 「伝統文化は日本の伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要か」	・classiのコンテンツボックスに提出させる。 ・発表原稿を用意させる。

5　本時の展開

（1）本時の目標

落語の噺や表現技法から見える日本人の生活様式はどのようなものかを話し合い、どのように現代に通じているかを考えることができる。

（2）指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点（○：発問）
導入 （10分）	1　前時の振り返り 外国にはない日本人の生活様式について確認する。	・前時の内容をノートで確認する。話し合いの前に、日本の生活様式の具体例を再確認する。 ・生徒が新たに調べてきたことがあれば発表させる。 ○前の時間に学習した、現代まで続いてきた日本の生活様式について確認しましょう。どんなものがありましたか？
展開 （30分）	2　班ごとの話し合い 3　班でまとめた内容を発表し、クラス全体で共有する。	○「落語の噺や表現技法から見える日本人の生活様式はどのようなもので、どのように現代に通じているか。」班で話し合ってみましょう。 ・一人の意見に賛同してしまわないように机間巡視しながら確認する。 ・机間巡視や発表の際に、「なぜ・どうして」を聞き、必要があれば再度時間を取り、話し合わせる。 ・ワークシートに自分の意見や参考になる考え、共通点、差異をまとめさせる。
まとめ （5分）	4　振り返り	○本時の話し合いが教科書でどのように表現されているか、具体例を記入すること。話し合いを通して発見したこともまとめなさい。 ・出口チケットを使用する。 ・ワークシート、出口チケットの回収（形成的評価）

（3）別添資料

シラバス

単元名とグローバルな文脈	探究テーマ	探究の問い	目標	学習の姿勢（ATL）	内容
「落語の秘密」 個人的表現と文化的表現 ◎重要概念 ○関連概念 ◎ものの見方 ○受け手の受容 自己表現	価値観は生活に表れるものである	**事実的**：落語とはどのようなものか。（江戸落落語、上方落語、古典落語、創作落語） 落語の歴史はどのようなものか。 どのような表現技術があるのだろうか。 **概念的**：落語の物語における価値観は現代に通ずるものがあるだろうか。落語はなぜ一人で複数人を演じるのだろうか。 演者の違いによる、登場人物の違いはどのようなものだろうか。 **議論的**：落語が現代に与えてきた価値観や影響はどのようなものだろうか。 日本の「伝統文化」が現代に受け継がれる理由はなぜだろうか。	**規準A：分析** テクストの内容、文脈、言語、構造、技法およびスタイル（文体）と複数のテクスト間の関係性を特定し説明する。 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。 **規準B：構成** 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。 **規準D：言語の使用** 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 正確に綴り（アルファベット言語）書き（文字言語）、発音する。	**コミュニケーション** **Ⅰ　コミュニケーションスキル** 様々な受け手のコミュニケーションに必要な多様な会話テクニックを用いる。 他の生徒や教師と考えや知識について話し合う。 批判的にそして楽しむために多様な資料を読む。 情報を求め、そして楽しむために多様な資料を読む。 要約やエッセー、レポートにおいて情報を構築する。 **リサーチ** **Ⅶ　メディアリテラシースキル**様々な資料やメディア（デジタルソーシャルメディアやオンラインネットワークメディアを含）から情報をみつけ、整理、分析し、評価し、統合し、そして倫理的に用いる。 多角的で多様なソースから様々なものの見方を求める。 様々なメディアや形成を用いて、多数の受け手と情報や考	落語家は、複数の人物を演じ分け、位置関係も表現し聞き手の心を動かす。扇子や手拭いを使い、さまざまな動作に見立てることもできる。「猫の皿」の噺をとおして、茶屋の主人と果師の掛け合いの面白さを鑑賞し、芸能としての落語を理解する。

評価			
A　分析	B　構成	C　創作	D　言語の使用
テスト	プレゼンテーション		プレゼンテーション

	『落語の秘密』プレゼンテーション
ルーブリック	
B 構成	
7-8	ii 伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要な根拠を、具体的な出来事や現象を挙げて詳細かつ明確に説明できる。
5-6	ii 伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要な根拠を見いだし、具体的な出来事や現象を挙げて関連性があることを指摘できる。
3-4	ii 伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要な根拠を、適切に指摘できる。
1-2	ii 伝統的な生活様式を伝えていくうえで必要な根拠を見いだせない、もしくは見いだしても、具体例との関連性が乏しい。
0	ii 上記の説明に記載されるどの標準にも達していない。

3. 英語Brush Up実践報告

報告者　高橋　郁夫

Ⅰ．初めに－英語Brush Up概要

研修Ⅰでは英進、フレックス、技能開発、外国語、特進、秀光のそれぞれのコースで公開研究授業を１回ずつ（秀光については前期と秀光コースで１回ずつ）実施した。特徴的なこととしては、プロジェクターが各コースに配備されたので、パワーポイントを用いたプレゼンテーション、様々なメディアを取り入れたICTを活用の研究授業が多かったということである。また、グループ活動で調べ、ディスカッションを行い代表者が発表するような探究活動を重視した授業も多く見られた。

研修Ⅱではコンサルタントの坂井先生が秀光１年生と６年生、特進の高校３年生、外国語と英進の２年生に２時間連続でモデル授業をした。先生が考案したグラマザウルスや英語史などの知識を使い、英語の仕組みを説明しセンター試験や国公立大学の個別試験にどう対応すべきか解説してもらった。また外国語コースと英進コースの２年生に対しては共通テスト対策としてauthenticな教材を使用し、「英語を使って調べる、考える」という授業をしてもらった。英進コースのモデル授業については、従来AJクラスのみを対象に行っていたが、今年度は英進コースの他クラスとフレックスコースにも声がけし、希望者に参加してもらったところ、90人規模のモデル授業になったが、活発に授業に参加していた。

研修Ⅲでは研修Ⅰ、Ⅱに続けて研究協議を実施した。授業の振り返りや感想、文法項目の指導方法や指導上の悩みについて話し合った。坂井先生がテーマを決めて教員向けの自主教材を作成して講義をしてくれたりした。また、授業検討会を３度行ったが、その際の研究協議では宮城教育大学の鈴木先生や東北学院の村野井先生に、授業に役立つような理論や新学習指導要領で重要視されている「思考・判断・表現」などの指導について講義をしてもらった。特に村野井先生には教員の授業技術等について的確なアドバイスをいただいたり、新しいICTを用いた授業に関するアイデアについて、丁寧に説明をしてもらった。ただ、研究協議については内容の充実を図ってはいるものの、参加者、特に若手教員の参加が少ないのが悩みである。

Ⅱ．特進コース公開研究授業（1T1　11月15日（金）の実践例）

当日日程

13:05～13:50　公開授業
　　特進コース１年　５時限目（13:05～13:50）
　　授業者：御代　力夫　教諭（1T1：コミュニケーション英語Ⅰ）

14:00～16:00　英語担当教諭との研究協議
　　研究協議題：（1）本日の授業について
　　（2）英語教育の課題について
　　指導助言：東北学院大学教授　村野井仁先生

1）公開授業について

特進コース御代力夫先生によるコミュニケーション英語Ⅰの研究授業であった。先生はその日の授業計画を立て、教材をパワーポイントで作成し、生徒に言語活動を行わせていた。まず、復習で読みの練習を行った。音声をあらかじめパワーポイントに貼り付け、エンドロール方式でシャドーイングをさせた。この音読については多くの教員から賞賛の声が上がった。次に本時の授業に入り４つの新出単語の定義を読ませ、どの単語のものであるか類推させた。この活動は毎時間行っており生徒は単語の品詞をすぐに理解できるようになってきたというこ

とである。次に単語の発音練習をし、本文を聞いて生徒が自分でスラッシュを入れて行き模範を見ながらスラッシュの正しい位置を確認していた。その後生徒が一文ずつ読み和訳した。重要な文法事項についてはそのつど説明していた。説明については予めスライドが用意されており、文法の重要事項、新出単語、熟語等が色分けされており生徒が理解しやすいように工夫されてあった。また、生徒からの授業アンケートで生徒の意見を授業に反映しているということであった。

2）授業を振り返って、そして今後の課題（御代力夫教諭）

①　公開授業について

まず、以前から興味があったICTを活用した授業にチャレンジできることや、そのような環境が整っている職場で働けることがとても有難いと感じています。しかし、パワーポイントに関しては全くの初心者で、今まで使用してこなかったので、できることなど限られています。アニメーションも基本的なものばかりですし、真新しいものは何もありません。文字の色もホワイトボードで使っている４色（黒・赤・青・緑）に限定しています。コンピュータや電子黒板が万一動かなくなった際に、すぐに手書きの態勢に入れるようにと考え、そうしています。授業に関しては、１時間の流れがルーティーンとして生徒の間に定着しているので、その流れに沿った形でスライドを作成し、毎回進めています。２時間セットでパートひとつが終わるという展開が途切れないように配慮しながら、音声データを貼り付けたり、教科書のポイントを整理してスライド提示するようにしています。

今回実施した公開授業では、前時の復習のリーディングから入り、内容を理解した上で行うシャドウイングの様子を見てもらいました。実施したクラスの生徒は普段からとても意欲的で、声もよく出しているので、モデルをきちんと聞きながら前を見てシャドウイングを行っていました。その後は、そのパートで習う単語を英語による定義で類推するクイズを出して、新出単語の予習状況を把握し、音声による発音練習をしました。発音記号についても機会を捉えて、指導しています。続いて本文に入りますが、本時パートの全文リスニングを行いながら、「チャンツ」や「フレーズ」を意識してスラッシュを入れさせます。正しい位置に入っているかの確認を行って、それから読解に移ります。今回はその本文の読解の途中で終了時間になってしまいましたが、重要な構文が含まれている箇所についてはスライドによる説明を行い、例文等も示しながら英文法の指導をしています。

いわゆる『伝統的な授業』スタイルで展開しているわけですが、そこにICTを取り入れて、最新の機器を活用しながら言語学習にとって不変的な要素をわかりやすく提示したいと考えています。

②　今後の課題（授業展開として重視すべきもの）

本校の特進コースにおける英語授業のバランスはよく取れています。Communication　英語Ⅰは週５単位（内１単位はWeblio英会話）で、２週に１度の割合でALTによるペアワークやグループワークを活用したアクティヴラーニング形式の授業があります。これらの時間がReading、Listening、Speakingの分野を網羅しています。また、英語表現Ⅰの２単位の授業では英文法と問題演習を行い、Writingの力をつけるように組まれています。このバランスの良さを活かしつつ、１年生では「読むこと」を優先し、高校の初期段階で英文法と英文解釈を中心とした伝統的な英語教育を行うことが「英語学習の基盤」すなわち読解力をつけることだと考えています。ただし、方法が伝統的ではなく、ICTを活用した最新式であるというだけです。

3）研究協議

①　授業について

最初に参加した英語科教員から感想を聞いた。「充実した授業であった。」「授業アンケートで生徒の意見を聞いたりして、生徒への思いが伝わった。」「パワーポイントがシンプルで簡略化されていて感心した。」「生徒の反応が良かった。」「音声重視の授業であった。」「生徒同士の話し合いやスピーチ等の機会があっても良かった。」などの感想が話された。授業計画に従ってパワーポイントを毎回作成、テンポ良く授業が進んでいた。また、生徒も予習するのが当たり前という感じで十分準備をして授業に臨んでいることがわかるような反応の良さであった。ICTを活用した音声重視の授業で参加したどの英語科教員にも参考になる良い授業であった。

②　講師の先生の指導助言

まず、学校のBrush Upで研究授業を続けていることを賞賛された。授業についてはリスニング、リーディング指導の活動を考えた授業だったと話された。特にシャドーイングの音読については素晴らしかったとの評価をいただいた。単元の目標が「環境保護のあり方を考える」ということなので生徒に環境保護について調べさせ、発表させるところまでの指導も考えられるということだった。発表原稿を作成するためにkey wordsを与えてパラグラフライティングを経験させてみるということは大事な活動になるのではと助言された。単元ごとの時間については、レッスンごとにかける時間にメリハリをつける田名部メソッドを紹介してもらった。また、生徒に目的を持ったリスニングやリーディングをさせることが大切だと話された。様々なリーディング指導について－シャドーイング、パラレルリーディング、漆塗りリーディング等々－について紹介してもらったり、生徒のリーディングを音声ファイルで提出させたりして評価する方法についてもご指導いただいた。

4）指導案

仙台育英学園高等学校特進コース

指導者　御代　力夫

1　単元（題材）名（出版社名「教科書名」）
Revised LANDMARK English Communication Ⅰ Lesson 7 Eco-tour on Yakushima（啓林館）

2　単元（題材）の目標（身に付けさせたい力）
○本課を読むことで、自然観賞や環境保護の在り方について考える。
○本文の内容を通して様々な数値（度量衡）を表す表現を学び取る。
○前置詞＋関係代名詞の用法を基にして、関係副詞の理解へ繋がる文法力を身に付ける。

3　単元（題材）の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①積極的に学習活動に参加し、意見を出し合い周囲と協力しながら、問題を解答しようとしている。 ②屋久島の世界自然遺産登録の理由とその素晴らしさを列挙できる。	本文の内容から発話に役立つ表現を学び取り、実際に会話の中で使うことができる。 また、意見の広がりを求めて、話題として提案し、自分の意見を論理的に表現することができる。	強勢・弱勢や内容語・機能語などを意識した聞き取りができる。 アクセントやイントネーションに意識を向けながら、文節を理解し、読み取ることができる。	言語についての知識として強勢、抑揚、区切りを意識しながら読み取り、内容を理解する。 文化面については、環境問題の現状とその対策に関して意見を持つ。

4　単元（題材）について
（1）教材（題材）観－本単元の留意事項
・世界自然遺産である屋久島とその地理と気候、そしてその島を巡るエコ・ツアーについて理解する。また、縄文杉の特徴や現代まで残された歴史的な経緯を読み取る。
・日本国内の世界遺産を確認し、訪れてみたい場所について意見交換できる。
・本文の内容理解を通して、環境問題に関心を持ち、個人として何ができるかを考える。
・英文法の関係詞について既習の事項を確認し、フォーマル・インフォーマルとしてどのように使われているのかを理解し、活用できるようにする。

（2）生徒観
英語に対して真面目に一生懸命に取り組んでいる生徒が多いクラスである。また、少し変わった意見でも自由に発言できる雰囲気があり、心の許容範囲も広いと感じる。学習全般に対して意欲があり、向上心も旺盛である。授業後にレベルの高い質問にくる生徒もいるし、英検や校外の英語の大会に挑戦する生徒もいて、周りの刺激になっている。静かに聴くべきときにはきちんと耳を傾け、楽しく過ごす場面では和やかにするなど、自分たちでメリハリがつけられるクラスである。
ICTを活用した授業にも慣れてきて、自分たちでノートづくりを工夫したり、スライドの内容をまとめたり、音声の練習の留意点を独自に捉えたりして、この授業を好意的に受け止めてくれている。今後の改善に役立つ助言をくれる生徒もいて心強い。クラス全体に「けじめ」があり、どんな活動にも積極的に対応してくれると思わせる安心感がある。

（3）指導観
・本単元では、エコ活動を通して身近な環境問題にも積極的に取り組んでいけるように、問題提示していきたいと考えている。温暖化を始め、その影響による気候変動など災害に繋がる可能性を含む重要な課題のひとつという認識を共有する。
・ICTを活用した英語の授業として、電子黒板にスライドを写して、生徒のノート作りの効率化を図るとともに、単語の意味や英文法のまとめの説明を行っている。また、音声ﾌｧｲﾙを使ってListeningとReading能力の強化を図り、本文理解の補助としている。
・大学入学共通テストの実施を控えて、ReadingとListeningの割合（5：5）を意識し、できる限り音声を取り入れた構成にしている。
・板書時間の短縮のため、Power Pointによるスライド作成を中心に教材づくりをしている。

5　指導と評価の計画（配当時間　本時６／７）

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1・2 パート	・屋久島の概要とエコツアーのオリエンテーションについて ・環境的な問題点とは何か ・地理的特徴と気候について	・前置詞＋関係代名詞に対する理解があるか ・様々な数値の読み方に対応できているか。	・音声の指導への参加姿勢 ・演習による英文法の確認
3・4 パート（本時）	・屋久島が世界遺産として認められた特徴的な生態系の例 ・自然の森（白谷雲水峡とウイルソン株）の様子について ・縄文杉の大きさやその歴史的な背景について ・自然保護に対する心構えとオリエンテーションのまとめ	・関係副詞 where と why の用法に関する理解ができているか。 ・本文の内容を Reading や Listening を通して、理解することができているか。	・音声指導への参加姿勢と実践への意欲（自分の声を聞きながら、内容を読む取ることに注意をきちんと向けているかどうかの観察） ・英文法の問題演習 ・ALT の授業による会話練習
復習と演習 英文法確認	・Summary Skit ・Comprehension ・Vocabulary & Expressions ・Grammar ・Exercises	・本課の内容に関する把握ができているか。 ・語彙、重要表現、文法事項に関する習得状況が充分であるか。	・重要構文の理解 ・まとめの問題演習による習得状況の確認

6　本時の指導

（1）ねらい

○屋久島の縄文杉に関する歴史的な背景とエコ・ツアーにおけるオリエンテーションの意義。

○英文読解による重要構文や関係副詞についての活用例の理解。

（2）ねらいに迫るための手だて

○本文の Listening を中心にして、何度も聞くことでどのような内容が話されているかを掴み、文中に出ている単語や熟語の理解を深めた後に、Reading と Shadowing で強化を図る。

（3）本日の研究テーマとの関連

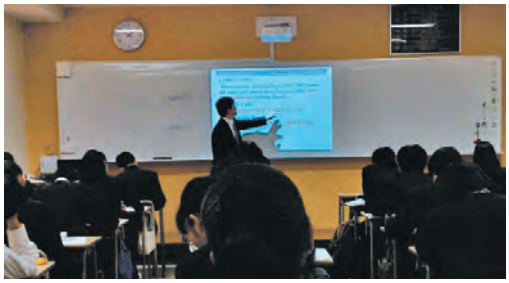
＜研究テーマ＞

「ICT を活用した英語授業の一例」

（4）指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 （5分）	1．挨拶 2．復習（4分） Part 3 の本文スライド	本文内容を理解した上での Reading と Shadowing に よる聞き取りの更なる強化。	Reading や Shadowing に 積 極的に取り組んでいるかを観察する。
展開 80分 前半 40分	3．新出単語の類推演習 下線の英語による説明を読んで、どの単語のことか類推して答える。 4．新出単語の発音練習と単語に関する＋α（豆知識） 音声ファイルを使用して、教科書の発音記号を見ながら、口頭練習する。また、単語に関する様々な知識を提示し興味・関心の一助とする。 5．Listening Practice 本文を見ながら聞き、スラッシュを書き入れていく。	3．予習として単語の意味調べをしているかどうかの判断に使用している。 4．発音記号を意識しないで音声の後に付いて読んでいる生徒が大半なので、できる限り発音記号や口の開け方などに触れて指導している。 5．語、句、節などの音の切れ目を意識して、「なぜそこで切るのか」を考えて音声を聞き取る。	・きちんと予習をして臨んでいる生徒が大半であるが、発言に自信を持てない者もいる。できる限り多くの生徒を指名して、発表の機会を与えるようにしている。 ・発音記号については、覚えたいと思っている生徒が多いので、体系的に指導していきたい。授業内で発音記号に対する発言があれば、全体に広げて個々の興味に繋がるような工夫をする。フォニックスの活用でルールを覚えて使えるようにする。

後半 40分	6. スラッシュの位置確認 聞き取ったスラッシュの位置が正しいかどうかを模範を見て、確認する。 7. 本文の読解（前半） 生徒が一文ずつ読んで、和訳する作業。 8. 本文の読解（後半） 生徒が一文ずつ読んで、和訳する作業。 9. 重要構文の説明 重要な表現や熟語の確認を行い、ノートに記載。 重要文法事項の解説や用例を提示して、理解を図る。 10. Reading Practice （Text Shadowing） スラッシュを意識しながら本文を音読するが、音声も流れて行くので、実際には音声に合わせたシャドウイングになる。 11. Shadowing 本文を見ないで、音声に集中して後追い音読をする。 すでに、内容を理解した英文なので、音だけでの理解を求めている。	6. 正しい聞き取りが出来たかを音声付スライドを見ながらの確認。 7. きちんと左から右に意味が取れているか。 単語や熟語の意味が正確に取れているか。 8. 生徒が和訳した部分に重要な文法事項が含まれている箇所があれば、スライドで取り上げて、説明を加える。 9. 音読練習とシャドウイングを組み合わせたようなスライドになっている。エンドロール形式にしているのは、早く正確に読むための訓練の一環である。 10. 本文全体を理解した後にシャドウイングすることで、音声に集中して英文を聞き取っていくことができる。そのことを積極的に実践しているかを見る。	・どこの部分が指名されても良いように英文和訳に関して予習をしてあるか。 ・音声指導については、意欲的に参加しているかどうかを観察することに主眼を置く。
まとめ （5分）	パートが2つ終了する毎に、単語テストを実施しているので、その範囲の確認をする。 次回のReviewのページと内容の確認を行う。	・ICTを活用した英語授業に慣れてきている部分もあるので、惰性的に音声指導を受けないように声がけをする。	・家庭では充分にできない音声学習については、大切な時間と捉え集中する姿勢が求められている。



4. 数学Brush Up実践報告

報告者　阿部　文男

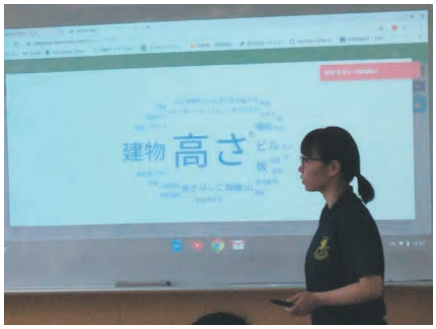
◇**概要**

本年度は数学科コンサルタントの江川博康先生をお迎えして6回、授業力向上研修として東北工業大学の渡邊幸雄教授をお迎えして3回、都合9回のBrash Up研修会を行いました。研修内容は2022年度入試から始まる大学入学共通テストに向けての対応、ICT環境を有効に活用するための手立て、生徒に数学の楽しさや魅力を伝えるための工夫を主なテーマに実施しました。

研修Ⅰでは、公開研究授業を行いました。念入りに設計され、様々な工夫が凝らされた授業でしたが、特にClassi NOTEを活用したり、ウェブツールKahootを活用してゲームの要素も取り入れたりして進められた授業など、各回とも先生方が得るものが多かったのではないかと考えます。

研修Ⅱでは、コンサルタントの江川先生にモデル授業をしていただきました。最近の大学入試を踏まえた重要ポイントを指示いただきながら、また大学入学共通テストのプレテストをもとに私立大学も含めた出題の方向性をお話しいただき、求められる水準を肌で感じ生徒は多くの刺激を受けていました。渡邊教授には、秀光前期課程3年生への講話を通じて数学の楽しさと美しさを伝えていただきました。

研修Ⅲでは公開研究授業について授業者の先生の自評を受けての意見交換が行われました。また、江川先生や渡邊先生からは広い視点から授業の改善のための指導をいただきました。後半には江川先生からは大学入学共通テストのプレテストを掘り下げるなどして、大学入試で問われる力は何なのかを、新学習指導要領も踏まえながら指導いただきました。東北工業大学の渡邊教授からは、生徒に数学の学力を付けるための授業の在り方について、具体例やご自身の経験を交えながらご指導いただきました。



◇秀光前期公開研究授業（1M1、10月4日（木）の実践例）

①日時　　令和元年10月4日（木）

②参加者　（コンサルタント）江川博康　（コンダクター）阿部文男　（副校長）坂内玲子
（教頭）佐々木清光　（教諭）本木真人、佐々木幹子、佐藤久樹、小保内陽大、高橋秀樹、野田良彦、小野明、（実習生）大津佑香

③会場　　宮城野校舎　秀光中等教育学校

④目的　　公開研究授業、及び職員研修により教員の授業力と進学指導力向上を図る。

⑤内容

（1）研修Ⅰ　公開授業　10:35～11:20（45分）

○授業者　　佐々木　幹子　先生

○対象生徒　　1M1（18名）

○会場　　1M1教室

○内容　「日常生活で三角比の考えを応用し、解決できる問題を考える」ことを目標に行われました。各自が思い浮かんだ問題をClassi NOTEで提出し、それを頻度によって可視化しながらテンポよく扱うテーマを決めていました。選ばれた4テーマに応じてグループに分かれ、自分の得意な作図ツールで表現し問題解決のアイディアを表していく活動が行われました。

今後、絵を評価し合い、グループで問題を作成して問題解決に向けて活動を深めることになります。三角比の今後の学習の動機付けを行うことと、グループ活動を通じて社会スキルを身に着けていくことがも目指されました。様々な配慮がなされ、生徒は熱心に活動しており

今後の成果が期待される授業でした。

（2）研修Ⅱ　集中講義　13:05～14:45

○講師　江川博康　先生（数学科コンサルタント）

○対象　S12（18名）

○会場　栄光大会議室

○内容　高校数学への入門として、はじめに整数の性質をお話しいただきました。マジックナンバー1089を題材に、数の不思議さと美しさから興味・関心を引き出していただきました。また倍数判定の話題では２乗の差の因数分解の応用などを通じ、思考を深めていきました。続いて等積移動を見抜き解決する例を説明いただき、初等幾何の力は高校においても大切で、思考のバックグラウンドとして大学入試の難問でも物をいうことがあり、中学校の学びでしっかり力を付けておくようにとのアドバイスがありました。生徒は90分を超える講義にもかかわらず集中して臨んでいました。

（3）研修Ⅲ　職員研修　16:10～17:00

○会場　南冥中講義室

○内容　「アクティブラーニング」について

授業者の佐々木幹子先生からの自評をもとに参加者の意見交換を行いました。自評では、三角比の３時間目であり、各グループで枠組みを完成させ明日発表する計画であるということ、グループワークの活動で生徒はてきぱきと活動しており特に社会スキルの育成の面で良かったとの話がありました。

意見交換では以下のような内容が話されました。

・授業の流れをうまく作ることができていた。留学生もしっかりと取り組み、よいアイディアを出していた。
・生徒は絵を描くのに入り込み時間を要してした。役割分担をする手もあったと思う。
・PCの使用で生徒どうしが教え合う様子が見られ、社会スキルの育成の目標にかなっていた。
・自分で測量できないものという視点から考えさせるのも手だったかもしれない。
・テーマ決定の場面で即座に可視化される仕組みを効果的に生かしており、参考にしたい。絵を描く段階を経て題材への意欲が喚起される様子が見られた。

江川先生からは、指導教員と生徒との関係性がとても良く、生徒がしっかり取り組んでいたこと、活動の中で他者のものをしっかり見せてあげる時間を作ればお互いに高め合うことができるとの指摘がありました。準備は大変だと思うが、このまま意欲的に続けてほしい、今後の伸長が楽しみであるとの講評をいただきました。

後半は江川先生から私大入試の気になる問題を中心にお話しいただきました。特に新学習指導要領や大学入学共通テストの傾向を取り入れたと考えられる問題を例示いただきました。プレテストを連想させる長い文を用いた問題もありました。共通テストの出題予測をしてみることも有意義であるとのアドバイスをいただきました。

【資料】

数学科　学習指導案

秀光中等教育学校
佐々木　幹子

1. 日 時 場 所　　2019年10月3日　木曜日　第3校時　場所　1M1教室（北辰3F）

2. 学　　級　　秀光コース1学年　（男子11名　女子9名　計20名）

3. 学 級 所 見
　数学に苦手意識があるまたは苦手である生徒が多く在籍している。10月1日から3名の留学生が合流し、まだ打ち解けていない雰囲気がある。素直に指導に従う生徒が多く、授業態度も悪くないが、自信がないためか積極性に欠ける。

4. 使用教科書　　数研出版　改訂版数学Ⅰ　ISBN978-4-410-80103-7（104 数研 数Ⅰ 327）

5. 単　元　名　　図形と計量

6. 単元について
（1）グローバルな文脈　　「空間的・時間的位置づけ」
（2）重要概念　　形
（3）関連概念　　モデル　測定　システム
（4）探究テーマ
　図形の形を測定し、関連性をシステム化することで、それらの位置づけを理解する。
（5）探究の問い
・事実的：直角三角形の辺と角にはどのような関係があるだろうか。
・概念的：三角比を利用することは、なぜ有益な場合があるのか。
・議論的：三角形のいくつかの辺や角が与えられた時に残りの辺や角を求めることは、日常生活においてどのように簡略化して応用できるだろうか。
（6）目標
・規準Ａ：知識と理解
　三角比の性質と三角形の辺と角の間に成り立つ関係を理解し、辺や角を求めることができる。
・規準Ｂ：パターンの探求
　点と直線の距離や不等式の表す領域などの基礎的・基本的な知識や技能を活用して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。
・規準Ｃ：コミュニケーション
　三角形と辺や角の間に成り立つ関係を、数学の用語や記号を簡潔に表現できる。
・規準Ｄ：実生活への応用
　実生活の場面の事象について、それらの性質や関係性を見出し論理的に説明できる。
（7）学習の姿勢（ATL）
Ⅰ批判的思考スキル
　問題解決に優先順位づけを行う。
Ⅱ社会スキル
　話し合いやICTを通じて互いに切磋琢磨し合うことができる。
Ⅲ整理整頓する力
　証明の順序を論理立てて説明し、他者に伝わりやすいレポートを作成することができる。
Ⅳ情動スキル
　複数の問題を解決する間、傾注し集中する。
（8）内容
・三角比　・三角比の相互関係　・三角比の拡張　・正弦定理　・余弦定理
・正弦定理と余弦定理の応用　・三角形の面積

7．指導計画

節	項	時	学習内容	学習活動
第1節　三角比	1．三角比（4）	1	正接・正弦・余弦	直角三角形において、正弦、余弦、正接が求める。
		2	三角比の表	三角比の表の$\sin\theta$、$\cos\theta$、$\tan\theta$の値の意味を考える。 直接測ることのできない距離や角度などを求める。
		3 **4**	**三角比の応用** **本時（1/2）**	**具体的な事象を三角比の問題としてとらえる。** **直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解しており、測量などの応用問題に利用する。**
	2．三角比の相互関係（2）	5	正弦・余弦・正接の関係	三平方の定理をもとに三角比の相互関係を調べる。 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求める。
		6	$90°-\theta$の三角比	$\sin(90°-\theta)=\cos\theta$などの公式を利用する。
	3．三角比の拡張（3）	7	座標を用いた三角比の定義	鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察する。 座標平面上の半円の半径を適当に変えて、鈍角の三角比を考察する。
		8	$180°-\theta$の三角比 等式を満たすθ	$\sin(180°-\theta)=\sin\theta$などの公式を利用する。 座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値からθを求める。
		9	三角比の相互関係 直線の傾きと正接	$0°\leqq\theta\leqq180°$のとき、1つの三角比の値からの残りの値を求める。 三角比を用いて、直線とx軸とのなす角が求める。

8．評価基準

評価規準A：知識と理解

修了時に生徒が身につけているべき能力は以下のとおりです。

Ⅰ．なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解くにあたって、適切な数学的手法を選択することができる。

Ⅱ．問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。

Ⅲ．さまざまな文脈において問題を正しく解くことができる。

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記のいずれの水準にも達していない。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 Ⅰ．なじみのある状況において簡単な問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅱ．それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。 Ⅲ．通常、それらの問題をさまざまな文脈において正しく解くことができる。
3-4	Ⅰ．なじみのある状況においてより複雑な問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅱ．それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。 Ⅲ．通常、それらの問題をさまざまな文脈において正しく解くことができる。
5-6	Ⅰ．なじみのある状況においてチャレンジに満ちた問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅱ．それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。 Ⅲ．通常、それらの問題をさまざまな文脈において正しく解くことができる。
7-8	Ⅰ．なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、チャレンジに満ちた問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅱ．それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。 Ⅲ．総じて、それらの問題をさまざまな文脈において正しく解くことができる。

評価規準B：パターンの探究
修了時に生徒が身につけているべき能力は以下のとおりです。
Ⅰ．数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
Ⅱ．発見に合致した一般法則としてパターンを説明することができる。
Ⅲ．一般法則を証明、または検証し、正当化することができる。

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記のいずれの水準にも達していない。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 Ⅰ．教師の支援の下で、数学の解法を応用することにより、単純なパターンを発見することができる。 Ⅱ．パターンに合致した予測を述べることができる。
3-4	Ⅰ．数学の解法を応用することにより単純なパターンを発見することができる。 Ⅱ．発見に合致した一般法則に言及することができる。
5-6	Ⅰ．数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。 Ⅱ．発見に合致した一般法則としてパターンを説明することができる。 Ⅲ．これらの一般法則の妥当性を検証することができる。
7-8	Ⅰ．数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。 Ⅱ．正しい発見に合致した一般法則としてパターンを説明することができる。 Ⅲ．それらの一般法則を証明、または検証し、正当化することができる。

評価規準C：コミュニケーション
修了時に生徒が身につけているべき能力は以下のとおりです。
Ⅰ．口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語（表記法、記号、専門用語）を用いることができる。
Ⅱ．適切な形式の数学的表現を用いて情報を提示することができる。
Ⅲ．形式が異なる複数の数学的表現を相互に置き換えることができる。
Ⅳ．論理的一貫性があり、簡潔で不備のない数学的推論の過程を展開することができる。
Ⅴ．論理構造に従って情報をまとめることができる。

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記のいずれの水準にも達していない。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 Ⅰ．限られた範囲の数学的言語を使用することができる。 Ⅱ．表現の形式は限られるが、数学的表現を用いて情報を提示することができる。 Ⅲ．推論の過程を通して考えを伝えようとはするが、推論には解析できない点が多い。
3-4	Ⅰ．数学的言語をある程度適切に使用することができる。 Ⅱ．適切な形式の数学的表現を用いて情報を的確に提示することができる。 Ⅲ．不備のない推論の過程を通して考えを伝えることができる。 Ⅳ．論理構造に従って情報を的確にまとめることができる。
5-6	Ⅰ．ほとんどの場合、適切な数学的言語を使用することができる。 Ⅱ．ほとんどの場合、適切な形式の数学的表現を用いて情報を正確に提示することができる。 Ⅲ．ほとんどの場合、形式が異なる複数の数学的表現を相互に置き換えることができる。 Ⅳ．論理的一貫性があり、不備のない推論の過程を通して考えを伝えることができる。 Ⅴ．ほとんどの場合、論理構造に従ってまとめられた学習成果物を提示することができる。
7-8	Ⅰ．常に適切な数学的言語を使用することができる。 Ⅱ．常に適切な形式の数学的表現を用いて情報を正確に提示することができる。 Ⅲ．形式が異なる複数の数学的表現を、効率的に相互に置き換えることができる。 Ⅳ．論理的一貫性があり、簡潔で不備のない数学的推論の過程を展開することができる。 Ⅴ．常に論理構造に従ってまとめられた学習成果物を提示することができる。

評価規準D：実生活への数学の応用
修了時に生徒が身につけているべき能力は以下のとおりです。
Ⅰ．実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。
Ⅱ．実生活の状況に関する問題を解くにあたり適切な数学的手法を選択することができる。
Ⅲ．選択した数学的手法を的確に応用して解答を導くことができる。
Ⅳ．解答の正確度を正当化することができる。
Ⅴ．実生活の状況においてその解答が理に適っているかどうか正当化することができる。

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記のいずれの水準にも達していない。
1-2	Ⅰ．生徒は以下の能力を身につけている。 Ⅱ．実生活の状況の中にある要素をある程度特定することができる。 Ⅲ．成果は限定的であるものの、数学的手法を応用して実生活の状況に関する問題の解答を見つけることができる。
3-4	Ⅰ．実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。 Ⅱ．実生活の状況をモデル化するにあたり、数学的手法をある程度的確に選択することができる。 Ⅲ．数学的手法を応用して実生活の状況に関する問題の解答を導くことができる。 Ⅳ．実生活の状況においてその解答が理に適っているかどうか論じることができる。
5-6	Ⅰ．実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。 Ⅱ．実生活の状況をモデル化するにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅲ．選択した数学的手法を応用することにより、実生活の状況に関する問題について妥当な解答を導くことができる。 Ⅳ．解答の正確度を説明することができる。 Ⅴ．実生活の状況においてその解答が理に適っているかどうか説明することができる。
7-8	Ⅰ．実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。 Ⅱ．実生活の状況をモデル化するにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 Ⅲ．選択した数学的手法を応用することにより、正確な解答を導くことができる。 Ⅳ．解答の正確度を正当化することができる。 Ⅴ．実生活の状況においてその解答が理に適っているかどうか正当化することができる。

9．本時の学習
（1）本時のねらい
これまでに学習した三角比の考えを、日常生活でどのように応用できるか考えることにより、知識の定着を図る。
（2）本時の目標
「日常生活で三角比の考えを応用し、解決できる問題を考える。」
（3）学習過程

段階	主な発問と授業の流れ　発：発問	・指導上の留意点　□ ATL スキル
導入 5 分	**1．既習事項の確認** ・三角比（公式）	
展開 30 分	**2．課題提示** 「日常生活で三角比の考えを応用し、解決できる問題を考えよう。」	

	3. 日常生活で、三角比の考えが応用できそうな場面を考える 発日常生活のどのような場面で、三角比が使えそうですか。 →建物、スポーツ、道路、宇宙、自然物など 発では、より具体的な場面について、キーワードをあげてみましょう。（どんな建物？何の競技？など） ・Classi NOTE の課題 1（添付資料 1）に取り組む。（3 分間） ・Classi NOTE を使い、頻出のキーワードを全体で確認し、4 つにジャンル分けする。 ・グループごとに全員別のジャンルを選択し、移動する。	・Classi NOTE や PC の操作に慣れていない生徒の支援を行う。 ・キーワードがなかなか出てこないときは誘導する。 「他の教科と関連できるものはありませんか」
	4. 場面ごとのグループに分かれ、アイデアを絵にかく ・アイデアを絵にかく（添付資料 2）。（5 分） ・自分の選択した場面以外のグループの絵をみて、良い問題であると感じた絵に投票（いいね）する。 ・各グループで最も投票数（いいね）が多かった絵についてグループで問題を作成する。	□社会スキル ・次の動作に入るのに時間のかかる生徒を支援する。
	5. 問題作成 ・グループごとに問題を作成し、発表の準備を行う。	・絵が選ばれた生徒を中心に問題とその解説、発表の準備を行う。 ・EDIT 機能を使って内容を共有する。
まとめ 5 分	**6. まとめ・振り返り** ・今日話し合った内容を書き留めておく。 ・次回までに問題を作成し、発表の準備を行う。	□整理整頓する力

（4）評価の観点

評価規準C（コミュニケーション）

・口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語（表記法、記号、専門用語）を用いることができる。

・論理的一貫性があり、簡潔で不備のない数学的推論の過程を展開することができる

（5）学習の姿勢（ATL）

Ⅱ社会スキル

話し合いやICTを通じて互いに切磋琢磨し合うことができる。

Ⅲ整理整頓する力

証明の順序を論理立てて説明し、他者に伝わりやすいレポートを作成することができる。

（6）準備物

・PC

・Classi NOTEでの授業配信（添付資料1、2）

5. 理科Brush Up実践報告

報告者　野田　良彦

1　概要

本年度は昨年度より１回多い９回の理科ブラッシュアップを実施した。４月22日実施のブラッシュアップ（英進）以外は外部講師を招いて行われた。具体的には理科コンサルタントの鳴瀬先生が担当されたブラッシュアップが３回（５月10日＝特進、５月24日＝技能開発、７月５日＝秀光）。今年度より始まり宮城教育大学の田幡先生に担当して頂いた「授業力向上研修会」が３回（９月４日＝情報１年、10月24日＝外国語２年、11月８日＝秀光前期１年）。仙台河合塾の物理専任講師の渡部先生が担当するブラッシュアップが２回（12月16日、17日に実施）である。

今回はそのうち10月24日に実施された外国語コース２年（IBDP）の授業（IB生物　佐藤真弓教諭担当）、11月８日に実施された秀光前期１年の授業（IB―MYPの理科　宮城教育大学教職大学院教授　田幡憲一先生が担当）、について紹介したい。紹介のポイントとしては次の２点である。

①田幡先生による「授業における発問」のワークショップ（３回に渡って実施）について。

②仙台二華高校との交流。秀光前期課程１年（中学１年生）理科の授業について

なお、参加者は９回のブラッシュアップで延べ73名である。

2　田幡先生によるワークショップ「授業における発問」の内容について

・第１回　９月４日　「発問を作る。ストーリーを考える」

最初に田幡先生がパワーポイントを使いながら、「授業における発問の歴史」「生徒の理解を深めるための発問とは何かを考える」について講義を行った。

その中で例えば、例：「キューリとナスはそれぞれどこが実になるでしょうか？」の問に対する正解は実際育てた人しか答えられない。それを正解にどう誘導するか

→発問：教材分析と子どもの発達段階を踏まえ、次の発達に子どもを誘う指導言

最後にワークショップとして２つの発問「葉はなぜ緑なのか」「水酸化ナトリウムと塩酸を混ぜたらどうなるか」に対する解答の選択肢を３つ考えた。

・第２回　10月24日「授業における発問を考える」

前回の講義を発展させ、授業の内容に即した発問を作るワークショップを行います。（このあと２つのグループに分かれて次の課題に取り組んだ）

課題：メダカの発生とヒトの発生を比較して学習する単元（７時間）の最初の発問を考えてください。

（第一グループの発問案）

「メダカの子供はどうやって生まれるのか」「メダカは何才まで生きられるのか」

（第二グループの発問案）

「メダカの卵は人間の卵（卵細胞＝0.1mm）より大きいのに赤ちゃんはヒトの方が大きいのはなぜ」

・IBの授業ではとくに発問が重要。授業における発問によって生徒が受け身の知識を受けるのでは無く、主体的に疑問を解こうとする「主体的、対話的な深い学び」になることを手助けできる。

・第３回　11月８日「探究する人（IBの学習者像のひとつ）を育てる設問とは」

仙台二華の３名の先生も参加して「授業における発問」の３回目のワークショップ行った。

テーマは自分の教科で「探究する人」を育てる設問を考えることでした。先生方からは「スポーツドリンクが凍るとなぜ味が濃くなるのか（凝固点降下）」「炎の正体は固体・液体・固体のどれか」「雨粒は高い空から落ちてくるのに当たっても痛くないのはなぜか」などが出されました。

これ対して田幡先生からは設問からは「指導内容につながる設問を考えることが大事。今回はタマネギの可食部分は根・茎・葉のどこが変化したものかを１時間かけて解答にたどり着く内容にしましたが、当然普段の授業ではもっと短い時間で生徒の探究心を沸き立たせる設問を作ってください。」との指導がありました。

3　仙台二華高校との交流について

田幡先生の提案により第７回の理科ブラッシュアップを国際バカロレアの合同研修会として行いました。ここでは10月29日に仙台二華高校で行われた授業改善研修会（本校より15名の教員が参加）と第７回ブラッシュアップのモデル授業について報告したい。

（10月29日（火）10:00～16:00　　仙台二華高校　授業改善研修会　国際バカロレア研修会）

県の高校社会部会、芸術教育部会を兼ねて行われた。午前10時から午後４時過ぎまでかなり盛りだくさんの研修会であった。IBの研究授業としては英語、日本史、化学基礎３教科を見学した。（写真は化学基礎の授業の様子）

また、模範授業としてぐんま国際アカデミーの武藤哲司氏がIBの重要概念の一つである「関係性」についてIBを希望する中学３年生（27名）に対して質問を交えながら講義を行った。

来年度から正式にIBの授業が始まるので、各教科とも従来の授業にIB的な学習者像を反映させる工夫をしていた。まだ試行錯誤の段階と感じた。

（11月８日（金）10:20～11:20　　モデル授業　中学１年　理科第二分野　秀光1S1組　18名）

「タマネギの根・茎・葉」のタイトルで60分の授業を行った。

内容としては小学校で習う「植物には根・茎・葉がある」ことを発展させ、タマネギの可食部分は根・茎・葉のどれかを考えさせる。

さらに実際のタマネギを半分にカットし、観察を通して最終的に可食部分は葉が変化したものであることを理解させる授業であった。正直自分もタマネギのどの部分が可食部分なのか分からず、茎ではないかを最初考えた。身近な題材を元に自然な疑問をもたせる大変良い授業であった。

また、この疑問が解けたとき非常に快感を覚える設問をとの指導が大変参考になった。

【資料】９月４日　加藤先生の研究授業案

情報科学コース第２学年１，２組合同クラス　生物　学習指導案（略案）

指導者　加藤　芳己
指導場所　2-J2　教室

１　単元名　第３章「代謝とエネルギー」

２　本時の学習指導

（１）本時の主題

エネルギー変化と化学反応

（２）本時の学習目標

①代謝に伴ってエネルギーの変化が起きること知る。
②エネルギー代謝におけるＡＴＰの役割を理解する。

（３）　本時の指導計画

	学習活動	教師の働き	生徒の働き	指導上の留意点
導入（10分）	代謝とは何か疑問を持つ。 代謝が同化と異化に分けられることを考える。	・代謝例を発表させる。 ・プロジェクターを用いて、代謝を説明する。	・考え、発問に答える。 ・説明を聞きプリントにまとめる。	・難しく考えすぎず，思いついたものを積極的に回答させる。 ・プロジェクターを使用。
展開（30分）	エネルギー代謝におけるＡＴＰの役割について考える。 各グループの発表を聞きまとめる。	・ＡＴＰの構造や合成について説明する。 ・グループを作らせる。 ・ＡＴＰのエネルギーを使い、何に利用されているのかを考えさせる。	・説明を聞きプリントにまとめる。 ・放出したエネルギーを使い、何に利用されているのかをグループを作り、調べまとめる。 ・各グループごとに発表する。	・プロジェクターを使用。 ・グループの全員をグループ活動に参加させる。
まとめ（5分）	代謝は、生きていくうえで大切ということを理解する。	・各グループの発表を通して代謝の大切さを理解させる。	・説明を聞きプリントにまとめる。	・プロジェクターを使用。

【資料】10月24日　佐藤先生の研究授業

第2学年　理科学習指導案

令和元年10月24日（木）6校時
外国語コース2GIB（Japanese Biology 選択）10名
指導者　佐藤真弓
場　所　生物室

1. 単元

2 Molecular Biology 分子生物学　　2-1 Molecules to metabolism 分子から代謝まで
（教科書　OXFORD IB DIPLOMA PROGRMME BIOLOGY 2014 EDITION）
※教科書はすべて英文で書かれているため、図や写真の参照に留めている。その代替として「IB BIOLOGY STUDENT WORKBOOK ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第3版（オーム社）」を主に使用している。また、生物基礎（第一学習社）と生物（第一学習社）も併用している。

2. 単元の目標

①生物は、複雑に入り組んだ化学反応の相互作用によってその組成をコントロールしていることを理解する。
②生化学試験を通して、実験および研究に関する科学的スキルを身に付ける。
③有機分子の構造を視覚化するためにPCを利用し、情報コミュニケーション技術を身に付ける。
④生徒同士の話し合いを通して知識や互いの考えを共有し、理解を深める。

3. 単元の評価基準（IB DP Science 評価目標）

1	2	3	4
以下の知識と理解を示すことができる。 a.事実、概念、用語 b.方法論と手法 c.科学情報の伝達	以下を応用することができる。 a.事実、概念、用語 b.方法論と手法 c.科学情報の伝達の方法	以下を公式化、分析、評価することができる。 a.仮説、研究課題と予測 b.方法論と技法 c.一次データと二次データ	洞察力があり倫理に適った研究を行うのに必要とされる適切な研究スキル、実験スキル、人間性の側面に関連したパーソナルスキルを示すことができる。

4. 単元について

(1) 教材観

代謝（異化、同化）は生体内で起こる化学反応の相互作用であることを理解し、その反応に関わる有機分子（炭水化物、脂質、タンパク質、核酸）について学ぶ。また、フリードリヒ・ヴェーラーが行った実験により偶然にも尿素が合成された例を取り上げる。

(2) 生徒観

国際バカロレアDP生物（日本語）を選択している、男子1名、女子9名、計10名の少人数クラスである。全員が大学進学を希望しているが、IBを利用する生徒は例年数名であり、大学受験で生物を必要とする生徒は少ない。しかし、自ら希望してIBを選んだこともあり、学習意欲はとても高い。実験やグループ活動においても積極的に参加する姿勢が見られる。

(3) 指導観

昨年度から外国語コースに在籍している女子9名は生物基礎を履修していないが、化学基礎は酸と塩基まで学習している（男子1名は英進進学コース在籍だったため両方履修している）。そこで、代謝（異化、同化）についてはしっかりと扱うが、炭素原子が形成する共有結合については確認程度に留める。

5. 指導と評価の計画

配当時間	主な学習活動	評価			
		1	2	3	4
1	・有機分子（炭水化物、脂質、タンパク質、核酸）について概要を学ぶ。	a			
	・生化学試験による有機分子の検出実験	a,b		a	
	※実験レポートの作成を課題とし、後日提出する。		c	a~d	○
2（本時）	・電子黒板で分子構造を視覚的に理解する。	c	a		
	・代謝（異化、同化）について概要を学ぶ。	a			
	・ヴェーラーの実験の概要と生気論を確認し（課題として各自調べている）、①生体内の尿素合成経路とどう異なるか、②生気論の否定とその証拠、の2点について考える。	a,b	a~c	a~d	

6、本時の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ	指導上の留意点
導入 [10分]	・前時に学習した有機分子は、原子やより小さな分子から構成されていることを確認する。	・電子黒板に構造式を示す。(例：ホルムアルデヒド)	・生徒は構造式から生化学物質を同定し、最終的には描画できることを目指すよう促す。
展開 [30分]	・同化（反応）、異化（反応）、代謝について概要を学ぶ。 ・代謝は酵素によって反応を促進されていることを学ぶ。	・導入から同化に繋げる。同化の例として光合成、異化の例として呼吸を挙げ、分子の大きさとエネルギーの流れについて理解へ導く。 ・酵素の触媒活性と、代謝経路の中の反応中間産物は次の反応の基質となることにも触れる。	・IB では同化反応、異化反応としている。 ・光合成、呼吸、ATP、酵素はいずれも別単元で再度学ぶため、ここでは簡潔に扱う。
	・3~4人のグループでヴェーラーの実験の概要と生気論について確認する。(※) ・次の2点を話し合う。 ①生体内の尿素合成経路と異なる点 ②実験による生気論の否定とその証拠	・リーダー、記録者、発表者を決め、グループ内で課題の内容を確認してから話し合うよう指示する。	・各役割が担う点を確認する。 ・知識や理解の不足、又は話し合いが進まないグループにはアドバイスする。
まとめ [10分]	・発表	・発表内容を確認する。 ・話し合いの結果をまとめ、事前課題に追記して再提出するよう指示する。	・説明不足や矛盾があれば質問し、間違った理解は訂正する。

※ヴェーラーの実験の概要と生気論について事前に各自調べ学習を行い、課題として提出する。

6. 社会科Brush Up実践報告

報告者　小松　敦

◇はじめに

社会科のBrush Up研修会は本年度から開催された。学習指導要領では高校に「社会科」という教科はなく、「地理・歴史科」と「公民科」が設置されている。それぞれの科に設定されている科目も、「地理・歴史科」では「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」「世界史A」「世界史B」、「公民科」では「現代社会」「政治経済」「倫理」と多岐にわたり、科目の専門性も大きく異なる。このような教科の特徴を踏まえ、今年度は「地理分野」「歴史分野」「公民分野」の三分野のバランスと、実践する各コースのバランスに配慮して研究会を実施した。

研究会の目標は、「授業力向上小委員会」の指針に従い「令和3年度大学入学共通テスト」に向けて、アクティブ・ラーニング的授業（生徒が主体となった課題解決型学習）、ICTの活用などの授業方法と実践研究を行い、研究協議や大学教授等の派遣講師の指導により、社会科教員の「授業改善」と「授業力向上」を図ることを目的とした。

研究会の内容は「公開授業」「授業研究」「外部講師による講話」を三本柱として実践した。3回の研修会への参加教員は、延べ39名であった。

◇第1回～第3回研修会の概要

第1回　日時：5月16日（木）13:05～16:30

公開授業　授業者：高橋　熙　先生（特別進学コース）

対象クラス：1－T2（生徒数38名）

単　元：第1章ユーラシアの諸地域世界　4節西アジア世界　1項古代オリエント（教科書：東京書籍　世界史A）

授業研究　助言者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）

講話　講話者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）

講話題：「中高社会系教科の新しい方向　―資質・能力の育成と地理分野の特徴―」

第2回　日時：6月21日（金）13:35～17:05

公開授業　授業者：秋山　直道　先生（英進進学コース）

対象クラス：3－G1（生徒数29名）

単　元：第２章　現代の経済　２節　現代経済のしくみ　３　市場経済の機能と限界（教科書：東京書籍　政治・経済）
授業研究　助言者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）
講話　講話者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）
講話題：「中高社会系教科のアクティブ・ラーニング　－歴史分野を中心に－」

第３回　日時：7月19日（金）13：05～16：30
公開授業　授業者：今田　琢也　先生（秀光コース）
対象クラス：2M文系（生徒数８名）
単　元：第２章アジア・アフリカの古代文明　3．中国の古典文明　春秋・戦国、秦（教科書：山川出版社　詳説世界史B）
授業研究　助言者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）
講話　講話者：吉田　剛　先生（宮城教育大学教授　社会科教育専攻）
講話題：「中高社会系教科の発問とノート指導」

◇公開授業・授業研究・講話の概要

（1）第１回研修会

①公開授業

授業内容は、歴史的事象を考えさせるために地理的思考に働きかけ、板書だけでなくICTを有効に活用し、地図などの諸資料を多用し、生徒の興味・関心を引くことを目標としたものであった。また、実際に現地の食べ物にも触れさせ、実食することで五感でも感じられる工夫もされていた。生徒たちは高橋先生の準備した資料や物品に興味を示し、積極的に授業に取り組んでいた。高橋先生の問いかけをとおし、様々な気づきがあったものと思われる。初めてICTを活用した授業ということで、高橋先生も得るものが多かったと思われる。

②授業研究

高橋熙先生の振り返りの主な内容は、世界史を地理的観点から進めることを意識したが、導入が長くなってしまい進行が遅れてしまった、また、河川の説明が不十分であった、というものだった。これに対して先生方の主な意見や感想は、イラクの紋章を使った導入では生徒が能動的に頭を使って自主的に手を挙げていた。協同的な学びができていた。農耕や灌漑からエジプト文明に踏み込み、巨大な国家を建設できた理由を考えさせることもできたのではないか。ナツメヤシの実物を用意し、実食させてみたことは良かった。ICTは効果的に使うことが重要である、というものであった。外部講師の吉田剛先生からは、世界を把握するのに文化圏を押さえることが重要であり、その意味で自然環境の把握は大切である。教科書に書いてあることを教師がまとめて板書することはあまり意味がない。生徒には思考させ、表現させ、それをノートに書かせたほうがよい。歴史は解釈で成り立っている。合理的・論理的に解釈をすることをとおして、それを自分の生き方に活かしていくことが重要である、といった指導・助言があった。

③講話

吉田剛先生の講話の要点は以下のとおりである。現代社会の特色から、今後、学校がどうなるかを考えていかなければならない。人口減少と高齢化、グローバル化、技術革新、多様な価値、持続性の追求、AIの飛躍的な進化、環境の変化など、現代社会の特色から、学校教育においては考える授業にシフトしていく必要がある。今回の学習指導要領の改定の基本方針で、その「基本的な考え方の中」で最も大切な項目は、「知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力のバランス」ということである。このことを実現させるためには、授業の中でしっかり問いを立て、生徒に考えさせることが重要である。また、「育成を目指す資質・能力の明確化」においては、「どのような社会・世界との関わり、よりよい人生を送るか。（学びに向かう力、人間性等）」が重要であり、自分のことは自分でする、自分の生き方のベクトルの向け方が大切になる。さらには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進においては、「深い思考」に重点を置いた授業を展開する必要がある。地理的技能に関しては、情報を収集する技能、情報を読み取る技能、情報をまとめる技能から、ICTからGISの操作技術へ移行する。欧米先進諸国では、地理的探究スキル（プロセス）が重視されている。地理的課題（中心発問）がより重要となる。今後、中学校社会科地理分野と高等学校歴史地理の関連においては主題学習が重要になる。

（2）第２回研修会

①公開授業

授業内容は、最初に「貿易ゲーム」を振り返り、価格がどのような場合に変化するかを確認し、その理由について需要曲線と供給曲線を提示して説明した。ICTの活用ということで、プロジェクターで需要曲線と供給曲線を黒板に映し出し、重要超過や供給超過を図式化して価格の変動に伴う変化を説明するというものであった。 また、授業の他の目標としては、経済理論を現実社会の中でどのような場面で見ることができ

るか、あるいは自分自身がその理論を活用できるのかなど、実生活の中での理解を進めるということが大きな目標でもあった。実際には、寡占市場や価格の下方硬直化などにより、経済理論どおりには価格が変化しないことなどを具体の事例を提示して理解を深め、新聞記事を活用して「見えざる手」が、情報化社会の中で実現する方向に進みつつあることを紹介し、経済理論と現実の経済社会との関係を考察させていた。

②授業研究

秋山直道先生の振り返りの主な内容は、今回の授業で特に意識したことは身近な例を利用して理解を深めることと、現実的な事例を活用して経済理論を説明することに主眼を置いたということである。一時間で消化することが厳しく、生徒の意見を聞くなどの双方向的な授業ではなく、一方的に授業を進めすぎたという反省がある、ということであった。これに対して先生方の主な意見や感想は、同じ図を使い続けることはよかったと思う。ただ、需要曲線と供給曲線を一緒に説明したのは、少しわかりにくかったのではないか。最初に需要曲線と供給曲線を提示し、それぞれの立場で説明したがほうが理解しやすかったのではないか、というものであった。外部講師の吉田剛先生からは、ICTを活用し図を投影し書き込みを行うという点はよかった。しかし、需要曲線と供給曲線の図が1枚でよかったかどうか疑問である。需要曲線と供給曲線を別々に作成して提示するなど、4枚ぐらいあったほうがよかったと思う。評価については、ノートに書かせたときにどのように評価し成績に反映させるか検討を要する。今後、センター試験（共通テスト）では「合理性の高い論理的なものは何か」という作問がなされる。その意味でプロセスを大切にした授業が大切である。その点において公民科目は考えさせる授業はやりやすい、といった指導・助言があった。

③講話

吉田剛先生の講話の要点は以下のとおりである。新学習指導要領において、「知識理解」に関して記述されているのはわずか1行だけである。知識は時代や社会が移れば知識の中身も変わるので、使えない知識を暗記することはあまり意味がない。これからは「思考、判断、表現力」が重視され、どのように実践するかが問われる。特に歴史においてはこうした発想や実践は欧米諸国に比べ日本は遅れている。日本には「正しい歴史観」があるという姿勢があったがこれはマイナスである。今は、歴史をどう解釈するかが問われている。アクティブ・ラーニングに関して、「主体的・対話的・深い学び」もアクティブ・ラーニングをいかに具体的に実現するかが課題である。生徒が「主体的」であるかどうかは生徒自身にしかわからず教員にはわからない。「対話的」に関しては教師と生徒の対話ではなく、生徒どうしの対話が重要である。「深い学び」には追求が必要である。これらを評価するためには生徒が「話す」、「書く」ということが大切になる。生徒の中にはわかっている気になっている生徒も少なくない。そう意味でアウトプットさせることが重要である。それをさせると多くの時間が割かれるので、細かい要望はカットする必要がある。そのための授業マネジメントをしっかり行う必要がある。こうしたアウトプットを重視した授業が学力の向上につながる。

（3）第3回研修会

①公開授業

授業内容は、今田先生の自作のアニメーションを駆使したICTを積極的に活用した授業であった。特にアニメーションは様々な素材をインターネットや書物から収集し、それを独自にアレンジして生徒の興味関心を引くように利用しているもので、非常に興味深い授業構成であった。自ら板書することはほとんどなく、映像や画像を見ながら生徒に考えさせることに重きを置いた授業展開で、そのため多くの発問を生徒に投げかけ、思考判断を促していた。歴史を様々な角度から生徒に捉えさせるため、資料を多く提示してそこから歴史的事象がなぜ生じたかを考えさせる幅の広い授業展開を試みていた。さらに今田先生の自作のプリントを活用して、当該授業のポイントになることや重要事項の押さえを作業を通じて確認させていた。

②授業研究

今田琢也先生の振り返りの主な内容は、導入に時間をかけすぎたことや、生徒の作業時間、発問に対する生徒の反応時間などを十分に考慮に入れることができなかった。予習と復習を授業に組み込んで行っていることも時間が足りなくなった原因だと思う。また、かなり早口で授業を進めたので、歴史の楽しさが伝わらなかったのではないかと反省している、ということであった。これに対して先生方の主な意見や感想は、とても楽しい授業であった。多くのスライドを利用しての授業だったがプリントも利用している。授業内容が豊富すぎるように思える。内容の精選が必要ではないか。多くの発問を行っていたが、諸子百家や法家に偏りすぎていて、歴史的観点からみると中途半端になってしまったように思える、などというものであった。外部講師の吉田剛先生からは、とても勉強させられた。ICTのスライドやプリントの資料、指導案も細案の形で大変よくできていた。アニメーションの技術も大変高く、多くの先生方と共有してほしい。ただ、プリント使用には疑問がある。「穴埋めでいいのか」ということである。これからの入試にはこれは役立たない。単語の穴埋めをするのではなく、その単語の意味や理由や原因を書かせたほうが頭に残りやすい。この方が共通テストにも対応できる。アクティブ・ラーニングを実現するためには、話し合える資料を準備して、少人数で話し合わせて発表させる形式が効果的と考える、といった指導・助言があった。

③講話

吉田剛先生の講話の要点は以下のとおりである。新学習指導要領では「探究」を重視しているが、ではどのようにそれを進めていけばよいのか、一つの事例を提案する。それは「探究するための問いの連続性と階層性」を考慮することである。具体には「問いの連続性」を意識して授業を組み立てることにより、探究における思考の連続性を引き出し、それによって生徒の主体的な学びに結び付けることができる。そのための方法として、「小さな問い」と「大きな問い」の組み合わせの連続によって実現できる。「問いの階層性」とは「学習問題」→「学習課題」→「中心発問」→「補助発問」を行いながら「ねらい」や「焦点化」、「多面化」、「論理化」を図ることである。これを単元レベルと1時間の授業レベルで考えて実行する。次に「課題解決から社会判断、意思決定へ」というタイトルの話になるが、課題解決のプロセスが重要になる。具体には、「社会的判断」→「意思決定」→「社会的行動」という段階が必要である。特に大学入試でいえば、「社会的判断」の部分は「共通テスト」の内容に含まれるものになる。「学習方式～ノート指導を中心に」ということであるが、表現（記述や会話など）の説明なくして、思考・判断は語れないと考える。とにかく暗記させることから説明、説明、説明へと切り替えて、それを評価につなげていくことが大切である。

◇おわりに

今年度の社会科Brush Up研修会は、3部構成で実施されたが有意義な内容であった。参加した先生方からも、「今回の研修会で刺激を受けた」、「考えさせられることが多かった」「とても興味深かった」などの意見をいただいた。また、今回は新学習指導要領を踏まえ、アクティブ・ラーニング的授業とICTの活用などの授業方法と実践研究を行い、社会科の授業の在り方を現実の現代社会との関係でダイナミックにとらえて議論することができ、とても有意義な研修となった。外部講師の吉田先生も「高校現場の先生方と議論できてとても良かった」と感想を述べられていた。参加された先生方は様々な観点からの多くの示唆が得られた研修になったものと思われる。

授業検討会の様子

講師の宮城教育大学の吉田剛教授

【資料】

第3学年　公民科学習指導案

令和元年6月21日（金）5校時
仙台育英学園高等学校　外国語コース　3年G1組
指導者：秋山　直道
場所：3年G1組教室

1　単元名（使用教科書）
「第2章 2節 現代経済のしくみ」（「政治・経済」東京書籍）

2　単元の目標
全体目標
現代経済のしくみと課題について考察する
具体目標
【社会的な思考・判断・表現】
消費者として現代経済の仕組みと課題について考察することができる。
【資料活用の技能】
資料から経済理論がどのように作用しているかを読み取ることができる。
【社会的事象についての知識・理解】
現代経済の仕組みと課題について理解することができる。

3　単元について

(1) 教材観

本単元は学習指導要領公民政治経済分野内容（2)「現代の経済」ア「現代経済の仕組みと特質」を受けて構成する。

今回の授業では、需要と供給、価格の変化を中心に授業を展開していく。題材としては生徒の身近なものであるため、生徒自身の経験から考えることのできるような内容であると考えられる。また、事前に「貿易ゲーム」という活動を通して経済の動向の概要を確認したため、その内容の復習になるはずである。経済的な理論が必ずしも現実の動きと一致するわけではないが、実際に起きていることと比較することで、理論と現実の関係性に気付くことができる分野でもある。

(2) 生徒観

本クラスは女子29名で構成されており、留学生も数名在籍している。自分の関心がある部分や自信のあるところについては発言があるものの、積極的に発言する生徒は多くない。しかし、教師の発言をメモしたり、頷きながら話を聞くなどの行動も見受けられる。以上のことから、生徒が関心を持ちやすい身近な例を踏まえつつ、考えやすいように資料を提示し、板書の重要な部分にはふりがなをふることで支援していく。

(3) 指導観

生徒の経験や生活知識に大きく関わっている部分であるので、そこを考える材料としてうまく生かしていきたい。そのために、ICTを活用し資料を提示することで生徒の発言をより引き出していく。また、最近の新聞記事を提示することで、経済理論が現実にどう作用しているのかをつかませたい。

4　単元の観点別評価規準と基準

	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象に対する知識・理解
目標	消費者として現代経済の仕組みと課題について考察することができる。	資料から経済理論がどのように作用しているかを読み取ることができる。	現代経済の仕組みと課題について理解することができる。
A	消費者として現代経済の仕組みと課題について考察し、説明することができる。	資料から経済理論がどのように作用しているかを読み取り、活用することができる。	現代経済の仕組みと課題について理解し、生活知識と関連づけることができる。
B	消費者として現代経済の仕組みと課題について考察することができる。	資料から経済理論がどのように作用しているかを読み取ることができる。	現代経済の仕組みと課題について理解することができる。
C	消費者として現代経済の仕組みについて考察することができる。	資料から経済理論について読み取ることができる。	現代経済の仕組みについて理解することができる。

5　単元の指導計画（3時間扱い　本時3時間目）

	配当時間	テーマ	概要（ねらい、主な指導事項）
第1時	1	貿易ゲーム	経済の動向について学ぶ
第2時	1	経済の動向の概説	通貨の役割、価格の変化について学ぶ
第3時	1（本時）	需要と供給、価格の変化	需要と供給、価格の変化の関係について学ぶ

6　本時の展開

(1) 本時の題材名「市場経済の機能と限界」

(2) 本時の目標（ねらい）

全体目標

市場経済における経済理論の応用や、限界について考える

具体目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】

市場経済において、経済理論がどのように作用しているかを考える。

【社会的な思考・判断・表現】

市場経済における経済理論の課題や限界について説明できる。

【資料活用の技能】
資料から需要・供給と価格の変化の関係を読み取ることができる。
【社会的事象への知識・理解】
市場経済における経済理論の課題や限界について理解する
(3) 本時の指導にあたって
本時の授業は第一時に行った「貿易ゲーム」から続く、経済動向の概略についてのまとめの部分にあたる。「貿易ゲーム」を通して、通貨の役割や価格の変化、価格のつけられ方などを体験させた。また、前時ではその内容の復習を行なった。今回の授業では活動内で得た経験や、生徒の生活経験と結びつけながら需要・供給と価格の変化について学ばせる。また、経済理論が現実にどのように作用しているかを、関連する新聞記事を提示することで、その限界と効用について考えさせられるような内容にしたい。
(4) 評価基準

評価基準・評価場面	A（十分満足できる）	C（満足できない）・対応
需要曲線、供給曲線と価格の変化についてまとめている。 【指導過程3】	需要曲線、供給曲線と価格の変化について生活知識を踏まえてまとめることができている。	机間指導で生活知識や実体験をもとに考察しまとめるように指導する。

(5) 指導過程

時間	学習内容・教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 10分	1 ・価格の変化 教：貿易ゲームの振り返りを行わせる Q1. 貿易ゲームでは価格がどのように変化したか	1 貿易ゲームの振り返りを行う Q1. ・途中で価格が変わった ・価格が下がることがあった	1 貿易ゲームでの経験から、価格が変化したことに気付かせる （補足資料-1）
展開① 20分	2 ・需要曲線と供給曲線 教：需要曲線と供給曲線を提示し、どちらがどちらのグラフかを考えさせる 3 ・需要、供給と価格の変化 ・価格の自動調節機能 教：グラフの変化について考えさせる Q2. 需要曲線・供給曲線はそれぞれどのような意味を持つのだろうか	2 ・右上がりが需要/供給 ・右下がりが需要/供給 3 提示されたグラフに注目する Q2. ・価格が高くなると需要は減少する ・価格が低くなると需要は増加する ・需要と供給のギャップは何だろう	2 需要曲線と供給曲線の意義についてつかませる 3 ・生徒の経験を基に考えるよう促す ・自分の考えをプリントにまとめさせる 評価場面
展開② 10分	4 ・価格の下方硬直性 ・管理価格 教：現実には価格が変わらないモノがあることに気付かせる	4 ・スマートフォン ・ゲーム機	4 実際には需要と供給の関係によって価格が変わらないものがあることに気付かせる
まとめ 10分	5 ・経済理論と現実 教：聞記事を提示し、技術の発展と理論の融合に気付かせる	5 指導過程4で考えたことが現実では変わりつつある	5 経済理論と現実の関わりについて扱う

7. 情報Brush Up実践報告

報告者　日野　　彰

◇　**公開研究授業**

（1）①時間　　6校時（13:40～14:25）
②会場　　WIN1室（南冥4階）
③授業者　佐藤正行、実習アシスタント 片山貴子
④対象　　1J1（40名）
⑤内容　　MOS Excel2016における表のデータをもとにグラフを作成し、グラフの要素を追加したり変更できるようにする
⑥評価　　内容の習得に意欲的に取り組み、機能の必要性や有用性を理解しているか。
⑦考察　　MOS Excel2016を今年度4月より指導しており、ひととおり解説は終了している。生徒は1年生ながら、半年間でパソコンスキルは上達し、理解習熟度は高くなってきている。授業の進み具合、説明した後の生徒への働きかけも良く、考えさせる時間を取り、実習操作の補うべき点、重要な関連事項も丁寧に解説していた。実習アシスタントも個別にきめ細かく丁寧に指導していた。

（2）①時間　　7校時（14:35～15:20）
②会場　　WIN1室（南冥4階）
③授業者　村上淳、実習アシスタント 平田真由美
④対象　　3J3生徒（31名）
⑤内容　　MOS Word2016Expertにおいて実社会においても有用なWordの活用法について知る
⑥評価　　内容の習得に意欲的に取り組み、機能の必要性や有用性を理解しているか。
⑦考察　　MOS Word2016Expertを今年度10月より指導しており、現在Lesson課題に取り組んでいる。難易度の高い内容ではあるが、生徒のパソコンスキル理解習熟度は高く、授業中も集中して説明を聞き、よく理解して実習に取り組んでいた。授業の進み具合、生徒への働きかけも良く、授業に集中できる教室環境を育んでいた。生徒の実習操作の補うべき点、重要な関連事項も丁寧に解説していた。実習アシスタント教員も個別にきめ細かく丁寧に指導していた。

6校時授業

7校時授業

◇　**研究協議**

（1）感想や意見など
・授業の最初にやるべきところを説明し、1時間の見通しを立てて行っていることが良かった。
・授業全体の流れを大事にして、導入、展開、まとめのメリハリが良かった。
・実例見せながらの解説はわかりやすく、生徒に目が行き届いた説明であった。
・資格試験の目的や授業の関連性、授業の中での目標到達点を明確に設定しているのが良かった。
・教員がパソコン操作の実演を行い、生徒に実習させていることは良かった。
・内容の説明時、声が大きく、授業の重要ポイントを細かく丁寧にわかりやすく説明していた。
・社会に出てから役立ち、生活でワードを使用した場合を考えての内容説明はわかりやすく、生徒の興味関心をもたせられると感じた。

（2）畳指先生からの講評

・生徒が授業に集中できるよう工夫して展開し、わかりやすい説明が良かった。
・授業説明でプロジェクター活用かつ拡大鏡も用いると効果的である。
・試験時、操作にスピードを出すためショートカットキーを用いるのは有効的である。
・多くの生徒がMOS試験を受験し、多くの合格者を出すことが目標であり、そのためには受験しやすい授業の展開が大切である。

【資料】学習指導案1

日時：令和元年10月31日（木）6校時（13:40～14:25） 会場：WIN1教室　　クラス：1年J1組　　科目：グローバルライセンス テキスト：MOS Excel 2016 Specialist　　教科担任：佐藤　正行			
本時の目標：表のデータをもとにグラフを作成し、グラフの要素を追加したり変更できるようにする			
区分	学習内容	指導内容	評価の観点
導入 （10分）	・挨拶、黙想、出席確認 ・本時の学習内容の確認	・グラフ作成について 円グラフと棒グラフの作成手順を理解させる ・グラフ構成要素の解説	・本日の学習内容について目標を持つことができたか
展開 （30分）	グラフ作成と行列の切替え要素追加 ・Lesson82（P203）実習 ・Lesson83、84（P205）実施 ・Lesson85（P208）実施 ・Lesson86（P209）実習 ・Lesson87（P213）実習 ・Lesson90（P219）実習	・解説5-1-1（P201～P202）を解説し確認する ・机間巡視し、Lesson内容の理解を確認する ・lesson内容のpointについてテキストより解説 ・伝えたい内容に適したグラフの種類を選択する ・机間巡視し、Lesson内容の理解を確認する ・解説とLesson内容をスクリーンで解説 ・クイック分析によるグラフを作成する ・グラフ要素の追加・変更・切り離しの解説	・Lesson内容の習得に意欲的に取り組んでいるか ・データ範囲が適切に選択されているか ・ツリーマップとヒストグラムが作成されているか ・データ系列の追加と削除が正しく操作できているか ・ワークシート上にグラフが作成されているか ・円グラフがLesson内容に従い正しく作成されているか
まとめ （5分）	・本時のまとめ	・本時で学習した内容についてまとめる	・本日の学習内容について理解できたか

学習指導案２

日時：令和元年10月31日（木）7校時（14:35～15:20） 会場：WIN1教室　　クラス：3年J3組　　科目：グローバルライセンス テキスト：MOS Word 2016 Expert　　教科担任：村上　淳			
本時の目標: 実社会においても有用なWordの活用法について知る			
区分	学習内容	指導内容	評価の観点
導入 （10分）	号令 本時の説明	本時の内容を説明し学習意欲を喚起する	
展開 （30分）	変更履歴の記録と活用 Lesson15　P69 文字列の検索と置換 Lesson26　P104 テキストボックスの活用 Lesson29　P117	変更履歴を活用した文書管理と詳細なオプションについて 特殊文字やワイルドカードを用いた検索と置換について テキストボックスへの変換とテキストボックスの利用について 全体を通して卒業後も知識として役立つ内容を伝える	活用例を想起することができるか（意欲） 様々な活用法を知ることで自ら調べようとする興味関心を持つことができたか（興味関心） 口頭による説明から実際の操作に移ることができたか（意欲態度）
まとめ （5分）	・本時のまとめ		・本日の学習内容について理解できたか

8. 令和元年度Brush Up研修会実施一覧

令和元年度　Brush Up研修会実施一覧　　教科教育センター　　2019.12.23

教科	回数	開催月日・曜日	対象学校・コース	研修Ⅰ 研究授業	研修Ⅱ モデル授業・集中講義・講話	研修Ⅲ 職員研修	教育顧問従事の有無
国語	1	4 月 17 日（水）	宮城野	＊	講話　センター試験現代文分析	授業巡回、教員個別面談	有
	2	5 月 15 日（水）	多賀城	＊	講話　共通テストの傾向と対策	授業巡回、教員個別面談	有
	3	5 月 28 日（火）	秀光中	○	研究授業	第１回国語授業検討会	㊟
	4	6 月　5 日（水）	宮城野	＊	講話　共通テストの傾向と対策	授業巡回、「羅生門」の読み取り	有
	5	7 月　3 日（水）	宮城野	＊	講話　自己推薦書・志望理由書のまとめ方	小論文・面接の指導について	有
	6	7 月 24 日（水）	宮城野	○	研究授業	第２回国語授業検討会	㊟
	7	9 月 18 日（水）	多賀城	＊	講話　共通テストの傾向と対策	授業巡回、小論文指導対策	有
	8	10 月 23 日（水）	多賀城	＊	講話　センター試験現代文対策	新入試で求められる思考力・表現力	有
	9	11 月 21 日（木）	多賀城	○	研究授業	第３回国語授業検討会	㊟
	10	12 月　9 日（月）	宮城野	＊	講話　センター試験対策	第１回校内摸試分析、新入試検討	有
英語	1	4 月 12 日（金）	秀光後	＊	講話　入門期指導－英文の仕組み	今年度大学入試の特徴と対策	有
	2	5 月 10 日（金）	特進	＊	講話　大学入試に向けての長文読解と英作文指導	精読か多読か、グループワーク	有
	3	5 月 24 日（金）	外国語	○	効果的なICTの活用とアクティブラーニング		有
	4	6 月 21 日（金）	秀光前	＊	書下ろし教材「知っていればオモシロイ英語のはなし」	パラグラフリーディングと要約の仕方	有
	5	7 月 12 日（金）	英進	○	ICTを活用したアクティブラーニング（英語授業検討会）		㊟
	6	9 月　6 日（金）	秀光中	○	ICTを活用したアクティブラーニング（英語授業検討会）		㊟
	7	10 月 28 日（月）	秀光	○	ICTを活用したアクティブラーニング	難解な英文の訳し方	有
	8	11 月 15 日（金）	特進	○	ICTを活用したアクティブラーニング（英語授業検討会）		㊟
	9	11 月 25 日（月）	外国語	＊	英語の仕組み英作文、長文読解	センター試験対策について	有
	10	12 月　9 日（月）	外国語	＊	ICTを活用したアクティブラーニング	notとnoの違い、not（never）の否定の領域	有
数学	1	4 月 25 日（木）	外英技フ	○	3GA「数学Ⅰの解法」	新テスト試行問題の分析と解説	有
	2	5 月　9 日（木）	秀光	○	6M「センター試験新傾向問題」	IB教育・ICT教育との関連、新テストへの対応」	有
	3	6 月　6 日（木）	特進情報	＊	講話① 3J「数学Ⅱの解法」 講話② 3T「センター試験解法」	大学入学共通テストの問題分析	有
	4	6 月 12 日（水）	外国語	○	＊	ICTの活用（数学授業検討会）	㊟
	5	9 月 12 日（水）	特進	○	＊	受験学力育成（数学授業検討会）	㊟
	6	10 月　3 日（木）	秀光前期	○	3M「高校数学入門」	アクティブラーニング	有
	7	10 月 24 日（木）	秀光特進	＊	①2T「センター試験対策」 ②5M「センター試験対策」	入試問題に秘められた大学数学	有
	8	11 月　7 日（木）	特進	○	3T「数学Ⅲ二次試験対策」	国公立大二次試験傾向と対策	有
	9	12 月 11 日（水）	秀光中	○	3S「数学の楽しさ＆美しさ」	数学の力を育成するために（数学授業検討会）	㊟
理科	1	4 月 22 日（　）	英外技フ	○	＊	理科におけるICTの利用	無
	2	5 月 10 日（金）	特進	○	モデル授業	センター試験結果分析	有
	3	5 月 24 日（金）	英外技フ	○	モデル授業	授業分析会	有
	4	7 月　5 日（金）	秀光	○	モデル授業	IB・MYPの理科と評価方法について	有
	5	9 月　6 日（金）	全コース	○	＊	講話「アクティブラーニングについて」 ICTの利用の実例（理科授業検討会）	㊟
	6	10 月 11 日（金）	全コース	○	＊	講話「IB教育について」、IB・DPの理科の指導内容について（理科授業検討会）	㊟
	7	11 月　8 日（金）	秀光中	○	モデル授業	アクティブラーニングについて（理科授業検討会）	㊟
	8	12 月 16 日（月）	秀光特進	＊	外部講師による授業研修	生徒がつまずくポイントについて	㊟
	9	12 月 17 日（火）	秀光特進	＊	外部講師による授業研修	生徒がつまずくポイントについて	㊟
社会	1	5 月 16 日（木）	宮城野	○	研究授業（社会授業検討会）	講話「中高校社会系教科の新しい方向」	㊟
	2	6 月 21 日（金）	多賀城	○	研究授業（社会授業検討会）	講話「中高校社会系教科のアクティブラーニング方法」	㊟
	3	7 月 19 日（金）	秀光中	○	研究授業（社会授業検討会）	講話「高校社会系教科の発問とノート指導」	㊟
情報	1①	7 月 31 日（水）	情英フ	＊	＊	Word 2016（体験研修）	㊟
	1②	7 月 31 日（水）	法人局	＊	＊	Word 2016（体験研修）	㊟
	2	10 月 31 日（木）	情報	○情	＊	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾗｲｾﾝｽ	㊟

月毎一覧表

月	日	曜	教科	対象学校・コース
4	12	金	英1	秀光後期
	17	水	国1	宮城野
	22	月	理1	外英技フ
	25	木	数1	外英技フ
5	9	木	数2	秀光
	10	金	英2	特進
	10	金	理2	特進
	15	水	国2	多賀城
	16	木	社1	宮城野
	24	金	英3	外国語
	24	金	理3	外英技フ
	28	火	国3	秀光中学
6	5	水	国4	宮城野
	6	木	数3	特進情報
	12	水	数4	外国語
	21	金	英4	秀光前期
	21	金	社2	多賀城
7	3	水	国5	宮城野
	5	金	理4	秀光
	12	金	英5	英進
	19	金	社3	秀光中学
	24	水	国6	宮城野
	31	水	情1	情英フ
	31	木	情1	法人局
9	6	金	英6	秀光中学
	6	金	理5	全コース
	12	水	数5	特進
	18	水	国7	多賀城
10	3	木	数6	秀光中学
	23	水	国8	多賀城
	24	木	理6	全コース
	24	木	数7	秀光特進
	28	月	英7	秀光
	31	木	情2	情報
11	7	木	数8	特進
	8	金	理7	秀光中学
	15	金	英8	特進
	21	木	国9	多賀城
	25	月	英9	外国語
12	9	月	国10	宮城野
	9	月	英10	外国語
	11	水	数9	秀光中学
	12	木	理8	秀光特進
	13	金	理9	秀光特進

○　教科コンダクター：国語（齋藤順子）、英語（高橋郁夫）、数学（阿部文男）、理科（野田良彦）、社会（小松　敦）
　　情報担当（日野彰、板垣徳昭）
○　教育顧問（コンサルタント）：国語（中塚光之介）、英語（坂井一任）、数学（江川博康）、理科（鳴瀬彰夫）
○　㊟は外部講師による。

外部講師　　①授業力向上委員会企画BU
（敬称略）　　国語（児玉　忠　宮城教育大学　5 /28（火）、7/24（水）、11/20（水））
　　英語（村野井仁　東北学院大学　7/12（金）、11/15（金）、鈴木渉　宮城教育大学　9/6（金））
　　数学（渡邊幸雄　東北工業大学　6/12（水）、9/4（水）、12 /11（水））
　　理科（田幡憲一　宮城教育大学　9／6（金）、10／11（金）、11／8（金））
　　社会（吉田　剛　宮城教育大学　5／16（木）、6／21（金）、7／19（金））
　　②理科（渡部大嗣　仙台河合塾　12/16（月）、10/17（火））
　　③情報（畳指ウェンディ他1名　JC－21教育センター　7/31（水）、10/31（水））

Ⅱ　研修報告

（1）秀光中等教育学校　カナダ研修報告

Canada Study Abroad Trip
Junior Leadership Academy with Powerful Youth
Sunday July 21 – Sunday August 4 2019

Kerry Winter, Shukoh Middle School

Twenty-two excited and nervous students from Shukoh Middle School participated in a two-week leadership academy with Powerful Youth in Victoria, Canada from July – August 2019. On arrival at Brookes Westshore, the students were warmly welcomed by the Powerful Youth staff, and were allocated dorm rooms which will be there new home to share with a student from another country for the two weeks. Students from joined the programme.

Day 1: Sunday 21st July, 2019

After a long day of travel, the students arrived jetlagged, tired, nervous and excited at Brookes Westshore at 6:00pm, welcomed by warm evening sunshine and the friendly Powerful Youth staff. The students were allocated dorm rooms which would be there new home for the next two weeks, which they would share with one or two students from another country. After eating a buffet dinner on campus, the students participated in some activities and began to interact with students from other countries such as Mexico, China, Canada, USA, Afghanistan, Russia, and Uruguay. The students experienced the power of music to overcome the language barrier as they played piano for each other in the cafeteria and began to form a bond without any words.

Day 2: Monday 22nd July, 2019

Theme: Orientation & Leadership

In the first few days, students participated in some ice breaking activities to get to know the other participants in English. In order to be able to overcome differences in language, thinking, and culture in the next two weeks, the students then played a very thought-provoking card game, “Barnga”, in which each table had different rules, however no one was allowed to discuss the differences. The confusion which was caused by this emulated the confusion which can occur in intercultural communication – where each member has different expectations, rules for behaviour, and perceived norms of how things should happen. This helped the students to consider situations from the perspective of others, and developing a vital aspect of international mindedness – the understanding that peaceful and harmonious relationships require concession and mutual understanding. In the afternoon, the students began thinking about what leadership is, and what the qualities of a leader are. The students began to realise that leadership is influencing others and includes qualities such as trust, good com-

munication, purpose, passion, humility, and open-mindedness; and is not limited by just the ability to stand and speak in front of others. Shukoh students were able to overcome their initial shyness and begin to participate in some group discussions.

Day 3: Tuesday 23rd July, 2019

Theme: Confidence

Wildplay is a high ropes course situated in the picturesque nature of Victoria, BC. Today's goal was to go as far as you are comfortable with, and then take one courageous step further, extending your comfort zone and thereby gaining confidence. Students approached wildplay with excitement and every student successfully made it to the finish. Students also learned about the power of encouragement in achieving goals and practiced encouraging others in English along the way, such as "You can do it!", "You've got this!", "Keep going!" "Good job!" etc. Students enjoyed challenging something new, and supporting each other along the way.

In the evening, a Susan Simmons, an ultramarathon swimmer, came to share with the students as a guest speaker about her achievements and her challenges with Multiple Sclerosis and how that led to her becoming a world record holding open water swimmer. Her story of overcoming illness to achieve an amazing feat, and promote mental wellbeing was very inspirational.

Day 4: Wednesday 24th July, 2019

Theme: Inspiration

Today was a "hands-on" day when students went to volunteer at Providence Farm, a 400-acre farm on Vancouver Island which is used as a place of therapy and wellness for people with mental or physical disabilities. Providence Farm engages the wider community in providing a place of belonging, and activities through which participants can grow, heal, and take pride in. These activities range from gardening to horse riding to woodwork to artwork. Today, students supported the work of this organisation by wedding overrun gardens and flowerbeds, and picking berries. For many it was their first time on a farm, and after a morning of helping others, eating an organic home-grown meal, they returned back to school with a sense of satisfaction.

In the evening, Matt Hill, a voice actor and ultra-marathon runner visited as a guest speaker. He told the students of his project, "Run for One Planet" in which he ran around the perimeter of North America, raising awareness of environmental sustainability. The students were inspired by his dream and passions becoming a reality which benefited many people.

Day 5: Thursday 25th July, 2019

Theme: Ideation

The Design cycle is a tool which is used by around the world as a framework to develop novel solutions to existing problems. It consists of 5 steps: empathize, define, ideate, prototype, test. Today, students focused on the third step, "ideation", in which they embraced their creativity and teamwork skills through designing a Martian, including imagining how it looks, how it moves, and how it speaks. Students presented their Martians to the group in English and continued to get accustomed to discussing and speaking in English in front of others.

In the afternoon, students participated in acro-yoga, through which they learned that effective leadership and teamwork includes trust and non-verbal two-way communication. Students were able to get outside of their comfort zone and by the end of the session were able to do poses as a group that they thought wasn't possible at first.

Day 6: Friday 26th July

Theme: Kindness Challenge

Today was the long-awaited kindness challenge, in which students had been thinking about why it is important to be kind to others, and had been making a plan in small groups to undertake 3 activities which would show kindness to others, without seeking anything in return. Students boarded a bus for downtown Victoria, and did random acts of kindness to others under the supervision of the Powerful Youth staff. Some groups made paper cranes with encouraging messages to give to people, some groups ran a ring toss game for those passing by, some groups picked up trash in a local park, others gave out free chilled water in the hot weather to keep people hydrated, and some even did magic tricks for others. It was another day which involved students stepping outside of their comfort zone to speak with strangers in English. This continued to boost their confidence in approaching strangers, and also in speaking English, and many found that people are very friendly for the most part and there is no need to be afraid of talking to strangers. The students returned back to school very satisfied and with a sense of the joy of giving.

In the afternoon students began to think about their design challenge, and brainstorm in the form of a mindmap about the kinds of problems and issues in the world around them.

Day 7: Saturday 27th July

Theme: Exploring

Victoria is a beautiful harbor city which the students had the opportunity to explore on this day. After spending the morning at the Museum of Victoria and learning about the First Nations people of Canada, students had some time to explore the streets of Victoria in small groups, enjoy the relaxed atmosphere, and be immersed in the multicultural society that is Victoria. In the evening, after enjoying burgers at a local eatery, students enjoyed time at the world class Butchart Gardens and were able to see a fireworks experience at the gardens. It was a day of new experiences and appreciating all Victoria has to offer with an open mind.

Day 8: Sunday 28th July

Theme: Passion & Investigation

Today students enjoyed a slower start to the day after a late night at the Butchart Gardens. Some students went on a morning walk to the beach the neighboring university buildings which include a castle.

Continuing with the Design Thinking cycle, students focused on “Define” in which they selected one specific problem from their previous mindmap of local and global problems which they were aware of. Students reflected deeply on what this problem is, and why it is important to them, and presented their reasoning to the group in English. Some students chose problems such as global warming, the declining population, deforestation, poverty, child abuse and bullying.

After spending some time at the local recreation center in the evening, students participated in a “privilege” role play activity in which they were given different roles of different kinds of privileges to play in society. Students reflected together about how not everyone’s “starting point” in life is the same, and that some people are born into privilege, and some are born into hardship. However, these circumstances into which people are born tend to define people, create inequality in society, and take away people’s “voice”. Many students became aware of their privilege for the first time, and recognised that sometimes the reason that people struggle with homelessness, addiction etc. is because of the lack of opportunities to which they were exposed as a result of their privilege (or lack thereof). Shukoh students walked away with a different perspective, and expressed gratitude for their houses, education, lifestyles and especially the opportunity to study abroad in Canada.

Day 9: Monday 29th July

Theme: Invention

Today students were inspired by a number of stories of young people defying the low expectations of those around them, and going on to invent impressive tools and technologies. The students were encouraged that creative ideas are not limited to those with expertise and experience; they can develop their creativity and come up with inventive things despite their age. Inspired by other young inventers, the students began to brainstorm different kinds of novel solutions to their chosen problem

In the evening, students heard from a film maker guest speaker who made a short film to promote the dangers of drug abuse to his community. Students were surprised to hear that drug abuse is a common problem in Victoria, and addiction can have devastating affects to the wider community.

Day 10: Tuesday 30th July

Theme: Reflection

Today students travelled mid-island to an artistic community called Coombs where many enjoyed Canadian cuisine, before spending time at the picturesque Rathtrevor Beach. Surrounded by wide open spaces and the ocean which separates Vancouver Island from mainland Canada, students reflected on their experience and learning at the Junior Leadership Academy over the last ten days. For many students it was an opportunity to recognise the growth they have made as individuals as a result of stepping outside of their comfort zone, a time to treasure their experiences so far, and a prompt to resolve to make the best of their short remaining time in Canada.

Some students took the opportunity to swim in the ocean and for some it was the first beach they had ever been to. Afterwards, students enjoyed a beachside barbeque, and the infamous North American 'Smores.

Day 11: Wednesday 31st July

Theme: Implementation & Collaboration

The Arts have long been a unique way of overcoming barriers to connect as human beings. Today was no exception as students chose at art form (visual arts, music, digital arts etc.) through which to collaborate and present a shared product. Each student reflected on their time thus far at Powerful Youth and what they had learned, and worked together to decide a theme, a product and a process for how to collaborate effectively to achieve the outcome. Some projects in which students collaborated included a dance about intercultural understanding, a painting about stepping outside of one's comfort zone, a musical performance about a peaceful world, and a media presentation which summarized their experiences.

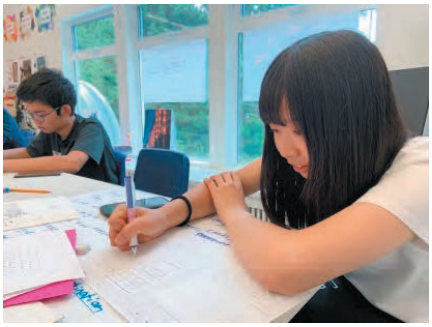
In the afternoon, students continued working on their design projects in the ideation stage of design thinking, brainstorming three possible prototypes for their global issue, presented them to their peers, and received feedback about each one.

Day 12: Thursday 1st August

Theme: Implementation

Implementation is an imperative step of any plan, and today students aligned their prototypes to the Powerful Youth motto: "Passion + Purpose = Change". Students reflected again and presented in small groups about the passion behind their prototype and articulated why this issue is important to them, followed by considering its purpose – who this prototype would help, and finally what kind of change they anticipated this would bring. This was a unique opportunity for the students to not only think in depth about an issue, but to feel inspired and empowered to do something about it.

At the talent show in the evening, Shukoh students "stole the show" as they sung as a choir and also performed as solo acts and in small groups. The students demonstrated outstanding musical skills, and many voluntarily stepped outside of their comfort zone to perform in front of a large group of people. Again, the students experienced the power of music to connect and communicate with others beyond language.



Day 13: Friday 2nd August

Theme: Celebration

On the final day of the Junior Leadership Academy, students showcased the final product of their design challenge to their peers in English. This included a question and answer session in which students had the opportunity to extend their English communication skills as well as thinking in depth about the feasibility of their prototypes. In particular, students were asked about why they had chosen that particular topic, and why they care about the issue. Through this, students were able to empathise with others, apply their knowledge to the situation, and develop an idea to improve the it. Students which had prototypes which connected most close-

ly to Powerful Youth's values of passion, purpose, and change, were selected to present in front of the whole group of approximately sixty people. Following this, students participated in a gallery walk in which they had the opportunity to hear from other students, and also gain further practice in presenting their prototype in a more informal setting.

In the evening, students attending the Powerful Youth graduation ceremony in which each student received a certificate in front of the entire group, with personalized comments from their leadership coaches from their time at the Junior Leadership Academy. As students reflected on their time at the program it was undeniable that they had grown as individuals, their mindsets had been expanded, their English had developed, they had represented their school and their country exceptionally, and they had each in some way personified all attributes of the International Baccalaureate Learner Profile.

Sendai Ikuei Gakuen is very grateful to partner with Powerful Youth in providing outstanding leadership programmes for all of its participants.

京都研修報告

仙台育英学園秀光コース　　加藤　隆寛
横山　佳絵

1. はじめに

令和元年９月24日（火）から９月27日（金）まで３泊４日の行程で、京都府において秀光コース第２学年25名が京都研修を行った。研修は京都大学での模擬講義受講を中心に、同志社大学、立命館大学の見学をし、大学進学に向けて意識を高める内容となった。さらに、宇多野病院、島津製作所、京都新聞社を訪問した。そこでは仕事の実際や製品の見学などを通して、将来の仕事に対しての意識を高めることができた。

また、４月からSDGsについて学習を進めており、生徒一人一人が17ある目標のうちから一つを選び、世界での実情や企業の取り組みを調べ、班別自主研修の中で京都での実例を見学した。その中で京都市役所では村上圭子副市長の講話を受け、SDGsについての理解を深めた。

清水寺や金閣、北野天満宮といった京都を代表する歴史的建造物を見学し、京都の歴史に触れると同時に進路や職業についての意識を高める充実した研修となった。

2. 事前研修と準備

事前研修の最初は実行委員の選出と研修の目標を定めることである。実行委員会を中心に決めた研修目標は「絆」である。現高校２年生は、高校１年で新たに留学生を迎えたり、高校２年生からはDPコースに特別進学コースから転コースをした生徒を迎えたりしている。そこで新しい仲間も加えた27名で絆をより強いものにし受験に向かっていこうという決意が込められている。

事前研修ではSDGsの目標の中から自分で興味があるものを取り上げ、現在国際的に問題になっていることや企業での取り組みについて調べた。また、京都大学や同志社大学、立命館大学の概要や、企業訪問先の宇多野病院、京都新聞、島津製作所について調べ、調べた内容をグループごとに発表した。

3. 研修日程

行き先：京都府京都市
参加者：仙台育英学園高等学校　秀光コース　第２学年　男子14名　女子11名　合計25名
引率者：菊地恵美子（2M主任）
　　横山　佳絵（2M1担任）
　　加藤　隆寛（2M2担任）
　　椿　　栄子（IB事務局）

令和元年９月24日（火）

時刻	内容	備考
8:00	仙台駅集合、出発式	
8:44	出発	
12:55	京都駅　着	
13:20	京都駅　発	
14:00	清水寺　着	
15:30	清水寺　発	
16:00	北野天満宮　着	
17:00	北野天満宮　発	
17:20	リノホテル　着	予定より40分早く到着
20:00	卒業生講話	

令和元年9月25日（水）

時刻	内容	備考
8:15	リノホテル　発	
9:00	京都大学　着	
12:30	京都駅　発　企業研修へ ①宇多野病院（5名） ②京都新聞社、京都文化博物館（14名） ③島津製作所、京都文化博物館（6名）	
15:45	京都市役所着	
17:30	リノホテル　着	
20:30	研修振り返り	

令和元年9月26日（木）

時刻	内容	備考
8:30	リノホテル　発	
9:00	同志社大学　着	
11:30	同志社大学　発　自主研修へ	大学見学が長引いたため、出発が30分遅れる
19:00	リノホテル　着	
20:30	研修振り返り	

令和元年9月27日（金）

時刻	内容	備考
8:30	リノホテル　発	
9:00	金閣寺　着	
9:50	金閣寺　発	
10:00	立命館大学衣笠キャンパス　着	
13:00	立命館大学衣笠キャンパス　発	
13:30	京都駅　着	
14:12	京都駅　発	
18:26	仙台駅　着	
18:45	仙台駅　解散	

4. 研修報告

第1日目　9月24日（火）　出発式・移動

出発日は大きな事故もなく生徒全員元気に過ごすことができた。実行委員太田菜々美さんから見送りに来てくださった先生方へ、京都で大学・企業研修を行い、有意義な研修にしてくるという決意のこもった挨拶があった。予定通り京都に13時頃到着し、清水寺を参拝した。そこで1時間程度自由行動をし、音羽の滝などを散策した。その後、バスに乗車し北野天満宮で昇殿参拝をした。

予定より40分程早くホテルに到着し、18時半から夕食を摂った。20時から卒業生の板橋竜吾君、板宮七海さんから高校時代の話や大学生活についての講話を聴いた。

第２日目　９月25日（水）

朝８時に予定通りホテルを出発し、京都大学で学校紹介と模擬講義を受けた。模擬講義では農学部と総合人間学部の二つに分かれそれぞれお話を伺い、その後講義をしてくださった先生方と一緒に昼食をとった。

午後には京都新聞、宇多野病院、島津製作所の３班に分かれ企業訪問研修を行った。２時間程度の研修後は京都市役所を訪問し、村上圭子副市長から京都市のSDGsに対する取り組みについてお話を頂いた。

ホテルに帰り、夕食後は企業訪問研修の振り返りを行った。生徒達はホテルに帰ってからの短い時間の中で、PowerPointやGoogleスライドにまとめるなど工夫をしながら、ポイントを押さえたプレゼンテーションを披露した。

第3日目　9月26日（木）

朝8時にホテルを出発し、同志社大学で学校説明とキャンパスツアーに参加した。実際に学生が授業を受けている様子や、自由に使えるICT環境の整った自習室などが印象に残ったようだった。

その後生徒たちはSDGsの観点を取り入れた班別自主研修を計画に沿って行った。

夜ホテルに帰ってきた後は、班別自主研修の振り返りを行った。各班が今回の研修で学んだことを撮影した写真やスライドを用いたりしながら発表した。短い時間の中で、どの班も昨日同様要点を押さえた発表をしており、この3日間でのプレゼンテーションスキルやリサーチスキルの成長が見られた。発表後は実行委員企画のレクリエーションを行い、親交を深めた。

第4日目　9月27日（金）

朝8時にホテルを出発し、金閣寺を見学した。

立命館大学では、学校説明とキャンパスツアーに参加した。学校説明では、社会で活躍できる人材を育てるという教育目標についてお話があり、キャンパスツアーの中で放課後に行われている資格取得や試験のためのセミナーのチラシを見ながら、その充実度に目を引かれたようであった。

5. おわりに

今年度は企業訪問研修先に島津製作所と京都新聞社を設定したが、文系・理系ともに充実した研修となった。特に島津製作所では、社会問題に科学の力でどのようにアプローチするのかという観点について学ぶことができ、工学系・医療系志望の生徒にとっていい刺激になった。

大学見学についても京都大学では農学部と総合人間科学部の教授による模擬講義を受講し、生徒たちは興味がある分野について大学でどのようなことを学ぶのかを知ることができた。また、大学で学ぶうえで必要な心構えやスキルについての認識を新たにしたようだった。同志社大学、立命館大学でも学生によるキャンパスツアーを実施して頂き、充実した大学施設を目の当たりにして大学進学に向けて意欲を高めた。

生徒たちは京都の歴史や文化に触れると同時に、大学での模擬講義や見学、企業訪問を通して、進路意識を高めることができた。本研修では夜に振り返りの時間を設けたが、スライドを作成しプレゼンテーションを行うことで、研修内容についての情報共有することができた。生徒たちは自身のスマートフォン等を使い短時間で情報を整理し資料を作成して発表するという、非常に高い能力を示してくれた。

また、SDGsについての理解を深め、現在国際的に問題になっていることに関心を持つことができた。その学習を通して、自分たちにできることは何かを考え、ボランティア活動等に参加して行動に移した生徒もいる。進路に向けてのみならず国際的に問題になっていることに自分がどう関われるのかを考える機会となった。

（2）特別進学コース　関西校外研修報告

特別進学コース　庵原　直樹

1. はじめに

本年度の特別進学コース第二学年の校外研修旅行は、12月15日から3泊4日の日程で京都・奈良方面にて実施された。育英祭終了後から研修旅行へ向けて準備、計画を進めていった。研修中に体調を崩す生徒も数名いたが、大きな問題もなく無事に研修を終えることができた。

以下に報告したい。

2. 計画及び事前準備と実施内容の概要

（1）日程：令和元年12月15日（日）～ 18日（水）　3泊4日

（2）旅行地：京都・奈良

＜主な研修・見学地＞

奈良公園、興福寺、二条城、同志社大学（今出川キャンパス・京田辺キャンパス）、立命館大学（衣笠キャンパス）、龍安寺、平等院鳳凰堂、清水寺、三十三間堂

（3）参加者：生徒　243名（男子：136，女子：107）、引率教員 12名（男：11，女：1）
添乗員4名（男2，女2）、看護師1名（女）

（4）交通機関と宿泊場所

・往路　仙台駅―東京駅（やまびこ 126号）―京都駅（ひかり 509号）
・復路　京都駅―東京駅（ひかり 520号）―仙台駅（やまびこ 145号）
・京都、奈良市内は観光バス（帝産観光）　7台
・男子宿舎（3泊）：ホテル杉長　京都市中京区富小路御池上ル守山町 172
・女子宿舎（3泊）：NISHIYAMA RYOKAN　京都市中京区御幸町二条下ル山本町 433

（5）自主研修と大学での研修

＜自主研修＞

研修旅行3日目（12月17日）に班ごとに京都市内を中心に実施。体験学習可。
事前準備として旅行会社の方によるルートチェックを実施。

＜大学での研修＞

研修旅行2日目（12月16日）に文系・理系に分かれて実施。文系クラス（2T2, 4, 5）は同志社大学 今出川キャンパスと立命館大学 衣笠キャンパス、理系クラス（2T1, 3, 6, 7）は同志社大学 京田辺キャンパスへ行った。

文系

同志社大学　今出川キャンパス：12月16日　10:30～13:00
大学紹介、学生ガイドによるキャンパスツアー
立命館大学　衣笠キャンパス：12月16日　13:30～15:30
本郷　真紹 先生による学校案内

理系

同志社大学　京田辺キャンパス：12月16日　10:00～13:30
理工学部　エネルギー機械工学科　原　峻平 先生による模擬講義
「伝熱工学からみた　肉が焼けてニオイが伝わるまで」

（6）事前準備

校外研修旅行は、本学園特別進学コース3年間の学校行事で最大の目玉と言え、生徒も楽しみにしていた。有意義で充実した研修旅行にするために明確な目標を持ち、事前の計画・準備に十分な労力を割くことが求め

られた。
＜事前準備＞
10月：第一回研修旅行委員会
　　班編成、自主研修計画作成
　　アレルギー等の健康調査
11月：旅行会社の方との自主研修ルートチェック
　　研修旅行のしおり作成
12月：研修旅行のしおり完成・配布
　　結団式および諸注意
　　研修旅行出発（12月15日）
　　仙台駅にて解散式（12月18日）
※　研修旅行終了後、校外研修レポートを提出。

（7）事前準備の重点
　研修旅行に関しては「仙台育英学園高等学校　特別進学コース」としての自覚をもった行動が求められる。仙台育英学園の顔としてお世話になる方々、研修先に良い印象を与えるように指導した。また、体調管理についても各自十分にできるよう指導した。

3. 行程

第1日目	12月15日(日)	集合　7:10　仙台駅3階　みどりの窓口前

＜昼食は列車内にてお弁当＞

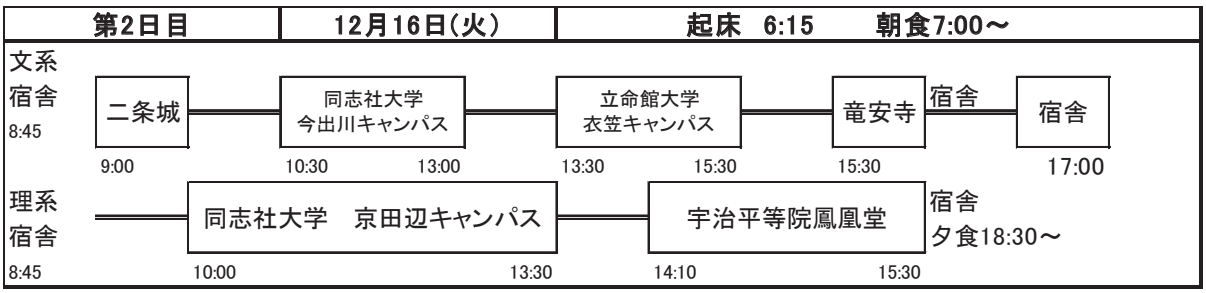
仙台駅 8:05 —やまびこ126号— 10:08 東京駅（乗り換え15分） 10:33 —ひかり509号— 13:11 京都駅 13:40 奈良公園（東大寺大仏）/興福寺 14:40 16:45 ホテル 18:00　夕食19:00～

第1日目　令和元年12月15日（日）　天気：晴れ
　研修旅行初日、仙台駅にて集合時間になると出発式が始まった。研修旅行が楽しみでよく眠れなかったのか眠たそうな生徒が見られた。新幹線に乗り込み、京都へ向けて出発した。朝に遅刻してきた生徒もおり、東京駅での乗り継ぎの時間が短いため心配ではあったが、生徒の迅速な移動により何事もなく京都へたどり着いた。
　京都駅到着後バスへ乗り換え、1時間ほどバスに揺られて奈良公園に到着した。鹿たちに出迎えられた生徒は悲鳴をあげるものや、かわいいと言って近づいていくものがいた。見学中に写真を撮ったり、鹿せんべ

いを与えたりしていた。

その後興福寺へと向かった。興福寺国宝館では展示される数々の仏像を見学した。特に阿修羅像、千手観音像に目を奪われている様子であった。

興福寺の見学が終わり、バスで宿へと帰った。移動時間は行きと同様1時間ほどであったが、集合が朝早かったこともあってか車内で眠る生徒が目立った。



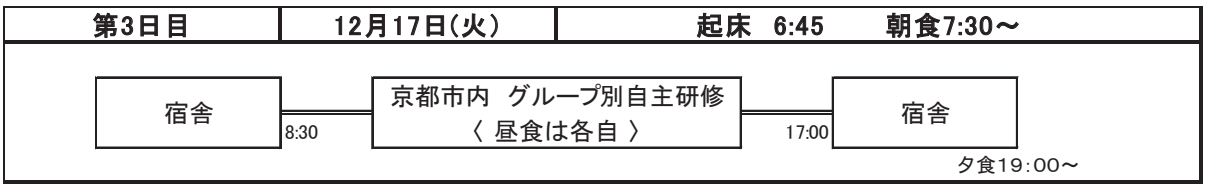
第2日目　令和元年12月16日（月）　天気：晴れ

2日目のメインは大学見学である。文系クラス、理系クラスに分かれて各大学へ向かった。

文系クラスはまずホテル近くの二条城を見学し、同志社大学 今出川キャンパス、立命館大学 衣笠キャンパスへと向かった。2つの大学の見学を終えると龍安寺の見学をしてホテルへと帰った。龍安寺の石庭はどこから見ても15個の石のうち1つが隠れて見えなくなることが有名だが、それを確かめようと場所を変えて何度も石庭を見ていた。

理系クラスは同志社大学 京田辺キャンパスへと向かった。同志社大学の規模の大きさに驚いている様子であった。到着後、理工学部 エネルギー機械工学科の原 俊平先生による講義を受講した。「伝熱工学」という分野を、「肉を焼いてそのニオイが伝わるまで」という身近な例を使って説明して頂き、生徒たちはそれぞれメモを取りながら受講していた。その後、大学の食堂で昼食をとり、現役大学生に案内してもらい大学施設を見学した。同志社大学を後にすると宇治平等院鳳凰堂へと向かった。生徒たちは財布から10円玉を取り出して実物と見比べるなどして見学し、各々写真を撮っていた。

今回の大学見学を通して、生徒たちが数年後に大学生となった自分の姿を想像して大学入試への勉強のやる気へとつながることを願っている。



第3日目　令和元年12月17日（火）　天気：雨

生徒たちにとって、待ちに待った自主研修の日である。残念なことにこの日は朝から雨が降っていたが生徒たちは元気に宿を出ていった。昼の担任への定時連絡においても何事もなく研修を進めていった。帰着時間の17時に多少遅刻した班があったものの、ケガや事故などの大きなトラブルもなく無事に自主研修を終えて帰ってくることができた。充実した自主研修であったことは生徒の顔を見れば明白である。

第4日目	12月18日(水)	起床　6:15　　朝食7:00～(洋食)

宿舎 8:00 → 8:20 清水寺 10:00 → 10:20 ※三十三間堂 11:10 → 11:40 京都駅 ひかり520号 12:32 → 15:10 東京駅 やまびこ145号 16:00 → 18:04 仙台駅

昼食は列車内でお弁当

第4日目　令和元年12月18日（水）　天気：雨

研修旅行最終日である。最終日の研修地は清水寺と三十三間堂であった。朝一の観光客が少ないうちに清水寺に到着し、ガイドさんに案内されて参道を上り仁王門前で記念撮影をし、その後境内を見学した。「今年の漢字」である「令」の見学、音羽の滝で願い事、仲間と写真撮影するなどして満足げであった。一通り見学を終えるとバスの出発時刻まで参道を下りつつ、坂に並ぶ個性豊かなお店でお土産を購入してまわり、みな清水寺を満喫したようであった。

清水寺を出発し、最後の見学地である三十三間堂へ到着した。1000体の千手観音像に圧倒されつつもガイドさんの話にあった1000体の中に1体はあると言われる自分に似ている像を探しながら見学していた。

全ての行程を無事に終え、京都駅へと向かった。4日間過ごした京都に別れを告げ、新幹線で仙台へと向かった。仙台駅到着後に解散式を行い、誰一人欠けることなく令和元年度特別進学コースの研修旅行を終えた。

4. おわりに

今回の京都研修旅行では日本古来の文化に触れ、知識を深めるとともに4日間の集団行動通じて規則を守り、生徒同士、生徒と教員の間の交流を深めることで協調性が養われたと感じた。研修中に体調を崩した生徒が数名いたが、大きな問題もなく参加生徒全員が研修を終えて無事に帰ってくることができた。

今年度の研修旅行の実施において、様々な安全確認から移動手段の確保に至るまで多くのご配慮を賜りました。加藤雄彦 理事長・校長先生にまずもって心より御礼申し上げます。また、ご指導・ご鞭撻頂きました千田副校長先生・須藤 教頭先生、東武トップツアーズの依田さん・清野さん・田村さん・大隈さん、看護師の村上さん、現地バス・ホテル・各大学スタッフの方々、諸先生方にも厚く御礼申し上げます。

（3）情報科学コース　沖縄研修報告

情報科学コース　　村　　貴之

期　　間　　平成31年4月21日（日）～24日（水）　3泊4日
場　　所　　沖縄県（那覇市～名護市）
参加生徒　　78名（男子57名、女子21名）
引 率 者　　伊藤梨乃　坂入崇紀　志賀貞昭　千葉陽子　村貴之

1. 研修の目的

・沖縄の風土と歴史に親しみ、文化・自然・産業に理解を深める。
・研修を通じて豊かな感性と情操を養い、見識を広げる。
・集団行動を通して協調性を養い、様々な交流を元に協調性を養う。
・体調はもとより、貴重品の管理や時間配分等、自己管理の能力を養う。
・公衆道徳を守り、社会性を身につける。

2. 事前指導

LHRや総合的な学習の時間を利用して以下の事前指導を行った。
1）健康調査（アレルギー調査を含む）
2）自主研修の班編成
3）自主研修の計画
4）研修の目的心得諸注意などの指導
5）沖縄研修旅行結団式

3. 行程

1日目　4月21日（日）

仙台空港1F中央噴水広場10:30集合
仙台空港 ── 11:50 ──《ANA1863便》── 14:50 ── 那覇空港
那覇空港 ── 15:30 ═（貸切バス）═ 16:00 ──ホテルオーシャン
昼食　機内にて持参弁当　　夕食　ホテル到着後、国際通り散策 班毎各自

2日目　4月22日（月）

朝食7:00～
ホテルオーシャン ── 8:30 ═（貸切バス）═ 9:40 ── 沖縄化学技術大学院大学 ── 11:40 ═（貸切バス）═ 11:50 ── 御菓子御殿（昼食）── 12:40 ═（貸切バス）═ 13:40 ──
那覇市内班別自主研修 ── 19:00 ── ホテルオーシャン
朝食　ホテルにて　　昼食　御菓子御殿　　夕食　自主研修にて班毎各自

3日目　4月23日（火）

朝食7:00～
ホテルオーシャン ── 8:30 ═（貸切バス）═ 9:30 ── 平和祈念資料館・平和の礎 ── 11:30 ═（貸切バス）═ 11:40 ── 優美堂（昼食）── 12:30 ═（貸切バス）═ 14:30 ── 沖縄海洋博記念公園 ── 16:45 ═（貸切バス）═ 17:15 ── ホテルゆがふいんおきなわ
朝食　ホテルにて　　昼食　優美堂にて　　夕食　ホテルにて

4日目　4月24日（水）

朝食6:30～ ホテルゆがふいんおきなわ ── 8:00 ═（貸切バス）═ 9:30 ── おきなわワールド ── 11:30 ═（貸切バス）═ 12:00 ── 那覇空港 ── 14:05 ──《ANA1863便》── 16:45 ── 仙台空港　解散 朝食　ホテルにて　　昼食　那覇空港にてお弁当

◎1日目

仙台空港に現地集合した生徒たちの表情からは、沖縄研修旅行に対する期待感と不安感が入り混じったような様子が見てとれた。保安検査場を通過する際、私物が反応してしまうのではないかとドキドキしていた生徒も無事に通過できた時には安心した表情を見せていた。ほとんどの生徒が飛行機に乗るのは初めてで離着陸時には驚きの声を上げていた。

無事に那覇空港に到着すると仙台の真夏のような暑さを感じ、沖縄に来たのだと実感する生徒たちの反応が見られた。空港から貸切バスに乗りホテルオーシャンに移動した。移動中の生徒は沖縄独特の景色をまじまじと見ていた。ホテルオーシャンに到着し着替えを終えた後、班ごとに国際通りを散策した。買い物や夕食を楽しむ生徒たちはとても生き生きとしていた。

写真１　牧志駅前巨大シーサー像

写真２　夕食を楽しむ生徒と三線ショー

◎ 2日目

ホテルオーシャンから貸切バスに乗り約1時間かけて沖縄科学技術大学院大学（OIST）の見学へ向かった。沖縄科学技術大学院大学は在籍している学生の大半が海外からの留学生ということを聞き生徒たちは驚きを見せていた。講話では、コンピューターのセキュリティについての話やプログラミングの話などをしていただき、生徒たちはメモを取りながら真剣に聞いていた。その後は、何人かのグループに分かれ学内を見学させていただいた。校舎上層階からは沖縄の綺麗な海を見ることが出来、恵まれた環境で研究に取り組むことが出来ると生徒たちは職員の方から話を聞いた。

午後は一旦ホテルに戻り準備をした後、那覇市内で班別自主研修を行った。生徒たちは、数か月かけて計画立てをした自主研修を楽しんでいる様子であった。写真を撮ったり、沖縄の様々な文化に触れたり、お土産などを購入したり沖縄を存分に満喫していた。ホテルの集合時間は19:00であり、時間に遅れることなく全員無事にホテルに到着した。

写真 3　OIST 上層階から望む景色

写真 4　大学紹介と講話を聞く生徒

写真 5　施設見学で話を聞く生徒

写真 6　沖縄科学技術大学院大学で記念撮影

写真 7　御菓子御殿で昼食

写真 8　首里城正殿

写真 9　守礼門を背景に写真撮影

写真 10　世界遺産登録の碑

◎ 3日目

この日の午前中は、平和記念公園の見学及び沖縄戦と平和についての講話を聞いた。8:30にホテルを出発し沖縄県南端部に位置する糸満市へ1時間かけバスで向かった。貸切バスの中ではバスガイドさんから沖縄の地理について話を聞き、3日目は沖縄本島を端から端まで移動することを知り生徒たちは驚いた様子であった。

平和記念公園では、沖縄戦で亡くなられた一人一人の氏名を刻銘している「平和の礎（いしじ）」を見学し、沖縄県内出身者だけでなく宮城県を含む全国で多数の方が犠牲になったことを知り、生徒たちは戦争の悲惨さを肌で感じていた。その後の講話では、生徒たちは終始真剣な眼差しを向けながら講師の方の話を聞いていた。

昼食後、県北部の名護市にある沖縄海洋博記念公園へ2時間かけ貸切バスで移動した。公園内に立地する美ら海水族館では巨大なジンベイザメの食事シーンなど、他の水族館では見ることのできない貴重な体験をし、生徒たちは午前中の疲れも見せず楽しんでいる様子であった。沖縄海洋博記念公園の見学を終え、ホテルゆがふいんおきなわに向かった。夕食はバイキング形式であり、みんな楽しく食べていた。

写真 11　沖縄戦の講話の様子

写真 12　平和記念公園で記念撮影

写真 13　ガイドさんの説明を聞く生徒

写真 14　美ら海水族館を満喫する生徒

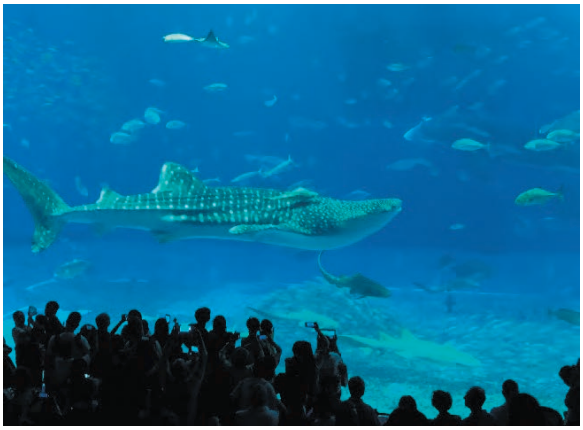


写真 15　巨大水槽の中を泳ぐジンベイザメ

写真 16　海岸で楽しむ生徒

◎ 4日目

最終日は、おきなわワールドへ向かった。おきなわワールドでは初めに鍾乳洞を見学した。鍾乳洞の中は高温多湿で、この点においても沖縄ならではの体験であった。館内には様々なお店があり、ジェラートや飲み物、お菓子などを買って笑顔を見せながら食べていた。エイサー講演もしており、迫力満点の踊りに生徒たちも見入っていた。

帰りの飛行機の中では、名残惜しそうに窓を見つめる生徒や疲れ果てて寝ている生徒など様々であった。仙台空港に到着すると、佐藤教頭先生をはじめ多くの保護者の方に迎えられそれぞれ帰路についた。

写真 17　おきなわワールドにて

写真 18　帰りの飛行機の窓から見た風景

4. おわりに

3泊4日の情報科学コース沖縄研修では、普段の学校生活では味わうことのできない集団行動の大切さ、協調性を養うことができたと考えます。

沖縄研修旅行を実施するにあたり、加藤雄彦理事長・校長先生の多大なるご配慮をいただき、心より御礼申し上げます。また、東武トップツアーズの和家さんはじめ現地バス・ホテル・各施設のスタッフの方々、お世話になった皆様方にも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

（4）フレックス・技能開発コース　九州研修報告

フレックスコース　　西山　大樹

期　　間　　平成31年4月17日（水）～19日（金）　2泊3日
場　　所　　福岡県（北九州・福岡方面）
参加生徒　　男子149名
引 率 者　　小石純之介、石井正浩、吉田志保美、西山大樹、地崎大知

1. 研修の目的

・班別活動を通じて、問題解決に必要な情報収集、処理能力を身に着け、協調性や自主性・責任感を要請する。
・団体行動を通してクラス・学年の和を培う中で、友情を深めると共に集団行動のきまり・公衆道徳を身につける。また、集団の構成員としての健康管理や安全確保のあり方を考える。
・九州の自然・文化・産業・生活などに触れることで視野を広めると共に、日本の歴史について産業革命産、世界遺産を通して理解を深める。

2. 事前指導

LHRや総合的な探求の時間を利用し、以下の事前指導を行った。
1）健康調査（アレルギー調査を含む）
2）自主研修の班編成
3）自主研修の計画
4）研修の目的心得諸注意などの指導
5）九州研修旅行結団式

3. 行程

1日目　4月17日（水）

仙台駅07:30集合
仙台駅 08:05 ――《やまびこ 126号》―― 10:08 東京駅 10:24 ――《京浜東北線》―― 10:31 浜松町駅 10:40 ――《モノレール》―― 10:58 羽田空港 12:30 ――《ANA253》―― 14:30 福岡空港 15:00 ═《貸し切りバス》═ 16:30 小倉城 17:30 ═《貸し切りバス》═ 17:50 アクティブリゾート福岡八幡

2日目　4月18日（木）

朝食 07:40～アクティブリゾート福岡八幡 08:30 ═《貸し切りバス》═ 北九州産業遺産地区 11:30 ═《貸し切りバス》═ 12:45 ホテルニューオータニ博多～福岡市内自主研修～19:30 ホテルニューオータニ博多

3日目　4月19日（金）
《第1班》

朝食 06:30～ホテルニューオータニ博多 08:30 ═《貸し切りバス》═ 09:00 九州国立博物館 10:10 ═《貸し切りバス》═ 10:25 太宰府天満宮 12:00 ═《貸し切りバス》═ 12:40 福岡空港 14:10 ――《JAL3537》―― 15:55 仙台空港　解散

《第2班》

朝食 06:30～ホテルニューオータニ博多 09:00 ═《貸し切りバス》═ 09:40 九州国立博物館 11:10 ═《貸し切りバス》═ 11:25 太宰府天満宮 13:30 ═《貸し切りバス》═ 14：00 博多はねや総本家 14:45 ═《貸し切りバス》═ 15:15 福岡空港 17:00 ――《ANA3117》―― 18:50 仙台空港　解散

◎1日目

仙台駅に現地集合をした生徒たちの表情からは、九州研修旅行に対する期待感や楽しみでいっぱいな様子が見てとれた。新幹線内での生徒の会話はこれから始まる研修旅行の話題で盛り上がっていた。乗り換えを繰り返し、羽田空港まで来た生徒の表情は少し気疲れをしている様子であった。空港内の保安検査場を通過する際は、私物が反応してしまうのではないかとドキドキしていた生徒も無事に通過できた時には安心した表情を見せていた。中にはうっかり反応してしまった生徒もいて、照れた様子で対応している生徒を見て微笑ましく思った。ほとんどの生徒が飛行機に乗るのは初めてで離陸時と着陸時に驚きの声をあげていた。

無事に福岡空港に着陸し、貸し切りバスを使い小倉城へ行き、戦国末期から次の時代に変わるにあたり重要な役割を果たした貴重な城を見学し、各自が当時のことを考えていた様子であった。見学後、再度貸し切りバスに乗り宿泊場所である、アクティブリゾート福岡八幡に移動した。移動中の生徒はガイドさんの話に耳を傾け、九州のことについて学んでいた様子であった。

◎2日目

アクティブリゾート福岡八幡から貸し切りバスに北九州産業遺産地区へ行き、官営八幡製鐵所の見学、文鎮の金属加工体験等を行った。官営八幡製鐵所の見学は、ガイドさんが各地点に案内し、当時の様子を踏まえた話をしていただき、より深い学びをすることができた。官営八幡製鐵所見学後に文鎮の金属加工体験を行ったが生徒一人一人が講師の先生の話を聞き、納得のいく文鎮を作っていた。

この日の午後からは、自主研修を行った。日差しが強く体力を消耗する中でしたが、生徒たちはそれを苦にせずに数カ月かけて計画立てをした自主研修を楽しんでいる様子であった。写真を撮ったり、福岡市内の様々な文化にふれたり、お土産などを買ったりと福岡を満喫していた。ホテルの集合時間は19:30であり、ホテルに帰ってきた生徒たちは安心と満足した表情を見せ、全員が無事にホテルに到着した。

◎3日目

3日目は飛行機の座席の関係により2つの班に分かれ、各見学先へ行った。まず初めに九州国立博物館へ行き歴史的に貴重な資料の数々を目にし、生徒たちの目は輝いていた。見学時間が短かったため、生徒の口からは「もう少し見たかった」との声が聞こえた。その後、徒歩で太宰府天満宮へ移動し、学問の神様が祀られているということで、進路を控えた多くの生徒たちが参拝をしていた。

時間により太宰府天満宮を後にし、福岡空港へ向かった。空港へ向かうバスの中の生徒は寂しそうな表情を浮かべ、「もう1日福岡に居たいな」などと口にし、この研修旅行が楽しかったことがうかがえた。福岡空港につき、飛行機に乗った生徒たちは離陸後すぐに眠りにつき、この研修旅行の疲れと満足感が表情に表れていた。約2時間の飛行を終え、仙台空港に全員が到着し、多くの保護者に方に迎えられ、それぞれ帰路についた。

4. おわりに

2泊3日のフレックス・技能開発コース九州研修では、普段の学校生活では味わうことのできない集団行動の大切さ、協調性を養うことができまた、九州の自然・文化・産業・生活などに触れることで視野を広めると共に、日本の歴史について産業革命遺産、世界遺産を通して理解を深めることができたのではないかと考えます。

九州研修旅行を実施するにあたり、加藤雄彦理事長・校長先生の多大なるご配慮をいただき、心より御礼申し上げます。また、東部トップツアーの依田さんはじめ、現地バス・ホテル・各施設のスタッフの方々、お世話になった皆様方にも厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

九州（長崎）研修報告

フレックスコース　　寺澤　信枝

○期間　　令和元年10月20日（日）～ 10月22日（火）
○研修場所　　佐世保市（ハウステンボス）～長崎市内（市内自主研修、原爆資料館）
○参加生徒　　フレックス・技能開発コース　２年生女子　　21名（Ｆ：３名、Ｋ：18名）
○引率者　　米澤　通徳、　寺澤　信枝

令和元年度　九州（長崎）研修旅行日程表

10月20日（日）第１日目	
6:30	仙台空港　集合
7:35	仙台空港　発 ↓ ↓（ANA1276便） ↓
9:55	福岡空港　着
10:30	福岡空港　発 ↓ ↓（バス） ↓ ↓
12:20	ハウステンボス　着 【園内自由見学】 【昼食・夕食各自】
19:30	ハウステンボス　発 ↓（バス）
20:45	ホテルニュータンダ　着

10月21日（月）第１日目	
7:30	朝食
9:00	ホテルニュータンダ　発 【市内班別自主研修】 【昼食・夕食各自】 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓（徒歩・公共交通機関） ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
19:30	ホテルニュータンダ　着

10月22日（火）第３日目	
7:00	朝食
8:30	ホテルニュータンダ　発 ↓（バス）
9:00	長崎平和公園 ↓（徒歩）
9:30	原爆資料館 【館内自由見学】
10:35	原爆資料館　出発 ↓（バス）
10:40	福砂屋 【ショッピング】 ↓（バス）
11:50	長崎インターナショナルホテル　着 【昼食：皿うどん】
12:50	長崎インターナショナルホテル　発 ↓（バス）
14:40	福岡空港　着 【自由行動】
17:10	福岡空港　発 ↓（ANA3117便）
19:10	仙台空港　解散

1. はじめに

令和元年度フレックス技能開発コース２学年の研修旅行は、女子が10月20日（日）～22日（火・祝）の日程で長崎、男子が10月23日（水）～25日（金）の予定で北九州方面と分かれての実施となった。しかし、男子班の最終日、荒天のため仙台空港への飛行機が欠航となり、１日遅れの26日（土）に新幹線で８時間を費やしての帰仙となった。女子班は晴天に恵まれ、予定通りに全行程を終えることができた。

２つの班ともに、全員が真剣に研修を行い、生徒指導上の問題も発生せず、最後まで仙台育英生として恥ずかしくない行動ができていた。

以下に女子班の長崎研修旅行について報告する。

2. 事前指導について

事前指導は、９月下旬～10月上旬にL.H.Rや総合の時間を用いて自主研修の班ごと、あるいは班長のみを集めて行った。

【内容】
・研修旅行実行委員の選定　→研修のしおりづくり
・旅程の確認　…地図を利用した場所の確認や旅行中の諸注意

・自主研修の班分けと班ごとの役割決め、部屋割りの確認
・自主研修（2日目）の計画づくり
・事後レポートの作成について
【全体での指導】
・結団式　…男子班・女子班合同、ライオンズホール大会議室を使用
多賀教頭からのお話、東武トップツアーズ株式会社より添乗員を招いて旅程の説明・飛行機搭乗時の注意事項の説明、しおりの配布、持ち物の最終確認

3. 研修内容

第1日目　10月20日（日）　天候：薄曇り

早朝6時30分の空港集合であったため、時間に遅れる生徒がいるのではないかとの心配があったが、ほとんどの生徒が時間どおりに到着していた。しかし1名が体調不良で大幅に遅れ、空港到着が7時を過ぎるというトラブルが発生した。添乗員の方の尽力でギリギリのところで搭乗手続きを済ませることができ、仙台空港発福岡空港行き7時35分のANA1276便に、参加生徒21名全員が搭乗し、長崎研修旅行への一歩を踏み出した。福岡までは約2時間のフライトだが、到着まで間もなくのところで、福岡空港で航空機が鳥と衝突したため一時滑走路閉鎖との報が入り、下関上空でしばらく旋回飛行を行い、福岡空港に15分ほど遅れての着陸となった。1名の生徒がひどい乗り物酔いのため、体調を崩してしまったが、ゆっくりなら歩けるとのことだったので、筆者がついてバスまでゆっくり歩かせ、全員が乗り込んだ10時30分、バスはハウステンボスに向けて出発した。

昼頃の佐世保市の天候は薄曇り、気温は23℃で、この日の最高気温は26℃まで上がる予報であった。12時過ぎにハウステンボスに到着。この日は19時30分まで自由見学となる。夜まで屋外で過ごすのにちょうどよい天気に恵まれた。

入場口付近で、集合時間と場所を確認後、班ごとに分かれて園内の見学へと向かう。まずはほとんどの班が昼食を取りにレストランに向かった。園内には、ミュージアムやアミューズメント・体験シアターが数多く配置されている。生徒たちは、日のあるうちは広い園内をあちこち歩きまわり、様々なアトラクションを体験していた。日が落ちてくる時間になると、一帯はきらびやかなイルミネーションの世界に変わる。いわゆる「インスタ映え」の非日常空間となる。園内を歩きつくした生徒も、楽しそうに友人たちと写真を何枚も撮っていた。宿へ向かうバスの中でも写真を見せ合ったりし、スマートフォンの画面に写し撮られた絵の美しさに半日歩き通しの疲れを一時忘れたのではないだろうか。

宿には、定刻通り20時45分に到着。ロビー前のスペースに整列し、明日の予定の確認と諸注意を行う。生徒たちにはさすがに疲れの表情が見えた。明日は自主研修でまた1日歩き通しになるため、早く就寝するよう指示。その後各部屋に分かれ、22時30分には最終点呼をし、1日目の日程を終えた。

《まずはランチから…》

《カヌーに挑戦！》

《名物トルコライス》

《幻想的なイルミネーション》

第２日目　10月21日（火）　天候：晴

朝食に遅れる生徒もなく、元気に２日目の朝を迎えた。朝の天気予報では、最高気温26℃、最低気温18℃、快晴。そのとおり絶好の自主研修日和となった。

本日は、丸一日、班ごとに事前に作成・提出した計画に基づいて行動し、長崎市内で研修を行う。各班とも、中華街、グラバー園、大浦天主堂、出島など、長崎ならではの文化や風土に触れる工夫をして研修を行った。長崎市内は路面電車が走っており、生徒全員がホテルのロビーで１日乗車券を購入し、移動に使っていた。このため、目的地まで想定外にスムーズに移動ができ、計画を早めに消化することとなり、研修先を追加した班が多かった。筆者も長崎市内を巡回する際に路面電車を利用した。

かつて、仙台市電が廃線となった後、モハ100形電車と呼ばれる車体５輌が譲渡され、長崎電気軌道1050形電車として活躍していた時期があった。このことは、そのうちの１輌が仙台に里帰り後、秋保に保存されており、そこをよく訪れていたため知っていたが、実際に長崎の路面電車に乗り、仙台市と長崎市の縁に感動を覚えた。これは、後で知ったことだが、長崎に残った１輌が2019年３月に引退したという。「動く電車の博物館」と言われるほど、さまざまな場所から譲渡されたさまざまな年代の車輛から最新式の車輛までが走る長崎電気軌道は、乗るだけで歴史の厚みを感じることのできる長崎の貴重な財産と言える。

《市内を走る１輌を撮影》

この日の帰宿時間は19時30分。食事を済ませ、全ての班が時間に遅れずに戻ってきた。昨日の歩き疲れがまだとれず、研修行程を終了したが足の痛みがあるため行先を追加せず早めに宿に戻りたいと申し出る班があったため許可した。しかし、引率教員との電話連絡を密にとっていたため、特にトラブル等はなかった。

20時からは班長会議を行い、諸注意、明日の行程の確認を行い、しおりの研修記録を記入するよう指示。22時に最終点呼・消灯とした。その後は、さすがに疲れがたまってきたのか静かに就寝していた。

《長崎新地中華街》

《国の重文、眼鏡橋》

《ここはどこ？出島です》

《大浦天主堂》

第3日目　10月22日（火）　天候：晴

最終日、天気は3日連続の晴れで予想最高気温は27℃。この日は平和学習がテーマ。午前中に長崎平和公園・原爆資料館を巡る計画。朝食を済ませ、8時30分に宿を出発。バスの中で、本日の研修の意義について米澤先生より話があり、全員が静かに聞いていた。長崎平和公園まで約30分、その途上、著書『長崎の鐘』・『この子を残して』が有名な永井隆博士が療養した如己堂や、原子爆弾で吹き飛ばされ片足となった山王神社の鳥居を車窓に見ることができた。

平和公園に到着してすぐに平和祈念像の前まで歩みを進め、全員で記念撮影をする。長崎の鐘、平和の泉などを見学し、爆心地公園へ。グラウンドゼロを示す石碑の前で修学旅行と思われる他校の高校生たちが整列して、「長崎の鐘」を合唱していた。美しい歌声が、この地で犠牲になった人々の魂を慰めるように響いていた。さらに歩いて長崎原爆資料館へ。9時30分～10時30分まで時間をとり、各自で見学とした。ここでも他校の修学旅行生が大勢見学していた。本校の生徒たちは、展示の一部に多少怖がる様子もあったが、それぞれ真剣に向き合っていた。

館内には、先述の永井隆博士についての展示コーナーも設置されていた。筆者は小学校高学年の時分に、原爆投下後の博士とその子どもたちについて書かれた児童向けの本を読み、大変感銘を受け、幼いながらも涙した経験がある（さらに、当時住んでいた市の図書館の読書感想文コンクールにまで出品した）。今回、実際に博士に関しての展示を目の当たりにし、その感動がはっきりと蘇った。生徒たちにもその何分の1でもいいから、何かを感じ、考える研修となれば幸いと思う。

見学時間の終盤になると、時間を持て余す生徒が出ないか心配だったが、学習スペースで各自しおりに感想を記入するなどして節度ある行動ができていた。

10時35分にバスは原爆資料館を後にし、ここからは帰り足となる。途中、長崎カステラの銘店、福砂屋でお土産を購入したり、昼食は長崎名物皿うどんを全員でいただいたりと、長崎との別れを惜しみながら福岡空港へと向かった。

空港には、15時前に到着。搭乗手続きまでの時間が多少あったため、ターミナルビルでお土産購入の時間をとる。生徒たちの中は、保護者に「○○を買ったよ」など連絡をとっている者が多く、また、保護者からのリクエストも来るようで、いそいそと旅行最後のショッピングへと散っていった。

帰りの飛行機ANA3117便は、IBEXエアラインズとのコードシェア便で、行きの飛行機より機体が小さいため、持ち込める荷物にも制限がある。待ち時間中に、空港で増えたお土産や荷物の整理をしてスムーズに乗り込めるようにする必要がある。飛行機まではバスで移動し、タラップを上って乗り込む。

多少の遅れはあったものの、福岡空港を離陸し、仙台空港にも5分遅れほどで無事に到着。九州の天気とは打って変わって雨、肌寒かった。行きも乗り物酔いがひどかった生徒が帰りも同様に体調不良となってしまったが、またゆっくり歩かせて出口へと向かった。しばらくするとある程度回復したので、到着ロビーに全員を集め、解散式でこの研修旅行を締めくくった。

《平和の泉にて、真剣に話に耳を傾ける》

《原爆資料館、戦争と平和について考える》

《皿うどん、ボリューム満点でした》

《帰りの飛行機が近づく…》

3. まとめ

筆者個人としては、長崎方面は初めての引率である。個人的にも当地を訪れる機会はなかった。改めて、九州地方は日本の近現代史を肌で触れて学ぶのには最適な研修先であると実感している。教室で日本史の授業を受けていても、幕末から明治・大正・昭和の歴史のダイナミズムはなかなかに把握しづらいところである。幸いにも今年度、フレックス・技能開発コースの２年生は日本史Ｂを履修中であり、まず、行って、見て、知って、触れて、興味をもってから教科書で学ぶ、という流れになり、今回の研修が学習効果を高めることが期待される。

また、旅行中、生徒たちは引率教員の指示・指導をしっかりと受け止め、大きな問題なども発生しなかった。事前指導の段階で、旅行後に提出するよう指示していたレポート（※資料参照）も、班員みんなで協力し作成していた。このことから事前指導もおおむね成功していたと思われる。

しかし、件数はわずかだが、忘れ物、お土産の紛失、といったうっかりミスがあり、要所々々での注意喚起をもう少し力を入れて行う必要があった。

4. 謝辞

令和元年度九州（長崎）研修旅行は、加藤雄彦校長先生の多大なるご配慮・ご指導なしには成功し得ないものでした。引率教員、生徒ともども心から感謝申し上げます。また、いつもフレックス・技能開発コース２年生を温かく指導してくださっている諸先生方にも改めて御礼を申し上げて研修報告を締めくくらせていただきます。

資料　研修のレポート（一部掲載）

チーム Alexe

《ハウステンボスについて》

おすすめスポットは、アンブレラストリート！！空一面に広がるカラフルな傘、異空間に来た気分になれる最高のスポット！！日中に来ても夜に行っても気分が上がる！！

夜には音に合わせてキラキラ光る！！見つかれば幸運になれるかも！？パートのアンブレラもあるそうです！！インスタ映え間違えナシ！！

約１０００本の傘が私達をお迎えしてくれる！！これを見て帰らないと、ハウステンボスに来た気がしないって奴だよね！！！

ハウステンボスでは様々な種類のたくさんのＶＲを体験することもでき、ジェットコースターやお化け屋敷など最高の恐怖体験をすること可能！！スリル満点で、テンションが上がる！！

ハウステンボスのどこからでも見れる観覧車は、夜になると世界が変わる！！キラキラの世界が目の前に広がってこれまた異世界に来た気分になれる！！観覧車乗るのは、日中をオススメ！！けど見るだけなら夜に見ることをオススメ！！！

ハウステンボスはとにかくとてもひろい！！先に行き先を決めるのが得策！！

これから行く人は、ぜひ上記のことをやってみてね！！お楽しみください！！

《平和記念公園》

学校の場として学ぶべきポイントを紹介。
一つは平和記念公園の顔である、平和記念像。
高さは９．７メートル、重さ３０トンの青銅製
手の向きには意味があり、天を指した右手は"原爆の脅威"、水平に伸ばした左手は"平和"かるく閉じた瞼は"原爆犠牲者の冥福を祈る"という想いが込められている。（右の写真参照）

続いては、直径１８メートルにも及ぶ平和の泉。原爆により体中焼けただれてしまった被爆者たちは水を求めながら苦しみ、死に至った。その痛ましい霊に水を捧げ、冥福を祈り、核兵器廃絶等願いを込めて作られた。泉の前には水を求め、彷徨った当時５歳の少女の手記が残されている。

―― ここに来た者には、ぜひ一度、記憶に刻んでほしい。

チーム Alexe

《マリア館》

グラバー園通りにある『マリア館』
世界でたった一つのアクセサリーが作れちゃう場所！！好きなプレートから好きなデザイン色、形すべて自由！！
名前、絵、好きなものが全て自由に入れられちゃう！！！絵はおじさんの圧力次第かも！？
作ったアクセサリーはネックレスにもストラップにもできちゃう！！最高だね！！
彼氏や友達とお揃いもアリなんだよね！！！

《南山手プリン》

続いては、南山手プリンの紹介！！
グラバー通りに位置するプリン専門店！！一つ一つがお店の完全オリジナルの手作り！！香味りがとてもなめらかで、口に入れた瞬間とろけるような甘さとバニラビーンズの香りがして美味い！！プリンの他に、アイスもあるよ！！！
そして、長崎のランドマークであるステンドグラスを表現した「ステンドグラスプリン」は見た目も味も最高級！！いろんな色が混ざりあい美しい幻想が出来上がる！！

グラバー通りに行ったら行くのをオススメ！！

《グラバー園》

長崎県の歴史を一気に見られるこの施設！！
ただ長崎市内が一望できる素晴らしいロケーション！！景色を楽しみながら是非とも時間をかけてゆっくりと見学するのがおススメ！！
施設内は衣装の貸し出しを行っており、当時の洋装を借りて散策する方達も！？これがまた洋館と公園とのマッチングが最高で違和感ナシ！

グラバー園に入ってすぐの「旧三菱第２ドックハウス」の近くでは鯉のエサをあげられる！！鯉だけでなく鳩にもエサをでき、運が良ければ鳩が手の上にとまりエサを食べるという普段はなかなか出来ないような貴重な体験をすることが出来る！！！
また、隠れハートの石が隠れてるらしいので見つけたらラッキーかも！？

長崎研修旅行 10/20~22

全日空~ANA~

・自主研修(2日目)

① 長崎新地中華街

☆ 国内で中華街がある場所は、横浜と長崎のみ。

横浜とはまた一味ちがった雰囲気。
装飾の1つ1つがきれいで、歩いていてとても楽しいです。
ホテルから近い場所にあり、周辺には他の観光スポットもあるので、昼、夜ご飯にちょっと寄ってみるのでオススメします。

② 稲佐山山頂展望台

1000万ドルの夜景といわれる展望地。
標高333mの山から、長崎市内を一望することができます。

③ グラバー園

異国情緒豊かな建物と、それをとり囲む自然。レトロでちがう世界にいる気分になれます。

グラバー園に行く途中にいた猫ちゃん。とても人なつっこくていやしです。→→→

・ハウステンボス(1日目)

☆ 夜のライトアップがとても美しい。

昼間の明るい感じもいいけれど、夕方になるにつれ、雰囲気が変わっていき、とても美しくなります。すごくインスタ映えする。
とても広いため、丸1日楽しむことができます。アトラクションもあるので、あそぶことも可。すごく楽しかった。

・平和公園、原爆資料館(3日目)

あの時、ここで何が起きたのか、人々はどんなだったのか、1つ1つ細かく教えて頂きました。
平和祈念像や、平和の泉、公園のモニュメント1つ1つに平和の意味がこめられていて、とても考えさせられる場所でした。

長崎オススメおみやげリスト
- カステラ(すごくおいしかった。)
- テディベア(ハウステンボスに沢山のテディベアがいました。彼氏/彼女に)
- ビードロ(がらすのふえ。すごく繊細で美しいです)

長崎研修旅行

○ペンギン水族館

世界に生息するペンギンの仲間は全部で18種類。
ここにはそのうち9種類の仲間がいて、種類数は世界一!!

●交通アクセス
長崎駅前南口より県営バス
「網場・春日車庫前」行
※約30分

○中華街

お昼ごはんは
『高級中華料理 王鶴』で食べました。
値段はちょっと高めだけど、回るテーブルがあって楽しく食べれました。
車えびや 本場のラーメン、チャーハン、エビチリなど普段食べてるものとは味が違くてとてもおいしかったです!!

○浜町アーケード

仙台のアーケードより大きくて、人もとても多かった。
東北にはないタピオカをのみました。
おいしかったです。

長崎には"せくせ"がない!?

タピパンダ

第一茶

☆ハウステンボス

↓おすすめのご飯屋さん

卵がトロトロで美味しい!!
ボリューム満点なので
ガッツリ食べたいときに◎

長崎といえばちゃんぽん!
野菜がたっぷり!!
小籠包は熱いうちに食べてください(←これ重要)

ハウステンボスはインスタ映えスポットが多い!!
特に夜のイルミネーションが綺麗でおすすめです!!
ぜひ撮ってください

〈思ったこと〉
ハウステンボスに限らず長崎全体で、修学旅行生向けの割引きがたくさんありました。

☆原爆資料館

資料館にはすごく生々しく痛々しい写真やレプリカがたくさん展示してありました
私たちは改めて戦争の怖さ、原爆の恐ろしさを感じることができました

米軍機から撮影した写真

←爆心地から約1.2kmの製鋼所で被爆した作業員の服
近くでみてみると、すごく痛々しいものでした

爆風によって1本になった鳥居→
爆心地から約800mの場所にあります
私たちは資料館に行く途中のバスの中から見ることができました

（5）英進進学コース　台湾研修報告

英進進学コース　　五十嵐春祐

◎研修日程

平成31年4月14日（日）～平成31年4月17日（水）　3泊4日

◎参加生徒・引率教員

男子生徒12名 - 女子生徒35名　計47名
引率教員3名：阿部　広美、五十嵐　春祐、呂　春苹

◎研修旅行の目的

1）和賀国の先島諸島と境を接する台湾の歴史と自然に触れ、独特の中国文化や産業についての理解を深める。
2）中国文化についての理解を深める。戦前からの日本との関わりや、戦後の経済的は店、今日、親日国と呼ばれるようになった経緯等について思いをはせる。
3）日本と他国のルール、マナー、習慣等の違いについて積極的に理解を深め、多様性を認められるようになる。
4）集団行動を通じて、きまりを守る意識や協調性を高める。
5）同級生や教師または現地の方々との交流を深め、社交性やコミュニケーション能力を培う。
6）グループ活動を通じて、互いに協力し助け合う姿勢を体現する。
7）宿泊研修を通して、自身の体調管理能力や自立心を養う。
8）公衆道徳を守り、1人の社会人としての社会性を身につける。

◎旅行行程

・第1日目
仙台空港集合（1階中央噴水広場）17:30
仙台空港 19:55発 ――（エバー航空BR117便）―― 桃園国際空港 23:00着
慶泰大飯店（ガーラホテル）チェックイン 24:30

・第2日目
7:15 朝食 ―― 8:15 ホテル出発 ――（バス移動）―― 故宮博物院見学（8:45～9:30）――（バス移動）―― 11:00 鼎泰豐101にて昼食 ―― 台北101展望台見学（12:00～13:30）――（バス移動）―― 仇分散策（14:30～16:00）――（バス移動）―― 民芸品店で休憩・買い物（17:10～18:00）―― 春梅子にて夕食（18:15～19:15）――（バス移動）―― 19:45 ホテル到着

・第3日目
8:00 朝食 ―― 9:00 ホテルロビーで大学生と合流 ―― 9:30 ホテル出発 ―― 班ごとに自主研修
※4～6人の1班に現地大学生ガイド1名が同行し、事前に決めて学習した研修場所へ大学生と交流を深めながら訪ねた。
17:30 康華大飯店に集合 ―― 夕食（18：00～19:00）――（バス移動）―― 19:30 ホテル到着

・第4日目
6:20 朝食 ―― 7:00 ホテル出発 ――（バス移動）―― 7:40 桃園国際空港到着
桃園国際空港 10:05発 ――（エバー航空BR118便）―― 仙台空港 14:35着　解散

◎研修旅行記録

第１日目

17:30に仙台空港の１階中央噴水広場へ予定通り全員集合し、手続き等においてトラブルもなく19:55に出発をした。個人的なイメージではあるが、高校生はまだ旅行慣れをしていないため、離陸時にキャーッと騒いでしまうことを心配していたが、意外にも飛行機に慣れている生徒が多く、周囲に配慮して騒がしくなるというようなことはなかった。また、夜遅い出発ということもあり、機内食を済ませたあとは翌日以降の研修へと備えて寝ている様子の生徒が多く見受けられた。

台湾の桃園国際空港へは予定通り現地時間23:00に到着し、入国審査や荷物の確認を済ませた後にバスへ移動し、慶泰大飯店（ガーラホテル）へは24:30頃に到着した。到着後はチェックインを済ませ、各部屋のカードキーシステムについて説明を受けた後に各自就寝という流れであった。夜遅いこともあり、皆すぐに寝ることができたようだ。

第２日目

7:15にホテル内で朝食集合という予定であったが、皆寝坊することなく一人も時間に遅れることなく集合することができた。朝食はバイキング形式であり、食べ物は日本食と似ているものが多いため、たくさん食べている生徒が目立った。その中でも、白いパンのようなもの胡椒餅と呼ばれるものは、ふわふわの食感であり生徒の間で人気であった。

8:15にホテルを出発し、２台のバスで移動をし、まずは故宮博物院へ訪れた。貴重なものを目の前で見ることができ、歴史にとても興味がある生徒は興奮している様子であった。興味があまりないという生徒においても、あまり目にする機会がない翡翠などの展示品や、彫刻物等をみて、現代の技術を使わずにこのようなものを作り出した人たちはすごいと生徒は述べていました。残念ながら、豚の角煮、白菜のものは海外へ貸し出し中であったが、それでも時間内で見切れないくらいの展示物の数々で、集合に少し遅れてしまう生徒もいた。

見学後はバスで移動し鼎泰豐（ティンタイフォン）101にて昼食をとった。この店は日本にも出店をしており、小龍包や餃子などで大変有名なお店である。今回はコース料理で様々な種類のものを食べることができたが、とてもボリュームがあり女子生徒のテーブルにおいては、頑張って食べている様子も見受けられた。また、厨房の様子がガラス張りで見ることができ、見入っている生徒も多数いた。

昼食後は台北101展望台の見学をした。霧で周りが見えなくなることも多いが、今回は生徒の日ごろの行いも良かったためか、スッキリと周囲の街並みを見わたすことができた。また、中にはお土産店も多く、家族や友人に買い込んでいる生徒も見受けられた。年末にはカウントダウンのイベントで大盛況になるとガイドさんより聞いた生徒たちは、また各自で訪れてみたいなと口をそろえて話していた。

その後はバスで移動し、千と千尋の神隠しの舞台としても大変有名となった仇分の散策を行った。山間部ということもあり、天気の変化が激しく、下見に行った際には土砂降りで全身濡れてしまったため、対策を万全にして望むように学校内でも伝えていましたが、当日は幸いにも天気に恵まれ、雨が降ることもなく散策を楽しむことができていた。

散策終了後は民芸品店に立ち寄りました。やはり、日本の製品は安心安全で便利なものが多いということで、化粧品や生活用品が多く取り扱われていました。その他にも、台湾の製品を見ていましたが、物価の違いもあるため、安いものが多い印象を受けた。

第3日目

3日目はやや遅めの8:00に朝食のために集合をし、その後9:00にホテルロビーで現地の大学生と合流をし、自己紹介や歓談の後に9:30にホテルを出発していった。班ごとに自主研修の予定を事前に計画し、その計画先へと案内をしてもらい親睦を深めながら研修を進めた。台湾の鉄道は路線が色で明確に分けられているため、目的地へたどり着くのは難しくはなく便利であったと聞いている。また、台湾の方は親日の方が多く、困ってもすぐにお手伝いをしてもらうことができたため、各班において何事もトラブルがなく研修を済ませることができた。17:30に康華大飯店へ集合をした際には大学生と別れるのが寂しいという生徒が多く、記念写真を何枚も撮影したり、しばし話し合ったり、名残惜しそうな姿が見られた。案内をしていただいた大学生たちは、日本文化等に関してとても興味を持っている方が多く、日本語でやりとりをしっかりと行うことができていたようであった。

この日の夕食では、炒飯や豚の角煮などの中華料理を楽しむことができた。中国の料理はやはり量が多く盛り付けてあり、昔ながらの中国文化においては少し残すことがマナーだとされていますが、現代においてはもったいない！ということで、頑張って各テーブルへ置かれた料理を食べている生徒が目立った。その後、宿泊先へと戻り、翌日の帰国に備えて各自荷造り等を頑張っている様子であった。

第4日目

最終日はやや朝が早く、6:20に朝食集合、その後7:00にホテルをバスで出発し7:40頃に桃園国際空港へと到着をした。よく帰りの飛行機でトラブルとしてあげられることは、荷物の重量オーバーや、日本へ持ち込めないもののパッキング等がある。しかし、事前の指導を生徒たちもしっかりと聞いていたようで、何事もなく搭乗手続き等を済ませ、桃園国際空港を10:05に出発し、仙台空港へは日本時間14:35頃、ほぼ予定通りに到着をすることができた。到着後は手続等を済ませた後に解散式を行ったが、まだまだ台湾の様々地へ訪れたかったとつぶやいている生徒もいる一方で、新年度早々のことであったため、すっかりと疲れ切っている様子の生徒も見られた。

◎終わりに

今回の研修旅行においては、海外ということもあり、心配性な私としては大丈夫かとても不安であった。しかし。何事もトラブルがなく全行程が終了し一安心をした次第である。台湾は1895年から1945年の約50年間の日本が統治していたという歴史がある。しかしながら、台湾では日本に対する不満や否定的な意見をあまり聞く事はない。これは、この50年の間に、日本が台湾へ様々な貢献活動をしてきたからであると考えられている。実際に、今回の研修旅行中も鉄道、港、道路など、交通手段や流通の基礎整備がされてきたものの一部を目にすることができ、今も役立っているのだという印象を受けた。また、ダムの建設や農作物の改良にも貢献してきたということが、今回ガイドさんとお話をすることで学ぶことができた。さらには、当時学校教育を通じて日本に同化させようとしていたため、高齢の方は日本語が話せる場合が多いと聞いた。このような歴史的背景や、現代の日本製品ブームなどを経て、実際に日本への観光客も多くリピーターもいるほど親日家の方が多いと考えられる。どのスーパーでも日本製品の取り扱いも多く、日本人が生活をしても不自由をしないのではないかと考えている。私は外国語科の英語教科において英語を教えることを通じて、世界にはさまざまな国の歴史や文化を知ってほしい、そのきっかけとなってほしいと考えて教鞭をとっていますが、今回の台湾研修旅行を通じて参加した生徒たちにも、日本という国の歴史の一部と、台湾との関係性を知るきっかけとなったのではないかと考える。このことを通じて、今後も日本と台湾の関係が良好なものであり続けてほしいと私は考えている。

（6）外国語コース　ハワイ研修報告

外国語コース　　川村くるみ

1. はじめに

今年度の外国語コース第1学年のハワイ研修は2班に分かれて実施いたしました。今回初めてHawai'i Rainbow Academyにて語学研修を行い、アクティビティではハワイの様々な場所を訪れて、現地ならではの文化を体験する中で多くのことを学んできました。

2. 研修期間と参加人数および引率教員

・第1班
令和元年10月19日（土）から11月1日（金）【12泊14日】
参加人数　13名
引率教員　川村　くるみ（外国語コース）
・第2班
令和元年11月9日（土）から11月22日（金）【12泊14日】
参加人数　12名
引率教員　小山　裕香（国際センター）

3. 事前研修

今年度は事前研修として、ロングホームルームの時間にオリエンテーションを計2回行い、講師としてハワイ出身の秀光中等教育学校のブライアン先生をお呼びしました。1回目は生活・言語・食べ物など、ハワイのあらゆることについて講義して頂きました。様々な文化を体験できるハワイにどの生徒も興味を持ったようで楽しそうに講義を受けていました。2回目は、ハワイで起こりうる様々な場面に対応できるようグループに分かれてロールプレイを行いました。実際に現地で二週間過ごすイメージができたようで、皆とても生き生きとしていました。その後、2回の事前研修を通してそれぞれが興味を持ったテーマで小レポートをまとめました。この小レポートをもとに現地で調査した内容を加え、プレゼンテーションを行います。

4. 訪問地

○アラモアナショッピングセンター
○アラモアナビーチ
○ダイヤモンドヘッド
○ダウンタウン（チャイナタウン）
○パールハーバー
○ハワイ大学マノア校
○マノアヘリテッジセンター（1班のみ）
○ライオン・アーボリータム（2班のみ）

5. 全日程報告

2班に分かれて研修を行ったため、研修内容が若干異なります。

出発日

お昼頃に学校に集合し簡単に出発式を行い、保護者の皆さまや先生方の温かいお見送りを受け、皆元気に出発しました。その後、仙台港I.C.高速道路に乗り、3回ほど休憩をとり、成田空港に到着しました。空港では機内持ち込み荷物、服装などの最終確認を行い、個人個人で航空券を発券し、搭乗手続きをしました。日本との別れを惜しむ生徒や、飛行機が初めてで緊張している生徒もいましたが、ハワイへ向けて無事出発することができま

した。機内では疲れがたまらないように寝るように話しましたが、寝付けなかった生徒の方が多かったようです。
　日付変更線の関係で、現地時間で同日の朝10:30頃にハワイのダニエル・K・イノウエ国際空港に到着し、預け荷物を受け取り空港を出ました。その後はレインボーホームステイの方々にお会いし、学校に通い始める月曜日のことなどを詳しく説明して頂き、引率教員からも諸注意を伝えました。説明が終わる頃にはステイ先の方々にそれぞれ迎えに来て頂き、解散しました。生徒たちは英語で挨拶し、緊張している様子でしたが、懸命に受け答えをしていました。皆ステイ先で過ごす週末をとても楽しみにしている様子でした。

写真１：ダニエル・K・イノウエ国際空港にて

週末　（1日目・2日目）

　それぞれがステイ先で楽しく過ごせたようです。明日からの登校のために週末中に一回は学校に行く練習をすることにしていたので、それぞれ学校まで行ってみたと話していました。中には道に迷ってしまった生徒もいましたが、現地の人に聞いて目的地までたどり着けたとのことです。ハワイのバスは時刻表通りに来ることが少ないため時間に余裕を持って行動したい、と皆意気込んでいました。月曜日から、練習の成果を発揮してもらいたいと思います。

3日目

　本日より、Hawai'i Rainbow Academyでの授業が開始されました。この日は普段よりも渋滞していたようで到着が遅れた生徒もいましたが、連絡を取り合い、全員が無事に学校にたどり着くことができました。本日から授業をして頂くのは、アール先生、ヨーコ先生、アンドリュー先生です。アンドリュー先生の授業では、アメリカドルの種類や使い方を学びました。ゲームなども交えた授業だったので、生徒たちはとても楽しんでいる様子でした。アール先生の授業では、「Life Skills」と「Success and Failure」について学ぶ中で、生徒たちは世界の様々な変化について考え、その中で生きていくためには「クリティカルシンキング」が大切であるということに気づいたようです。内容は少し難しかったようですが、先生方にサポートして頂きながら、分かる英語で一生懸命会話をしたり、教え合ったりする姿が見られました。午後はアラモアナビーチに行き、安全に気をつけながら、皆でハワイの海を楽しみました。

写真２：アール先生・ヨーコ先生の授業

写真３：アンドリュー先生の授業

4日目

この日は皆時間に遅れることなく学校に到着することができました。昨日遅刻してしまった生徒は出発時間やバスの路線を工夫するなど、自分たちで解決策を考えたようです。アール先生の授業では「クリティカルシンキング」ができる人の5つの資質について学びました。先生方が生徒たち自身と関係させてお話してくださったので、自分と向き合うとても良い機会になったと思います。また、初日よりも緊張感が取れ発言も少しずつ増えているように感じました。午後は3班に分かれ、ビンゴ形式でミッションをクリアしながらダウンタウンを散策しました。生徒たちは現地の方に英語で話しかけることでビンゴが埋まっていくことを喜んでおり、日本ではなかなか体験することができない、現地ならではの文化にたくさん触れることができたと嬉しそうに話していました。

写真4：ダウンタウンにて

写真5：ハワイならではの食文化を体験

5日目

この日は朝からダイヤモンドヘッドに登りました。疲れと暑さで体調を崩す生徒がいるかもしれないと心配していましたが、全員で頂上にたどり着くことができました。頂上からの景色には皆感動していたようで、疲れも吹き飛んだのかとてもはしゃいでいました。午後のアール先生の授業では、昨日の自分の行動を振り返り、クリティカルシンキングができる人の5つの資質に当てはまっていた部分を発表し合いました。皆リスニングに慣れてきてはいるものの、まだ発するには恥ずかしさがあるように感じられます。先生方が生徒たちの様子を見て授業を工夫してくださったため、疲れているのは明らかでしたが積極的に授業に参加していました。また、最終日のプレゼンテーションに向けてパワーポイントの作成も始まりました。苦戦している生徒もいましたが、パワーポイントの使い方や英単語などを互いに教え合う姿も見ることができました。

写真6：ダイヤモンドヘッド山頂

写真7：パワーポイント作成

6日目

この日は学校に集合し、プレゼンテーションの準備を行いました。皆順調に自分で決定したテーマについてスライドを作っているようでした。そのあとはリムジンに乗ってパールハーバーのUSSアリゾナ記念館、戦艦ミズーリを訪れました。真珠湾攻撃の当時を物語る展示品が沢山あり、生徒たちは真剣に英語の説明文を読んでいました。当時の歴史に興味を持った生徒も多く、貴重な経験をすることができたと嬉しそうに話す一方で、日本人としてパールハーバーを訪れることへの複雑さも感じていたようです。

写真 8：パールハーバーにて

写真 9：展示を見学する様子

7日目

なかなか発言することに時間がかかる生徒達のために、この日のアール先生の授業では「話す練習」として「何故ハワイに来たのか。ハワイで何をしたいのか。目標の達成というゴールを10とした時、今自分はどの辺にいるのか。」ということを発表し合いました。生徒たちにとって自分達の目標を見つめ直す良い機会になったようです。また、改めて自分の目標と向き合ってみて新たな気づきもあったようで、はっとしたような表情で授業を受けているのが印象的でした。午後はハワイ大学マノア校を訪れ、3班に分かれて与えられたミッションをクリアしていくというアクティビティをしながら、大学の中を見学しました。皆大学の広さや自由でのびのびとした雰囲気に興味を持ったようで、観察しながら歩いていました。

写真 10：ミッションに挑戦する様子

写真 11：大学内を散策する様子

週末　8日目・9日目

それぞれがホストファミリーや友人たちとよい思い出を作ることができたようです。コミュニケーションをたくさん取れたようで、少し自信もついたように感じます。ショッピングに連れて行ってもらったり、ホームパーティーを開いてもらったりと、ハワイでの最後の週末を満喫したようでした。

10日目

アンドリュー先生の授業ではハワイ語の学習をしました。ハワイ語は発音しやすいため、大きな声を出して授業を受けられていました。その後はプレゼンテーションの準備を行いました。原稿の練習では、アンドリュー先生に分からない言い回しを質問したり、聞き手を意識してゆっくり話す練習をしたりしていました。よいプレゼンテーションにするためには何をしたらよいかを考えて行動できていたように思います。その後1班はマノアヘリテッジセンターを訪れ、センターが切った木を全員で協力して運ぶというボランティア活動を行ってきました。また植物の生息地など、ハワイの自然について学んできました。また、2班はライオン・アーボリータムという森林公園を訪れ、ハワイの植物を見学し、オイルパステルでその植物の絵を描きました。それぞれ個性溢れる仕上がりになりました。

写真 12：ボランティア活動

写真 13：作品と記念撮影

11日目

この日は授業の最終日でした。パワーポイントのスライドづくりも佳境に入り、見直しや仕上げをしていたようです。その後アラモアナショッピングセンターでアンドリュー先生の最後の授業を行いました。店員の方に英語で話かけミッションをクリアしていくというもので、みな緊張しながらも英語で声をかけていました。始めの頃と比べると、店員の方や道を歩く人に積極的に声をかけられるようになり、コミュニケーション力は上がったのではないかと生徒たちも実感していました。生徒たちの成長が感じられて、とても嬉しく思いました。アンドリュー先生の授業はハワイならではの場所で実際に行動しながら学習するものが多くありました。生徒たちは日本で体験することのできない時間を楽しみ、実践を通して英語力、コミュニケーション力に磨きをかけることができたようです。アール先生の最後の授業は「ATTITUDE」と「INTEGRITY」についてでした。アール先生の授業は自分たちの発言によって進められていき、日本ではなかなか体験できない授業形態であったため有意義な時間となったようです。また授業の中で多くの発見があり、考え方がよい方向に変わったと多くの生徒が感じていました。これから人生を歩んでいく中で困難に見舞われたときに、そのような状況の中でも物事をよい方向に向けさせるために、学んだことを生かしていきたいと晴れ晴れとした表情で話してくれました。

12日目

本日はプレゼンテーションの発表の日でした。いつもの学校とは異なる雰囲気に皆緊張していたようで、直前までプレゼンテーションの練習をしている姿が印象的でした。プレゼンテーションの発表内容は、ハワイの環境（ゴミ・植物）、文化（食・伝統文化・言語・ハワイの人々）、歴史（真珠湾・ハワイの成り立ち）についてです。皆日本で準備してきた内容を、このハワイ研修の中で実際に調査することによって、よりよいものにすることが

できていました。それぞれが興味のあることについてまとめたものなので、同じテーマでも観点が違い、意見も様々でとても面白いプレゼンテーションとなりました。発表中も非常に堂々としており、２週間ほど前の授業で緊張し、恥ずかしがっていた様子からは想像できないほどでした。日本を出発した時よりも確実に成長した生徒の姿に、胸が熱くなりました。先生方にも、授業で学んだことをプレゼンテーションの中に取り入れることができており、素晴らしかったとお褒めの言葉を頂くことができました。発表のあと、全員で卒業式を迎えることができアール先生から卒業証書を１人ずつ頂きました。先生方からこの２週間を振り返る言葉を１人ずつかけられると、感極まって涙を流す生徒もいました。その後はプレゼンテーションのご褒美として、パーティーを準備していただきました。生徒たちはプレゼンテーションの緊張から解放され、とても楽しんでいました。

写真 14：第 1 班集合写真

写真 15：第 2 班集合写真

帰国日

7時ごろホストファミリーの方々に送迎してもらいダニエル・K・イノウエ空港に集合し、10時ごろの便で日本へ向けて飛び立ちました。空港ではホストファミリーとのお別れを皆惜しんでいました。朝食を持たせてくださる方やプレゼントをくださった方もいらして、ホストファミリーの皆様が本当に生徒のことを大切にしてくださったことが伝わってきました。生徒たちも、ホストファミリーの皆様のおかげで安全に楽しくハワイで過ごすことができたと涙ぐみながら話していました。日本には15時ごろに到着し、21時ごろに学校に到着し解散致しました。

２週間という短い間でしたが、皆たくさんのことを学び、吸収して帰ってくることができました。授業、アクティビティ、プレゼンテーション、日々のコミュニケーションなどを通して英語力は確実に向上しました。また研修を終えて、グループとして一致団結し協力することの大切さ、ホストファミリーの皆様からの愛情、そしてこの研修に行かせてくださった保護者の皆様への感謝の気持ちなど様々な気づきがあったようです。この気づきを大切に、ハワイ研修で学んだことを今後の人生に生かしていけるよう、ますます努力してほしいと思います。

今回の研修にあたり、保護者の皆様をはじめ諸先生方、用務員の方々に多大なるご協力を頂きましたことを心から御礼申し上げます。皆様のご協力やお言葉は生徒の力になっていたことを感じておりました。本当にありがとうございました。

写真 16：ハワイ研修の思い出　アラモアナビーチにて

（7）教職員研修会報告

フレックスコース　　村岡　信章

令和元年度の教職員研修会は、10月29日（火）午後2時半から宮城野校舎にある「ゼルコバホール」において行われました。今年は、東北大学大学院教育学研究科に籍を置かれ、医学博士でもある川﨑聡大（かわさきあきひろ）准教授をお招きして、『発達障害・学習障害への理解と向かい方』という題でご講演いただきました。

川﨑先生はこれまでに、「学習障害や言語発達遅延の障害背景や指導に関する研究」や「読み書き困難に関連する認知機能の研究」など特別支援教育に関わる様々な研究をされています。

今回の講演では、具体的な事例や川﨑先生のこれまでの経験されたことをふんだんに取り入れ、発達障害・学習について広範囲な内容についてお話していただきました。また、聴衆である我々教職員が障害を抱えるこどもとどう向かい合うのか、具体的場面を想定したり、対応策を考えたり、文章理解についての実験を体験させたりすることで、障害を抱えるこどもから見えるものがどのようなものか、について理解を深めることができました。1時間半の予定を超え、中身の濃い講演で職員一同多くのことを学ばせていただきました。川﨑先生大変ありがとうございました。

ご講演の概要は以下のとおりです。

本日はこのような機会をいただき大変ありがとうございます。およそ90分間お話をすすめさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2002年と2012年に文部科学省による調査があり、この調査が『特殊教育』から『特別支援教育』に変わるきっかけとなった。その調査によれば、全国の一般・通常の小中学校における発達障害の傾向がある生徒の割合は2002年で6.3％、2012年時点で6.5％存在している。つまり40人学級で、2、3人いてもおかしくない。そのような状態であるので、特別支援教育、つまり気になる生徒への配慮は専門の学校の専門の職員任せておけばよい、という状況ではなくなっており、すべての学校でおこなわれなければならないものである。また、公立私立を問わず、すべての学校に特別支援コーディネーターがおかれるようになったのはそのためである。

自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如・多動障害、が発達障害の主なものであるが、本日はこの中でも特に学習障害について話をすすめていくつもりである。

まず、苦手さを持っている生徒が安心して学校に通うことができるようにするためには、「わからない」というこどもに対する対応のしかたを知る必要がある。「わからない」ということはこどもが知的好奇心を発揮していることの証だから、そのことは褒めるに値することだという考えをもつことが大切である。学校にはこどもが知りたいことを保障してもらいたい。

学校は、気になる子どもも含めたすべての子どもたちにとって生き生きと楽しく自分らしさを発揮できる環境を用意しなければならない。また、学校は子どもが自己実現できる場所でなければなければならない。そして、発達障害傾向を持ったこどもをどうにかしていく、という発想は適当ではない。気になる生徒にとって安心して学校に通うことができる学校は間違いなく、一般の生徒も安心して通える学校である。よって、すべての生徒一人一人が落ち着いて安心して学校で過ごすことができるような仕掛けが必要であり、インクルーシブな（共生の）教育や教育におけるユニバーサルデザイン化が求められている理由である。

また、保護者と学校、発達障害の傾向を持つ生徒間で良好にやっていくための鉄則は「目標を共有すること」である。個別教育計画・個別支援教育計画は必ず早期に作成すべきであり、学校としてできることと家庭でできることを保護者と共有することがスタートになる。

オランダでの経験と平等についての考え方

（会場に向かって）先生方への質問です。「担任している生徒のなかにディスレクシアの子どもがいた場合、外国語の扱いはどうしますか」自由な発想で答えてください。先生ならどうしますか。正答はありません。

（会場内教員）「その子のレベルに合わせて別な教材を課したり、別な時間を使って個別の指導をすると思います。」
（講演者）「とてもいい先生です。すばらしいです。」

２年前にオランダに行った際、多言語教育を実施している小学校を訪れる機会があった。
そこの校長先生に『入学してくる児童の中に、ディスレクシア（発達性読み書き障害）の子どもがいることがわかったらどうしますか。』という質問をしたら、『ディスレクシアがあることがわかった時点で多言語教育やめます。』という答えが返ってきた。『なぜならそれは平等ではないからです。多言語教育をやめて１つの言語に絞って集中して指導します。そこで浮いた時間は専門家を入れてその子に合わせた指導をしていきます。』という回答だった。
何よりも一番印象的だったのは「それは平等ではない」という言葉だ。みなさんはこれから平等という概念を変えていかなければならない。みんなと同じ形式を取るのが平等というのは誤りである。５年後、10年後に、その人のゴールに対してどれだけ保障できるのか、その保障できる量が異なってくる場合、それは平等でなくなるということを意味する。
このように、全員に対して同じ形式での対応が適当ではないのなら、どのように発達障害と向き合っていくことが望ましいのだろうか。以下にその原則を示す。

発達障害に向き合う鉄則

・×ではなく○で伝えること…今何をしなければいけないのか、何が求められているのか、相手の理解力に合わせてわかりやすく伝えること。ダメという言葉を使ってはダメ。
・見通しを持たせること…「わかる見通し」と「できる見通し」を持たせること。
　わかる見通し － 今から何をするのか目で見てわかる準備をすること
　できる見通し － できない理由の見たてをきちんとすること
・「問題行動というものはない」という認識に立つこと…こちらがやられて困ることを問題行動ととらえているが、問題行動といわれている逃避・要求・注意喚起・はコミュニケーション行動である。
・こちらの常識が相手の非常識なっている可能性もあると思って対応する必要がある。

発達障害とは

自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder :ASD）は、発達早期からの社会的相互作用、コミュニケーションの障害と、限定的・反復的行動を主症候とする発達障害であり、対人関係の独特な理解や、過度のこだわりに基づいたトラブルが発生する危険がある。
医学的な研究では、出現率は１～２％である。40人学級に１～２人いておかしくない状況である。統計的に示されている発達障害の件数は増加しているが、実際に件数が増加したのかというと、そうではない。実は、件数自体は依然からあまり変わっていない。発達障害に対する理解が進み、以前よりも広範囲にとらえるようになったこと、発達障害の定義が変わったこと、社会生活の形態か変化し、ユニットが抱える予備能力（社会の個々の組織が対応できる許容度）が低下し、苦手さを持つ人を受け入れる余地が少なくなっていることが、件数増加に表れている。しかし、18歳人口が減少し労働人口が減少するなかで、そのような人たちも貴重な労働力として活用していかなければならないので、障害を抱える人を雇用することは単に法律による規制の話だけでない。
また、スペクトラムの名の通り、症候の強弱は多様で非常に幅広い状態を示す。スペクトラムという言葉は自閉症だけでなく、すべての発達障害に当てはまる。発達障害は０か１か、という問題ではない。どの程度制約を受けるのかは段階である。それは例えで言えば、虹の色はどこからどこまでが赤でどこからどこまでが橙かはわからないということだ。学習障害を含む発達障害もそういった連続体、つまりスペクトラムであると言える。

公的機関と発達障害

宮城県では、発達障害に対して、幼児の時期から児童期に対処してくれる医療機関・公的機関が非常に少ないことに驚く。そのため障害を持っている人が孤立している状況である。
小中学校で困難を抱えているこどもが生活しやすく可能性を広げられる教育機関が一つでも増えると、それはそれぞれの学校の特色にもなるはずだ。

高校教員が認識している『通常学級在籍の生徒における特別な教育的支援を必要とする生徒の割合』は１～２％である。この数字は小中学校での同様な調査で示された4.5％という数字から大きく下がっている。つまり実質の半数程度しか認識されていないのである。
残り半数は本人の努力、本人の問題ととらえられている可能性がある。

自閉症スペクトラム障害と学習支援

発達障害の傾向を持つこどもの学習支援をする際重要なことは、100点を取る指導では失敗するということだ。前よりも5点多くとれる指導をすることである。確実な方略で、こどもが何をしたらいいのかわかりやすく、目に見えるようにして、つまりできる見通しを持たせて、そのパターンの繰り返し練習を行うことで定着させるとよい。

自閉症スペクトラム（ASD）の傾向を持つこどもは、シングル・フォーカスであり、複数の媒体や話題に対して注意を振り分けることは難しいことが多い。そのため、学習指導の際は、複数のものに同時に注意を振り分ける（配分的注意が）必要な場合、一つ一つに注意を向けて学習できるよう学習環境を変えていかなければならない。自閉症スペクトラムが注意障害と同時に語られるのは不思議に思うかもしれないが、それは、症候を合併していたり、複数で認められる行動特徴があるからである。

授業の構造化

また、授業の全体的な流れを構造化することも大切である。

もちろん教科によっても異なるし、できるものとできないものがあるのも確かだが、できれば講義内容のダイジェスト版を用意しておくことが望ましい。授業の最後の5分は次回の授業の予告を入れる、つまり。見通しを持たせる。また、授業の最後にはまとめが入るが、授業の補助資料の配布のポイントは授業の開始時である。配らなければならないことは先に配ることが大切。配布物を見ることで授業全体の構造の見通しが持てる形になっていればなおさら良い。このことは自閉症スペクトラム障害傾向を持つ児童・生徒に対する学習指導についての話だが、学習障害の傾向を持つ生徒に対する指導にも当てはまる。また、学習障害の傾向を持つこどもには学習はできれば復習中心にするのが望ましい。

学習環境

さらに学習環境の多様性を認めることも大切な要素である。

必ずしも多くの情報がプラスになるとは限らない。例えば、学習障害傾向を持つ子どもから『一つ言葉の意味がわからないので教えて欲しい』という質問があったとき、先生は多くの情報を並べがちであるが、その方が児童生徒にとってはわかりにくい時がある。先生の説明の量が増えるに従って、一つ一つの説明に対して、そのような子どもが向けられる注意の量が減っていくのである。必要な情報を絞って提供しないと、よけいにマイナスになってしまうことがある。

また、ASDや学習障害傾向の人には、発見学習やアクティブ・ラーニングが苦手である。「自由にすること」、「何をしてもよい」ことが難しいのである。ある程度選択肢を用意しておかなければならない。発展学習をやってはいけないということではない。どういう方法で組み立てていかなければならないのか補助が必要であることを覚えていてください。

さらに付け加えると、他の人とのトラブル回避のためにASD傾向がある子どもには、相手の行為の状況、その社会的意味はどういうものか読み取ることを教えなければならない。

注意欠如・多動性障害（ADHD）

「注意がそれやすい」「忘れ物が多い」「予定をすっぽかす」「片づけられない」などはAD/HDの不注意に関する特徴である。また、「話を最後まで聞けない」「どこに行くかわからない」「落ち着きがない」「言葉より先に体が動く」などはAD/HDの衝動性、多動性の特徴である。これらの特徴は成長とともに落ち着いてくる。自分の特徴に気付いて工夫するようになってくる。しかし、中学生や高校生になってもこの傾向・特徴が続くようだときびしくなってくる。

注意機能については5つのことがあるが、注意は全ての精神活動の基盤的機能である。

「選択的注意・排他的注意」は向ける注意であるが、「こちらを向いてください」と言われたときに注意を向けることが選択的注意である。他のものに注意が向かないように他の刺激を遮断するやり方よりも、今注意を向けるものをより強く際立たせるやり方が効果的である。

「持続的注意」は向け続ける注意であるが、「注意力がない」ということで話題になるものである。これは、個人差のある「資源」と関係し、課題に慣れると注意の消費量は減り、刺激が少ないと覚醒度が下がるものである。この傾向のある子どもは注意を向けるペース配分がわからないので、与える課題がどれくらいの注意の持続を必要とするものなのか教えておくことが必要である。構造化が大切な所以である。

「転換的注意」は切り替えるための注意である。話題が切り替わっても、前のところに注意が残っている状況。ここは注意を切り替えるところだと示す（教える）ことで問題は解決できる。

「配分的注意」これは少し前にも説明しましたが、同時に複数に注意を振り分けることです。

複数のものに注意を向けようとすると、一つ一つのものに振り分けられる注意が少なくなり、忘れ物が多くなったりする。だから、気づきのある子どもが多くの約束をしてルールを多く持とうとすることはやめさせなければならない。

これらの問題には環境調整と効果的・効率的な注意の向け方、働かせ方の指導が大切である。
注意障害の４～５割の方が学習障害を併せもつが、これは結果としてことかもしれない。
板書で注意することがある。具体的に授業における板書についてはルールがあって、同時に複数のことをやらない、必ず上から下へ、右から左へ視線を持っていくと必要な情報が時系列に沿って流れていくような形にするすることが必要。このように、やろうと思えば今日からにでもできることはたくさんある。
注意欠如・多動性障害（ADHD）傾向の子どもに対応する助言のポイントはいくつかある。
当たり前のことだが、必要以外の刺激は少なくする。マイルールや決め事によって自分で刺激を多くしている場合にはその理由を探る。
メタ認知が高ければ不安は大きくなる。自分が大丈夫だと思うと工夫はしなくなる。注意の問題、実行性の改善には気づきが不可欠である。苦手だということを自分で気づかないと
失敗したらどうしようという不安が増大してしまう。
また、守っていくルールは大雑把でできる限り少なくすること。心配しすぎ、助言のしすぎは逆効果ということも大切である。

ディスレクシアと学習障害

読みと書き問題であるdyslexiaが最も多い障害である。医学界の定義ではSpecific Learning Disorder（限局性学習障害）に集約され「読み・書き・計算」の障害に限定される。教育界での学習障害の定義は医学界の定義に「聞く・話す」の障害も加えられる。
学習障害の８割がディスレクシアと言われている。数の概念に問題がある人は「読み・書き」にも問題があるのが一般的である。
国際ディスレクシア協会（IDA）によれば、ディスレクシアは以下のように定義されている。
発達性ディスレクシアは、神経生物学的（neurobiological）原因に起因する特異的障害である。遺伝的要因が強いので、親兄弟の中でディスレクシアの傾向があれば、生徒本人も注意して見る必要がある。
ディスレクシアの基本的特徴は、文字や単語の音読や書字（綴り）に関する正確性や流動性の困難さである。こうした困難さは、音韻情報処理過程や視覚情報処理過程などの障害により、しばしば他の認知能力から予測できないことがある。二次的に読む機会が少なくなる結果、語彙の発達や背景となる知識の増大を妨げることが少なくない。さらに失敗の経験が多くなり、自己評価が低く自信を持ちにくい場合もある。
余談だが、ディスレクシアがある場合、高校受験においても大学入試センター試験と同様に、受験上の配慮が認められている。受験時間を通常の1.3倍の時間に延長、あるいは別室受験の配慮を受けるためには中学校あるいは高校にいる間に適切に配慮を受けていた実績が必要である。
読みが困難になる背景には音韻処理障害（話し言葉を音の単位に切り分ける力）がある。ディスレクシアの出現率は使用する言語で異なる。それは、それぞれの言語に必要とされる認知機能に差があるためである。
英語は日本語に比べ、文字と音との対応関係が極めて不規則かつ複雑で、発音が難しく高い音韻情報処理能力を必要とする。逆に、日本語は高い視覚的情報処理能力を必要とする。特に漢字はアルファベットに比べて文字の数が多く、文字自体も構成する視覚情報量が極めて多い。そのため、日本語問題が無くとも英語でディスレクシア症候を示す可能性がある。
そのため、小学校では全く問題がなかったのが、中学校になり英語の習熟で初めてディスレクシアに気づく場合もある。発音通りに綴れないのである。また、日本語でディスレクシア傾向を示す生徒の場合、英語はさらに重症化する傾向にある。また、留学生など日本語を第二言語とする場合､「書き」への支援が重要になる。
小中学校でディスレクシア傾向があり読めなくなると問題がおきる。それは本を読まないことだ。語彙力が低下し、読解力が落ちてしまう。他に支援が必要な部分は文字を読まなくてもコンテンツに触れる機会を用意しなければならない。早めに電子教科書の配布をして、複数の方法で新しいコンテンツに触れる機会を作っておかなければ読解力は先細りになってしまますことが最近明らかになっている。
読み書きが苦手な人にはいま「魔法の箱プロジェクト」というものがあって、読み書きが苦手なら学校にパソコンを持っていけばいいという意見があるが、これは大きな間違いである。物だけあっても良くならない。音韻障害がある人はローマ字入力ができないから、当然学習にはついていけない。使い方を工夫していかなければならない。その時に合わせて、コンサルテーション、コーディネートをしていかなければならない。
電子教科書を導入してもそれだけでは読解力は上がらない。半分の子どもは向上するが、もう半分は上がらない。経験上もっともよいのは、文字から情報を取り入れることが困難な場合は、音声化が有効なので、読み上げソフトを活用し、読み上げさせ今どこを読んでいるのかハイライトする読解力には効果的である。

学習障害を体験（講演者と聴衆のやり取り）

体験１　音韻処理障害体験

これまで学習障害のお話をしたが、イメージが付きづらいと思うのでこれから学習障害の体験をする。
「いまから前にでてきた文書を声に出して読んでもらってもいいですか。」

スライド

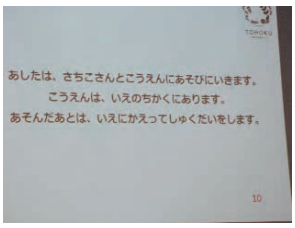
「はい。お願いします。読めましたね。みなさん、すばらしいですね。」

「今度はあえて負荷をかけます。」

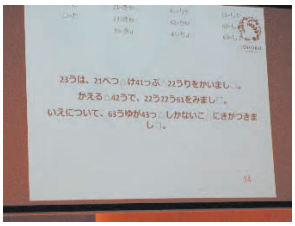
スライド

「どうして読めないんだ。なんで読めないんだ。」

「これを考えて上げて欲しいんです」。



「これが読めないことを小学校1年生のうちから延々言われて続けているのを想像してみてください。勉強が楽しくないのは仕方ないです。」



このスライドは読めましたか。読めませんよね。みなさんの音韻処理能力は標準の範囲だと思うのですが、音声と文字の対応関係を複雑にしルールを厳しくすると、読めなくなります。たどたどしくなります。ここが考えるところなんです。このような生徒に授業のときにどのような指示を出すのかを考えなければならないところですが、まずは気づいて欲しいと思います。出来ないことにはいろいろな理由があることに気づいて欲しい。

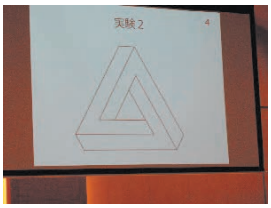
もう一点。何が書いてあるのかわかりましたか。覚えてないでしょう。ひらがなだけで書かれた三行の文が読めないのかと言われたら「おい」と突っ込みたくなると思うのですが、

文字を音に変えることが読解の最初の部分で、この最初の部分に負荷がかかると、理解力は活用できなくなる。それなのに、これがあなたの理解力ですね、と言われたらあなたは納得できますか。この時、時間を多くもらい、読み上げソフトに内容を読んでもらったらどれだけ助けになると思いませんか。また、あらかじめ授業のコンテンツの内容のダイジェストが提示されていれば、理解の大きな助けになります。

体験2　視覚性注意障害体験

「もう一つ学習障害について音韻以外のところでやっておきます。」

「前のスライドを5秒間見てください。図形がでてきますので、それを見て覚えてたら、その絵を書いてください。……まあ、書けますよね。」



「では、もう一回やりますから見てください。5秒間見てください。辺の数はそろえています。」

「ついでに今日お話しした大事なことである『できないことには理由がある』ことを考えてください。二つ目の方が当然難しかったですよね。これは錯視といってこの世には存在しない図形で、うまく書けないと思います。それだけではありません。

人がものを書くということについて、同様に板書について考えてください。板書を取らない子どもに対して、どうして板書とらないんだ。他の人はできているのにどうしてだ。と思うことがあれば、この図形のことを思い出したら、そのようなこどもたちにもう少し優しくなれると思います。それは何かというと、人がものを書く（写す）時には、細かく見ないで、自分の記憶を参照するのです。最初に提示した図形の場合、みなさんほとんど見ていないんです。こうなっているなあ、と思うと自分の記憶から参照して書くのです。」

つまり、ディスレクシア傾向の子どもが板書を取ったり、ものを書き写したりするのは二つ目の図形を書きとる作業をしているようなものです。また、ディスレクシア傾向のこどもは字が汚いのではなく、バランスが悪いのが典型的な特徴です。

ワイキングメモリーの一つだが、人の脳はひとつずつ文字を音に変えるルートとまとめて音に変えるルートの二通りがあり、小学校3年生ころになると、まとめて変えるルートが発達する。ただしそこから語彙の蓄積がないとこの変換がうまく働かないし読めなくなる。

さらにもう一つ付け加えると、最近、視覚性注意障害について話題になっている。同一視野内に振り分ける注意の量が少ないために速く読めないというものです。同一視野の中の文字を倍にしたスライドでもわかるように、このような場合、読みが遅くなる。

音韻処理障害と相まってこの障害も読みの速さに関わっています。このことのために読解力や学力を測るのは不合理である。

合理的配慮

最後は、合理的配慮について。

合理的配慮とは必ず提供しなければならない義務である。以前は機能障害をベースに見ていたが、今は社会参加制約の面で問題になっている。

障害は個人的な要因と社会的な要因で形づくられるものである。合理的配慮の提供の義務は国公立の学校の義務で、私立学校では努力義務になっているが、かなり頑張らなければいけない義務である。一番がんばらなければならないのはキャリア教育である。早いうちに高校一年生、大学一年生のうちから進路について考えて、トッ

プダウン的視点で今必要な支援を構築することである。その際、合理的配慮については過度なものでない限りはやらなければならないものと理解して欲しい。

基本は変更と調整である。やってはいけないことは、妥当性を欠く変更や調整である。障害を理由に無条件で成績を加点してしまうようなことだ。そうではなく、学習内容や評価基準の変更ではなく、学習方法や評価方法の多様性を認めることが大切である。目標を設定し、その目標の達成に応じて評価すべきだ。

配慮はどこまでしなければならないかは過去の事例を活用するとよい。文部科学省が集約したものがあるのでそれを参考にするとよい。配慮の判断は「苦手さと持った学生が安心して受講できる講義はすべての学生にとってよい講義である。」という視点が大事である。

そこに教育目標の本質的な変更があってはいけない。

総括

今日は発達障害とは何か、発達障害とどのようにつきあっていくのかを話し、自閉症スペクトラム障害、ADHD、限局性学習障害の理解について、そして最後に合理的配慮について話をしてきた。

「平等な対応」というのはEQUALITYではなく、EQUITYである。年齢が上がれば上がるほど配慮の仕方を考えなければならない。

キャリア支援の一環として障害者支援における合理的配慮をする際は、問題の背景を正しく読み取ることが求められる。苦手さに合わせた数だけ配慮のポイントがある。いろんな配慮ができることが大事だし、いろんな人が安心できる学校がいい学校である。学校を挙げて合理的配慮に取り組んでいることが求められている。

もう一つ大切なことは教職員全員が目標を共有しているかということである。それによって個に応じた形での個別支援計画が作られる。

駆け抜けるように話をしてきたが、以上で終了します。どうも本日はありがとうございました。

Ⅲ　その他

ILC青森における本年度の活動状況報告

ILC青森　教頭　　丸山　裕治

1. はじめに

本校を受験する生徒の動機は様々です。今年度、中学校を卒業して入学した生徒の選考作文に次のように書かれたものがありました。「私がこの学校に入りたい理由は、自分のペースで学習できるからです。中学校では皆と一緒に学習できず、とても悔しかったです。私の将来の夢は保健室の先生になることです。いつも保健室の先生に助けてもらっていましたので、今度は自分が助けたいと思っていました。悩みを聞いて解決してあげたいです。私はチック症という病気を持っています。時々大きな声が出てしまいます。なので、人に見られたり、笑われたりするのがとてもいやです。でもこのことを分かってくれる先生がここ仙台育英高校にはいてとても嬉しいです。高校では楽しく生活したいです。」

この生徒に限らず、転・編入学をした多くの生徒が、前任校で何らかの不都合を感じ、本校での学び直しを通して高校卒業の資格を取得したいと考えている生徒が多くを占めています。

私達職員には、不登校や中途退学経験者、特別な支援を要する生徒、経済的な困難を抱える生徒など多様な課題を抱える生徒に対して、教科指導や特別活動、あるいはカウンセリング等を通して、社会的・職業的自立に必要な力を身に付けられことが求められています。

2. 在学している生徒の現状（令和元年11月30日現在）

（1）出身中学校所在別生徒数　（上段：昨年度、下段：今年度）

	八戸市 24校 25	三戸郡 10校 10	十和田市 6校 6	三沢市 4校 4	上北郡 8校 9	下北郡 1校 5	津軽郡 2校 3	岩手等 8校 9	合計 63校 71
男	36人 51	10 14	4 3	13 12	3 6	1 1	0 1	6 6	73 94
女	65 72	13 15	5 14	5 7	12 10	2 4	1 2	5 6	107 130
計	99 123	23 29	9 17	17 19	15 16	3 5	1 3	11 12	180 224

・出身別中学校の数値に大きな変化は見られないが、生徒数は男女ともに増加傾向にある。八戸市内の公立中学校数は24校あり、その全ての中学校から入学している点を考慮すると本校の認知度が高まっているのではないかと推察される。また、津軽郡や下北郡からの生徒は、電車やバスを乗り継ぎ多くの時間をかけて通学したり、保護者の送迎によって通学するなど、学習意欲の高さが感じられる。

（2）入学形態別生徒数及び転入生・編入生の前籍高校　（上段：昨年度、下段：今年度）

入学形態	生徒数	前籍高校		
新入生	50人 60	市内県立	市外県立	私立
転入生	78 116	19 23	20 33	39 60
編入生	52 48	17 9	5 12	30 27
計	180 224	36 32	25 45	69 87

・今年度の後期の入学生の内訳を見ると、新入生３名、編入生５名、転入生42名と昨年度に比べると増加傾向にある。中でも、昨年の後期の新入生は一人も入学しなかったのに対し、今年度は３名が入学している。また、今年度の全日制の高校からの転・編入生の割合は全体の８割を占める。その転入生の中には、本校の生徒から勧められて入学した生徒もいる。

3. 今年度の学習活動・主な学校行事

（1）第18回前期入学式

①日時　4月10日（水）

②場所　八戸グランドホテル

③入学者数　男子16名　女子27名　合計43名

④入学して１ヶ月後の生徒のことば

「楽しい高校生活」

高校生活は、中学校とは異なり、自身の将来をはっきりと考え、行動する必要があると思います。専門学校に通う、大学に通う、その先の将来が決まらないとその進路は考えにくいと思います。その将来を見極め、頑張りたいことが４つあります。

一つ目は勉強です。私は理数系が得意なのでその力を伸ばしていこうと思っています。一方で、英語、国語は人とのコミュニケーションは欠かせませんし、自身が成長するためにも避けて通れない道だとも考えています。勉強に関しては、頑張るというよりは、楽しむ、身に付ける、そう言った気持ちで取り組みます。

二つ目は、多くの友人を作ることです。当校では、ボーリング教室、ボランティア活動などがあります。とても楽しく、１グループ４人など、大人数が苦手な私でも入りやすいです。ボーリング教室では、ガターになった時に、「おしい」など、声をかけ合うところがとても良いと思いました。また、先生方がとても良いと思いました。また、先生方とも一緒に活動し、競い合うことがとても楽しかったです。先生方の中でも、所長の三笠先生がとてもボーリングが上手くてびっくりしました。

三つ目は、生活です。学校に入ったら先生にあいさつすることを心がけました。職員室に入るときは名前を言ってから入るなど、当たり前のことを当たり前にするようにしています。将来恥をかかないように今からもっと頑張りたいと思います。

四つ目は、最後まであきらめずにすることです。私は、幼少の頃から負けず嫌いで、特に運動では常にクラス一位を目指して努力してきました。中学校に入学して、初めて自分よりも成績の良い人たちに直面し、自分の運動のできなさに自信を失いかけました。しかし、自分に何が足りないのか先生に質問し、自分よりも成績の良い学生に自ら教えてもらいにいくことで、自分のできない所を一つずつなくしていった結果、県大会においてベスト８という成績を収めることができました。高校生活で上手くいかないことがあっても突破口を探して努力を続けることで、目の前にある課題を乗り越えていきたいと思います。

高校生活を有意義に過ごすために４点を掲げましたが、それ以外にも大切なことはたくさんあるように思います。いつまでもいろいろなことに関心を持ち、いやなことからも逃げず、立ち向かっていけるようこれからも頑張っていきたいと思います。

新入生宣誓

入学生と職員の記念撮影

（2）修学旅行

①日時　4月12日（金）～15日（月）

②場所　沖縄

③参加生徒　男子２名　女子２名　引率職員１名（三笠勝彦所長）

④行程表

	月日（曜日）	行　　程
1	4／12（金）	八戸駅8:11発　仙台駅　仙台空港　那覇空港　旧海軍司令壕 パイナップルハウス　ホテル16:10着
2	4／13（土）	那覇市内　道の駅かでな　イオンモール沖縄ライカム　ILC沖縄入学式 那覇市内班別自主研修
3	4／14（日）	那覇市内　沖縄海洋博記念公園（美ら海水族館）　首里城 那覇市内班別自主研修
4	4／15（月）	ひめゆりの塔　那覇空港14:10発　仙台空港　仙台駅　八戸駅20:12着

⑤生徒の感想文

私は今回の研修旅行で沖縄の歴史や文化、その他たくさんのことに触れることができました。移動中、沖縄はどんなところなのだろうか思いを馳せ、体中ドキドキとワクワクでいっぱいでした。いざ沖縄に到着し飛行機から降りると全身を包む暖かい空気。それから青森だと見ることのない植物たちに、キラキラと輝くエメラルドグリーンの海。私はついに沖縄研修が始まったのだと実感しました。この日から4日間私が体験した出来事は、忘れられないものとなりました。特に忘れてはならないと思ったことがあります。それは、まだ消えることのない沖縄で起こった戦争の記憶です。戦争に纏わる施設をいくつか回り、たくさんの記録を見ました。旧海軍司令壕の規模の大きさには驚きました。約450mほどあるそうです。これをすべて機械を使わずに人の手のみで掘り進めたのだと思うとさらに驚きです。いくつかある部屋の中で、衝撃だった部屋があります。それが幕僚室です。自決の時に使った手榴弾の跡が、生々しく、そしてくっきりと残されていました。これを見た時、正直怖いと思いました。今までで一番戦争というものをはっきりと感じられた場所だったと思います。ひめゆり平和祈念資料館では、私達と変わらない年齢の女の子達が、終わらない戦争の中、看護のために動員され、その時に彼女達に起こった様々な記録を見ることができました。最前線の危険を伴う場所での看護活動。送り込まれてくる負傷兵達の悲惨な状況。まだ十代だった彼女達には、耐え難いものであったろうと思います。そんな中でも懸命に看護をしていた彼女たちを尊敬します。

そして今、沖縄は活気に満ちた魅力あふれる場所だと思いました。町並みは市街でも緑にあふれ、どこの家の門構えにもシーサーがいました。シーサーをモチーフにしたような柱なんかもあったりと、沖縄の人たちにとっては馴染みある守り神のようなものなのだろうかと思いました。他にも年を通して温暖な沖縄らしい食べ物も美味しくて、冷たい氷を使ったぜんざいなんかは、新鮮な感覚でした。パイナップルは、今まで食べてきた中でダントツで甘くて美味しかったです。美ら海水族館で見たジンベイザメの水槽は優としたジンベイザメやその穏やかな時間の流れにとても癒されました。ジンベイザメが2頭も泳いでいるところを見ることができるなんて、とても貴重な光景だと嬉しくなりました。独特で魅力的な文化を持つ、琉球王国時代の首里城は、煌びやかでありながら厳かで慎ましやかな雰囲気があり、まさに日本文化と中国文化が融合したような迫力のある建造物でした。

他にもたくさんの所にまわりました。4日間沖縄で学んだことも、楽しく遊んだことも良い思い出です。今回の旅行に参加してもっと沖縄を肌で感じたいと思いました。もっと詳しくじっくりと見たり体験したいこともありますし、新しく体験したこともできました。いつか大人になって沖縄に行ける機会に恵まれたなら、家族も連れてもう一度旅行に来たいと思います。美味しいものを食べたり、レジャーに挑戦してみたり、その時が来るのを楽しみしています。

（3）ボウリング教室
①日時　5月16日（木）
②場所　ゆりの木ボウル
③参加生徒　30名　引率職員5名
④生徒感想文
　仲の良いメンバーでグループ分けしてくれて、楽しむことができた。ぜんぜん話したことがない子とも仲良くなれた。通信制だけど、こういうイベントもあるし、イベントに参加することで仲の良い友人もつくれて楽しい。秋のボウリング教室も参加したい。先生も一緒に喜んでくれて、全体で盛り上がれた。先生たちがボウリングめっちゃうまくてびっくりした。

インストラクターによる講義

プレーに夢中

この後優勝者の表彰式

（4）社会人養成講座「理学療法と作業療法」
（※東北医療福祉事業協同組合と仙台育英学園との連携を生かした講座）
①日時　6月8日（土）　10:00～11:30
②場所　ILC湊高台校舎
③講師　東北メデカル学院　理学療法学科専任教員　桜田由紀子氏
④参加生徒　13名
⑤生徒感想文
　私は以前、リハビリテーション専門職の方々にお世話になったことがありました。その中の理学療法は、座る、立つ、歩く、階段を上がる、下がるなどの必要最低限はできていないとならない動作のリハビリでした。「どうして理学療法士さんはこんなに厳しいのだろう。どうしてこんなに辛いリハビリをしないといけないのだろう。」と、リハビリの度に思っていました。動けるようになってからは感謝しかありませんが、今日の講座で笑顔を諦めないためだったのだなあと気づきました。もし、私がその時リハビリを止めていたらどうなっていたのかと思います。体験で私は、チャンピオンになりました。お陰で一通り測ってもらうこともできましたし、簡単なストレッチもできました。それも楽しく、そして、ストレッチをやったことにより、わずかですが、記録もよくなりました。「日常生活」という名のリハビリでここまで良くなり、さらにストレッチのお陰で記録も良くなりましたが、あの時リハビリを止めていたらここまでこれなかったと思います。私がもし理学療法士の道に進んだら、患者様には少しでも楽しく、モチベーションを上げて、飽きが来ないようにしたいと考えました。やはり、小さなものでも結果が分かる、実感できるようになると、辛いリハビリも乗り越えられるのではないかと思いました。これから先は高齢者が増えてきいきます。怪我をしたときに限らず、筋力維持のためのリハビリもあったら良いなと思います。今日学んだことを無駄にせず、私の生活で少しでも役立てたいと思いました。

実技を交えながらの説明

生徒同士による柔軟性の計測

講座への参加者

（5）ILC青森ウォーク

①日時　6月29日（土）　11:00～12:10

②場所　三陸復興国立公園種差海岸

③参加者　37名

④生徒感想文

今回参加した青森ウォークでいろんなことを考えさせられました。1つ目は、友達との仲が深まったことです。普段みんなが揃うことがあまりないので、歩きながら話したり友達とさらに仲良くなれた気がします。2つ目は、種差海岸を見て、触れて、聞いて、感じることができました。初めて種差海岸に来ましたが、目の前に広がる砂浜と海岸は最高の絶景スポットでした。少し進んだところでは、鳴砂体験もしました。手でさっとこするとキュッとおとがしておもしろかったです。また、しばらく歩いたところには白岩といったうみねこのフンで白くなった岩も見ました。これはテレビで見たことがあったので、実際に見れてうれしかったです。海岸から白浜に続く広大な砂浜を抜け、険しい坂を上り、深久保漁港を越えると、樹齢100年もの松がたくさん広がっていて、たくさんの緑も感じることができました。ゴール地点には、想像をはるかに超す芝生地が広がっていてとても気持ちが良かったです。次は、天気のいい日にまた五感で癒しを体験しに行きたいです。

3kmのウォークのスタート

うみねこのフンで白くなった岩を通過

整備された坂道は快適

仲間との距離を縮めた参加者

（6）進学ガイダンス

①日時　5月16日（木）　15:00～16:10

②場所　ILC湊高台校舎

③講師　ILC青森　加藤教諭

④参加生徒　13名

⑤ガイダンス内容

・進学先の種類　・後悔しないための学校の選び方　・オープンキャンパスについて

・入試のポイント、種類別（AO入試、推薦入試、一般入試）　入試要項、募集要項の請求について　・出願書類（調査書）について　・奨学金について（日本学生支援機構、国の教育ローン、自治体ローン、銀行ローン）

（7）第4回八戸リレーマラソン

①日時　11月3日（日）　10:00～13:00

②場所　八戸東運動公園陸上競技場

③主催者　デーリー東北新聞社とエスプロモ

④参加生徒　9名（当日は13名の予定が4名欠席）

⑤活動内容　21.0975㎞を6名から13名のチームでたすきをつなぎます。一人最低1.6キロメートルを走ることが条件ですが、何度でも入れ替え可能です。したがって、走りに自信がない人でも、「走りたい」という思いがあれば大丈夫なイベントです。

⑥生徒感想文

私は幼少期から運動が嫌いだった。この学校に入学してみると、体育のスクーリングの回数が多く、何かの行事に参加しないとクリアできないと思い、今回は八戸リレーマラソンに参加した。

一人一周1600m。普段から動いている人にとってはたいしたことのない距離だろうが、私にとっては長かった。やはり辛くて諦めようと思ったが、三笠先生の声援に応えたいという思いと襷を繋がなければならないという使命感によって諦めずに走ることができた。襷を繋ぎ、チームのテントに戻って休んでいると達成感に包まれていた。

私はこの学校では、“仲間”という意識があまりないように感じている。だが、このような行事があると感じる時がある。また、強制ではなく、自主性を尊重しているから責任と言うよりは、使命感を感じやすいように思う。他の学校では、同じ場面でも得られないものを得られ、学べ、私にとっては今回も素敵な体験だった。

欠席者が出たため2回走った生徒

日頃全く運動していない生徒

ゴールテープを切ったアンカー

ワンチームで完走！　成績は52位

（8）社会人養成講座（デーリー東北新聞社社内見学）

①日時　11月27日（水）　10:30～12:00

②場所　デーリー東北新聞社

③参加生徒　13名

④生徒感想文

今回の社会人養成講座は、元より報道や文章の推敲に関する仕事に就きたいと思っていた私にとって、非常に大きな収穫となりました。目標とする仕事に就くために自分がするべきことが少しずつ見えてきました。当たり前のように使っている言葉に疑問を持ち、今一度正しい意味や使い方を知ることです。単純ですが、改めて大切なことだと感じました。そして、私達が毎朝何気なく読んでいる新聞は、社員の方々の尽力があってこそだということを忘れずに感謝して読みたいと思います。

編集会議は午後の４時と７時に開催

訪問翌日の新聞に掲載された写真

4. 地元紙に掲載された記事内容

①東北医療福祉事業協同組合との連携

東北医療福祉事業協同組合と仙台育英学園が協定

教育事業連携、人材育成

医療や介護事業を展開する八戸市の東北医療福祉事業協同組合（SGグループ、田中信幸理事長）と学校法人仙台育英学園（加藤雄彦理事長）は、少子高齢化が進む地域社会で活躍する人材の育成に向けて、教育事業連携協定を締結した。2月25日、八戸プラザホテルで調印式を行い、それぞれの協力体制を確認した。

連携協定は、グローバルな視点を持ちながら地域社会を支える人材の育成をすることにより、持続可能な地域づくりを進める狙い。協定には、同学園のスポーツ系の講座やイベントの際に、SGグループの看護師ら専門職員を講師として派遣することや、日本で就労を希望する留学生への教育支援などが盛り込まれた。

講座に専門職講師を派遣

調印式では、事業概要の説明が行われた後、田中理事長と加藤理事長が協定書にサインをし、連携内容について確認。式典後の取材で加藤理事長は「専門職を派遣してもらうことで、授業内容にも幅ができ、生徒の視野を広げ選択肢を増やすことにもなる」、田中理事長は「グループ内の若い職員にとっても、経験を積める場になるのでは」と展望を語った。（三浦千尋）

教育事業連携協定を締結した加藤雄彦理事長（右）と田中信幸理事長

②外来生物駆除のボランティア活動

鮫角灯台周辺で特定外来生物駆除

八戸

八戸市の仙台育英高広域通信制課程ＩＬＣ青森（三笠勝彦所長）は25日、同市鮫町の鮫角灯台周辺で、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの駆除を行った。

環境保全活動の一環として、同市の種差海岸ボランティアクラブ（石津正廣代表）などと連携して初めて実施した。

駆除には青森県南、岩手県北両地方の生徒ら約20人が参加。石津代表から駆除の方法などについて説明を受けた後、オオハンゴンソウの根が極力残らないよう入念に抜き取り、約２時間で1366本を駆除した。（澤田淳一）

③ボランティア活動に参加した生徒の感想文

今回、オオハンゴンソウ駆除ボランティアに参加しましたが、正直思っていたよりとても大変でした。体力的に辛かったのですが、母と協力して100本近くは抜けました。ただ、根が深くてなかなか抜けなかったり、途中で茎が折れてしまったりして、一本抜くのにもかなり時間がかかった気がします。でも市民団体の方々が優しく笑顔で教えて下さったおかげで後半の方には効率的に素早く抜けるようになりました。少しでも市民団体の方々のお役に立てたらいいなと思います。ボランティアが終わった後、家の周りを見てみたのですが、オオハンゴンソウがたくさん生えていて繁殖の高さにとても驚きました。綺麗な植物が枯れてしまうのは嫌なので、定期的に抜いて、少しずつ家の周りもきれいにしていきたいと考えています。また、機会があったらこのボランティアに参加して地域の役に立てたらいいなと思います。

5. 終わりに

この４月、仙台育英高校ILC青森に勤務してから私が以前勤務した中学校を卒業し、希望の高校に進学したものの中途で転校してきた生徒が数名います。その中には、当時、全日制の高等学校を受験することに懸念を示していた生徒もいます。その生徒が現在意欲的に登校し、勉学に励んでいる姿を見たとき嬉しく思うと同時に、当時、通信制の教育について熟知していれば適切な支援をできたのではないかと考えるところがあります。また、現在中学３年生で、昨年まで心配していた生徒と保護者、さらには担任の先生が学校説明会に参加してくれましたが、学校に戻っての生徒の反応は、進路に対して前向きになったということでした。

このような事例に限らず、現在、中学校の進路指導で頭を抱えているのが、友人関係の悩みから学校に通えなくなった生徒、学力が低く授業についていけずに学ぶ意欲を失い、高校への進路に希望を見いださないでいる生徒や経済的に困窮している生徒の進学先の決定です。

そのような中、本校に勤務し、通信制の高等学校がこれほどまでに多様な課題を抱える生徒の学びの受け皿になっている状況に触れることで心が動かされました。課題を抱える生徒一人一人に寄り添い、時間をかけて指導をしているとともに、施設を含む様々な教育環境を整えている実態を目の当たりにしたとき、これまでの中学校での進路指導で頭を悩まされていた問題が解決されるように感じました。

今後は、各中学校との連携を図りながら、仙台育英学園高等学校通信制教育の特徴や学費等に関わる正しい情報、そして全日制では味わえない本校の教育の取組について、中学校教員を始め幅広い教育関係者に対して、啓発活動を行っていきたいと思います。本校に採用して頂きました加藤雄彦理事長校長先生に深く感謝する次第です。

総目録（第1号～34号）

１９８６年3月　第1号

巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ．各種研修会・研修講座に参加して
・全国私立中高全国私学教育研究集会……2
第33回　全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会山口大会参加報告（1）
柏倉　拓
全国私学教育研究集会山口大会参加報告（2）国語部会
－新学習指導要領における文学教育－　青野　宏一

・全国私立中高国際教育研修会……7
第7回全国私立中学高等学校
国際教育研修会に参加して　教諭　宝槻　隆史

・第12回「米国における社会研修講座」……10
第12回アメリカ社会研修講座に参加して
副題日米社会の相違と文化摩擦　佐々木　豊

・第7回「私学の新任若手教員の研修講座」……12
第7回私学の新任・若手教員研修講座に参加して
渡部　進

・「名取平野の文化財」史跡見学会の記録より ……14
渡邊　泰伸

Ⅱ．昭和60年度職員研修会
・授業研究・各科研究会……27
国語科（現代文）学習指導案　遣水　満雄
社会科（日本史）学習指導案　駒板　泰吉
数学科（数学Ⅰ）学習指導案　乾　敬
数学科学習指導案　鈴木　襲治
理科学習指導案　丸山　実信
TEACHING PLAN　By Akiyoshi Ohmi
情報処理科　研修のまとめ
公開授業　教科：ベーシック
担当者：野村コンピューターシステム㈱　西村　昌郎
保健体育科柔道学習指導案　佐々木　豊
芸術科研修のまとめ

編　集　後　記

１９８７年3月　第2号

巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ．研究
・宮城県加美郡中新田町熊野堂遺跡調査略報……2
渡邊　泰伸
・コンピュータによる学業成績処理 ……28
瀬戸　信男
佐々木一郎

Ⅱ．各種研修会・研修講座に参加して
・第13回米国における社会研修講座に参加して ……39
沢田　敏明
・英語教師のための夏期セミナー講演会報告 ……42
山田　昇
・第24回全国私立中学高等学校
保健体育科研修会に参加して ……50
阿部　俊英
・第28回全国私立中学高等学校
理科（生物）研修会に参加して……52
今野　良裕
・第1回全国私立中学高等学校
ニューメディア教育研修会に参加して……54
瀬戸　信男

Ⅲ．昭和61年度職員研修会
・授業研究・各科研究会 ……59
国語科研究会報告　遣水　満雄
社会科研究会報告　渡邊　泰伸
数学ＩＣ不等式の表す領域　中川　良雄
代数幾何学習指導案　渡部　進
数学科研究会報告　中川　良雄
理科Ⅰ学習指導案　砂沢　準助
英語科研究会報告　宝槻　隆史
芸術科研究会報告　安倍　一男
情報処理Ⅰ（BASIC）　小林　慶三
佐々木一郎
保健学習指導案　佐々木松治

編　集　後　記

１９８８年3月　第3号

巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ．研究
・仙台市安養寺下窯跡……2
渡邊　泰伸
研究発表
・大学入試に取り扱われたカテナリー・サイクロイド・インボリュート曲線について ……22
鈴木　弘

Ⅱ．各種研修会・研修講座に参加して
・第十四回　米国における社会研修講座（CIAA主催）に参加して ……29
今野　良裕
・アメリカテキサス大学語学研修報告 ……60
柏倉　拓
・第二十五回全国私立中学高等学校
保健・体育科研修会報告 ……71
沢田　敏明

・第二十一回全国私立中学高等学校
生徒指導研修会報告 ……76
佐々木　豊
・第二十三回全国私立中学高等学校
道徳宗教教育研修会報告 ……78
及川千一郎
・第二回全国私立中学高等学校
ニューメディア教育研修会報告 ……81
大場　幸
・第九回国際教育研修会報告 ……86
出井まち子
・ジェラルド・ロビンス　ピアノリサイタル報告
……89
荒井　恵子

Ⅲ．昭和62年度職員研修会
・授業研究・各科研究会 ……91
・短歌教材指導について……高橋　正幸
・社会科研究会報告……柏倉　拓
・数学科（基礎解析）学習指導案……乾　敬
・校内公開授業……中川　良雄
・数学科研究会報告……佐藤　亘
松尾　勝郎
・理科（化学）学習指導案……櫻井　忠良
・理科研究会報告……砂沢　準助
・英語科研究会報告……小野　明夫
・書道Ⅱの学習指導について……安倍　一男
・ワープロ学習指導案……遠藤　卓
大場　幸
・保健体育指導……阿部　由晴

編　集　後　記

１９８９年３月　第４号

巻　頭　言

Ⅰ．研究発表……1
加藤　昭
1．安養寺下窯跡第３次調査 ……2
渡邊　泰伸
2．同一素材の外国語翻訳を試みて ……28
波里　光彦

Ⅱ．海外研修 ……45
1．アメリカ夏期語学研修についての報告と所感‥46
坂爪　英夫
2．地球の裏から「オブリガード」 ……51
宮本　昇

Ⅲ．全国私学研修報告 ……63
1．ニューメディア教育研修会報告 ……64
大場　幸
2．現代社会とこれからの体育 ……96
丹野　博太

Ⅳ．第36回全国私学教育研究集会新潟大会 ……99
1．特色教育部会報告 ……100
高山　直光
2．福祉活動を中心として ……110
小林　慶三
3．教育課程部会報告 ……114
庄司　均
4．国語分科会 ……121
笠岡　庸志
5．英語分科会 ……134
宝槻　隆史
6．商業部会報告 ……138
遠藤　卓

Ⅴ．校内公開授業各科研究会 ……141
・国語科研究会報告
北欧の国語教育と日本……遣水　満雄
・国語研究会報告
ソビエト連邦の教育事情と日本……中津川清風
・社会科研究会報告……小野寺文雄
・数学科研究会報告
校内研究授業［数学Ⅰ］学習指導案‥‥岩渕　定義
校内研究授業［確率・統計］学習指導案
……鈴木　弘
・理科研究会報告……砂沢　準助
・理科授業研究…〝ヒトの生殖と発生〟を行うにあたって
……横澤　秀夫
・英語科研究会報告……宝槻　隆史
谷津　繁勝
小野　明夫
大沼　洋二
・芸術科研究会報告
時代に即した音楽教育……武藤　信子
・保健体育科研究会報告
保健体育「柔道」指導案……沢田　敏明
・情報処理科研究会報告
「進化する紙」……佐々木一郎

Ⅵ．編集後記・奥付 ……176

１９９０年３月　第５号

巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ．研究
・仙台市安養寺下窯跡　第４次調査概報 ……1
渡邊　泰伸

Ⅱ．各種研修会・研修講座に参加して
・全国私学教育研究集会講演（教育課程部会）より
……25
小林　慶三
・平成元年度　高等学校学習指導研修会……27
渡部　進
・私学経営研究会教員研修セミナー

第11回私学の新任・若手教員研修講座報告 ····35
若澤　幸弘・及川　隆夫
・第37回全国私学教育研究集会大阪大会
岩渕　定義
〔1〕数学分科会報告 ·····49
〔2〕進路指導部会報 ·····63
・全国私立中学高等学校
第4回ニューメディア研修会に参加して·····74
渡部　進
・第30回東北地区私学教育研究会に参加して ····86
山田　昇
・第25回全国私立中学高等学校家庭科研修会 ····90
庄司　均
・カナダ語学研修について ·····93
佐々木清彦
・英国語学研修報告 ·····102
阿部　徹・出井まち子
・カー先生の日本体験記 ·····117
波里　光彦

Ⅲ．授業研究・各科研究会
・国語科学習指導案 ·····143
千田　亥彦
・数学科学習指導案 ·····146
渡部　進
・数学科学習指導案 ·····152
菅井　了
・数学科研究会報告 ·····157
・理科（化学）学習指導案 ·····161
半澤　健
・化学実験の一考察 ·····167
半澤　健
・情報処理科（薄記会計）学習指導案 ·····173
佐々木英明
・保健体育科学習指導案 ·····177
丹野　博太

編　集　後　記

１９９１年3月　第6号

巻　頭　言 ·····加藤　昭

Ⅰ．国際化教育への模索
・日本の「国際化」に思う ·····1
波里　光彦
・創立85周年記念事業 国際理解のための講演会··17
研　修　課
・全国私立中学高等学校
第12回国際教育研修会に参加して ·····34
佐々木清彦
・夏期イギリス語学研修（女子）·····60
関谷　照夫
・夏期イギリス語学研修（男子）·····73
桜井　忠良
・女子卓球部中国遠征報告 ·····85
若澤　幸弘
・仙台育英学園高等学校創立85周年記念
日本，カナダ国際親善ラグビー遠征記 ·····89
伊藤挺一朗
・第31回東北地区私学教育研修会　英語分科会
「How to give the motivation to the students」
·····104
キャム・カー

Ⅱ．多賀城フォーラム
・「多賀城フォーラム21」行わる ·····121
加藤　雄彦

Ⅲ．研究・研修
・第25回全国高等学校体育学科連絡協議会に参加して
·····137
丹野　博太
・平成2年度　研修課年間計画
情報処理研修報告 ·····144
佐藤　正行
・平成2年度全国私立中学高等学校
第5回ニューメディア教育研修会報告 ·····167
佐藤　正行
・私学経営研修会教員研修セミナー
第12回私学の新任・若手教員研修講座報告····222
佐藤　正行
・第12回私学の新任・若手教員研修講座 ·····227
佐々木英明
・西多賀養護学校を訪問して ·····228
若澤　幸弘
・宮城県生徒指導研修会に参加して ·····230
佐々木英明
・国語科（漢文）公開授業並びに教育研究会····241
寺尾　幸吉
・数学科公開授業並びに教科研究会 ·····248
近藤　精宏
・英語科公開授業並びに英語科教科研究会 ·····255
立谷　翠
・理科科公開授業並びに教科研究会 ·····260
男澤　文義
・社会科教科研究会 ·····263
阿部　徹
・保健体育科（保健）公開授業並びに教科研究会··266
沢田　敏明

編　集　後　記 ·····269

１９９２年3月　第7号

巻　頭　言 ·····加藤　昭

Ⅰ　研究
・仙台市安養寺下窯跡 ·····1
渡邊　泰伸

Ⅱ　多賀城フォーラム
・第２回多賀城フォーラム　……37
加藤　雄彦

Ⅲ　講演「山形の一教師の実践論」……55
山形県生涯学習人材育成機構専務理事　打田　早苗

Ⅳ　研修報告
・平成３年度高等学校教育課程講習会　……75
凌　　時哉
・東北国語教育研究会　……83
佐々木隆男・板橋　敏男
・平成３年度宮城県高等学校教育課程講習会外国語部会
……94
関谷　照夫
・第13回私学の新任・若手教員研修会　……120
佐藤　　弘

Ⅴ　海外遠征報告（平成３年度）
・夏期カナダ語学研修……125
関谷　照夫
・夏期イギリス語学研修（男子）……135
山田　紀英
・夏期イギリス語学研修（女子）……150
砂金　　紀
・オックスフォード紀行……162
高平たつみ
・軟式庭球部台湾遠征……172
佐藤　正行
・女子卓球部スウェーデン遠征……176
大岡多津子
・イタリア知識旅行事前調査……180
小林　慶三・渡部　　進・佐々木順子
武田　美法・加藤　晃孝
・女子卓球部中国（上海市）遠征……191
若澤　幸弘

Ⅵ　研究・研修
・校内研修会実施要……193
・国語科公開授業並びに教科研究会……194
及川千一郎
・数学科公開授業並びに教科研究会……224
佐藤　　孝
・英語科公開授業並びに教科研究会……230
秋山なみ江・出井まち子
・理科科公開授業並びに教科研究会……232
渡辺　重隆
・社会科教育研究会……238
加藤　晃孝

Ⅶ　論文
・国語科短歌鑑賞会
－高校生の読み物として－名歌少考……245
高橋　正幸
・「うたごころ」……256
加藤　武夫

編　集　後　記……259

１９９３年３月　第８号

巻　頭　言……加藤　　昭

Ⅰ　研究
・仙台市安養寺下窯跡（第７次調査概報）……1
渡邊　泰伸

Ⅱ　研修・遠征報告
・第14回私学の新任・若手教員研修講座……47
槙　　統
・全国高等学校選抜卓球大会二連覇を達成して……50
大岡　　厳
・オーストラリア英語に接して　……52
庄子春一郎
・平成４年度夏期イギリス語学研修　……54
渡邊　泰伸
・男子陸上チームのカナダ・バンクーバー遠征……106
二階堂　進

Ⅲ　校内研修会
・平成４年度校内研修会実施要項……109
・国語科教科研究会……110
佐藤　秀一
・数学科公開授業並びに教科研究会……154
加藤　晃孝
・理科科教科研究会……163
八木　　浩
・社会科教科研究会……203
佐藤　林平
・保健体育科公開授業並びに教科研究会……212
槙　　統
・情報処理科公開授業並びに教科研究会……217
佐々木英明

編　集　後　記……223

１９９４年３月　第９号

巻　頭　言……加藤　　昭

Ⅰ．加藤利吉先生生誕111年　学園創立88周年記念事業
・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して……1
半沢　　健
・記念講演－大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは……7
ロバート・カークナー
・平成５年度父母教師会総会講演　……26
トミー植松

Ⅱ　研究
・仙台市安養寺下窯跡（第８次調査概報）……37
渡邊　泰伸
・宮城県志田郡松山町下伊場野窯跡調査略報　……58
渡邊　泰伸

Ⅲ　海外研修・遠征報告
・女子バレー部韓国研修旅行……105
佐藤　幸雄
・サッカー部ドイツ遠征……107
佐藤　脩
・中国グランプリ国際大会報告書……123
大岡　巌
・ボーンマス再訪……124
渡邊　泰伸
・平成５年度イギリス語学研修に参加して……180
高谷　功
・平成５年度カナダ研修旅行……195
今野　仁
・クリスマスをアメリカの一家庭で過ごして……206
庄子春一郎

Ⅳ　研修報告
・平成５年度私立学校初任者研修全国研修会（第２回）……209
庄司　和良
・平成５年度私立学校初任者研修全国研修会（第２回）……214
寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座　……219
寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座を受講しての報告……223
松原潤一郎
・全国私立中学高等学校性教育研修会参加報告……226
柏倉　拓
・平成５年度全国私立中学高等学校生徒指導研修会……230
宝槻　隆史
・私学の特色ある教育課程の実践に向けてⅡ……233
佐々木　豊
・平成５年度全国私立中学高等学校数学科研修会報告……248
加藤　晃孝・鈴木　孝司
・全国私立中学高等学校英語科研修会……252
武田　美法

Ⅴ　校内研修会
・平成５年度校内研修会実施要項……255
・効果的国語指導の在り方……256
及川千一郎・清水　初治
・社会科教育研究会……266
高谷　功・渡邊　泰伸
・数学科研究会記録……271
佐々木順子
・地学学習指導案……276
武田　要吉
・英語科研究会……285
武田　美法
・総合実践業務処理システム実習概要……293
瀬戸　信男
・保健体育科学習指導案……325
庄司　和良
・保健体育科柔道学習指導案……327
松原潤一郎

編　集　後　記……330

１９９５年３月　第１０号

巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ　研究
・仙台市安養寺下窯跡（第９次調査概報）……1
渡邊　泰伸

Ⅱ　海外研修・語学研修
・英国語学研修［ボーンマス］の記録　……31
渡邊　泰伸
・カナダ語学研修旅行を共にして　……93
日下　英夫
・カナダ語学研修報告……105
柏倉　拓
・CBS杯招待遠征報告（韓国(ソウル)雑感）……115
丸山　博史
・韓国CBS杯全国高等学校バレーボール大会に参加して……121
藤屋　秀人
・ニュージーランド語学研修／姉妹校訪問……124
二階堂　勉
・ニュージーランド語学研修……129
小野　裕子
・ハワイ修学旅行下見についての報告と雑感……131
坂爪　英夫
・ラグビー部ニュージーランド遠征についての報告……136
丹野　博太
・ヨーロッパ・橋紀行……145
関根　一郎
・オーストラリアの高校生活－公立キルコイ高校の場合……154
庄子春一郎

Ⅲ　研修報告
・平成６年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修会報告……163
引地　由佳
・平成６年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修報告……167
中村　千恵

・第35回東北地区私学教育研修会 ……171
今野　仁
・第35回東北地区私学教育研修会参加の報告……180
佐藤　林平
・第35回東北地区私学教育研修会進路指導部会……199
大場　幸
・第35回東北地区私学教育研修会学習指導部会理科分科会……205
大沼　正行

Ⅳ　校内研修会
・平成6年度校内研修会実施要項……209
・「国語科」研究会 ……210
鎌田　敬
・数学科研究会記録……215
佐藤　孝
・英語科研究会……220
砂金　紀
・理科研究会……226
横澤　秀夫
・社会科研究会……235
阿部　徹
・情報処理科研究会……242
佐藤　正行・内海　利男
・保健体育科指導計画……256
中村　光男

1996年3月　第11号

創立90周年特別号
巻　頭　言……加藤　昭

Ⅰ　研究
・「世界史」探訪の旅 ……1
武田　義之
・不登校児への対応を探る……8
半澤　健
・宗教と人生 ……20
小柳　俊夫
・文学教材指導法雑感 ……34
伊藤源太郎
・補助教材として授業中に使用した参考作品集……48
丹野　将範
・生活史に反映する伝承音楽の役割 ……94
鎌田　敬

Ⅱ　海外研修
・カナダ研修旅行……111
太宰　芳郎
・イートン校サマースクールを終えて……121
加藤　晃孝
・ オーストラリアの中学生活
公立モーソン中学の場合 ……125
庄子春一郎

Ⅲ　研修報告
・平成7年度『財政経済セミナー』に参加して
我が国財政の現状と課題……129
小嶋　聡悦
・全国私立中学高等学校国語科研修会研修報告書
……170
引地　由佳
・「性教育研修会」に参加しての報告 ……174
出井まち子

編　集　後　記……177

1997年3月　第12号

巻　頭　言……加藤　雄彦

・授業の活性剤……1
半澤　健
・世界史探訪の旅Ⅱ……6
武田　義之
・修学旅行事前調査報告 ……21
沼田嘉一郎
・韓国スポーツ交流団へ参加して ……26
坂爪　英夫
・韓国修学旅行事前調査に参加して ……53
宝槻　隆史
・Memories of Canada ……59
清水　初次
・学校茶道の果たす役割 ……63
佐藤　宗秀
・茶事の研修 ……69
岡崎　宗豊
・裏千家今日庵を訪ねて ……71
馬淵　宗友
・21世紀にお茶の心をつなごう ……74
木村　宗智
・カナダ研修旅行報告 ……78
山田　昇
・イギリスアップランズカレッジ語学研修事前調査にいって ……82
小嶋　哲朗
・「私学教員のめざすもの」についての一考察……85
下平　孝富
・北海道・東北地区研修会 ……88
富澤　良江
・当世イングランド南西地区環境状況 ……91
内海　利男
・宮城野校舎での「LD学習」の利用の現状について……94
工藤　敏夫
・『第1回実用英語技能検定』の結果を振り返って……100
尾形　照子
・異文化体験……102
庄子春一郎
・『ライオンの晴』発行について ……108
山本吉之助

・CS向上めざして教養コースからの提案 ……113
坂爪　英夫
・多賀城セクション生徒寮保護者懇談会概要報告‥126
守　喜美夫・加藤　晃孝
・教育実習（養護教諭）期間中に行った研究について
……137
指導　木村　保子・佐藤　雅美
・KOREA旅行雑感・1996年 ……145
阿部　俊徳
・長春外国語学校との姉妹校締結記念
中国訪問親善交流・研修の記録 ……152
曾我　道雄
・那須研修の現状について ……166
藤岡　昌之

編　集　後　記 ……186

１９９８年3月　第１３号

巻　頭　言 ……加藤　雄彦

・演題「180°変わる進学英語」 ……1
佐藤　良明
・世界史探訪の旅Ⅲ－チュニジア共和国とカルタゴの
遺跡－ ……10
武田　義之
・雄と雌の話 ……25
半沢　　健
・高校生の喫煙についての一考察 ……52
富澤　良江
・平成８年度教養コースにおける生徒指導の一つの試み
……59
沼田嘉一郎
・平成８年度修学旅行 ……75
瀬戸　信男・小川　久松・渡邊　泰伸
・カナダ日記　1997年夏 ……84
阿部　俊徳
・アンコール・ワットへの旅 ……94
佐藤　雄三
・CS向上をめざす物理教育の一試案 ……102
高橋　　明
・英国語学研修実施報告 ……121
千代窪敏光
・平成９年イギリス夏期語学研修（ボーンマス団）
……125
遊佐　隆司
・松島研修センターの概要 ……133
榊井　庸彦・渡辺　章紀・佐々木英明
千葉　　浩・青木　康博
・オーストラリアのハイスクール ……149
庄子春一郎
・ペルシアの風－イラン旅情 ……158
伊藤源太郎
・授業における吹奏楽の試み ……212
牛渡　　純
・はじめてのクロアチア国際交流 ……218
澤口　　衛・藤屋　秀人
郷古　　武・木村　美知
・国際ゆめ交流博覧会の報告 ……230
ジェシンタ　ワンジロ　ムタヒ

編　集　後　記

１９９９年3月　第１４号

巻　頭　言 ……加藤　雄彦

・初任者研修 …… 1
PART Ⅰ　宮城野中学校での中高連携授業研究会に
参加して
日比野曜子　　鈴木　暁子　　佐々木順子
引地　由佳　　下平　孝富　　佐々木順一朗
富澤　良江　　箱島　道泰　　槙　　統
藤屋　秀人　　千葉　　浩　　岡崎　由起
古宮　紀子　　池口真理子　　鈴木　保恵
松原潤一郎　　吉田　　淳　　郷古　　武
望月久美子
PART Ⅱ　三色最中を訪ねて
望月久美子　　下平　孝富　　古宮　紀子
池口真理子　　槙　　統　　鈴木　暁子
松原潤一郎　　佐々木順子　　鈴木　孝司
鈴木　保恵　　岡崎　由起　　引地　由佳
・数学嫌いをつくり出す原因を本校生徒よりさぐる
……33
渡部　　進
・ Message from Mahurangi College, NZ ……45
ジョン・スコベル
・ニュージーランド修学旅行 ……48
庄子春一郎
・ドイツ滞在３年あれこれ ……54
佐々木芳輝
・高等学校におけるコンピュータ事情 ……63
高階　　公・若松　武徳
・我が国の人名習俗－複名習俗としての－ ……74
新関　昌利
・ヨーロッパ知識旅行 ……84
藤岡　昌之
・薄記会計１級合格を目指して ……91
坂爪　英夫
・シリーズPART Ⅳ「中国」 ……93
北京・長春の見聞
中国の近代史をみる
坂爪　英夫

編　集　後　記

２０００年３月　第１５号

巻　頭　言……加藤　雄彦

Ⅰ　研究報告
⑴平成７，８年度帰国子女教育研究 ……１
千葉　　浩
⑵高校生時代の「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱と、その人格形成への影響について－「日の丸」「君が代」に関する一考察－ ……30
若松　武徳
⑶わが育英における語学教育－中国語教育について－ ……44
張　　言行

Ⅱ　平成11年度新任者研修の記録
⑴「講演会」……49
大学から見た、これからの青少年への期待
期　日　H.11年３月８日（月）16時より
講　師　東北大学総長・工学博士　阿部　博之先生
会　場　宮城野校舎　大会議堂
⑵「講演会」
コーチング科学について
期　日　H.11年６月18日（月）
16：30～17：50
講　師　順天堂大学スポーツ健康科学部、
コーチ学バレーボール研究室　河合　武司　先生
⑶平成11年度体育会運動部校内研修会
－コーチング科学講演会をきいて－ ……71
杉本　　真・進藤由里子
⑷北海道・東北地区私学学校初任者研修会に参加して－職業人である私学教員として「私学」というものをきちんと理解し、認識する－ ……74
鎌田千佳子
⑸北海道・東北地区私立学校初任者研修に参加して－21世紀が求める学力を育む学習とその指導－ ……80
佐藤　恵美

Ⅲ　研修旅行
⑴イギリス・アップランズカレッジ語学研修 ……85
千葉　　浩
⑵カナダ研修旅行記 ……96
秋山なみ江
⑶イギリス語学研修……104
武田由紀子
⑷1998年教養コース修学旅行下見報告（瀬戸内班） ……113
渡邊　泰伸

Ⅳ　歳時記
⑴NewYork Symphonic Ensemble
－Japan Concert Program 1998－
1.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルと仙台育英高等学校混声合唱団・仙台育英学園秀光コース・秀光中学校オーケストラ・ジョイントコンサートを終えて」……122
牛渡　　純
2.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルジョイントコンサートに参加して」……126
中村　桂子
3.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルジョイントコンサートの合唱指導」……129
横山　　功
⑵ケニヤからのメッセージ……135
エライジャ・J・ギタオ
⑶オランダからきた柔道人－オランダからやって来た柔道家たちとの交流記－……139
箱島　道泰

Ⅴ　英文中文目次要旨……142

編　集　後　記

２００１年３月　第１６号

巻　頭　言……加藤　雄彦

「トピックス」
「一瞬に賭けたエアピストル」
－シドニーオリンピック・エアピストル競技出場稲田容子先生応援記－……１
沼田嘉一郎

Ⅰ　研究報告
⑴「開かれた学校経営」
～集めるPTAから、集まるPTAをめざして～ ……６
沼田嘉一郎

Ⅱ　平成12年度研修の記録 ……13
⑴「第１回教職員研修会」
「社会に背を向ける青少年の心の問題」
講　師　宮城県中央児童相談所次長　本間　博彰氏
⑵「進学CLUB講演会」……27
「生きる喜び」－ガンとの戦いにうち勝って－
講　師　千葉　勇作　氏
⑶「第２回教職員研修会」……44
「オリンピックの活躍とキューバスポーツ」
講　師　キューバスポーツ省
ロベルト・ゴンザレス　氏
⑷「指導者講習会」
「中国のスポーツ事情」　講　師　　孫　国華　氏

Ⅲ　研修旅行
⑴教養コース　中華人民共和国　中国研修旅行の記
「大きな一歩－中国５日間の旅」 ……57
佐藤　　學
⑵教養コース　英語語学研修
「英語での初めての生活はスケッチブックと」‥70
佐々木仁志

⑶英進コース　カナダ語学研修
「語学研修　犬ですら英語でしか反応しない」‥82
芳賀　良光
⑷韓国研修「韓国の古都慶州を駆けぬける」
第16回コーロン杯高校区間マラソン大会招待参加記録 ‥‥‥

Ⅰ　研究報告
⑴通信制課程における教科指導－ビデオを利用した地球環境と生物界の変化について－……3
金田　敏宏
⑵投球速度の異なる投手の投動作の比較研究
－高校野球選手を対象として－……7
佐々木順一朗
平成15年度
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究所
スポーツ科学領域コーチング科学専門分野修士論文
指導教官　川合　武司　教授
⑶第３期㈳日本経済団体連合会
キャリア・アドバイザー養成講座受講報告書……37
佐々木　豊

Ⅱ　研修旅行
⑴外国語コース　ニュージーランド語学研修旅行
ENCOUNTERING A DIFFERENT CULTURE
「異文化との出会い」……47
永井　　惇
⑵英進進学コース　ニュージーランド語学研修旅行
「はじめてのニュージーランド語学研修」……54
石田　昌彦

編　集　後　記

２００５年３月　第２０号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
ケニアからの留学生　サムエル・ワンジル（Samuel Kamau Wanjyu）君と書道の出会い－心の修行に－……1
渡邊　章紀

Ⅰ　研究報告
⑴心豊かな生徒の育成をめざして
－合同LHRをとおして－　……5
秀光中等教育学校　ホームルーム委員会　代表
高橋　守雄
⑵宮城県高等学校商業教育研究会平成16年実務演習講習会受講報告　……15
佐々木英明・日野　　彰
⑶フォローアップ講座についての考察　……24
小野　仁也・櫻井　　順
⑷スピン軸は公転軸を目指す　……51
原　憲之介
⑸１年生の試行錯誤　……62
本木　真人
⑹宮城県加美郡色麻町　土器坂瓦窯跡の調査
－雷文縁４葉複弁蓮華文軒丸瓦を出土する色麻柵付属瓦窯跡の調査－　……78
仙台育英学園高等学校考古学研究部　古窯跡研究会

Ⅱ　平成16年度　研修旅行報告
⑴教養コース　北海道研修旅行
－有意義で事故の無い研修旅行の実践－……182
船島　敏之
⑵教養コース　中国研修旅行報告……187
瀬戸　信男
⑶秀光中等教育学校　スイスの自然環境保護への取り組み－ユーロスクールを通して感じたこと－‥193
小林　祐喜
⑷英進進学コース　ニュージーランド留学研修
－新たな発見を求めて in New Zealand－　‥‥199
高橋　美保
⑸英進進学コース　カナダ語学研修旅行……207
木村　啓子
⑹特別進学コース　カナダ語学研修
－自然を愛する国－……212
高根　　司

編　集　後　記

２００６年３月　第２１号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
青い目の剣士たち－スウェーデン研修から－……1
田中　裕子

Ⅰ　研究報告
⑴スペイン語の指導法の研究　……11
コレテス・レオン
⑵憲政初期の選挙運動の一形態　……23
井上　　祥
⑶トリプルＡ委員会の計画と取り組みについて‥‥31
トリプルＡ委員会委員長　佐々木英明
⑷MBPとKBPの比較
－国際収支理論を中心に－　……35
雫石　誠孝
⑸平成17年度
公文英語・英語Ⅰの関連性における考察　……46
高橋　美保
⑹部活動指導における一考察
－サッカー部三年間の歩み－　……70
吉井　秀邦
⑺創作脚本講習テキスト
－宮城県高等学校演劇総合研修会－　……76
渡部　　進
⑻古代東北における古瓦の研究　……83
渡邊　泰伸

Ⅱ　平成17年度　研修旅行報告
⑴特進コース
アイルランド・オーストラリア語学研修……122
日比野曜子
⑵英進コース　北海道研修旅行……134
伊藤　寿展・桜井　　順

⑶英進コース　イタリア研修旅行……148
池口真利子
⑷英進進学コース　カナダ語学研修旅行……159
石田　昌彦
⑸外国語コース　アイルランド語学研修……173
岡崎　由起
⑹フレックスコース　北海道研修旅行……180
大友　健一

編　集　後　記

２００７年３月　第２２号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
毎日書道宮城県高校生選抜書展団体賞
－第12回展～第16回展（2002～2006）
５連覇を叶えた仲間たち－……1
渡邊　章紀

Ⅰ　研究報告
⑴フォローアップ講座についての一考察　……13
加藤　美穂
⑵TOEIC/TOEIC Bridge教員向けセミナー
－「高校における活用事例」－2006－仙台に参加して－　……34
小野寺朋子・日比野真奈
⑶法律学の学問的特殊性
－その概念形成の仕方に注目しつつ－　……37
伊藤　剛
⑷特別進学コース　プラン2000実施報告
－平成16年～18年度の取組について－　……44
倉橋　真司

Ⅱ　平成18年度　研修報告
⑴英進進学コース　カナダ語学研修　……61
相良　信恵
⑵英進進学コース　北海道研修報告　……69
渡邊　章紀・文屋　祐介
⑶英進進学コース　英進コース研修
－膨大な歴史・文化の都イタリアを訪ねて－……94
佐竹　伸彦
⑷外国語コース
アイルランド・ドイツ　語学研修……109
岡崎　由起
⑸フレックスコース　北海道学研修……117
１班（男子）……冨栄　博行
２班（女子）……島倉　尚子
⑹秀光中等教育学校
「2006ユーロスクール」実施報告……127
前半……船越　總眞
後半　ダブリン班……千葉　浩
レンヌ班……石田真理子
エジンバラ班……脇　淳
⑺通信制課程　異文化体験ハワイ研修……156
大竹　聡美

編　集　後　記

２００８年３月　第２３号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
「仙台育英中学校創立記念誌」の発見とその内容について
―戦火を超えて残った大正12年２月発行の記念誌―
……1
渡邊理律子

Ⅰ　研究報告
⑴高等学校における日本思想を扱った学習指導について
―保科正之の思想と会津を事例として―　……7
倉橋　真司
⑵外国語コース１年生におけるPLPへの意識調査と家庭学習について　……18
北村　悦子

Ⅱ　平成19年度　研修報告
⑴英進コース　北海道研修旅行報告　……44
小野　仁也・及川　尚彰
⑵特進・外国語コース
2007年アイルランド・ドイツ語学研修……48
浅利　正雄
⑶フレックスコース　北海道学研修報告　……55
大岩　和良
⑷秀光中等教育学校
①グリーンスクール研修報告　……60
千葉　広高
②－１　2007ユーロスクール実施報告（前半）……66
千葉　浩
－２　アイルランド・ダブリン班（後半）松田　万理
－３　フランス・レンヌ班……小林　祐喜
－４　参加生徒レポート
⑴初めてのヨーロッパ……岩本　怜央
⑵私が感じたヨーロッパ……川岸　瑞歩
③第４学年自由研究論文　京都実地研修報告……103
芦立　俊雄・他
⑸通信制課程　異文化体験ハワイ研修……131
新田　玲子

編　集　後　記

２００９年３月　第２４号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
「グリーンフィールド」……1
吉井　秀邦

Ⅰ　研究報告
⑴平成20年度　第47回東北地区私学教育研修会報告 ……4
石田　昌彦
⑵第47回東北地区私学教育研修会報告 ……7
小林　祐喜
⑶小論文指導の着地点はどこに設定すべきか ……12
三浦　宗隆
⑷全国音楽教育研究会高等学校部会全国大会宮城大会報告 ……19
熊原　裕美
⑸国語教育における課題
－国語教育研修会に参加して－ ……22
島倉　尚子
⑹日本史の教材研究の試み
－「城下町」の場合を例として－ ……37
作間　克彦
⑺高校生における携帯電話の利用について
－フレックスコース１年生の調査から－ ……43
後藤　有希
⑻仙台市安養寺下瓦窯跡調査報告
－陸奥国分寺・同尼寺創建期の瓦窯跡－ ……47
渡邊　泰伸

Ⅱ　平成20年度　研修報告
⑴英進コース　北海道研修旅行報告 ……245
（前班）赤間由樹子
（後班）秋葉寿太郎
⑵特進・外国語コース
2008年アイルランド・ドイツ語学研修 ……263
小岩久美子
⑶フレックスコース
①北海道学研修報告 ……280
（男子）……高階　公
（女子）……高橋　葉子
⑷秀光中等教育学校
①グリーンスクール研修報告 ……296
田添万智子
②ユーロスクール実施報告 ……301
前半（スイス・ジュネーブ）……庄司　昌弘
後半（アイルランド・ダブリン）……木田智恵美
前半（イタリア・ローマ）……本木　真人
後半（フランス・レンヌ）……牛渡　純
⑸通信制課程　異文化体験ハワイ研修 ……333
新田　玲子

編　集　後　記

２０１０年３月　第２５号
巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
2009年「長春第十一高校」姉妹校締結訪問 ……1
赤間由樹子

Ⅰ　研究報告
⑴伝統芸能の継承に見られる教育のあり方
―ハワイ・フラにおける一考察― ……5
安住　陽子
⑵日中交流の架け橋に…　中国人就学生への取り組み ……27
岩渕　奈央
⑶理科教育の現状と今後の課題
― BU（理科）を通して ― ……35
寒河江華菜
⑷ニュース時事能力検定の授業への導入について ……38
秋葉寿太郎
⑸仙台育英学園陸上競技部（短距離ブロック）の活動報告と今後の展望 ……43
菅原　新
⑹アブソープション・アプローチについて ……47
雫石　誠孝
⑺書の楽しみ方　～いろいろな書の在り方の一考察～ ……50
渡邊　章紀

Ⅱ　平成21年度　研修報告
⑴英進コース　北海道研修旅行報告 ……71
早坂　憲人・高根　司
⑵外国語コース　韓国ソウル研修報告 ……79
青木　康博
⑶特別進学コース・外国語コース
ハワイ語学研修旅行報告 ……84
庄司　昌弘
⑷フレックスコース（多賀城校舎）
韓国ソウル研修旅行報告 ……95
阿部　綾子
⑸フレックスコース（宮城野校舎）
①北海道学研修旅行報告（女子）……104
池口真利子
②北海道学研修旅行報告（男子）……110
寺澤　信枝
⑹秀光中等教育学校
①第３学年ユーロスクール実施報告（前半）……118
倉橋　真司
②第３学年ユーロスクール実施報告（後半）……128
小岩久美子
⑺通信制課程　異文化体験ハワイ研修 ……131
新田　玲子

編　集　後　記

２０１１年３月　第２６号
巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
I-LION HAWAII SCHOOLにおける
ソーシャルスタディーズがめざすもの ……1
安住　陽子

Ⅰ　研究報告
⑴西洋倫理思想史におけるプラトニック・ラブ（エロス論）の系譜　―アンリ・ベルクソンの説を中心に―
……10
土屋　靖明
⑵高校野球の犠牲バントに関する一考察　……15
横山　　将
⑶育英祭での第２学年演劇上演報告　……22
河内　実華
⑷私の考える理想的な授業
～Brush Upを通じて感じたこと～　……32
髙橋こずえ
⑸気化熱を利用した燃焼実験と冷却実験　……36
相原ゆり子

Ⅱ　平成22年度　研修報告
⑴英進進学コース　第２学年北海道研修旅行報告
……39
山本　尚武
⑵外国語コース　2010年度TOEICエッセイコンテスト３位入賞について　―報告―　……49
鹿野　　洋・高橋　智子
⑶特別進学コース　ハワイILHA語学研修……51
石山かおり
⑷フレックスコース（多賀城校舎）
北海道学研修旅行報告　……62
千葉　陽子
⑸フレックスコース（宮城野校舎）
①北海道学研修旅行報告　……96
千葉絵美子・庄子　由美
②沖縄学研修旅行報告……101
小石純之介・佐藤　飛鳥
⑹秀光中等教育学校
第３学年ユーロスクール2010報告
①前半（９月６日～10日）スイス～イギリス‥105
石田真理子
②後半（９月11日～17日）フランス　……117
脇　　淳
⑺通信制課程　異文化体験ハワイ校研修報告‥‥134
新田　玲子

編　集　後　記

２０１２年３月　第２７号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
仙台育英獅子太鼓部 ― ダボス会議に参加して ― ‥1
高橋　葉子

Ⅰ　研究報告
⑴教育リーダーシップ理論における「同僚性」の理論とその実践的意義 ……7
石田真理子
⑵国語教育における文学的文章の読解
― 短歌を題材として ― ……17
鈴木　正明
⑶外国語コースにおける外国語指導についての考察
……20
小野　真弓
⑷本校における理科の指導について
― Brush Upを通しての一考察 ―　……26
井上　晶子

Ⅱ　平成23年度　研修報告
⑴英進進学コース
①第２学年北海道研修旅行報告　……29
髙橋　麻憂
②2011年度TOEICエッセイコンテスト特別賞受賞について（報告）……39
鹿野　　洋・岩渕　奈央
⑵外国語コース　ILHA研修に向けての準備と研修報告
……41
髙橋　美保・安住　陽子
⑶特別進学コース
①PLAN2000　山形疎開学習報告……65
髙橋　真理
②第２学年校外研修旅行報告　……73
鈴木　和弘・伊藤　信男
山下　秀範・小山　　格
⑷Tフレックスコース（多賀城）北海道学研修旅行報告
……82
後藤　有希
⑸Mフレックスコース（宮城野）沖縄学研修旅行報告
……89
佐藤　　絢
⑹秀光中等教育学校　第２学年ILHA研修報告 ‥‥96
安住　陽子・須江　　航・前澤　絵菜
⑺通信制課程　異文化体験ハワイ研修報告……106
安藤　清一

編　集　後　記

２０１３年３月　第２８号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
秀光・特進共同理科実験講座「サイエンス・コ・ラボ」
……1
千田　芳文
第１回New York Shukoh Academy（NYSA）実施報告
……12
小林　祐喜

Ⅰ　研究報告
⑴地理の授業での工夫　……21
鈴木　和雄

⑵英進進学コースⅡ類における高度IT教育について
……29
日野　彰
⑶外国語コースの特色を生かした授業
～日本伝統文化の発表活動を通して～　……34
松田　万里

Ⅱ　平成24年度　研修報告
⑴英進進学コース　第2学年北海道研修旅行報告‥45
三浦　宏明
⑵特別進学コース
①ILHA研修 ……58
河内　実華
②京都研修旅行　……69
神谷　章嗣・三浦　仁志
⑶Tフレックスコース（多賀城）沖縄研修旅行 ‥‥75
伊藤　寛・千葉　陽子
⑷Mフレックスコース（宮城野）沖縄学研修旅行‥80
安部　恒俊
⑸秀光中等教育学校　第2学年　ILHA研修 ……94
遠藤　祐太
⑹日中国交正常化40周年記念事業　仙台育英学園
高等学校通信制課程　北京研修報告　……99
安藤　清一

編　集　後　記

２０１４年3月　第２９号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
インドネシア研修生の本校での短期研修について ‥1
新井　真未
第4学年　NYSA2013実施報告　……12
小岩久美子

Ⅰ　研究報告
⑴化学部の活動　……23
讃岐　果林
⑵情報科学コースに向けての取り組みについて‥‥33
島倉　尚子・庄司　邦彰
遠藤　誠・日野　彰

Ⅱ　平成25年度　研修報告
⑴英進進学コース
ILHA研修報告　……41
佐々木真野
第2学年北海道研修旅行報告　……54
及川　まり・本多　華菜
⑵特別進学コース　関西校外研修報告　……66
神谷　章嗣
⑶Tフレックスコース　沖縄研修旅行報告　……72
赤間由樹子・林田　茂・芳賀　賢祐
古田　夕子・二瓶　巧
⑷Mフレックスコース　沖縄研修旅行報告　……76
佐藤　優人
⑸秀光中等教育学校　ILHA研修 ……85
下浅　雄大
⑹通信制課程　広域通信制課程沖縄研修報告　‥‥95
戸崎　亮司

編　集　後　記

２０１５年3月　第３０号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
広域通信制課程　ILC沖縄東北研修旅行報告　……1
ICL沖縄　與那城慧太
国際バカロレア・デュアルプログラム（IBDP）導入について ……7
外国語コース　高橋　郁夫

Ⅰ　研究報告
⑴イマージョン授業（国際バカロレア準備）……10
外国語コース　ジェームズ・ドクターマン
⑵戦時期における「仙塩地方開発総合計画」（いわゆる金森構想）の登場と展開　……23
特進コース　雲然　祥子
⑶河川流域における遺跡動態の研究　……30
英進コース　佐々木　悟

Ⅱ　平成26年度　研修報告
⑴特別進学コース
関西校外研修旅行　……46
髙橋　真理
⑵情報科学コース
第1学年　会津研修報告書　……52
正木　智也
第2学年　校外研修報告　……57
千葉　陽子
⑶外国語コース
第2学年　ILHA研修報告 ……63
小野　真弓
⑷英進進学コース
ILHA研修報告 ……72
熊坂　治平
⑸秀光中等教育学校
秀光16期生　第4学年NYSA2014実施報告‥‥84
石田真理子
第2学年（18期生）ILHA研修報告……93
阿部　広大
⑹通信制課程
広域通信制課程沖縄研修旅行……105
ILC青森　竹ノ子千春

Ⅲ　その他
⑴日本・キューバ友好400周年交流事業　……114
外国語コース　岩渕　奈央
Tフレックス　白岩　幸浩

編　集　後　記

２０１６年3月　第３１号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
創立110周年記念講演
国際人育成のための提言～ILHAの実践を通して　‥1
ILHA（校長）　アール・大川

Ⅰ　研究報告
⑴数学同好会の活動 ……9
特別進学コース　佐藤　璽
⑵IB DP（国際バカロレア・ディプロマプログラム）に関する生徒の振り返り　……14
外国語コース　ジェームズ・ドクターマン
ケリー・ウィンター
高橋　郁夫
⑶3DCGゲームソフト作成　……27
情報科学コース　遠藤　誠
日野　彰

Ⅱ　平成27年度　研修報告
⑴特別進学コース　関西校外研修旅行 ……32
菅野　直幸
⑵情報科学コース　沖縄研修旅行報告　……37
山田　大
⑶外国語コース　ハワイ研修報告　……42
石田真理子
⑷英進進学コース　沖縄研修報告　……52
北村　悦子
⑸フレックス・技能開発コース
サッカー部女子沖縄遠征・交流会　……66
林田　茂
⑹秀光中等教育学校
NY研修報告 ……70
本田　朋
ハワイ研修報告　……77
阿部　広大
⑺広域通信制課程
沖縄研修旅行　……89
ILC青森　加藤　宏明
職場体験実習報告　……98
ILC沖縄　照屋　恵美

Ⅲ　東北地区私学教育研修・ブロック別指導者研修報告
⑴教育課程（私学教育）……111
秀光中等教育学校　坂内　玲子
⑵生徒指導（私学教育）……114
フレックスコース　白岩　幸浩
⑶進路指導（私学教育）……116
秀光中等教育学校　倉橋　真司
⑷道徳教育（ブロック別）……119
フレックスコース　渡邊　章紀
秀光中等教育学校　小林　祐喜

編　集　後　記

２０１７年3月　第３２号

巻　頭　言……加藤　雄彦

トピック
探究講座TTTチャレンジの成果……1
特別進学コース　神谷　章嗣
孔子課堂の可能性……7
外国語コース　鈴木　茂幸
国際バカロレア受講生徒の学術的論文　……13
外国語コース　石田真理子

Ⅰ　研究報告
⑴文芸部の活動について　……23
特別進学コース　下田真奈美
⑵英進進学コース英語科研究報告　……27
英進進学コース　熊坂　治平
⑶国際バカロレアと日本のカリキュラム：２つは両立できるのか　……31
秀光中等教育学校　ケリー・ウィンター
笠原　千尋
⑷IB生物におけるアクティブ・ラーニングの事例研究 ……36
外国語コース　ジェームス・ドクターマン
笠原　千尋

Ⅱ　平成28年度　研修報告
⑴特別進学コース　関西校外研修旅行　……43
齋藤　美咲
⑵外国語コース　ハワイ研修報告　……48
赤間　ゆき
⑶英進進学コース　沖縄研修報告　……57
佐々木正人
⑷フレックス・技能開発コース
沖縄研修旅行（フレックスコース女子）……66
杉田　愛
沖縄研修旅行（技能開発コース）……71
小野　仁也
⑸秀光中等教育学校
NYSA 2016 実施報告 ……75
伊藤　沙絵
ハワイ研修報告　……81
倉橋　真司
⑹職員研修報告　……90
多賀　努

Ⅲ　その他
⑴広域通信制課程ILC青森校の状況報告 ……104
ILC青森所長　三笠　勝彦
⑵職業調査とジョブミーティング―12職種の職業に関する調査とその発表活動を通して― ……115
情報科学コース　志賀　貞昭
⑶公文式学習（国語）実践の成果 ……119
フレックスコース　島倉　尚子

編　集　後　記

２０１８年３月　第３３号

巻　頭　言 ……加藤　雄彦

トピック
高等学校通信制教育の質の向上について …… 1
村上　　淳
剣道部サイパン遠征・文化交流活動報告 …… 5
加藤　裕之
IBにおける教科指導実践について ……12
Enabling and Disabling Factors in Implementing International Baccalaureate Programmes in Japanese Secondary Schools: Curriculum, Pedagogy and Assessment
Kerry Winter

Ⅰ　研究報告
⑴Surface活用に向けた授業における取組について ……20
情報科学コース　坂入　崇紀
日野　　彰
⑵IB DP（国際バカロレア・ディプロマプログラム）デュアルランゲージで行うTOK授業 ……24
外国語コース　石田真理子
⑶教科BU研修会について ……27
教科教育センター　板垣　徳昭

Ⅱ　平成29年度　研修報告
⑴秀光中等教育学校　カナダ研修報告 ……36
小保内陽大
⑵情報科学コース　沖縄研修旅行報告 ……51
加藤　芳己
⑶フレックス・技能開発コース　沖縄研修報告 ……56
多賀　　努
⑷英進進学コース
沖縄研修報告 ……63
渡邉　光稀
韓国研修報告 ……71
狩野　常俊
⑸外国語コース　ハワイ研修報告 ……78
岩渕　奈央
丹野まさよ
⑹職員研修報告 ……89
雫石　利光

Ⅲ　その他
⑴ILC沖縄校の状況報告 ……97
ILC沖縄所長　山内　一秀
⑵演劇部の活動について ……111
特別進学コース　赤間　ゆき

編　集　後　記

２０１９年３月　第３４号

巻　頭　言 ……加藤　雄彦

トピック
授業改革：協働学習の可能性 …… 1
Transforming the Culture of Teaching and Learning: An emerging collaborative learning community
Kerry Winter
仙台育英孔子課堂活動報告 …… 12
孔子課堂長　　板垣　徳昭

Ⅰ　研究報告
⑴デュアルランゲージで行うTOK授業のケーススタディ―PCK（授業を想定した教科内容知識）を意識したバイリンガル授業― ……23
外国語コース　石田真理子
⑵特進コースの英語4技能向上対策：「オンラインWeblio英会話」を活用したe-learning学習について ……29
特別進学コース　伊藤　　需
⑶仙台育英学園生き生き教室「√２ってなに」 ……34
フレックスコース　雫石　利光
⑷教科BU研修会について ……43
教科教育センター長　板垣　徳昭

Ⅱ　平成30年度　研修報告
⑴秀光中等教育学校　カナダ研修報告 ……65
笠原　千尋
⑵特別進学コース　関西校外研修報告 ……78
髙橋　真理
佐々木正人
⑶情報科学コース　沖縄研修報告 ……84
船越　正志
野坂　有生
⑷フレックス・技能開発コース
沖縄研修報告（男子） ……90
西山　大樹
沖縄研修報告（女子） ……93
石川美紀子
⑸英進進学コース
沖縄研修報告 ……96
藤倉　善将
台湾研修報告 ……108
熊坂　治平
⑹外国語コース　ハワイ研修報告 ……113
下浅　雄大

⑺仙台育英孔子課堂　第２回北京語学研修報告 ‥120
平成29年度孔子課堂長　鈴木　茂幸
⑻職員会津研修報告 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥123
フレックスコース　雫石　利光

Ⅲ　その他
ILC 青森校の状況と社会人養成講座について ‥‥128
青森所長　三笠　勝彦

編　集　後　記

編　集　後　記

コロナウィルスによって学校の活動も制約を受けるなかで、ようやく令和２年度の研究紀要が完成しました。お忙しいなか、原稿を執筆していただいた先生方には改めて感謝申し上げます。

これまでの研究紀要を振り返ってみますと、加藤雄彦理事長・校長先生のリーダーシップのもと、本校における教育に関する研究・研修は大変充実しており、また、先生方も真摯に取り組んでいる様子がわかります。本冊子の末尾に過去の紀要の総目録が載せられていますが、多岐な分野に渡って多くの先生方が研鑽されてきた様子を見て取ることができます。実際、今年度も興味深い研究が多く、時間をかけて充実した内容で、多くの成果を上げることができました。また、生徒の研修もとても充実しており、生徒たちは様々な経験をし、研修の結果に大変満足している様子がうかがえます。

今年度の紀要の内容をClassi（学習支援クラウドサービス）にアップすることで、紀要の内容について職員間での情報共有が格段に容易になり、研究内容の汎用性も広がり、研究も一層充実していくことと思います。さらに、紀要を通して本校の研究・研修の内容を中学校の生徒さんと先生方にも知っていただくことで、本校に対する理解が一段と深まっていくことでしょう。

先生方の研究や研修した内容がよりよい授業実践につながることを確信しています。そして、その研究や研修が生徒の学習活動に還元されることで、生徒の学びが一層深まり、より充実した学校生活に結び付くことを祈念しています。

第35号　研究紀要編集担当　村岡信章

発　行：秀光中等教育学校・仙台育英学園高等学校
所在地：〒983－0045　宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目４－１
電　話：022－256－4141

研究紀要35号

巻　頭　言 …… 加藤　雄彦

トピック
eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望について
…… 情報科学コース　村上　淳
日野　彰

Ⅰ　研究報告
（1）SDGsを意識した授業づくり …… 秀光コース　菊地恵美子
（2）新学習指導要領に向けた英語４技能の指導について
…… 特別進学コース　新谷　仁
伊藤　需
安部　宏紀
（3）英進進学コースにおける英語課外学習 …… 英進進学コース　木村　汐里
（4）IB授業実践例 …… 外国語コース　小湊　陽
（5）「せんだいまなびや」の導入 …… 技能開発コース　宮浦　靖次
（6）教科BU研修会について …… 教科教育センター長　板垣　徳昭

Ⅱ　令和元年度　研修報告
（1）秀光中等教育学校・秀光コース（高校）
カナダ研修報告　“Canada Study Abroad Trip” …… Kerry Winter
京都研修報告 …… 加藤　隆寛
横山　佳絵
（2）特別進学コース
関西校外研修報告 …… 庵原　直樹
（3）情報科学コース
沖縄研修報告 …… 村　貴之
（4）フレックス・技能開発コース
九州研修報告 …… 西山　大樹
九州（長崎）研修報告 …… 寺澤　信枝
（5）英進進学コース
台湾研修報告 …… 五十嵐春祐
（6）外国語コース
ハワイ研修報告 …… 川村くるみ
（7）教職員研修会報告（講演会）
（「学習障害・発達障害について」） …… フレックスコース　村岡　信章

Ⅲ　その他
ILC青森における本年度の活動状況報告 …… ILC青森教頭　丸山　裕治

総目録（第１～34号）

編　集　後　記